

Annual Report 2015

年 報 2015年(平成27年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2015

年 報 2015年(平成27年)度

Contents

巻頭言 ————— 病院長の言葉	4
------------------------	---

トピックス

心臓生き生き推進事業 地域心臓いきいきセンターの活動	6
ICUの改修について	9
C型慢性肝炎の治療の変遷	10
BSCの取り組み	12
市民公開講座	13
第6回 オープンホスピタル開催	15
第25回 院内バレーボール大会開催	16
第5回 広島西部高校生外科セミナー開催	16
ふれあい看護体験	17
サマーインターンシップ実施	17

病院の概要

病院概況	20
JA 広島総合病院のあゆみ	21

活動報告

呼吸器内科	24
循環器内科	26
腎臓内科	27
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	29
消化器内科	30
小児科	32
外科	33
乳腺外科	34
整形外科	35
脳神経外科	36
呼吸器外科	39
心臓血管外科	40
皮膚科	41
泌尿器科	42
産婦人科	44
眼科	45
耳鼻咽喉科	46
放射線治療科	47
画像診断部	48
麻酔科	49
歯科口腔外科	51
救急・集中治療科	52
緩和ケア科	54
健康管理センター	55
形成外科	57
病理診断科・病理研究検査科	58
研修医室	59
看護科	60
外来	61
地域救命救急センター	62
ICU・西3階病棟	63
西4階病棟	64
西5階病棟	65
西6階病棟	66
西7階病棟	67

西 8 階病棟	68
東 3 階病棟	69
東 4 階病棟	70
東 5 階病棟	71
東 6 階病棟	72
東 7 階病棟	73
東 8 階病棟	74
手術室	75
居宅介護支援事務所	76
訪問看護ステーション	77
薬剤部	78
臨床研究検査科	79
中央放射線科	81
臨床工学科	82
リハビリテーション科	84
栄養科	85
診療情報管理科	86
医療安全管理室	87
感染防止対策室	88
地域医療連携室	89
総合医療相談室	90
総務課	91
医事課	92
緩和ケアチーム	93
栄養サポートチーム (NST)	94
心臓リハビリテーションチーム	95
DMAT	96
RST	97
災害対策ワーキングチーム	98
がん化学療法チーム	99
各種委員会	100

実績

著書・論文	112
書籍・雑誌編集	115
学会発表	116
学会での座長	126
研究会講演・発表	128
研究会座長	137
地域活動	142
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	147
合同カンファレンス	149

クラブ活動

華道部	152
野球部	153
テニス部	154
伯友会 (ゴルフ同好会)	155
サッカー部	156
フットサル部	157
バスケットボール部	158

資料

統計資料	160
------	-----



巻 頭 言

JA 広島総合病院・2015 年度年報が完成しました。

病院年報は各年度における病院情勢の横断的観察を行い、病診連携あるいは地域住民に病院の実力を知っていただくためのたいせつな広報手段といえます。同時に、病院内で働く職員にとっては、他の診療部門の活動内容を知る有用な情報誌ともいえます。一方、新陳代謝の早い人事のなかで、過去を振り返ることは職員にとって時間的余裕がなく、興味がわかないかもしれません。そこで、この巻頭言では当院の縦断的側面について触れるとともに、病院の歴史には病院職員のアイデンティティとプライドが湧き上がる事実が存在することを知っていただきたいと思います。

1945 年 8 月 6 日、広島に原爆が投下、現在の廿日市市である佐伯郡地御前村にあった海軍御用・旭兵器製作所にも広島市内で被爆した多くの人々が重度の火傷を負いながらも、生きのび助けを求め避難してきました。この緊急事態に対処するため、佐伯郡 37 箇所の町村長の要請により広島県農業会が旭兵器製作所の行員宿舎を買い取り、被爆者を救済する医療施設として農業会病院を設立しました。この救済施設が JA 広島総合病院の前身といえます。日本には 110 の厚生連系病院が存在していますが、その多くはへき地医療、農村医療の充実のために設立された歴史を持っています。一方、JA 広島総合病院は他の厚生連系病院と異なり、戦争という人類の大きな過ちによって突然生じた災害・悲惨と闘うための救急・災害医療施設として誕生したわけです。当時の広島県農業会は、農業の分野だけでなく戦争で被災した人々を救うという崇高な使命をもち、しかも戦禍によって弱体化した行政から頼られる強力な慈善団体であったわけです。

農業会病院は被爆者を救済する役割を果たしたのち、1947 年 12 月 23 日、4 診療科、60 床、スタッフ総数 20 名の農業会佐伯病院としてスタートしました。その後、広島市のベッドタウン開発、診療圏人口の増加に伴い、JA 広島総合病院は、廿日市市、大竹市だけでなく広島市佐伯区を含む約 28 万人の住民を診療対象とする広島県西部二次医療圏における最大の基幹病院として発展、急性期医療を中心に、健診、訪問看護に至る広範かつ包括的医療を提供しています。病院発足時の職員数は 20 名程度でしたが、2015 年度には職員数は 1,000 人を突破しました。

2015 年度病院年報では、トピックスとして、循環器内科・辻山修司診療部長による「心臓生き生き推進事業・地域心臓いきいきセンター活動報告」、肝臓内科医・相坂康之医師、兵庫秀幸医師 2 名の同時赴任と「C 型慢性肝炎の治療の変遷」、職員 1,000 人以上の巨大化した組織のガバナンスに有力な方法論としてバランススコアカード (BSC) 導入などを取り上げました。各診療科、診療部門の紹介記事には、各セクションにおける 2015 年度 1 年間の貴重な記録が含まれていることはいうまでもありませんが、登場するスタッフたちの生彩と彼らが成長する過程で放つ一筋の光を感じていただければ幸いです。

2017 年 3 月

広島県厚生農業協同組合連合会

広島総合病院

病院長 藤本 吉範

心臓生き生き推進事業 地域心臓いきいきセンターの活動 心臓いきいき推進チーム

1. 心臓生き生き推進事業とは

高齢者社会の到来により、心筋梗塞・心不全等の心疾患の患者数は今後増加することが予測されています。心疾患の患者さんでは、心筋梗塞発症・心不全増悪等により入退院を繰り返す場合が少なくないことから日常生活における自己管理の重要性が指摘されています。

当院においても従来から医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー等からなる心疾患治療チームによる介入により、再発・再入院抑制を目指した自己管理のための指導に取り組んできました。しかしながら、退院後の自己管理が継続できず、心不全増悪や心筋梗塞再発で入院される患者さんが少なくありません。この問題を改善するには、急性期治療を行う医療機関における入院中の指導だけでは不十分であり、退院後の運動療法継続や看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士等多職種による集学的チーム医療による支援・指導継続（包括的心臓リハビリテーション）の実施や退院後の診療所・訪問看護・地域福祉と連携することが重要と考えられます。

心臓生き生き推進事業は、2011年に広島県新地域医療再生計画の一つとして開始されました。広島大学病院の心不全センターを中核として県内の医療圏毎に地域心臓いきいきセンターを設置することにより、地域における心臓疾患患者さんに対する診療・自己管理サポート体制を構築し、心臓病患者を地域で診ることにより再入院抑制や予後の改善を目指しています。

この目的を達成するために行う具体的事業として、地域の医療福祉スタッフとの情報共有や連携の方向を考える「心臓いきいきキャラバン研修会」、心臓病患者に正しい知識を身につけてもらうための「心臓病教室」、心臓病患者がセルフケアを身につけるための「外来心臓リハビリテーション」の3つが

あります。

以下各々の事業について紹介します。

2. 心臓いきいきキャラバン研修会

「心臓いきいき推進事業」の目的の一つのである地域の医療機関との連携、及び携わるスタッフ（医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・MSW等の医療関係者、ケアマネージャー・介護福祉士等の福祉関係者）に心疾患に興味を持っていただき、正しい知識を習得していくこと、並びに病院と地域スタッフとの連携構築を目的とした取り組みです。



2015年12月21日に開催した初回の研修会では、医師による急性心筋梗塞・心臓リハビリの講演に続けて、心筋梗塞・心不全手帳の紹介および心筋梗塞で入院された患者さんへの入院中のスタッフの関わりを看護師、薬剤師、リハビリ科、栄養科、地域連携室の各々の立場で紹介しました。



2016年4月1日に開催した2回目の研修会では、医師による心不全の講演に続けて、心不全手帳の紹介、およびこれまで心不全を繰り返しての入退院の多い患者様を例として提示し、看護師、リハビリ、介護者、薬剤師、医師といった様々な立場でどう関わるべきかをグループで活発に討論し、多くの御意見を頂きました。

今後、年2回程度のペースで開催できればと考えています。内容を充実させ、参加者の方々に楽しみながら学習いただける様努めます。

3. 心臓病教室

心臓いきいき推進事業の一環として、心臓病教室を2016年1月から開講しました。心臓病教室の目的は、これまでの医師を中心とする一方的な医療の押し付けではなく、患者さんが循環器疾患に関する広範な知識を学ぶことで、疾患に対する理解を深め、自らが主体的に疾患に立ち向かう姿勢を確立することです。対象は主に循環器疾患を有する入院・外来患者さん本人とその御家族の方です。

心臓病教室は、循環器疾患を様々な角度からわかりやすくということコンセプトとして掲げ30分間という講演時間に様々な工夫をこらしました。まず講師は医師、看護師、薬剤師、臨床工学士、理学療法士、栄養士、臨床検査技師、ソーシャルワーカーの多職種としました。また講演中は、受講者と講師との一体感を演出することを心掛け、双方のモチベーションを高める努力もおこなっています。

第1回は2016年1月21日に「心不全って何だろう？」というテーマで当院循環器内科医師を講師として開催しました。9名の患者さんとそのご家族の方が参加され、心不全の病態や治療法などを学ばれ講演後には多くの質問もいただきました。教室後のアンケートでは大多数の方の理解も深まり概ね満足していただいたようです。



第2回は2月18日に当院循環器病棟看護師から「心臓病教室 お風呂編」というテーマで入浴そのもののメリットやデメリット、心疾患を有する患者さんの入浴の仕方などに関して講演を行いました。日本人にとって切っても切れない入浴という習慣に循環器疾患を有する患者さんがどのように向き合っていくかという非常に興味深い内容で、多くの患者さんに関心を持っていただきました。



第3回は3月17日に「狭心症と心筋梗塞について」という演題名で当院循環器内科医師がレクチャーをおこないました。参加人数は8名で50-60代の患者さんとそのご家族が中心でした。狭心症と心筋梗塞という循環器疾患を代表するテーマで発症メカニズムや病態、治療法などに関して講演をおこないました。

患者さんのための心臓病教室ですが、実際は医療者サイドも多くのことを学び新しい発見があるということも心臓病教室開催のメリットと感じています。

まだまだ始まったばかりの心臓病教室ですが、これから日々進化した心臓病教室が開催できるようスタッフ一同頑張っています。

4. 外来心臓リハビリテーション

循環器疾患（狭心症・心筋梗塞、心不全、弁膜症、閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤など）という、急性期のカテーテル治療・心臓血管外科手術・薬物治療に焦点が当てられがちですが、再発予防・予後改善のためには食事・運動療法や体重管理・禁煙といった長期にわたる多面的な治療・管理が必要となります。

これらをサポートしていくのが包括的心臓リハビリテーション（心リハ）であり、専門スタッフ（医師・看護師・薬剤師・理学療法士・栄養管理士・社会福祉士など）がチームで患者治療・介入にあたります。

心リハは早期回復・早期退院に有用であるだけでなく、退院後も継続して行うことで、再発・再入院の減少、ひいては予後改善効果まであり、ガイドラインでもクラス1の治療として確立・推奨されています。

当科では、2010年より入院患者（心筋梗塞）を対象に多職種合同による包括的心臓リハビリテーション（AMIパスを作成し、薬物治療だけでなく食事・運動療法も含む）を開始しました。

その後、心不全等、対象疾患を徐々に拡大、これにより急性期～退院にむけての患者サポート体制が構築されましたが、退院後～中・長期にわたる治療介入に課題が残っていました。

2015年より心臓生き生き推進事業の広島西医療圏における地域医療センターに当院が認定されたことを受け、2016年1月より念願であった外来心臓リハビリテーションを開始しました。

循環器内科・心臓血管外科で入院加療し、退院した患者さんを対象に、外来で運動療法（最大週3回）・栄養指導・服薬指導（1～2ヶ月毎）を、当院独自に作成した心リハプログラム（日本循環器学会ガイドラインを参照）に沿って行っております（発症から150日間、保険診療）。

これにより早期回復・早期退院だけでなく、再発予防・予後改善を目指し、心リハチーム一丸となって包括的治療をこの地域に提供していきます。

ICU の改修について

当院のICUは2015年8月に収益の向上と集中治療専門医制度の基準を満たす施設の整備に向け、改修工事を行いました。

双方の問題を解決するには、ワンランク上の入院基本管理料の算定が必要でしたが、2つの施設基準を満たす必要がありました。

1つ目は、1床辺り15㎡以上を確保することでした。これには11床あったベッドを8床に削減し、必要面積を確保いたしました。

2つ目は、バイオクリーンルーム（以下：BCR）の整備でしたが、既存の設備ではBCRと呼べるまでの清浄度に達していなかったため、新たに床置型10台と天井埋込型2台のクリーンファンユニット（大型空気清浄機）を設置することになりました。



クリーンファンユニット（床置型）



クリーンファンユニット（天井埋込型）

さらに手術室側からの進入口に汚染空気の直接進入を防ぐための前室を設け、天井内には先述のクリーンファンユニットを設置することで、最終的な空気清浄度検査においてBCRに相応しい結果を出すことができました。



手術室側入口に設置した前室

工事期間中であった2週間は、ICUを立入禁止にしたため、開心手術など術後の集中管理が必要な手術は制限せざるを得なかったこと、またICU勤務看護師を一時的に他部署へ配置転換を行うなど、現場に大変な苦勞をかけながらの工事でしたが、本部の理解と病院スタッフの協力を得て無事に進めることができ、念願の新ICUが誕生しました。



新ICU

C型慢性肝炎の治療の変遷

C型肝炎の治療は、1992年にインターフェロン単独による治療が開始されました。当初の治癒率は10%以下でした。その後、インターフェロンとリバビリンという免疫機能を強める効果がある内服薬が認可され、併用療法が開発されました。その治療法によりに治癒率は20%程度になり、その後、2004年にはインターフェロンの持続製剤であるPegインターフェロンへ改良され、併用療法で治癒率は約50%にまで改善しました。2011年には、初めての抗ウイルス作用のある内服薬とPegインターフェロンとリバビリン内服薬の3剤の併用療法が認可され治癒率は約80%に至りました。しかし、インターフェロン注射を使う事により、これらの治療では、副反応が依然としてあり、副反応に耐えられない高齢者、間質性肺炎、うつ病のある患者さんには治療の恩恵が得られない状況でした。そこで、2014年9月になり、初めてインターフェロン注射を使用せず、抗ウイルス作用のある内服薬だけの治療で、ウイルスの排除ができる様になりました。

ウイルスの型		ウイルスの量		
1型	a	日本人にはなし		
	b	高 (50%)	低 (20%)	70%
2型	a	高	低	20%
	b	高	低	10%

図 C型肝炎ウイルスのタイプ

HCV ジェノタイプ 1b に対する治療

抗ウイルス薬として、ダクラタスビルとアスナプレビルという薬剤が認可、治療期間はインターフェロンを使用した3剤の併用療法と同じ24週間であり、臨床試験での治癒率はインターフェロンを使用した3剤併用治療とほぼ同等の80%以上であると言われていました。

この治療薬は、C型肝炎ウイルスの種類の中で約7割を占めるジェノタイプ1b型というタイプのウイルスに対して有効性があり、1b型感染患者に対して適応があります。

今までの検討から、抗ウイルス療法中のC型肝炎ウイルスが血中から消える時期が、その後の治療効果に重要な意味を持つ事が知られており、治療開始後、4週目のHCV-RNA陰性化が得られた症例では有意に治癒する率が高いと言われております。ダクラタスビルとアスナプレビルによる経過も、4週目には78.8%の陰性化を認めていました。そして、最近では、治療期間が半分の12週間という短い期間の、抗ウイルス薬による治療が登場して益々治療の選択肢が広がりました。代表的な薬剤は、レジパスビルとソホスブビルの合剤であり1日1錠の服用になります。HCV-RNA陰性化も、4週目には86.4%の陰性化を認めていました。

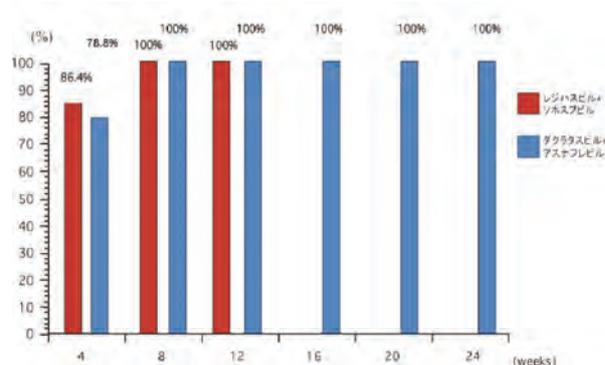


図 HCV-RNA 陰性化率

その後、いずれの薬剤も8週目には100%の陰性化を認め、最終的な治療成績はダクラタスビルとアスナプレビル使用した34例中33人、中止症例も含め97.1%が治癒し、レジパスビルとソホスブビルの合剤使用した22例中22人、全例が治癒しています。治療年齢が50歳から90歳までの広範囲の年齢層にもかかわらず、非常に高い治癒率を示しており、非常に有用な治療薬と言える状況です。

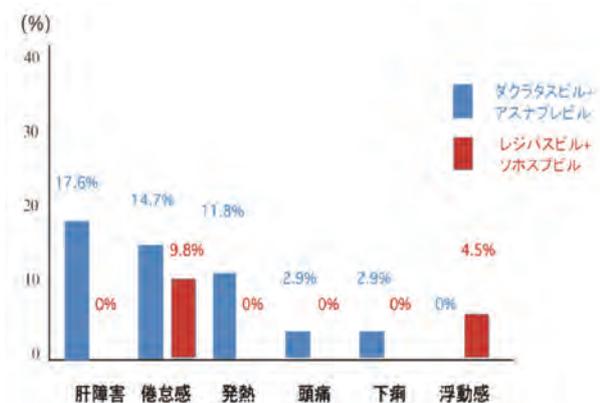


図 JA 広島総合病院での経口抗ウイルス療法 副作用一覧

副作用も、インターフェロン注射を使用しない事で、劇的に減少しています。しかし、何も無い訳ではなく、ダクラタスビルとアスナプレビル服用の当院での症例の場合、肝機能増悪が17.6%あり、倦怠感14.7%、発熱11.8%と認められ、下痢が数%にみられました。そのうち、発熱、倦怠感、下痢の症状で34人中3人が中止になりました。その他の中止症例はHCCの発症で、C型肝炎の発癌リスクの高さを物語っている状態でした。レジパスビルとソホスブビルの合剤服用した患者の副作用としては倦怠感9.8%、浮動感4.5%程度に認められ、やはり副作用としてはかなり少ない頻度で有りました。

HCV ジェノタイプ 2a、2b に対する治療

もう一つ、C型肝炎ウイルスの種類の中で約3割を占めるジェノタイプ2a、2b型というタイプのウイルスに感染している患者に対する治療は、1b型に比べ以前から治癒率は80%以上と非常に良いと言われていました。しかし、高齢になるにつれて、治癒率が低下し、65歳以上になると約50%しか治癒に至りませんでした。そこで、2015年5月に、抗ウイルス薬として、ソホスブビルという薬剤が認可され、リバビリンと併用して治療を行います。治療期間は、インターフェロンを使用した3剤の併用療法よりも短い12週間で、臨床試験での治癒率は、イ

ンターフェロンを使用した治療とほぼ同等の80%以上であると言われていました。当院での治療を行った方のほとんどが60歳以上の高齢であり、従来のインターフェロン治療では困難な背景になる状況ですが、ソホスブビルとリバビリンと併用して治療行くと約85%の治癒が得られました。

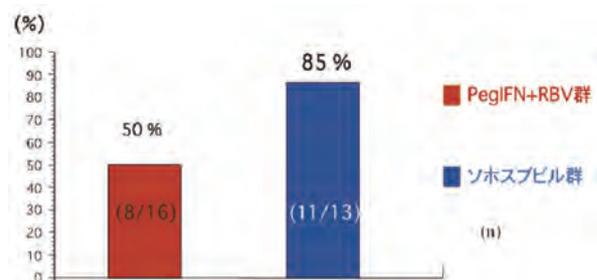


図 治癒率

この薬剤も、副作用はインターフェロン治療に比べれば非常に軽微ではありますが、やはり、多少の副作用は認められました。しかし、それらの患者の中で中止に至る方はいませんでした。

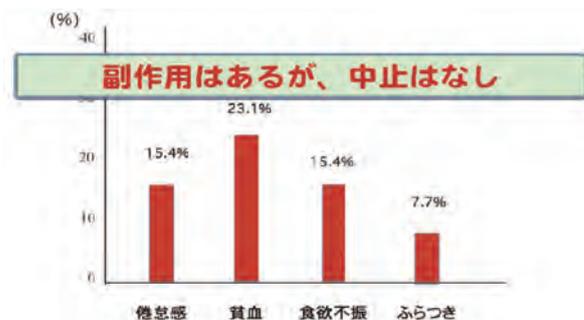


図 JA 広島総合病院でのソホスブビル+リバビリン併用療法 副作用一覧

現在まで当院では約100名ほどの患者さんが、大きな副作用も無く、治療を受けられました。

治癒効果は慢性肝炎から、病期進行している肝硬変に関わらず特に治療成績に差はなく、治癒率は8割以上の高率になっています。今や、C型慢性肝炎は少ない副作用で、治る病気であると言える状況になっています。

BSC の取り組み

医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進展、医療技術の進歩等により大きく変わってきており、国民の医療に対する意識も安全・安心の重視とともに、量から質の向上をより重視する方向へと大きく転換しています。

これまでは各部署独自の目標・努力だけでも利益は出ていましたが、大きく変化する外部環境に対応するためには、組織全体が同じ目的を共有し、各部署が組織目的を達成するために行動を変化する必要があります。そのためには BSC 導入が「ベストな選択」であると役員・病院長を含めた理事会で決定しました。

これを受けて、2014 年 4 月より各病院及び本所に経営戦略策定事務局が設置され、今後の実行部隊となる BSC マネジメントチームを立ち上げました。

この各病院・本所の BSC マネジメントチームが中心となり、ビジョンを達成するための戦略や重要成功要因、業績評価指標等を整理し、2014 年 11 月末に全体 BSC を策定、さらに、2015 年 1 月に部署別 BSC に落とし込み、2015 年度より PDCA サイクルで進捗管理を行ないながら BSC マネジメントを進めました。



JA Hiroshima ZERO Project
公式ロゴマーク

【ミッション】

(30 年～ 50 年後の組織のあるべき姿)

私たち JA 広島厚生連は、組合員及び地域住民が日々健やかに生活できるように、保健・医療・福祉の事業を通じて、安心して暮らせる地域社会の発展に貢献します。

【ビジョン】

(ミッション達成に向けた 5 年～ 10 年後の 未来像)

広島西部地域で日本最良の医療を！ JA 広島総合病院『三つのよかった』

- ・受診してよかった
- ・紹介してよかった
- ・働いてよかった

【戦 略】

(ビジョン達成に向け 3 年～ 5 年後の近未来像)

1. 心のこもった医療
2. 地域完結を目指す急性期病院
3. 限られたスペースと時間の有効活用

1 年間の取り組みのまとめとして、3 月 15 日・24 日に部署別 BSC 成果報告発表会を開催し、各部署の成果を報告しました。取り組み 1 年目ということもあり、手探り状態ではありましたが、各部署とも真摯に取り組み、課題・改善点も含め、次年度へと繋がる結果を残すことができました。

2016 年度以降も取り組んでまいりますので引き続きご協力の程、よろしく申し上げます。

市民公開講座

第11回市民公開講座

日時：2015年6月21日（日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ（大ホール）

テーマ：女性がんについて学びましょう

～今、自分でできること、娘に伝えたいこと～

趣旨：地域がん診療拠点病院として、広島県西部地域におけるがん検診受診率の向上を図る目的で開催しました。

【演題】

1. 子宮頸がんとその予防・検診
産婦人科部長 大下 孝史
2. 乳がんとその予防・検診
乳腺外科主任部長 川渕 義治
3. がん検診を受けましょう
健康管理センター長 碓井 裕史
4. 質疑応答

JA広島総合病院・廿日市市
第11回市民公開講座

当院は、地域がん診療連携拠点病院として、広島県西部地域におけるがん検診受診率の向上を図る目的で市民公開講座を開催します。

日時 平成27年6月21日(日) 13:00～15:30 [開場12:00]

会場 はつかいち文化ホールさくらびあ 大ホール [定員1,000名]

先着400名に花の苗プレゼント

入場無料 事前申込不要

女性がんについて学びましょう
～今、自分でできること、娘に伝えたいこと～

プログラム

- 1 子宮頸がんとその予防・検診 産婦人科部長 大下 孝史
- 2 乳がんとその予防・検診 乳腺外科主任部長 川渕 義治
- 3 がん検診を受けましょう 健康管理センター長 碓井 裕史
- 4 質疑応答

主催 JA広島総合病院・廿日市市
お問合せ JA広島総合病院 地域医療連携課
Tel. 0829-36-3111(内線2266)
Fax. 0829-36-3160
http://www.hiroboyo.jp/

後援 大竹市・佐伯地区医師会・大竹市医師会・JA佐伯中央

「ウラ画」のFAX送信票をご利用下さい。

○会場風景



○参加者：253名

○参加者の感想

- ・内容が分かりやすく、よく理解ができた。
- ・検診の必要性や重要性が分かった。
- ・早期発見だと恐れることはないと思った。

第12回市民公開講座

日時：2016年1月31日（日）13：00～15：30

場所：はつかいち文化ホールさくらびあ（大ホール）

テーマ：大災害発生！さあどうする？！

～みんなで学ぶ自助・共助・公助

趣旨：災害拠点病院としての役割と、大災害に備えた防災・減災について学んでいただく目的で開催しました。

【演題】

1. 甘日市市の地震被害想定とその備え
甘日市市総務部 危機管理課長 宮原 寛
2. その瞬間をいかに生き残るか
甘日市市消防本部次長 中田 健史
3. 災害拠点病院の役割
～ DMAT（災害派遣医療チーム）の活動を中心に～
脳神経外科診療部長 黒木 一彦
5. 避難所での健康管理、看護師の立場から
看護部副部長 寺田 英子

6. 四季が丘の自主防災取り組み紹介

～チャレンジ防災 in 四季が丘 2015

四季が丘自主防災連絡協議会議長 前田幸太郎

7. 質疑応答

○会場風景



○参加者：415名

○参加者の感想

- ・ 実例に基づいた話でわかりやすかった。
- ・ DMATの役割がわかった。
- ・ 避難所生活での健康管理の重要性を感じた。

第6回 オープンホスピタル開催

2015年11月21日（土）、当院西館及び東館1階フロアにおいて、第6回JA広島総合病院オープンホスピタルを開催しました。当日の来場者は、約300人でした。

オープニングセレモニーに続いて、地元ハツカレーシア（廿日市）出身のファンタジー系シンガーソングライター、Dressing（北谷由美子）さんのファンタジーライブが開催され、美しい歌声が病院ロビーに響き渡りました。続いて、地御前地区自主防災会の皆様のご協力で餅つき大会が行われ、つきたてのお餅が来場者にふるまわれました。

イベントブースでは、医師や薬剤師による医療相談、健診コーナー、公開講座として「長寿の秘訣、心臓リハビリ」のほか体験型のイベントもあり、内視鏡シミュレーター体験コーナー、脂肪肝チェック、血管年齢測定、AED体験、クイズラリーによる院内探検も好評でした。小さな子供さんも楽しめるバルーンアートコーナー、人形すくいやJA佐伯中央の即売会、ポップコーン等もあり、どれも大変好評でした。

病院ロビーには、オープンホスピタル開催約1ヶ月前から各部署が日頃の取り組みを紹介するために工夫して作ったポスター37点が展示されていました。来場者には、優秀な作品を選考する投票にご協力いただき、地域住民の方々と院内の選考メンバーでの投票による厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞を決定しました。

【最優秀賞】

部署	作品名
眼科	コンタクトレンズを愛用しているみなさん安全に使っていますか

【優秀賞】

部門	部署	作品名
医局部門	外科	からだにやさしい大腸がん手術
看護部門	西4階病棟	赤ちゃんにも影響を与えますTABACCO！！
コメディカル部門	薬剤部	知って得する！薬のヒ・ミ・ツ
チーム活動部門	臨床研究検査科 ／消化器内科	ミルクティーエコーでがってんだ！
住民投票部門	栄養科 薬剤部	今日から実践！油の上手な選び方 知って得する！薬のヒ・ミ・ツ

来場者のアンケートからは、“いろいろな企画があり親子で楽しませてもらえました”“プレゼントがとても良かった”“いろいろな測定が無料で受けれて良かった”“あまり病院に行くことはありませんが、近い将来は行くことになると思います。こういう催しがあると病院の様子が分かり不安感がなくなるので良いと思います。”との声が多数寄せられました。

今後もこのイベントが、当院と地域住民の皆様との情報交換の場、交流の場となることを願っています。



第25回 院内バレーボール大会開催

2015年6月27日（土）、日本赤十字広島看護大学体育館において、第25回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、部署ごとに結成された18チーム（選手と応援合わせて約400人）が参加して、熱戦が繰り広げられました。各チームはお揃いのユニフォームを着用し、心を一つにして優勝を目指しました。

頑張る選手を全力でサポートする応援団、団結力が高まるイベントとして年々参加者も増加しており、大変盛り上がりました。

各チームの成績は、

Aリーグ

優勝：西5階病棟

準優勝：西8階病棟

Bリーグ

優勝：臨床研究検査科

準優勝：リハビリテーション科



第5回 広島西部高校生外科セミナー開催

2015年8月20日（木）、第5回外科セミナーが開催されました。外科の魅力を知り、関心・理解を深めてもらうために毎年開催しているもので、今年度で5回目の開催となりました。当日は、県内の高校生13名が参加されました。セミナーでは、若手外科医による病院内各部署のビデオ紹介や、実際の手術で使用する器具を使った模擬手術体験や実習キットを使用した縫合・糸結び体験をしました。内視鏡外科トレーニング用エンドトレーナーでの鉗子操作体験では、画面を見ながらの鉗子操作に手こずる場面も見られましたが、楽しみながら実習を体験することができました。

参加者からは、「予想以上に楽しくて、外科医の仕事に興味があった」、「各セクションが充実していて貴重な経験をした」等の意見があり、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。



ふれあい看護体験

毎年5月12日は「看護の日」です。日本看護協会はナイチンゲールの誕生日である5月12日を看護の日と定め、その前後の1週間を「看護週間」として気軽に看護にふれていただける楽しい行事を全国各地で開催しています。「ふれあい看護体験」は、その一環として病院などの保健医療福祉施設が広く市民にドアを開き、見学や簡単な看護体験、患者さんとの交流などを行うイベントです。

当院では2015年8月7日(金)、「ふれあい看護体験」を実施し、30名の高校生が参加しました。

当院の紹介や看護の話を聞き理解を深めた後、あこがれの白衣に着替えて、患者さんの清拭や足浴など看護体験を行いました。

実際の体験を通して、看護や医療について共に考えるきっかけ作り、また患者さんとのふれあいを通して看護することや命について理解と関心を深めてもらう機会となりました。

サマーインターンシップ実施

看護科では、2015年7月下旬から約1ヶ月間、看護学生を対象にサマーインターンシップを行いました。看護師を目指す人たちに職場体験をしていただき、就職後スムーズに医療現場に入ってもらえるようにと毎年企画しているものです。

また、「私達の看護」を学生に伝えたい、見てもらいたい、医療チームメンバーと触れ合ってもらいたいという思いもあり、多くの看護学生が参加できるよう夏休みの時期に実施しています。

受入れ期間中は、各自の都合に合わせて1日間から最長5日間の参加が可能です。今年は34名の看護学生を受入れました。

インターンシップでは、清拭・足浴や食事の介助など患者さんの身の回りのケアをしたり、患者さんとコミュニケーションをとったり、シーツ交換や環境整備などを看護師と一緒にいきます。

参加した学生にとっては、当院で働く姿を想像し、イメージを具体化しながらの職場体験となりました。

■ Annual Report 2015 2015年(平成27年)度 年報 ■

病院の概要

病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573
開設年月日	1947年12月23日
許可病床数	561床 (一般)
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 岡田仁志
病院長	藤本吉範

土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡
	計	16,792.8 ㎡	34,815.15㎡

診療科目 (計37科)
内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科

病棟別許可病床数 (一般561床)			
西棟		階	東棟
内(呼消)・放射線治療科	55床	8	内(内分泌・腎・透析) 44床
内(消化器)・画像診断部	55床	7	内(呼)・整・呼吸器外科(脳) 43床
外・(泌)	54床	6	泌・外・皮・精・心療内科 51床
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科 52床
産婦・外科系(小)・ドック	46床	4	小・耳・眼 43床
地域救命救急センター	19床	3	内(循環器)・心外・麻酔 44床
計	284床		計 277床

指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院 (救急告示番号第374号) ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所

施設基準	<p>■基本診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟入院基本料 (7対1) ・総合入院体制加算2 ・臨床研修病院入院診療加算 ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算 ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・診療録管理体制加算2 ・医師事務作業補助体制加算2(15対1) ・急性期看護補助体制加算(50対1) ・療養環境加算 ・重傷者等療養環境特別加算 ・がん診療連携拠点病院加算 ・栄養サポートチーム加算 ・医療安全対策加算1 ・感染防止対策加算1 ・患者サポート体制充実加算 ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算 ・退院調整加算 ・救急搬送患者地域連携紹介加算 ・救急搬送患者地域連携受入加算 ・呼吸ケアチーム加算 ・病棟薬剤業務実施加算 ・データ提出加算2 ・救命救急入院料1 ・ハイケアユニット入院医療管理料1 ・小児入院医療管理料4 ・短期滞在手術基本料2 <p>■特掲診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病合併症管理料 ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料1 ・がん患者指導管理料2 ・がん患者指導管理料3 ・糖尿病透析予防指導管理料 ・外来リハビリテーション診療料 ・外来放射線照射診療料 ・ニコチン依存症管理料 ・開放型病院共同指導料(1) ・地域連携診療計画管理料 ・がん治療連携計画策定料 ・がん治療連携管理料 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・薬剤管理指導料 ・医療機器安全管理料1 ・医療機器安全管理料2 ・歯科治療総合医療管理料 ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査管理料(IV) ・時間内歩行試験 ・ヘッドアップティルト試験 ・小児食物アレルギー負荷検査 ・内服点滴誘発試験 ・画像診断管理加算1 ・CT撮影及びMRI撮影 ・冠動脈CT撮影加算 ・心臓MRI撮影加算 ・抗悪性腫瘍処方管理加算 ・外来化学療法加算1 ・無菌製剤処理料 ・心大血管疾患リハビリテーション料(1) ・脳血管疾患リハビリテーション料(1) ・運動器リハビリテーション(1) ・呼吸器リハビリテーション(1) ・がん患者リハビリテーション料 ・エタノールの局所注入(甲状腺) ・透析液水質確保加算1 ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 ・乳がんセンチネルリンパ節加算 ・経皮的冠動脈形成術 ・経皮的冠動脈ステント留置術 ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法) ・経皮的冠動脈遮断術 ・ダメージコントロール手術 ・腹腔鏡下肝切除術 ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・体外衝撃波胆石砕砕術 ・体外衝撃波腎尿管結石砕砕術 ・体外衝撃波碎石砕砕術 ・膀胱水圧拡張術 ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む)に掲げる手術 ・輸血管理料II ・人口肛門・人口膀胱造設術前処置加算 ・麻酔管理料(1)(II) ・放射線治療専任加算 ・外来放射線治療加算 ・高エネルギー放射線治療 ・1回線量増加加算 ・強度変調放射線治療(IMRT) ・直線加速器による定位放射線治療 ・病理診断管理加算1 ・口腔病理診断管理加算1
認定	日本医療機能評価機構(区分4 Ver.6.0) DMAT 指定医療機関(災害派遣医療チーム)	

平成27年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベットに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベットに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
		神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター

呼吸器内科

■ スタッフ

主任部長 近藤 文博 (1998年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学会認定医

部長 河野 秀和 (1999年卒)
日本呼吸器学会専門医
日本内科学会認定医

医員 黒住 悟之 (2010年卒)

医員 棚橋 弘貴 (2013年卒)

■ 診療科紹介

当院呼吸器内科では、肺がんによって代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきました。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のように導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩を遂げています。イレッサを始めとする分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI（タグリッソ）の時代を迎え、また、ALK阻害薬もアレセンサを始め、めざましい生存期間延長をもたらしています。さらに2016年から臨床現場で使用可能となる免疫チェックポイント阻害薬（オプジーボ）は、医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来EGFR-TKIやALK阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に大きな利益をもたらすこととなります。当院呼吸器内科では、これらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺癌治療が行える体制を整えています。また当院では、初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部が連携し、最速2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われます。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方々の診療ができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



局所麻酔下胸腔鏡による実際の処置中の写真

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で、誤嚥性肺炎なども多く繰り返される傾向にあり、最近では治療に難渋する傾向があります。肺結核を早期診断し、外来加療を行ったり結核病棟のある病院への紹介も行っています。また、最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが、当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い、耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近では徐々にされる開業医の先生方も増えて来られたので逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■ スタッフ

心臓血管内治療科主任部長
 辻山 修 司
 主任部長 前田 幸 治
 主任部長 (心臓カテーテル室担当)
 莊川 知 己
 主任部長 (心不全地域連携担当)
 久留島 秀 治
 医 員 赤 澤 良 太
 医 員 原 田 崇 弘

■ 診療科紹介

2015年4月現在、総勢6名の科です(日本循環器学会専門医3名・日本心臓血管インターベンション治療学会指導医1名)。また日本循環器学会認定循環器および心臓血管インターベンション学会研修施設です。

対象となる主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、高血圧、高脂血症、不整脈などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合は心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針を検討しています。また開業医の先生方との病診連携に重点を置き、年2回の病診連携の会や開業医の先生向けの講演会を開催し、その連携を深めています。

心臓いきいき推進事業の中核病院のひとつとしての活動も始まりました

また地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救急救命センターの循環器領域を担っています。

■ 診療実績

2014、2015年度の当科の実績を表に示します。2015年度は、心臓カテーテル検査(診断を含)520例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション(PCI)症例204例で、急性心筋梗塞例も41件含まれています。またPCI時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置

のため血管内超音波(IVUS)をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対してRotablatorも施行しています。大動脈内バルーンパンピング(IABP)、経皮的心肺補助装置(PCPS)も重症例には施行しています。

末梢血管の閉塞性動脈硬化症に関しても心臓血管外科と協力して、血管内治療を積極的に行っています。

	2014年度	2015年度
年間延べ入院患者数	887	814
急性心筋梗塞	84	83
【生理学的検査】		
運動負荷試験	52	94
ホルター心電図	414	366
経胸壁心エコー	4735	4988
経食道心エコー	20	21
【心臓カテーテル検査】		
心臓カテーテル検査総数	553	520
緊急カテーテル治療(PCI)	138	113
待機的PCI	70	91
【末梢血管カテーテル治療】		
経皮的末梢血管形成術(PTA)	25	18
経皮的腎動脈形成術(PTRA)	1	1
【不整脈関連】		
電気生理学的検査	26	9
ペースメーカー植込み	36	25
【非侵襲的冠動脈検査】		
心臓核医学検査	434	482
冠動脈CT	632	582
【心臓リハビリ】		
急性心筋梗塞 心不全	428	493

また非侵襲的検査も多数実施しています。64列心臓CT検査(カテーテル検査数に匹敵する582例)、心臓核医学検査(482例)を施行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。また4988件を超える心臓超音波検査や21例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も366例施行しています。

また心臓いきいき推進事業の柱としての心臓リハビリも積極的に進め、新規に493例の実績でした。

■ 将来展望

心臓いきいき推進事業の中核病院のひとつとしての役割および、循環器領域の救急患者にも対応して、今後も適切かつ積極的な医療活動を行ってまいります。

腎臓内科

■スタッフ

主任部長：荒川 哲 次（1998年広島大学卒業）

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

医 員：藤野 修（2012年広島大学卒業）

日本内科学会内科認定医

医 員：宮崎 真美（2012年島根大学卒業）

日本内科学会内科認定医

医 員：中山 慎也（2012年大分大学卒業）

日本内科学会内科認定医

■診療科紹介

当院腎臓内科は2015年4月より大分赤十字病院にて初期研修を修了した中山医師が新たに着任し、前任の荒川医師、藤野医師、宮崎医師と合わせ現在4人体制で診療を行っております。

当院腎臓内科は各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会専門医制度認定施設に認定されております。

近年、慢性腎臓病という疾患概念が提唱されております。慢性腎臓病は chronic kidney disease、略してCKDともよばれ、腎臓の障害あるいは機能低下が慢性的に続く病気のことをいいます。慢性腎臓病は、放置したままにしておくと、末期腎不全となって、人工透析や腎移植を受けなければ生きられなくなってしまうことがあります。現在、日本には約1,330万人の慢性腎臓病患者さんがいるといわれており、これは成人の約8人に1人に相当する人数となります。また、人工透析を受けている患者さんも、毎年数千～1万人程度ずつ増え続け、2011年末には30万人を突破し、国民400人に1人が人工透析を受けているという計算となります。さらに、慢性腎臓病は人工透析の予備軍であるばかりでなく、その一方で心臓病や脳卒中などの心血管疾患にもなりやすいこと

が明らかになっています。そこで、透析回避および心血管疾患の予防の観点から、慢性腎臓病をいかに治療していくかが現在大きな問題となっています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては、腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。



写真1 当科での腎生検

透析療法に関しては積極的に腹膜透析（PD）導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析（HD）、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。



写真2 血液透析室

■ 診療実績

2015 年度実績

腎生検数	35 例
血液透析患者数（延べ）	5341 件
腹膜透析患者数	22 名

■ 教育・研修活動

当科では、研究会および学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

■ トピックス

常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）について：

常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）とは腎臓に多発性嚢胞を形成する遺伝性疾患であり、最も頻度の高い遺伝性腎疾患です。両方の腎臓にできた多発性の嚢胞が徐々に大きくなり、腎機能が低下する進行性の疾患であり、約 50% の人が腎不全に至ります。わが国の患者数は約 35,000 人と推定されており、わが国の透析患者における導入原疾患割合の 3% 程を占めています。今までは有効な治療法は存在しませんでした。2014 年 3 月 26 日より、常染色体優性遺伝型多発性嚢胞腎に対して、経口薬剤であるサムスカ錠（トルバプタン）が処方できるようになりました。この薬剤は、日本を含む世界規模の治験により、腎臓の嚢胞が大きくなるのを抑制することが証明されています。これにより、腎機能の低下や、血尿・嚢胞感染などを抑制できる可能性があります。この薬剤を服用していただくためには、病気や治療に対して十分な知識を持つ専門医師のもとで、詳しい説明や検査を受けた患者さんが対象となります。当科では、この新しい治療薬を安全に服用していただけるように、スタッフ一同で態勢を整えています。また、治療の相談だけでなく、多発性嚢胞腎についての遺伝相談等も受け付けております。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■スタッフ

主任部長 石田 和史 (1986年卒、1988年～)
 部長 浅生 貴子 (2002年卒、2012年4月～2015年6月)
 副部長 三玉 康幸 (2007年卒、2015年10月～)
 副部長 木ノ原 周平 (2007年卒、2013年4月～)
 医員 堀江 正和 (2011年卒、2015年4月～2016年3月)
 非常勤 黒田 麻実 (2005年卒、2015年4～9月)
 日本糖尿病療養指導士：17名

■診療状況

定期通院外来患者数 2,612名 (2016年3月時点)
糖尿病 外来定期通院患者 計2,350名 (平均年齢68.9歳、平均罹病期間18.4年、平均通院期間11.8年、インスリン治療者の割合34.0%)
 (1型糖尿病 7%、2型糖尿病 92%、その他 1%)
 糖尿病入院患者 132名

※2008年8月に開始した広島県西部地区糖尿病連携パス紹介患者総数371名 (うち70%が継続中、全通院患者の8%を占める)

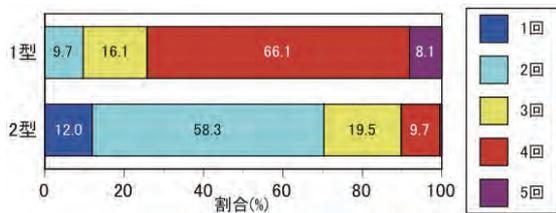


図1 インスリン注射回数の内訳 (1型には緩徐進行型も含む)

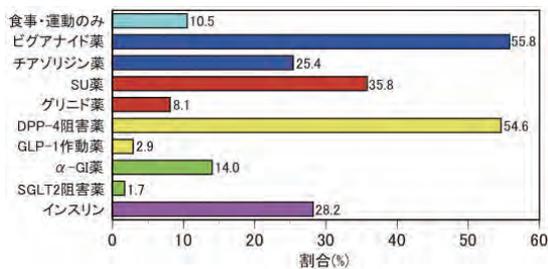


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳 (重複あり)

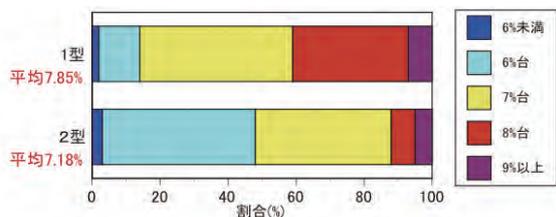


図3 年間平均HbA1cの内訳

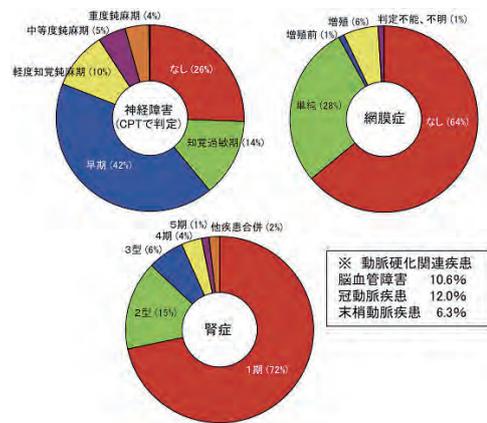


図4 定期通院患者の合併症の状況

甲状腺疾患 約230名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ)
 ※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い
下垂体機能低下症および副腎機能低下症 若干名

■研究活動

受託研究

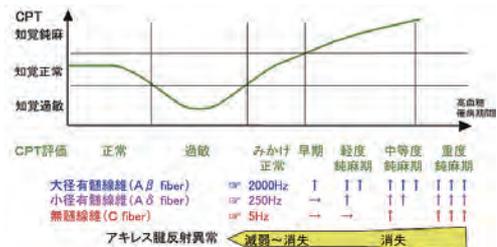
1) 糖尿病網膜症合併高コレステロール血症患者を対象としたスタチンによるLDL-C低下療法 (通常治療/強化治療) の比較研究 (EMPATHY試験)

研究テーマ

1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の評価・長期成績 (治療戦略を視野に入れた病期分類確立とその応用)



図5 ニューロメーター® (CPT測定装置)



2) 患者QOL向上を重視したテーラーメイド治療法確立の試み (各種インスリン製剤・経口血糖降下薬の相違の探求を介して)
 3) 体組成分析 (インピーダンス法) の経時的観察を用いた臨床研究

消化器内科

■ スタッフ

副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長

徳毛 宏 則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医

内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長

小松 弘 尚 (Hironao Komatsu) 1985 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長、消化器内科部長

相坂 康之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
肝臓学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長（代謝領域担当）、消化器内科部長

兵庫 秀幸 (Hideyuki Hyogo) 1992 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
肝臓学会専門医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤本 佳史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医
胆道学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、消化器内科部長

古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医

消化器内科部長

野中 裕広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医
消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医
がん治療学会専門医

医 員 若 井 雅 貴 (Masaki Wakai) 2011 年卒

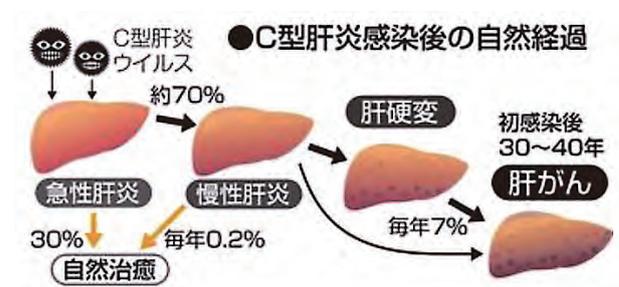
医 員 末 廣 洋 介 (Yousuke Suehiro) 2013 年卒

■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。JA 広島総合病院消化器内科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたってお

り、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

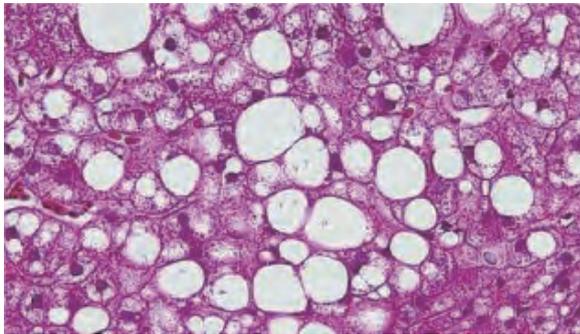
2015 年度の当科の大きな話題は、肝臓領域の診療体制充実です。この度、肝臓疾患の専門指導医である相坂医師が赴任しました。ウイルス性肝炎の最新の治療法を押し進め、今まで以上に充実した体制となっています。C 型肝炎は徐々に肝硬変肝癌へと進行していく怖い病気ですが、最新の治療を紹介しましょう。（下図）



C 型肝炎の治療は、2011 年には、抗ウイルス内服薬とインターフェロン注射、リバビリン内服薬の 3 剤の併用療法が認可され約 8 割の患者が、ウイルスの排除ができる様になりました。インターフェロン注射の副反応は依然としてあり、副反応に耐えられない高齢者、間質性肺炎、うつ病のある患者さんには治療の恩恵が得られない状況でした。しかし、2014 年 9 月になり、インターフェロン注射を使用せずに内服薬だけで、ウイルスの排除ができる抗ウイルス薬が登場し、副作用も劇的に減少しています。さらに最近では、12 週間という短い期間の治療で済む抗ウイルス薬が登場して、治療の選択肢が広がりました。現在まで当院では約 100 名ほどの患者さんがこれらの治療を受け、治療効果は肝臓の状態に関わらず 9 割以上の高率になっています。今や、C 型慢性肝疾患は治る病気であると言える状況になっています。

肝臓領域でのもう一つの話は脂肪肝です。（次頁写真）

特に、お酒を飲まない人に起こる脂肪肝、すなわち非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や非アル



肝細胞の脂肪化（白く抜けた部分）

コール性脂肪性肝炎（NASH）が問題です。この疾患について当院では以前より注目し臨床研究を重ねてきました。この領域のリーダーである兵庫医師が当院に赴任し、さらなる診療体制の充実がはかれることとなりました。NASH 専門外来を兵庫医師と野中医師で担当し診療の幅を広げています。脂肪肝、ことに非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）は、脂質異常症を 6 割、高血圧を 4 割以上、2 型糖尿病を 4 割以上、糖尿病と耐糖能異常と合わせると 7 割以上を合併・併発している病気です。生活習慣病の肝臓表現型ですから、脂肪肝を見たときには他疾患（II 型糖尿病、とくに隠れ糖尿病、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症、甲状腺機能異常、間脳疾患治療前後、出産状況、動脈硬化の程度、肥満なのにサルコペニア、椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症、歯周病など）の精査を適宜行うことが重要になります。NASH 外来では、このようなことを念頭に診断・治療を進めています。また、日常診療とともに SNPs 解析、腸内細菌叢検査、miR 検査、メタボローム・プロテオミクス解析なども積極的に取り入れ、全国多施設での共同研究を進めるとともに、糖尿病治療薬による NASH 改善の多施設共同の臨床研究も進めています。

消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、検査処置件数の増加とともに、診療内容も充実しています。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器、安楽な内視鏡検査処置を目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置もおこなっています。

膵・胆道領域では、十二指腸内視鏡を使つての診断（ERCP）や各種治療（EST や ERBD）などに加え、超音波内視鏡を使つた細胞診検査（EUS-FNAB）も活発におこなっています。膵癌・胆道癌の患者さんやご家族に対しての「膵がん胆道がん教室」は軌道に乗り、全国から注目され高い評価を受けています。

食道や胃腸といった消化管の分野では、早期癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない革新的な方法での切除件数も増加しています。下部消化管内視鏡でも同様にこの完全切除が見込める内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を多数の症例で実践しています。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

■ 研究活動

広島総合病院消化器内科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い、本誌別記のごとく多数の学会研究会での発表や論文の報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2015 年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4511
上部消化管内視鏡処置（含 EUS）	691
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP 等）	395
小計	5597
下部消化管内視鏡検査	1483
下部消化管内視鏡処置治療	937
小計	2420
全消化管検査処置合計	8017
腹部超音波検査（含造影 US）	4751
腹部超音波下処置	178
超音波関連検査処置合計	4929
その他（造影等）	111
消化器内科検査処置合計	13057



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

小児科

■スタッフ

主任部長 岡 島 宏 易

資格 小児科学会指導医、小児科専門医、医学博士、
日本アレルギー学会指導医、日本アレルギー学会
専門医、臨床研修指導医

専門 小児アレルギー（喘息、食物アレルギー）

部 長 辻 徹 郎

資格 小児科学会指導医、小児科専門医、日本アレルギー
学会専門医、臨床研修指導医

専門 小児アレルギー（喘息、食物アレルギー）

部 長 吉 野 修 司

資格 小児科専門医
専門 小児アレルギー

部 長 田 邊 真奈美

資格 小児科専門医
専門 小児アレルギー

嘱託医師 中 島 千恵子

資格 小児科専門医、心の相談医、産業医、臨床研修指導医
専門 小児神経（てんかん）、小児内分泌（成長ホルモン）

嘱託医師 小 野 早 織

専門 小児神経

■診療科紹介

2015年4月より嘱託医師として小野早織が、産前産後休暇、育児休暇明けの小児科研修目的に当科に加わりました。当科は、常勤医師4名全員が小児アレルギー疾患を専門としており、日常の小児科診療とともに、全国的なレベルでの小児アレルギー疾患の検査、治療体制の確立と広島県西部の小児アレルギー疾患の中核として活動することを目標としています。2015年12月から2016年1月には県内病院小児科から若手医師5名に来院いただき、食物アレルギー診療の研修を各医師5回ずつ行いました。

現在当科は、岡島（主任部長）、辻（部長）、吉野（部長）、田邊（部長）、中島（嘱託）、小野（嘱託）の6名体制で小児科医療をおこなっています。

当科の特色は以下の3点です。

- ①二次医療機関として、入院患者受け入れ機関であること。
- ②小児領域専門診療が可能であること。（特に小児

神経、小児アレルギー）

- ③NICUは設置していないが、院内出生の病的新生児への迅速な対応ができること。

常勤スタッフが4名のため、小児時間外救急には対応していませんが、重症児の救急車で搬送受け入れは救急センタースタッフと連携して行っています。

■診療実績

成長ホルモン負荷試験 09年35件、10年23件、11年35件、12年27件、13年34件、14年29件、15年32件

脳波 09年530件、10年517件、11年528件、12年540件、13年545件、14年492件、15年485件

予防接種 09年444件、10年590件、11年530件、12年550件、13年477件、14年540件、15年555件

シナジス接種 09年度延べ109件、10年度135件、11年度164件、12年度112件、13年63件、14年148件、15年142件

エピペン（アドレナリン自己注射薬）処方件数 09年4件、10年7件、11年6件、12年14件、13年30件、14年20件、15年55件

食物アレルギー経口負荷試験

09年 外来 19件、入院 27件

10年 外来 40件、入院 11件

11年 外来 44件、入院 6件

12年 外来 70件、入院 7件

13年 外来255件、入院 12件

14年 外来268件、入院 54件

15年 外来370件、入院110件

心エコー 09年355件、10年362件、11年282件、12年234件、13年190件、14年263件、15年288件

外科

■ スタッフ

診療部長、一般外科治療センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)

日本消化器外科学会認定医、広島大学臨床教授

化学療法室 室長

今 村 祐 司 (1983 年卒)

日本外科学会外科専門医

日本消化器外科学会消化器外科専門医

肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)

日本消化器外科学会消化器外科専門医

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)

日本消化器外科学会消化器外科専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)

日本消化器外科学会消化器外科専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長代理

杉 山 陽 一 (1997 年卒)

日本消化器外科学会消化器外科専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長 中 村 浩 之 (2000 年卒)

日本外科学会外科専門医

日本消化器外科学会消化器外科専門医

消化管外科部長 上 神 慎 之 介 (2001 年卒)

日本外科学会外科専門医

日本消化器外科学会消化器外科専門医

医 員 馬 場 健 太 (2012 年卒)

医 員 亀 田 靖 子 (2012 年卒)

医 員 田 妻 昌 (2013 年卒)

■ 診療科紹介

中光センター長を統括とし、上部消化管(杉山、中村)、下部消化管(香山、上神、田崎)、肝胆膵(佐々木)、化学療法(今村)、ヘルニア/甲状腺(田崎)の臓器別チームに分かれて、ガイドラインに基づいた専門性の高い診療を行っております。

当科における特筆すべきことは、胃、大腸、肝胆膵、ヘルニア領域それぞれのリーダーが、その領域のスペシャリストであることを証明する難関の内視

鏡外科学会技術認定医、肝胆膵外科学会高度技能指導医を取得していることです。このような施設は、広島はもちろん、全国的にも少なく、注目されています。手術見学を受け入れたり、多施設共同の手術セミナーに講師として参加したりしています。(上部・下部消化管トレーニングラボ、石見ヘルニアセミナー、広島 Lap ヘルニアセミナーなど)



上部消化管トレーニングラボ
(2015年11月、東京サイエンスセンターにて)
アニマルを用いた腹腔鏡下幽門側胃切除のトレーニング。

■ 診療実績

当科での年間全身麻酔手術症例数は約1000例です。ガイドライン上の適応を厳正に守りつつ、内視鏡手術を積極的に行っています。2015年の手術症例数は(カッコ内は内視鏡手術)、食道癌3例(3例)、胃癌91例(63例)、大腸癌136例(92例)、肝腫瘍23例(4例)、胆道・膵臓腫瘍28例(1例)、胆嚢炎・胆石症166例(160例)、鼠径部・腹壁ヘルニア164例(124例)などです。

■ 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

学会、研究会発表を積極的に行い、全国にも、地域にも情報発信を続けています。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する臨床試験に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 川 渕 義 治 (1994 年卒)
取得資格：日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医

部 長 板 垣 友 子 (2002 年卒)
取得資格：日本外科学会専門医
日本乳癌学会認定医

■ 診療科紹介

2015 年 3 月末で鈴木江梨医師が転勤し、2015 年 4 月から新たに板垣友子部長が赴任いたしました。これまで通り、外来診療は 2 つの診察室にて行い、少しでも待ち時間が短縮できるように留意いたしております。患者さんの外来での動線短縮を目的に、外来診察室にて臨床検査科・中央放射線科技師による乳腺エコー業務を行っております。

本年度の新規導入デバイスは乳腺エコーです。

これで 1 台体制から 2 台体制へ、すなわち診察室に各 1 台ずつ配置できるようになりました。患者さんの検査待ち時間を短縮することが可能となりましたし、本年度 1952 件（昨年度 1411 件）と約 1.4 倍の検査数の増加という結果となったことは、よりフレキシブルにその場のニーズに対応できるようになったことを示しています。また、今や精査エコーに欠かせない検査法となったカラードプラー法・エラストグラフィ・造影エコーといった要望にもハイレベルな対応が可能となりました。

チーム医療の進展といたしましては、腋窩リンパ節郭清後の患者さんのうち、2～3 割の割合で見られるリンパ浮腫に対する診療を充実させるため、院内体制作りに着手いたしました。HBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）に対するスクリーニングも日々の臨床の中でルーチンワークとして開始しております。

今後も、院外の地域連携・院内のチームのサポートをいただきながら、広島県西部の乳腺疾患をお持ちの患者さん・ご家族の“happy”の向上を目指した取り組みを継続してまいります。

■ 診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術	
胸筋温存乳房切除術	75
皮膚温存乳房切除術	0
乳頭温存乳房切除術	1
乳房部分切除術	46
腫瘍摘出術	0
小計 (件)	122

腋窩リンパ節郭清	14
センチネルリンパ節生検 →腋窩リンパ節郭清	1
センチネルリンパ節生検	94

乳房再建	
エキスパンダー	8
インプラント	1
腹直筋皮弁	1

乳腺良性手術	
小計 (件)	20

その他	
小計 (件)	5
合計 (件)	147

〈外来化学療法〉

術前化学療法	7
術後化学療法	56
進行再発化学療法	58
合計 (件)	121

■ 研究活動

日本国内で展開中の臨床試験に参加しています。

CSPOR
JBCRG
ACTG-breast

整形外科

■ スタッフ

病院長 藤本吉範 (2002年4月～)
 主任部長 鈴木修身 (2013年4月～)
 部長 山田清貴 (2009年4月～)
 部長 橋本貴士 (2011年4月～)
 部長 中前稔生 (2012年4月～)
 部長 平松武 (2015年4月～)
 医員 土川雄司 (2015年4月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、山田、中前、平松

手外科・微小外科・リウマチ外科：鈴木

関節外科：橋本

外傷：鈴木、橋本、平松、土川

■ 診療状況

整形外科は2015年度から平松、土川の2名が配属となり、藤本病院長以下7名が常勤として勤務しています。平松は4年間広島大学病院で勤務しましたが、それ以前は当院にいましたので、2回目の赴任となります。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2015年度の初診患者数は2,954名で、2014年度の1,822名と比較して大幅に増えています。また地域医療支援病院紹介率は105.5%で、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2015年度の手術件数は1529例で、毎年継続して増えています。そのうち頸椎手術が156例、腰椎手術が559例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

また当科では経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2015年度の後弯矯正手術例は147例です。さらに腰椎椎間板ヘルニアの治療では、新

しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2015年度までに44例と症例数が増加しつつあります。

2013年4月に病院内に新しく開設された脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：中前稔生）は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷など重篤な障害の治療も、積極的に行っています。

主任部長の鈴木は手外科、リウマチ外科の診療を行うとともに、微小外科の領域でも診療しており、外傷では切断指再接着や複合組織欠損に対する遊離組織移植術を行っています。また地域の先生方から骨壊死の患者さんを紹介して頂き、血管柄付き骨移植を行うことも増えています。

また整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、部長の橋本が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

医員の土川は、大腿骨頸部骨折など整形外科の基本的な外傷を中心として、2011年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの外傷患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対しても、質の高い治療を行うよう心がけています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持続していきたいと考えています。

脳神経外科

■ スタッフ

主任部長

急性期リハビリテーション主任部長

黒木 一彦 (1991年広島大学卒)

日本脳神経外科専門医、日本救急医学会専門医

日本脳卒中学会認定医

部長 阿美古 将 (2003年愛媛大学卒)

日本脳神経外科専門医、日本脳神経血管内治療学会

認定専門医、日本脳卒中学会認定医

医員 山田 直人 (2010年 広島大学卒)

医員 落合 淳一郎 (2012年 信州大学卒)

上記のスタッフで地域市民の脳を24時間体制で守っています。

■ 診療科紹介

当院脳神経外科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2015年度では740人の入院があり、脳梗塞が214人、脳出血が84人、くも膜下出血40人、脳腫瘍が39人でした。手術数も年々増加傾向にあり、2015年度は248例；クリッピング手術39例、コイル塞栓術18例、頸動脈ステント留置術(CAS)13例、脳腫瘍摘出術20例、血行再建術11例、頸動脈血栓内膜剥離術(CEA)8例、動静脈奇形(AVM)摘出術1例、開頭血腫除去術19例でした。代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また、発症4時間

30分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ(tPA)の投与、発症8時間以内で、条件を満たす疾患であればカテーテルによる血栓除去も可能となっています。脳梗塞は時間との闘いになります。救急部の医師と連携し迅速に対応しています。tPAは時間経過だけでなく、出血既往や手術既往、血圧や血糖、血小板数など禁忌項目も多く、適応を判断しつつ、内頸動脈や中大脳動脈閉塞症例では同時にカテーテルによる血栓除去治療の準備を行います。そのため発症早期の脳梗塞患者が搬送されると最低3人の脳神経外科医が速やかに集合し、治療に取り組んでいます。また一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術(CEA)という治療やカテーテル治療による血管拡張術(CAS)を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くをしめています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

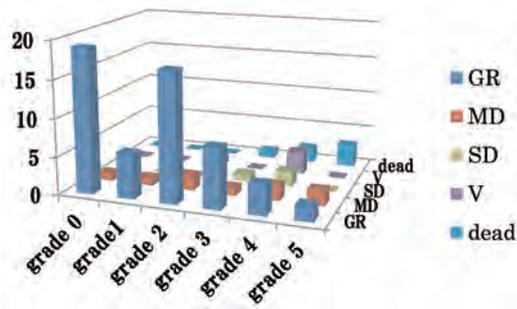
【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併

症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前は wide neck な動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近ではステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。



ステントアシストコイルの模式図

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。

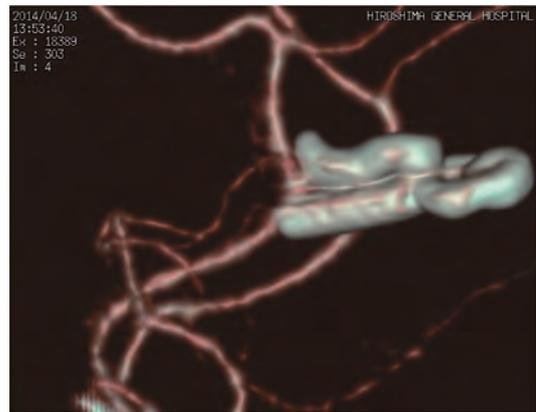


(grade 0；無症状、grade V は昏睡状態です。)

開頭クリッピング術治療成績



遠位前大脳動脈瘤破裂



脳動脈瘤クリッピング前後の 3D-CT 画像

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は 1 年間に 10 万人あたり 10 人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると 100 種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。当科における 2006 年以降の 88 例の脳腫瘍手術中 3 例の術後悪化を認めました。1 例は肺塞栓症、2 例は術後出血による麻痺を生じています。それ以外は手術操作による神経症状の悪化は認めていません。脳内に発生する神経膠腫は grade I-IV までありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特に grade IV においては 30 年以上にわたり治療成績が目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では年齢を考慮し、手術治療を選択してきましたが高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。

実際手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。



呼吸器外科

■ スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986年卒)
日本呼吸器外科学会専門医、日本外科学会指導医、
胸部CT検診認定医

医 員 熊 田 高 志 (2010年卒)
日本外科学会専門医

医 員 井 上 聡 (2011年卒)

■ 診療科紹介

呼吸器外科は2001年10月に開設され、14年が経過しました。近年増加の一途である肺癌は日本人の癌死亡の1位となっています。一昔前までは肺癌の手術は大きく開胸して行うものでしたが、現在では胸腔鏡を用いた小さい創で行い、低侵襲化が進んでいます。故に、より専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療が行われています。

最近の年間手術症例は130-150例、そのうち肺癌根治術は50-70例行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用していますが、一方、拡大手術が必要とされる進行肺癌においては、高い技術と術後管理能力が問われます。中でも胸骨正中経路による両側縦隔リンパ節郭清術については県下で唯一行える呼吸器外科施設と言えます。また肺疾患（COPDなど）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を2009年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。

また肺癌をより早期で発見するために胸部CT検診も2002年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部CT検診の有用性は2011年の米国の報告（NLST）で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量CTで行う必要があり注意が必要です。

■ 診療実績

2015年度までの手術件数を図1に示します。術前のチーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。

また2012年7月より開始した術前肺機能外来（図2）による潜在COPD患者の診断治療については、国内外の数多くの学会で発表してきました。COPDは今後日本人の死亡原因として上位にランクされるようになる疾患です。そのために健康日本21（第2弾）でもCOPDの認知度の向上とその早期発見を目標としています。我々は術前肺機能外来という新規のシステムにより潜在COPD患者の発見とより良い周術期管理が期待できる新たな取り組みを提供しています。また当院で術前診断されたCOPD患者さんは、かかりつけ医に逆紹介し、COPDの継続治療をお願いする病診連携を行っています（図2）。

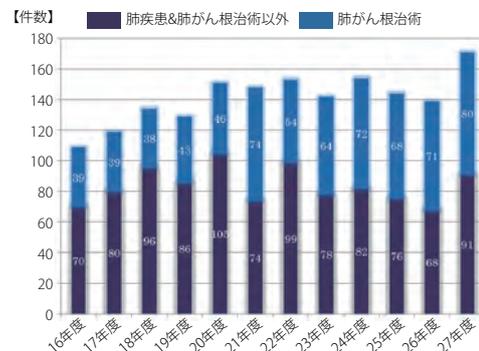


図1 肺癌根治術件数とその他の手術件数の推移

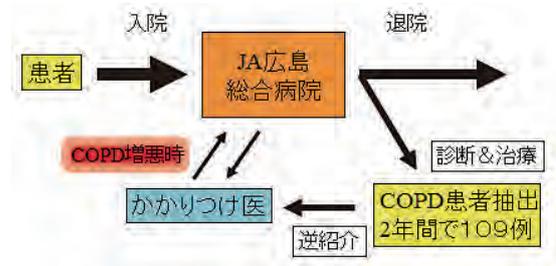


図2 COPD病診連携

■ 研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫
術前から開始する総合的周術期管理
術前肺機能検査によるCOPDスクリーニング

心臓血管外科

■スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医、外科学会専門医、
指導医

主任部長 (血管外科担当)
小 林 平 (1999 年卒)
心臓血管外科専門医、脈管専門医

部 長 小 澤 優 道 (2001 年卒)
胸部ステントグラフト指導医、腹部ステントグラフト指導医

医 員 吉 村 幸 祐 (2011 年卒)

■診療科紹介

心臓や胸部の大血管などの開心術（心臓を一時的に止め、人工心臓が必要）、胸部大動脈以下の腹部大動脈や下肢の動脈手術、下肢静脈瘤、透析に必要な内シャント造設術などの手術を行っております。心臓血管外科では、地方都市の一病院ではありますが、先進的な手術を行っております。

心臓弁膜症

当科での弁膜症手術療法の目標は、①心不全にならない、②抗凝固薬を内服しない、の2つです。

- ①術後の心不全を回避するために、軽度以上の弁膜症を含めて多弁に介入しています。手術適応の重度大動脈弁疾患を治療する際は、中等度以上の僧帽弁疾患、軽度以上の三尖弁疾患を同時に手術することで、遺残する弁疾患をできるだけ少なくし、心不全再発のリスクを軽減するようにしています。
- ②抗凝固薬の内服を回避するため、自己弁温存術（弁形成術）を行う、自己弁温存が困難で弁置換術を行う場合は生体弁を使用する、心房細動に対して洞調律復帰を目指してメイズ手術を行う、方針にしています。

上記①②を行うことで患者様の心臓を強化し充実した日常生活が送れるような診療支援を行っています。

大動脈疾患

大動脈疾患は“瘤”と“解離”に大別され、“瘤”は大きさと形状、“解離”は発生部位により治療の必要性が検討されます。低侵襲のステントグラフト治療が大動脈疾患の確立した治療法となり、これまで唯一の治療法であった人工血管置換術では治療困難なハイリスク症例に対しても治療の道が拓かれました。さらに、2つの治療を組み合わせるハイブリッド治療や、これまで保存的治療が基本だったB型解離に対する積極的治療介入など、今なお大動脈疾

患の治療戦略は変化しています。人工血管置換術とステントグラフト治療にはそれぞれ長所と短所があり、それらに精通し適切に選択することで治療成績は向上しています。当院における2015年の大動脈手術症例は45例（人工血管置換術：20例、ステントグラフト治療：25例）であり、手術死亡率は待期手術0%（0例／30例）、緊急手術13.3%（2例／15例）でした。

末梢動脈疾患

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では2009年より弁切開刀を使用したバイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しております。この分野では日本有数の施設であり、8割以上の症例で下肢を救うことができるようになっております。2015年は140例に血行再建術を施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは47例に施行しました。

透析用内シャント

透析患者さんの高齢化や生存率の向上に伴い、シャント造設困難例が増加しています。こうした場合には人工血管を用いたシャント造設が検討されますが、人工血管は感染症や血栓閉塞などの頻度が高いのが現状です。これを回避するために、当科では上腕の尺側皮静脈を用いた転位尺側皮静脈シャント造設を行っています。一般的な認知度は低いものの透析ガイドラインで推奨されている、合併症が少なく長期開存が期待できる有効な手段であり今後も積極的に導入していく方針です。



心臓弁膜症の治療風景：
多くの器具を使用しながら治療を行います。

皮膚科

■ スタッフ

主任部長 森 川 博 文 (1993 年卒)

資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

医 員 平 川 佳 葉 子 (2011 年卒)

専門；皮膚科一般

医 員 原 田 直 江 (2012 年卒)

専門；皮膚科一般

非常勤医師 吉 屋 直 美 (2001 年卒)

資格；皮膚科専門医
専門；皮膚科一般

■ 診療科紹介

2015 年 3 月末で梅田医師が退職し、代わりに 4 月に新たに原田医師が赴任しました。原田医師も女性医師のため、皮膚科の医師は主任部長が男性で、それ以外は 3 人とも女医になりました。梅田医師が退職し、平川医師の下の学年の原田医師が赴任したため、平川医師は 2 番目になりました。吉屋医師は、週 3 回ほど非常勤として勤務しています。そのほか、スタッフは看護師が 3 名、医療事務が 2 名、医療秘書が 1 名です。合計 10 名で診療にあたっております。

皮膚科の診療内容としては、外来診療においては湿疹・皮膚炎群や白癬などのポピュラーなものから、難治性の皮膚疾患、薬疹に対する診療、各種皮膚の腫瘍性疾患に対し、手術なども行っております。また、入院が必要な各種皮膚疾患の患者さんに対しても、必要性に応じて随時対応をしていきます。一方、寝たきりの患者さんの生じた褥瘡に対しても、外来での加療や各病棟への往診など対応を行っています。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	1 診	森川	森川	森川	森川	森川
	2 診	平川	平川	平川	平川	平川
	3 診	原田	原田	原田	原田	原田
	4 診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
15:30		病棟処置および他科の患者さんの往診				午後外来

■ 診療実績

2015 年度の入院患者さんの内訳度下記に記します。

病 名	人 数
湿疹・皮膚炎群	6
蕁麻疹・痒疹	5
紅斑・紅皮症	1
中毒疹・薬疹	7
血管炎・紫斑	1
その他の脈管疾患	13
膠原病および類縁疾患	1
物理・化学的障害	12
水疱症・膿疱症	10
角化症	0
代謝異常症	0
付属器疾患	1
皮膚良性腫瘍	23
皮膚悪性腫瘍	27
細菌性皮膚疾患	58
ウイルス性皮膚疾患	30
真菌症	0
昆虫・原虫などによる皮膚疾患	0

泌尿器科

■ スタッフ

病院長代行、医療福祉支援センター長、医療秘書室長

小深田 義 勝 (1979 年卒)

日本泌尿器科学会専門医 指導医

日本がん治療認定医機構暫定教育医

主任部長 丸 山 聡 (1988 年卒)

日本泌尿器科学会専門医 指導医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

部 長 増 本 弘 史 (2001 年卒)

日本泌尿器科学会専門医 指導医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医 員 宮 本 俊 輔 (2012 年卒)

■ 診療科紹介

副腎、腎尿管、膀胱、前立腺の全摘除や部分切除は、従来開腹術を行って来ましたが、近年の医学の発達により、腹腔鏡手術が各種手術に応用されるようになりました。腹腔鏡手術の特徴は従来の開腹術に比べ、皮膚や筋肉を切開する範囲がとても小さくて済むため、術後の疼痛が軽く、早期離床、早期社会復帰が可能となります。また、手術時間や治療成績も開腹術と同等の結果が得られています。病気が進行している場合や過去の炎症や手術の既往などがあるために腹腔鏡手術が施行出来ない症例を除き、大半の症例で適応となります。当科では2名の泌尿器腹腔鏡手術認定医がおり、責任を持って手術を施行しております。

腹腔鏡下副腎摘除術

副腎は両側の腎臓の上に1個ずつ存在する小さな内分泌臓器です。ステロイドホルモン、性ホルモン、血圧を上げるアドレナリン、ノルアドレナリン、アルドステロンなどを産生します。副腎に腫瘍ができ、これらのホルモンを必要以上に産生すると高血圧や糖尿病、多毛などの症状を呈します。これら副腎に発生した良性腫瘍の摘除を行う手術です。我々が当施設で行った腹腔鏡下副腎摘除術は昨年度2例です。

腹腔鏡下腎摘除術、部分切除術

腎癌、腎盂尿管癌などの悪性疾患や水腎症、無機能腎などの良性腎疾患に対し、腎臓を摘出する、あるいは腎臓を部分切除する手術です。腎臓は2個ありますが、1個摘出すると腎機能は約半分になり、腎不全、血液透析に至る可能性を高めます。腎盂尿管癌に関しては残念ながら部分切除は適応がありませんので腎臓と尿管を全て摘出する手術となりますが、腎癌に関しては、部分切除が可能な症例が多く存在します。腹腔鏡下腎部分切除術は高度な技術を必要としますが、当施設では可能な限り腎機能を温存するために、この腹腔鏡下腎部分切除術を積極的に行っております。昨年度行った腹腔鏡下腎尿管全摘除術は14例、腹腔鏡下腎摘除術は10例、腹腔鏡下腎部分切除術1例です。また、血液透析中の症例に対しても腹腔鏡下手術を行っています。

腹腔鏡下前立腺全摘除術

前立腺癌に対し、前立腺を摘出し、尿道と膀胱を再吻合する手術です。従来の開腹術に比べ、手術時間は変わらず、傷が小さく、身体の回復が早い、出血量が少ない、などの利点があります。当施設では、2013年5月1日に本術式の保険適応の施設認定を取得しました。我々が当施設で過去行った腹腔鏡下前立腺全摘除術は40例です。

■ 診療実績

手術統計 (前立腺：111件)

TUR-P	37
RRP	31
LRP	43

手術統計 (腎尿管副腎：31件)

腹腔鏡下腎摘除術	9
腹腔鏡下腎尿管摘除術	14
腹腔鏡下腎部分切除術	2
腹腔鏡下副腎摘除術	1
腎摘出術	2

腎尿管摘出術	1
腎部分切除術	2
手術統計（膀胱：168 件）	
TUR-BT 160	
膀胱全摘回腸導管造設術	5
膀胱内血塊除去術	2
回腸導管造設術	1
手術統計（結石：145 件）	
TUL	7
TUL（レーザー使用）	16
PNL	2
膀胱結石摘出術（高位切開）	1
ESWL	119
手術統計（陰茎・陰囊：26 件）	
精巢摘出術	6
陰囊水腫手術	7
包茎手術	7
停留精巢固定術	2
陰囊部分切除術	4

産婦人科

■ スタッフ

主任部長 中西慶喜 (1984年卒)

日本産科婦人科学会指導医
女性ヘルスケア暫定指導医

部長 大下孝史 (1994年卒)

日本産科婦人科学会専門医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医

部長 中前里香子 (1998年卒)

日本産科婦人科学会専門医

部長 佐々木美砂 (2005年卒)

日本産科婦人科学会専門医
母体保護法指定医師

副部長 藤本悦子 (2008年卒)

日本産科婦人科学会専門医

医員 上田明子 (2011年卒)

日本産科婦人科学会専攻医

■ 診療科紹介

2015年3月末で寺岡有子医師が退職し、4月から上田明子医師が赴任しました。産婦人科のスタッフは総勢6名です。2015年4月の時点では中前医師が育休中で5名態勢でしたが、2016年1月に育休明けで6名態勢に戻ったのもつかの間、その2週間後には佐々木医師が産休入りとなり、ほぼ5名のスタッフで1年間診療にあたりました。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後に予定手術をしています。広島西圏域(廿日市市・大竹市)では年間約1500件の分娩が有り、当院とひさまつ産婦人科医院と江川レディースクリニックで受け入れをしています。当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れないときは最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で2012年に構築しました。

年間の母体搬送を約100件程度受け入れており、県内でも有数の病院となっています。但し当院にはNICUがなく35週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。悪性腫瘍に関しては、当院は日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設であることから悪性腫瘍の患者さんが多く、手術・化学療法・放射線治療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を取り入れており、骨盤内臓器脱には保存療法よりも手術療法をより多くしています。

■ 診療実績

手術数 561件 (2014年度 515件)

分娩数 579件 (2014年度 601件)

■ 研究活動

JGOG (日本婦人科悪性腫瘍研究機構) の臨床試験にも多くの症例を登録しています。

2012年1月から広島大学病院産科婦人科との共同研究として「子宮内膜症術後再発抑制に対するディナゲストとGnRH製剤の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験」を行っています。



腹腔鏡下手術の治療風景

腹壁の4カ所にトロカールを挿入し、モニターを見ながら操作をしています。

眼科

■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986年卒)
資格 眼科専門医
専門 緑内障、白内障

副部長 末岡(井上) 千絵 (2007年卒)
資格 眼科専門医
専門 眼科一般

■ 診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が17年目の私(二井)と4年目の末岡(旧姓井上)千絵先生です。他は、看護師(OMAの有資格者)が2名、視能訓練士が3名で、他に事務1名(OMAの有資格者)、医師事務作業補助者1名(OMAの有資格者)です。

■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週3回午後から概ね一日5例行っており、毎年微増傾向です。

2015年度の手術実績は、白内障451例、緑内障52例(緑内障単独手術31例、緑内障・白内障同時手術21例)、線維柱帯切除術後の濾過胞再建術が37例、その他10例、計550例です。他に、マキユエイドテノン嚢下注射とルセンチス硝子体注射を合わせ55例に施行しています。緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が8例、線維柱帯切除術が23例、白内障手術併用線維柱帯切開術が16例、白内障手術併用線維柱帯切除術が1例、白内障手術併用隅角癒着解離術が4例、と微増傾向です。白内障手術は昨年同様全例に極小切開白内障手術(切開幅2.2mm)を行っています。極小切開に対応した新しい眼内レンズが発売されており、進化した極小切開白内障手術機器の採用が待たれるところです。また、当院でもトーリック眼内レンズを採用し、多い日には5例中3例がトーリック眼内レンズ使用の日もあり、乱視矯正にも心がけています。幸い白内障手術・緑内障手術ともに最も忌むべき合併症の術後感染は経験しておりません。

■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障治療薬に関し広島大学眼科との多施設共同研究も行っており、来る臨床眼科学会で末岡が発表します。また、緑内障新薬の治験も行っています。



耳鼻咽喉科

■スタッフ

主任部長 兼 見 良 典 (1988年 広島大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医 広島大学
2015年7月末で退任

主任部長 高 本 宗 男 (1992年 広島大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医
気管食道科学会専門医 めまい相談医
2015年8月1日から主任部長代理より昇格

部 長 長 陽 子 (2005年 浜松医科大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医
2015年6月15日から着任

副 部 長 津 村 薫 (2009年 兵庫医科大学卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医
2015年4月1日から着任

■診療科紹介

2015年には人員配置の大きな転換がありました。年度初めに岡林大医師から津村薫医師への交替に続き、8月からは長らく当科主任部長を務めていた兼見良典医師の退任により、主任部長代理であった高本宗男医師が昇格し、新たに長陽子医師が赴任しました。津村医師は2015年に耳鼻咽喉科専門医の資格を取得し、ひきつづき耳鼻咽喉科専門医師の3人体制が維持されました。耳鼻咽喉科全般の診療にあたっております。

新たに主任部長を務める高本医師は、当院赴任前の広島大学病院では音声治療や嚥下障害の検査(図1)を主に担当し、また、「めまい相談医」の資格を持ちます。着任以来、リハビリ科の言語療法士との連携で嚥下機能検査を積極的に行っております。長医師と津村医師の前任地は、それぞれJA尾道総合病院と安佐市民病院で、それぞれの病院で研鑽された診療能力を発揮して当科での業務に当たっております。



図1 嚥下機能検査

■診療実績

現在当科の診療体制は前年度までと同様に午前中の一般外来と火曜日・木曜日の午後に手術、月曜日の午後は甲状腺疾患の外来、水曜日・金曜日の午後は局所麻酔下の外来小手術や嚥下機能検査などを行っております。

2015年の8月からは耳鼻咽喉科外来内に超音波検査(エコー検査)機器を配置しました。これにより、外来診察中にすぐに検査を行うことが可能となり、2014年度には年間416件であった甲状腺を中心とした頸部のエコー検査が2015年度には年間671件に増加しております。必要に応じて、迅速にエコー検査ならびに細胞診検査が行えるようになっております。

また、手術件数は2014年度には210件でありましたが、2015年度は251件となっております。スタッフの異動にもかかわらず、手術件数はやや増加しました。(図2)



図2 内視鏡下鼻内副鼻腔炎手術

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 桐 生 浩 司 (1986年広島大学卒)

医学博士、日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医、日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医、日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ読影認定医、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了医、日本医師会認定産業医

医 員 廣 川 淳 一 (2010年広島大学卒)

■ 診療状況

診療放射線技師は3名体制で、中村哲之(放射線治療科科長・放射線治療専門技師)、海老谷京子(放射線治療科科長補佐・放射線治療品質管理士)、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションが1名です。

看護師は河野佐代子(がん放射線療法看護認定看護師)、受付は奥田志帆です。

以上8名で診療に当たっています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	3
2) 頭頸部	25
3) 食道	10
4) 肺・気管・縦隔	33
4) のうち肺	31
5) 乳腺	67
6) 肝・胆・膵	7
7) 胃・小腸・大腸	8
8) 婦人科	9
9) 泌尿器系	48
9) のうち前立腺	40
10) 造血器・リンパ系	4
11) 皮膚・骨軟部	2
12) その他 悪性	1

2015年度の新患数は217名、のべ治療患者数は235名です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌のIMRTを12名に、体幹部定位照射(肺)を1名に施行しています。

■ トピックス

2015年1月に、SIEMENS社製CT SOMATOM Definition AS OPENが治療計画専用CTとして導入されました。大口径であり定位照射などの撮影がで

きることで、また管球容量が高いため広い範囲のscanが一度に行え、全脳・全脊髄照射などが容易にできるようになっています。

【診療科紹介・当科の特徴】

放射線治療は手術、抗がん剤と並ぶ癌治療の3本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す(温存する)ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、(治療をめざした)根治照射から、(症状軽減のための)緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので
水曜日; cancer board (消化器内科・外科・画像診断部・当科)
水曜日; 呼吸器カンファレンス (呼吸器内科・呼吸器外科・当科)
水曜日; 乳腺カンファレンス (乳腺外科・当科)
木曜日; 緩和ケアカンファレンス (消化器内科・麻酔科・外科・呼吸器内科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科)
と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には、

- ① IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院
- ② 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にいかすよう時間調整している。
- ③ 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うよう取り組んでいる。
- ④ 病棟を持ち、とくに化学放射線療法の患者・緩和照射の患者の主治医となっている
などが、当科の特徴といえるかと思います。
また、がん拠点病院の要件ともなる、(医療従事者向を対象とした)放射線治療講習会を年1回開催しています。
今後、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

画像診断部

■ スタッフ

主任部長 西原 礼介 (1994年卒)

放射線診断専門医

PET 核医学認定医

部長 土田 恭幸 (2000年卒)

放射線診断専門医

医員 廣延 綾子 (2010年卒)

医員 坂根 寛晃 (2013年卒)

■ 診療実績

2015年度画像診断件数

CT	13367
MRI	5013
胃透視	891
注腸	23
核医学	1355
血管造影	222

■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、造影検査（胃透視、注腸）の読影をしています。
- IVR は、肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- 肝切除前に残肝を肥大させる目的で、消化器内科・外科と協力して経皮経肝門脈塞栓術（PTPE）を施行しています。
- Nonvascular IVR として、CT を利用した生検（CT ガイド下生検）や膿瘍ドレナージ（CT ガイド下ドレナージ）を行っています。
- 健康管理センターの依頼で、脳ドックを行っています。脳ドック受診者のうち、希望者に結果説明を行っています。また、検診バスの胃透視の読影を行っています。
- 開業医の先生から CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィなどの検査依頼を受け、その検査や画像診断を行っています。
- 救急外来などからの時間外の読影依頼を在宅で行えるようなシステムが構築されています。
- 救命救急センターと毎週金曜日、その週の救急患者の画像に関してカンファレンスを行っています。

〈本年度はじめたこと〉

- 院内の検診胃透視の読影。
- 造影剤副作用発生時の対応のシミュレーションを放射線技師や看護師と協力して3回施行しました。
- 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファへの参加。

麻酔科

■ スタッフ

副院長 麻酔科主任部長

中尾正和 (山口大学 1979 年卒)

臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医、医学博士、
麻酔科学会麻酔指導医、ICLS インストラクター、JPTEC
CMD、査読者；Journal of Anesthesia、日本臨床麻酔学
会雑誌、麻酔と蘇生 (2002/4 ～)

地域救命救急センター長

吉田研一 (広島大学 1984 年卒)

救急・集中治療部門責任者、医学博士、臨床研修指導医
(1997/4 ～)

救急麻酔科主任部長

古賀知道 (広島大学 1995 年卒)

麻酔科学会麻酔指導医、(2015/7 ～)

部長 本多亮子 (愛媛大学 1998 年卒)

麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS イン
ストラクター、集中治療医学会認定医、臨床研修指導医
(2011/4 ～)

副部長 梅田絢子 (愛媛大学 2007 年卒)

麻酔科学会専門医、(2013 年度取得) (2012/4 ～)

副部長 河本佐誉子 (広島大学 2008 年卒) (2015/4 ～)

医員 片岡宏子 (広島大学 2009 年卒)

麻酔科後期研修中 (2012/9 ～)

医員 高田菜々子 (福岡大学 2009 年卒)

麻酔科後期研修中 (2014/3 ～ 2015/6)

医員 佐々木幹子 (川崎医科大学 2009 年卒)

麻酔科後期研修中 (2015/7 ～)

医員 藤野友里 (神戸大学 2010 年卒)

麻酔科後期研修中 (2014/10 ～ 2016/3)



■ 診療実績

▶ 2015 年度の総手術件数は 5736 例で、うち麻酔科管理は 4047 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総数	5736	4047
予定	3968 (69.2)	2865 (70.8)
追加	982 (17.1)	582 (14.4)
当日緊急	786 (13.7)	600 (14.8)

▶ 予定手術 (前週水曜日正午の計画締め切り) 以降に申し込まれた追加手術、当日申し込みの緊急手術と計画後手術が比較的多いのが特徴です。とくに、各科管理では追加手術 23.7%、緊急手術が 11.0% で、追加手術が多く、計画性の問題も憂慮されます。

▶ 麻酔管理の診療科別内訳は外科 893、整形外科 1296、泌尿器科 366、産婦人科 452、耳鼻科 243、心臓血管外科 190、呼吸器外科 167、口腔外科 74、脳外科 166、皮膚科 30、形成外科 43、眼科 12 などで新生児を除く多岐にわたっています。

▶ ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。

▶ 救急・集中治療 (地域救命救急センター、ICU のセクション参照)

■ 麻酔科の機器

▶ 麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS をベースに、フィリップス社インテリビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。セボフルラン専用気化器はすでに全室に配備されていましたが、2014 年度にデスフルラン専用気化器も全手術室に配備完了しました。

▶ 自動麻酔記録システム；paperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。

- ▶高次脳波モニター BIS の全室配備；患者さんの術中覚醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モデル A2000 を全手術室に配備し全身麻酔患者さんに利用しています。当院のように手術室が 9 室あるような大きめの一般病院では全国で数番目と早期から導入されています。実際の麻酔の品質管理にも役立てています。
- ▶筋弛緩モニタリング TOFwatch Sx monitor を全手術室に配置し、PC への取り込み客観的な筋弛緩レベルを記録・確認しています。
- ▶エコーガイド下の末梢神経ブロックも積極的に取り入れています。

■基本活動

- ▶麻酔科学会認定指導病院 (No.421)
 - ☆初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育
 - 1 年次必須ローテーション 11 名 8wks
 - 2 年次選択ローテーション 3 名 4wks
 - ☆後期研修医 (麻酔科) の養成指導
 - ☆ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修施設 (2 名 12 ヶ月、6 ヶ月)
 - ☆広島大学医学部生に対する学外教育
 - ☆救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院
 - ☆女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院
 - ☆看護学校での非常勤講師
- など、多くの役割を果たしています

■研究活動

- ▶GlideScope、AirwayScope、McGRATH®MAC などのビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究
- ▶ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理
- ▶気管挿管時の歯牙損傷予防に関する歯科口腔外科協力による歯牙プロテクタ作成とそのアウトカム研究

- ▶麻酔記録システム paperChart のビッグデータからの SpO₂ 低下症例の調査

■その他活動内容

- ▶救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催
- ▶外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD (中尾)

歯科口腔外科

■ スタッフ

主任部長 原 田 直
 副 部 長 安 田 雅 美
 歯科医師 大 井 尚 志
 歯科研修医 庭 田 千恵子
 歯科衛生士 石 井 真 弓・梶 川 佐和子
 大 森 志 穂・松 谷 朋

■ 診療科紹介

口腔外科を専門として診療をしています。一般開業医では、困難な口腔・顎・下顔面の疾患の診療、入院処置、手術を中心とした専門的治療を行っています。

主な疾患は、がんや良性腫瘍、粘膜疾患、骨折、顎関節症、歯が原因の感染症などがあります。

口腔は解剖学的な特徴から、智歯や歯周病などの炎症が急速に進行し、開口障害、咽頭浮腫、気道閉塞をケースが多々あります。また、口腔がんは他の臓器と比較すると、急速に増大する例も多々あります。

もう一つの特色として、口腔は大きな感染源であり、医科での全身麻酔下での手術、化学療法、放射線治療に伴う口腔合併症は、食事量の低下、粘膜炎、誤嚥性肺炎を誘発し、生活レベルの低下、入院日数の延長につながります。このような治療時のトラブルを防止・軽減するため、医科と連携し、口腔管理・口腔保清を行っております。

■ 診療実績

現在、年間約 2000 人の外来新患があり、年間約 100 名の患者さんが入院治療を受けています。

全身麻酔下での手術は年間約 80 件、外来手術は約 500 件と週 4 日は手術を行っています。

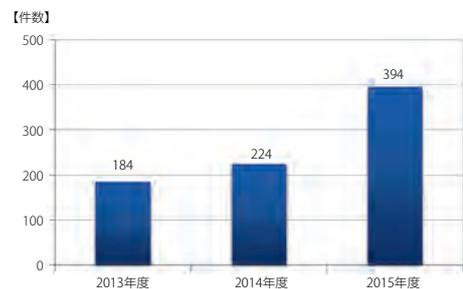
2012 年度の保険改定にて、周術期口腔管理が算定開始となり、当科でも施行開始から、外科などと連携し開始しており、現在、対象患者数の 32.6% の介入をしており、術後の在日数、抗菌剤の使用の減少の効果を上げています。

周術期、放射線治療、化学療法患者における 歯科口腔外科の介入割合

対象患者	介入患者	介入割合
1,293	422	32.6%

周術期口腔機能管理計画策定料算定件数の推移 口腔外科での手術数

全身麻酔下での手術件数	80 件
悪性腫瘍	7 件



良性腫瘍	41 件
唾液腺疾患	5 件
上顎洞疾患	3 件
骨折	5 件
抜歯	14 件
その他	7 件
局所麻酔下での手術	534 件

* 歯科衛生士学生の受け入れ*
 広島高等歯科衛生士専門学校
 広島デンタルアカデミー専門学校
 IGL 医療福祉専門学校



救急・集中治療科

■ スタッフ

地域救命救急センター長
救急・集中治療科主任部長

吉田 研一（1984年卒業）

医学博士、日本救急医学会専門医
臨床教授（広島大学 救急医学）
集中治療・救急医療

部長

櫻谷 正明（2007年卒業）

日本救急医学会専門医
日本呼吸療法学会専門医
集中治療・救急医療

医員

河村 夏生（2010年卒業）

日本救急医学会専門医
集中治療・救急医療

医員

平田 旭（2011年卒業）

集中治療・救急医療

医員

筒井 徹（2013年卒業）

集中治療・救急医療

■ 診療科の紹介

2015年度、当科は、上記の総勢5名で救急・集中治療の診療行為を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修施設でもあり、新専門医制度においても専門医研修施設となるよう申請をおこなっています。

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する」部門です。

このたび、2011年4月から地域救命救急センターとして、組織変更し、より患者さんへわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしく申し上げます。

■ 診療実績

2015年度

年間救急搬送患者数 3,318台

年間救急来院患者数 5,379人

2015年度の年間重篤患者数を表に示す。

表 救急・集中治療科実績（厚生労働省報告）

(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心停止	148	4	144
2	重症急性冠症候群	89	77	12
3	重症大動脈疾患	24	20	4
4	重症脳血管疾患	122	69	53
5	重症外傷	87	78	9
6	重症熱傷	2	2	0
7	重症急性中毒	27	27	0
8	重症消化管出血	62	59	3
9	重症敗血症	33	22	11
10	重症体温異常	8	7	1
11	特殊感染症	2	2	0
12	重症呼吸不全	55	32	23
13	重症急性心不全	67	53	14
14	重症出血性ショック	7	4	3
15	重症意識障害	22	20	2
16	重篤な肝不全	6	1	5
17	重篤な急性腎不全	17	14	3
18	その他の重症病態	6	4	2
合計		784	495	289

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

■ 研究活動

①重症感染症（敗血症）患者の救命率の向上

重症感染症（敗血症）は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群（SIRS）です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晩死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28-38%（2008-2015年）の患者さんが亡くられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2012では循環管理だけでなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について early goal-

direct therapy (EDGT) を積極的に推し進めています。

なお EDGT を行う場合は大量輸液によって肺の酸素化が障害される場合があり、人工呼吸器管理となることがあります。当院では高頻度振動換気法を導入し、その治療成績を検討しています。

②低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2010 (ACLS 2010) でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging、Ai) とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影 (CT) や核磁気共鳴画像法 (MRI) などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設 (クラス A) となっています。救急搬送された患者のうち、340 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性のある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があ

り、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能になる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ検視依頼を行っています。

緩和ケア科

■ スタッフ

主任部長 小松 弘 尚 (1985年広島大学卒)

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、
緩和ケアチーム各員 (略)

看護科主任 高原 さおり (緩和ケア認定看護師)

臨床心理士 上田 華奈子 10月～

佐藤 亜弥 3月～

病棟スタッフ

科 長 鶴谷 理恵

主 任 岡田 恵美子 (緩和ケア認定看護師)



■ 診療科紹介

緩和ケア科は2007年に発足した緩和ケアチームを母体として2010年に創設されました。2012年7月に緩和ケア病床として西8階病棟の一角に5床を開床し、緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しています。現在は院内のプライマリー科から病床依頼があれば緩和ケア科へ転科しチームで方向性を共有し専門的な緩和治療の実践を行っています。

地域に対して、県から依託された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行いました。中でも、がん患者が不安なく療養場所の調整が行われる事を目標とした両方向で利用できる緩和ケア地域連携パスを作成し、患者の緩和ケア提供体制を整えました。パスの使用件数は、2014年度11件でしたが、2015年度は31件と増加しました。今後は、地域医療者へ啓発し、利用数の増加も課題です。

緩和ケア科では患者の意思決定支援に対する取り組みとして、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の実施・啓発と、2013年8月から終末期医療におけるリビングウィル文書を導入しています。結果、文書の作成数は30件/年と増加しています。これらを用いて、治療の選択、療養場所の選択、終末期医療について患者の希望を中心としたケアの実践をしています。

■ 診療実績

(ア) 緩和ケア外来：2/週 水・木曜日午後診：原

則として罹患がんの主科との併診により緩和ケアを提供しています。

(イ) 緩和ケア病床 (西8階5床)：緩和ケア科を主科・プライマリー科医師を副主治医として診療しています。



■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調整し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算はシステムを整え運用中です。がん患者管理指導加算1では各科主治医 (緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している) と認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後の意思決定支援にあたります。がん患者のスクリーニングの運用を軌道に乗せて、そこから要望の出た患者へはがん患者管理指導加算2も利用して対応しました。2015年度がん患者管理指導加算1算の定数は209件、2は86件でした。

【リンパ浮腫相談】

主治医の指示のもと、リンパ浮腫を患う患者に対し相談、指導、バンテージや弾性着衣の調整を行いました。

リンパ浮腫に対するリハビリの処方がある場合、外来で施術も行います。

■ 研修会実績

- ・院内外医療従事者対象緩和ケア研修会開催5回
- ・地域のがんを診療する医師に対する研修会開催
- ・「緩和ケアを知って自分らしく生きる」JA広島市レディースクラブ会員対象講座

健康管理センター

■スタッフ

診療部長・センター長／主任部長／臨床研究検査科部長

碓井裕史（1977年卒業）

日本人間ドック学会認定医・産業医・臨床検査管理医

課長（保健師）久保知子

課長補佐（事務）馬場諭

主任（保健師）増本順子

保健師 7名（うち1名育休）

事務 5名

業務委託（受付・予約）5名

（車両業務）1名

臨時職員（医師5名、看護師6名、助手2名、臨床検査技師2名）

【取得資格】

人間ドックアドバイザー5名、禁煙専門保健師1名、健康運動指導士1名、心理相談員1名、転倒予防指導士1名

【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本人類遺伝学会、日本農村医学会、日本乳癌検診学会、日本禁煙学会、日本転倒予防学会

【各種所属委員】

健康はつかいち21推進協議会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会
日本農村医学会

■概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■主な活動内容

1. 施設内健診は、当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10月第3日曜日はJMSマンモグラフィーサンデー（5回目）を行いました。また、画像診断部の協力により、一時中止となっていた廿日市市国保脳ドックを再開し、地域医療活動の推進に努めています。
2. 巡回健診はJAグループ、廿日市市、佐伯地区医

師会等の委託健診を中心に実施しています。

3. 地域の健康教育活動

JA フェスティバル（JA 佐伯中央主催）、院内オープンホスピタル、廿日市あいプラザ健康まつり等でミニ健診、健康相談を実施、その他JA組合員健康教室やJA広報誌の執筆活動も行っています。

■トピックス

人間ドック健診施設機能評価プロジェクトチームの立ち上げ

健診事業を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、地域から信頼される人間ドックを実施するためにはその質の評価は欠かせません。そこで当課では職員参加型の一大プロジェクトとして日本人間ドック学会が行う人間ドック健診施設機能評価受審のためのチームを立ち上げ、数年先には施設認定を取得することを目標に掲げました。

今年度は2015年11月に機能評価公式講習会の参加、短い準備期間でしたが関係部署の協力により2016年2月に学会実査調査委員による機能評価簡易版（実査）を受審、2016年3月の院内BSC発表会では機能評価に向けた取り組みを紹介させて頂きました。

チームリーダーの事務職員の堤さん、保健師の林さんは手探りの中でも、リーダーシップを発揮し、大いに貢献していただきました。次年度は実査の評価をもとに、継続的に質の改善活動を行い、本番の機能評価受審準備に向けて職員が一丸となって取り組んで参ります。



2016年2月実査受審前の全体説明会の様子

■ 2015 年度活動実績

○施設内健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
入院ドック	18	18
外来ドック	232	2,674
協会けんぽ健診	190	1,223
原爆 (一般・がん・2世)	141	338
脳ドック	204	329
肺ドック	95	127
膝ドック	30	31
個別子宮がん検診	71	76
個別乳がん検診	78	213
個別大腸がん検診	53	71
健康診断	191	1,743
特定保健指導	81	99
その他	134	689
計	1,518	7,631

* 特定保健指導はのべ人数を計上

○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	23	656
肝炎検診	4	14
胃がん検診	19	476
職員健診	57	3,704
大腸がん検診	4	438
特定・後期高齢者健診	4	416
その他	8	971
計	119	6,675

■ 2015 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内検診

		受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部	バリウム	1,305	42	3.2	31	73.8	0	0.00
	カメラ	1,997	254	12.7	231	90.9	7	0.35
胸部	レントゲン	4,804	51	1.1	39	76.5	3	0.06
	CT	127	4	3.1	2	50.0	0	0.00
大腸 (便潜血反応)		3,843	180	4.7	109	60.6	5	0.13
乳部		1,200	89	7.4	82	92.1	5	0.42
子宮頸部		1,027	71	6.9	56	78.9	2	0.19
前立腺 (PSA)		686	23	3.4	18	78.3	4	0.58

○巡回検診

	受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部間接レントゲン	476	2	0.4	1	50.0	0	0
胸部間接レントゲン	4,619	27	0.6	12	44.4	1	0.02
大腸 (便潜血反応)	1,755	76	4.3	29	38.2	0	0
前立腺 (PSA)	387	9	2.3	4	44.4	0	0

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)
資格 日本形成外科学会専門医、医学博士
専門 形成外科一般

■ 診療科紹介

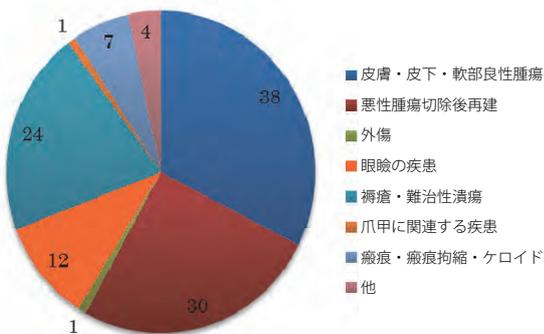
形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

当科で特に力を入れているのは、加齢性眼瞼下垂症で、除皺術、上眼瞼挙筋前転術、筋膜移植術、すべての術式に対応しております。拡大鏡を用い侵襲の少ない治療を提供しております。

眼瞼周囲の疾患以外にも、腫瘍切除後の再建や外傷に伴う組織欠損、先天性疾患、難治性潰瘍など幅広く診療しております。

■ 診療実績

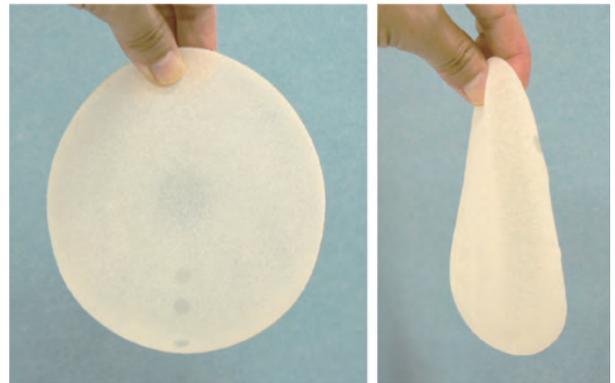
初診患者数	261 例
手術症例数	計 117 件
内訳 全身麻酔	48 件
腰麻・伝達麻酔	8 件
局所麻酔	61 件



■ トピックス：インプラントによる乳房再建

2013年7月より保険適応となったプレストインプラントによる乳房再建ですが、当科では本年度10例行いました。人工物での再建は細菌感染の治療に難渋しますが、当科においては幸い感染の経過をたどった症例はなく、自家組織による再建のように他部位に傷をつけることなく再建できますので、低侵襲のメリットを十分に享受できる結果となっています。ただ、年に1回は定期的に受診いただき、2年に1回はMRIや超音波による精査をする必要があります。このようなメンテナンスの面倒くささを敬遠する患者さんには不向きかもしれません。

このプレストインプラントによる再建を実施できる施設には条件があります。手術実施医は予め講習会を受け、実施医、実施施設の審査・認定を受けて初めて使用が許されます。また3年ごとに資格を更新しなければいけません。実施を継続するのは簡単ではありませんが、引き続き実施条件を満たすよう努めてまいります。



プレストインプラントの一例

下半分にボリュームのあるアナトミカルタイプ

写真は290mlですが、サイズ展開は125mlから685mlで、縦、横、高さの比率の違う物が合計121種あります。

病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕

科 長 水 野 誠 士

臨床検査技師 6名

事 務 1名

■ 取得資格

病理専門医 1名

細胞診専門医 1名

病理解剖資格 1名

細胞検査士 4名

国際細胞検査士 2名

二級甲類臨床病理技術士 4名

(病理学4)

診療情報管理士 1名

認定病理検査技師 2名

特化物四アルキル鉛等作業主任者 2名

■ 所属学会

日本病理学会

日本臨床細胞学会

日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2015年度)

組織検査 6021件 (2014年度 5905件)

術中迅速検査 408件 (// 367件)

細胞診検査 7572件 (// 6671件)

術中迅速細胞診 110件 (// 94件)

病理解剖 3件 (// 1件)

■ トピックス

〈自動包埋装置、新機種導入〉

修理を繰り返しながら使用していたVIP5Jrが機器更新により新機種VIP6AIに変わりました。この装置は有機溶剤であるキシレンを使用しますが、厚生労働省により安全基準濃度が定められています。

従来の機械では液交換の際、有機溶剤による曝露が避けられませんでした。新機種では機械に付属したホースで給排液を行うため、曝露が少ない仕様になっています。また、年々増加している病理検体の処理に対応するため、従来機種の倍の包埋カセットの処理ができる機械を導入しました。

〈検体採取等に関する厚生労働省指定講習会の受講〉

2014年、臨床検査技師等に関する法律の一部を改正する法案が成立し、2015年4月1日から施行され、業務として検体採取および味覚・嗅覚検査を実施することができるようになりました。それに伴い指定講習会を受講しました。



自動包埋装置 Tissue-Tek VIP6AI

大容量で薬液の浸透も良く、きれいな標本作成に貢献しています。



マツナミ FINE FROST PRINTER MINI

スライドガラスのフロスト部分にバーコードを印字することができます。検体取り違えのリスク軽減のため、今後もバーコード運用ができる機器を取り入れていく予定です。

研修医室

■ スタッフ

〈2年目初期臨床研修医〉

石橋 栄樹、新原 健介、仙波 恵樹、竹本 浩太
元 貴彦、松田 真伍、村田 愛、最上 文子
森本 啓介、大和 賢輔

〈1年目初期臨床研修医〉

内田 由紀、岡本 大輝、岡本 直通、京田 尚子
佐藤 優季、田中 芳樹、難波 剛史、平井 裕也
安田 珠里

〈歯科研修医〉

庭田千恵子

■ 概要

初期臨床研修医 19名、歯科研修医 1名の、計 20名の臨床研修医が在籍しています。それぞれが当院の研修プログラムに沿って、各科をローテーションしながら研修を行っています。

■ 活動内容

初期臨床研修医は1年目に内科6ヶ月、外科系1ヶ月、救急集中治療科2ヶ月、麻酔科2ヶ月、自由選択1ヶ月でローテーションを行い、2年目で産婦人科1ヶ月、小児科0.5ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月、健康管理センター0.5ヶ月、残りを自由選択科にて研修を行っています。

研修内容は各科によって異なりますが、上級医の先生方の下で日々の診療業務（主には外来での新規患者さんの初期対応や病棟業務等）を行っております。医学知識としてはまだまだな点も多いですが、患者様と積極的にコミュニケーションをとり、研修医だからこそ気づける些細な出来事に気がつけるよう意識して日々の診療にあたっています。外科系の診療科をローテーションしている際には、手術に助手として参加させていただくこともあります。救急集中治療科では、主に救急車で搬送される急患の初期対応を行います。指導医のもと、今自分の出来ることは何かを常に考えながら行動するよう心がけています。また、HCUや一般病棟に入院された患者さんの管理も行います。麻酔科では麻酔の導入から維

持、覚醒までの一連を行います。静脈路確保や気管挿管、人工呼吸器の操作といった手技も、麻酔科で習得します。

また日々の診療に加え、夜間・休日の当直・日直業務を行っております。研修医1年目・2年目それぞれ1名ずつと、救急当直医1名、一般当直医1名の4名で、夜間・休日に救急外来を受診される患者さんの対応をしています。日々の診療で得た知識や技術を活かしながら、目の前の患者さんの病態を迅速かつ的確に把握し、適切な初期診療を行えるよう心がけております。上級医からの feed back もあり、研修医にとっては大きく成長できる絶好の場であると感じています。Walk in から救命センターならではの重症患者さんまで幅広い症例を経験でき、非常に勉強になります。

また毎週火曜日の早朝に Early Bird Lecture (EBL) と呼ばれる研修医同士の勉強会を行っています。当直・日直で経験した症例を発表し研修医間で共有したり、上級医の先生からの講義も行われます。スライド作成や発表の練習にもなります。

BLS・ACLS、JPTEC、JATEC、FCCS、TNT など様々な講座を受講し、資格を取得するための補助を受けることも出来ます。若手医師のためのセミナーや勉強会に数多く参加ができ、対外面としては中四国の地方レベルから、場合によっては海外の学会にまで、上級医の指導を仰ぎながら学会発表をする機会もあります。

その他に、当院では初期臨床研修を終了した後に、3年目からも後期臨床研修医として当院での研修を希望する先輩方が多くいるのが特徴の一つでもあります。初期研修で慣れ親しんだのはもちろんのことですが、それ以上に熱心な上級医の先生方や、スタッフの皆さんと一緒に医療を行い、その中で自分自身も成長したいという気持ちからだと思っています。

看護科

■看護科の理念

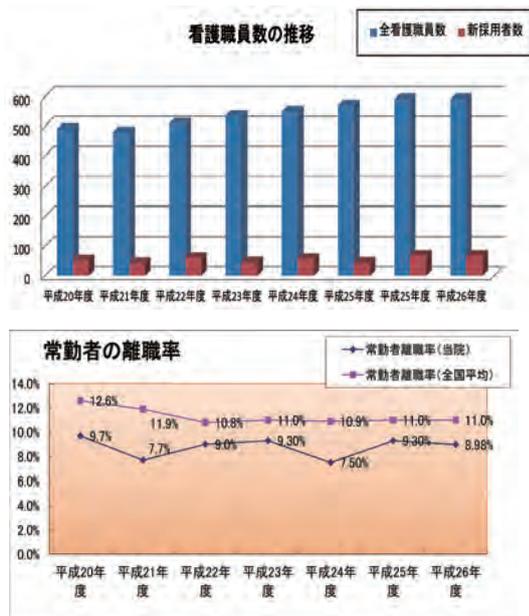
病院基本理念に則り地域の中核病院として看護の果たすべき役割を自覚して実践し、患者の安全と生活の質を守り地域社会から信頼される看護を目指します。

■2015年看護科目標

心と心の通い合うハートふるナーシング
— BSC でみえる！カエル！変わる看護！—

■2015年度の動向

看護職員は593人で、その内新採用者は59人でした。離職率は下表に示すとおりです。新採用者の離職率は8.5%（全国平均7.5%）でした。



■2015年度の看護科の取り組み

1. 看護職の人材確保と定着推進活動

育児休暇中のスタッフが安心して職場に復職するための支援として、「どうしようるん？元気にしようるん？」という気持ちを込めて、「るんるん広場」を年間2回に増やし同じ保育園の保育士さんのお話・先輩ママの話・人事課による復帰の手続きに関してなどママさん達の欲しい情報を提供しました。また同じ子育て仲間として育児の悩みなどを話せる場となり、たいへん好評でした。

2. 看護の質向上に関する活動

看護実践能力の開発支援としてクリニカルラダー

認定制度を2012年度より取り入れています。日々の努力を認め励ますキャリナビ会（認定のための面接）は、モチベーションアップにつながると好評です。これまでにラダーⅠ（新人レベル）は134人が認定されました。また、ラダーⅡ（一人前レベル）は167人、ラダーⅢ（ベテランレベル）は40人になりました。



3. 看護の普及啓発に関する活動

ふれあい看護体験を8月7日に開催し、高校生31人が参加しました。看護の楽しさ、すばらしさを実感し看護師になりたいという思いが強くなった1日でした。



4. 看護補助者体験ツアー

一般の方を対象に、「看護補助者の仕事を知ってもらおう」と企画した看護補助者体験ツアーは、22名の参加がありました。先輩の看護補助者さんから現場の様子や実務について話を聞き、シーツ交換などを体験し実感につながるツアーとなりました。



体験ツアーの様子

外来

■スタッフ

科長：坂尻 明美・中元 美恵・野村 昌代・松下 理恵

主任：高原さおり・実平 明美・平舛 仁美

他 70名 看護助手 5名

認定看護師 7名

糖尿病看護 2名、がん放射線療法看護 1名、緩和ケア 1名

皮膚・排泄ケア 1名、がん化学療法看護 2名

■外来の概要

2015年度の外来患者数は、258,599人で1日平均患者数は1,060人です。多くの患者さんに当院を受診していただいています。

外来では看護師、医師事務作業補助者（MS）、事務職員、看護助手が、患者さんの受診、検査等をサポートしています。正面玄関では外来科長が患者さんの受診の相談、さらにボランティアの方々が各科受診案内のサポートを行っています。

外来では毎日多くの患者さんが受診されており、お一人で複数科受診される患者さんも多く、各科で協力しながら対応させていただいています。

当院へ受診される患者さんのご意見を真摯に受け止め、よりよい外来作りを目指し努力しています。

■看護

外来では、月1回外来看護師が集まる外来ミーティングを行っています。その中で外来看護の向上を目指して次の3つのチームで取り組みを行いました。

【外来急変対応チーム】年間目標として、①外来看護師がAEDの場所を把握し緊急時に使用ができる②急変対応シミュレーションを通して急変対応の基本がわかることをあげました。①に対してはAEDの勉強会、AEDの使用の実際②に対してはAEDを使用しながら実際の急変時の対応シミュレーションを行い、学びを深めました。

【感染チーム】年間目標を①水周りの清潔につとめる ②毎月のポスター配布としました。

①に対して、各科統一したチェック項目を話し合いにて決定し、毎週1回清潔のチェックを行いました。

チームメンバーが主に掃除をし、各部署で協力しました。②に対して、委員会から配布のポスターを各部署に配布し、注意喚起をおこないました。

【がん看護チーム】厚労省推奨の「生活のしやすさに関する質問票」の運用方法について検討・改定をしてきました。結果、前年度107件から本年度は4128件（内97%が外来）の増加となりました。また、質問票から抽出された倦怠感・不安・家族ケア・療養支援について事例検討会により看護の質の向上に努めてきました。

■教育

内視鏡センターでは災害訓練を行いました。災害が発生したときの行動は日頃から発生したときの状況を想定して自分のとるべき行動を具体的にイメージしておく必要があります。災害時に患者さんの安全が守れるように内視鏡センターでは災害を想定した机上シミュレーションとアクションカードを使用した災害訓練を行いました。



■院内における研究・発表

小児科外来で行う点滴静脈注射固定方法の見直し～児のADL・QOL低下を軽減できる点滴静脈注射固定方法～

河野愛 磯辺利江 吉見佳奈 坂尻明美

地域救命救急センター

■ スタッフ

科 長 水 村 めぐみ

主 任 前 田 智 子

他 看護師 38 名 看護助手 1 名

■ 概要

当地域救命救急センターは、2011年4月に開設し、5年目を迎えます。

1階の救急外来では救急医療を必要とする患者の救急車の受け入れや他院からの紹介など全科の救急患者の対応を行っています。2階には8床(個室1床)のベッドを有し、小児・産科を除く全科にわたる救急患者が入院可能であり、夜間入院を主に受け入れています。



図 救急車台数と HCU 入室者数

■ 看護

救命救急センター開設5年目となり、救急看護の質の向上に向けて、看護チーム体制をとり、業務・マニュアルの改定や知識技術の向上に向けた勉強会を開催しています。

- ・呼吸器チーム
- ・循環器チーム
- ・初療チーム
- ・家族看護チーム
- ・災害チーム
- ・医療安全チーム
- ・創傷チーム

救急患者の受け入れの際は、日勤、夜勤ともに、外来リーダーと病棟リーダーが連携をとり、スムーズな受け入れができるよう心がけています。

救急外来では、他部門との連携を密にし、重症患者や急変時に素早く的確な対応を心がけています。HCUでは、挿管患者のVAP予防に向けたケア方法の統一を行い早期抜管に向けたケアの充実を行っています。

また外来、HCUともに救命センターに来院される患者さんの家族は不安と緊張により、危機的状況にある事が多くあります。救急の看護師として「家族への看護の充実」を目標に問題提起や症例検討を行い、患者・家族ともに満足度の高い看護が提供できるよう日々努力をしています。

■ 教育

- ・各自の教育課題に応じ、BLS、ICLS、ACLS、JPTEC、JNTEC、FCCSなどに参加し、集中治療・救急領域のスキルアップを図り、年々増加する患者に対応できるよう励んでいます。
- ・救急集中治療という厳しい環境のなかで新人看護師が萎縮することなく成長していけるような教育体制、教育支援の環境を整えています。
- ・医療、看護の質の向上のために、救急医からの勉強会、看護チームの勉強会を月1回以上行っています。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

外傷初期看護における看護実践能力の育成にむけて
～外来シミュレーションコースを実施した効果の検証～

○西原壱 植田美穂 木下伊代 斉内佳輝

ICU・西3階病棟

■スタッフ

科長 丸 澤 葉志子
 主任 尾 崎 直 美
 主任 坂 本 佳奈江
 主任 辻 幸 枝
 主任 竹 野 香 織

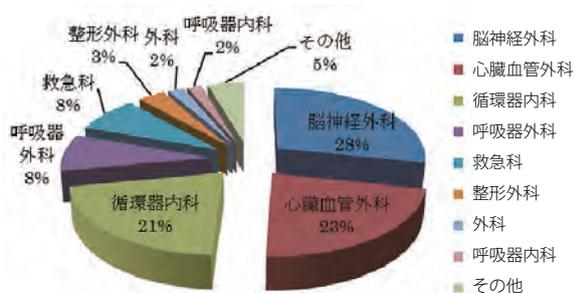
病棟スタッフ：看護師 21名 看護助手 1名

■病棟概要

西3病棟は、2015年8月に改修工事を行い、空気清浄器10機を設置し、病床数11床から8床に減床しました。ベッド間のスペースも広がり、より重症集中ケアが実践できる病床環境となりました。看護体制も2:1となり、2015年10月より特定集中治療室加算取得も開始しました。



2015年度の入室患者は、556名でした。年々脳神経外科患者の入室が増加しています。



■看護

2015年度の看護目標は「ICUにおける標準的な看護の底上げを目指す」「安全な医療・看護を目指す」としました。ICUにおける標準的な看護の底上げの一環として、2015年10月より看護師による挿管チューブ抜管後の嚥下機能評価とせん妄評価（CUM-ICU）を導入しました。

安全な医療・看護に対しては、2008年から実施してきた中心静脈関連感染サーベイランスにおいて、初の感染件数0という結果を残しました。医療スタッフ一丸となって感染対策に力を入れています。

■教育

救命救急センター内での知識・技術の向上を目的に、救命センターと西3病棟合同の勉強会を毎週木曜日に実施しています。

院外研修では、BLS・FCCS・集中治療学会開催の「ICU・CCUセミナー」に参加し、スタッフの看護実践向上に役立てています。

■院内における研究・発表

当院ICUでの栄養プロトコール導入に対する問題点
 ○五百川典子

西 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 田 尾 由美子
 主 任 植 野 祐 子
 主 任 竹 村 美 鈴
 主 任 杉 中 知 子

助産師 23 名 看護師 8 名 助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科：産婦人科 外科

病床数：41 床

病床稼働率：88.8%

平均在院日数：10.0 日

2015 年度分娩件数：586 件

(帝王切開率 27.5%)

2015 年度手術件数：552 件



年度別分娩件数

2015 年度の婦人科手術件数は 552 件で、うち腹腔鏡手術が 109 件で全件数の 5 分の 1 を占めており、増加傾向です。産科では、近隣の有床施設からのハイリスク妊娠の母体搬送を、積極的に受け入れています。

■ 看護

妊婦さんの外来保健指導や産後の母乳外来に力を入れています。妊娠中から、社会的・心理的問題をかかえる妊婦さんを、地域連携室を通して地域につないでいます。婦人科周手術期の看護や悪性腫瘍患者の化学療法、終末期看護をおこなっています。

院内ポスター展では、喫煙の害から妊婦と赤ちゃんを守るため「妊婦と喫煙」というテーマで出品し、優秀賞を受賞しました。



■ 院外活動

今年度も、廿日市健康祭りでベビーマッサージをおこないました。地域の小中学校に出向き、「いのちの授業」をおこなっています。

■ 教育

2015 年度より、日本看護協会が主催する助産師のクリニカルリーダー CLoCMiP レベルⅢ認証が始まり、2 名の助産師が認証を受けることができました。各自自主的に研修会に参加し、フリースタイル分娩などの伝達講習をおこないました。助産学会にも参加し、知識の習得に努めています。腹腔鏡手術や悪性腫瘍手術、リンパ浮腫の勉強会を開き、理解を深めることができました。

■ 院内における研究・発表

「切迫早産妊婦の筋力トレーニングによる効果」

○植野祐子 山下美奈

第64回日本農村医学会学術総会で口演発表しました。

西 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 水 村 めぐみ
 西 村 留 美 (10月1日より)
 主 任 龍 敬 子
 主 任 中 村 希
 主 任 岩 崎 文 江 他看護師 29 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の外傷患者の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 36 名、看護助手 3 名で構成されており、勤務体制は 2 交代勤務です。

2015 年度の整形外科手術件数：1373 件 病床稼働率：85.1% 平均在院日数：12 日です。

■ 看護

当科では固定チームナースング+受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ちカードと担当カードを手渡して、入院から退院まで責任を持って継続した看護を提供することに努めています。

手術が決まった患者さんは、入院の前から看護師が面談を行い、患者さんの情報収集と入院説明を行っています。早期からの患者さんご家族への情報提供や病棟看護師との情報共有は、スムーズな入院の受け入れに役立っています。例えば、「転倒・転落予防」や「療養環境の整備」は、外来からの情報をもとに入院前からベッドや補助具の準備を行っています。

また、イラストの ADL シートをベッドサイドに提示することで、患者さん自身とご家族、病棟スタッフが患者さんの ADL を共有できるようにしています。

「患者参画型看護」を実施しており、患者さんご家族が看護問題の解決に参画することで個性が生かされ、相互の情報共有が、より安心して安全な看護の提供につながっています。今後も患者さんと共に考え、共に協力しあえる関係性を大切にして、信

頼される質の高い看護が提供できるように努力していきたいと考えています。

以下 8 つのチームに分かれ、業務改善や看護技術向上を目指して活動を行っています。

在宅支援チーム、ケアカンファレンスチーム、クリニカルパス バリアンスチーム、病棟勉強会チーム、入院・退院チーム、固定チーム研究会チーム、患者参画型看護チーム、コンプライアンス・倫理チーム

院外研修に参加し、勤務前労働について意識調査し、申し送り時間の短縮、情報共有の見直しを行い、業務改善に努めています。

■ 教育

個人の興味、関心に基づき、研修会に参加しています。年間計画を立てて研修会に参加し、研修会参加後は病棟内で伝達講習を行い、病棟看護師全体のレベルアップをはかっています。また、様々なシミュレーション教育を実施し、看護技術の習得を支援しています。

一年生のローテーション研修後は、他病棟での学びを病棟内で発表します。一年生の成長を形にすることで新人看護師のモチベーションを高めるとともに、一緒に喜ぶ機会としています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すとともに、リーダーや実習指導者を育成し、スタッフがさらに成長できるように支援を続けています。

■ 院内における研究・発表

受け持ちカード・担当カードの導入が病棟看護師に与えた意識の変化

～病棟看護師にインタビューを実施して～

○久保 真奈美 前川 麻紀 中村 希



西 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 槌 谷 滋 乃

主 任 藤 村 雅 子

主 任 島 津 加 奈 子

他看護師：29名 看護助手：3名

■ 病棟の概要

【診療科】消化器外科

【病床数】54床

(個室6室・うち重症個室1室 4人部屋12室)

2015年度、平均病床稼働率は89.7%、平均在院日数18.3日となっています。

■ 看護

「外科看護に特化した病棟」を目標としており、術後の合併症予防に加えて、周術期看護の充実した取り組みを行っています。また他部門の協力も得て、術後の合併症予防も行っています。今年度より専門性を強化するためにチーム編成を行なっています。

2015年度の看護目標を

- ①固定チームの編成により、患者様の安全を守り、満足の高まる看護実践ができる。
- ②自宅退院に向け、地域の福祉を活用でき、患者様の安心感を高めることができる。
- ③皮膚排泄ケアの相談窓口、おしゃべりサロンの活用により、地域を密接できる。

と掲げて、日々の看護に励んでおります。

【ストーマ外来】

開設日：週1回（月曜日・木曜日）

時間：9時～17時

受付：外科外来

場所：西6階病棟

担当者：

皮膚・創傷ケア認定看護師

中国ストーマリハビリテーション講習会受講者

2007年に開設したストーマ相談外来（毎週2回月・木曜日）の相談者も増え、去年は皮膚・創傷

ケア認定看護師、または専門の教育を受けた看護師が担当した相談は延べ60件でした。当院で手術をされた患者様を中心に観察、相談、アドバイスなどさせていただいています。

■ 教育

毎月1回テーマを決め、勉強会を実施しています。2015年度に実施した勉強会を表1にまとめました。広範囲に専門的知識を習得するため医師、コメディカル、認定看護師の協力を得て、研修会を開催しました。

表1：年間勉強会

対象	研修内容
全スタッフ	胃癌治療について（医師） 肺癌治療について（医師） 術前呼吸機能について（医師） TDM 必要な薬剤について（薬剤師） 麻薬管理について（薬剤師） 化学療法について（認定看護師） 終末期せん妄、看取りについて（認定看護師） ストーマ管理について（認定看護師） 退院調整について（地域連携室相談員）
新人スタッフ	疾患別外科看護（1回/月）

■ 院内における研究・発表

急性期病棟で終末期がん患者を看取った家族の思い～遺族へのインタビューを通して～

西 7 階病棟

■ スタッフ

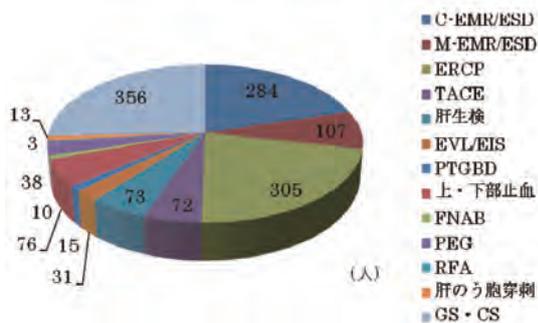
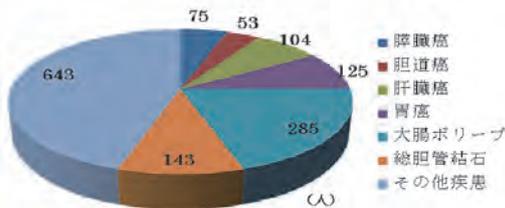
科 長 本 山 敏 恵
 主 任 上 田 美 紀
 主 任 山 本 時 生 子
 他 看 護 師 32 名 看 護 助 手 2 名



■ 病棟概要

- 【診療科】 消化器内科
- 【病床数】 55 床
 個室 7 室 (特別室 1 室、重症個室 1 室)
 4 人部屋 12 室
- 【病床稼働率】 84.1%
- 【在院日数】 14.6 日
- 【1 日患者数】 46.3 人
- 【入院患者総数】 1428 人

(図 1) 2015 年度入院患者内訳



(図 2) 2015 年度検査・治療内訳

■ 看護

看護体制は、固定チームナーシング制をとっており、2 チーム交代制で行っています。日々、チームカンファレンスを行い、患者情報の共有に努め、協力して看護を行っています。入院患者は、内視鏡検査・治療や肝疾患治療が多く、クリニカルパスに沿って医療を提供しています。患者さんが十分理解できるようにパンフレットなどを使用しながら、説明や指導を行っています。

また、癌患者さんも多いため、多職種でサポートを行う必要があります。今年度は「膵がん・胆道がん教室」へ患者さんや家族と共に参加し、「寄り添う看護」に努めました。

■ 教育

本年度は医師との病棟勉強会を中心に行いました。日頃の疑問を解決でき、レベルアップすることにより、質の高い看護が提供できるように、今後も継続していきたいと考えています。

消化器治療	がん・化学療法・膵がん教室について 胆道系検査と合併症について 消化管疾患について
その他	下肢静脈血栓予防について VAC 療法について

また、新人看護師が専門的知識と技術を習得できるようプリセプターが中心となり、プログラムに沿った勉強会を行っています。「腹水再静注時の介助方法」や「急変時の看護」では、シミュレーションを行い、実践力を養いました。

毎月開催している「消化器内科懇話会」では、病棟看護師と医師だけでなく、内視鏡センター看護師や他職種のスタッフも参加していただき、共に消化器疾患や治療について学び、また、日々の業務がスムーズに行えるような関係作りの場となっています。

看護学生の実習も受け入れており、日本赤十字広島看護大学、山陽女子看護専門学校、東亜看護学院などの学生指導にも力を入れています。

■ 院内における研究・発表

院内研究発表会

委員会活動におけるクリニカルパス運用の統一化
～運用マニュアルを作成して～

○今澤 芳美 山本 時生子

西 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵
主 任 岡 田 恵美子
主 任 松 浦 美由紀
主 任 久 保 洋 子
他：看護師 30 名 看護助手：4 名

■ 病棟の概要

西 8 階病棟は呼吸器内科、放射線治療科、緩和ケア科を主とする混合病棟です。病床数は 55 床で、個室 7 室（うち重症個室 2 室）、4 人部屋 11 室、緩和ケア科用の 2 人部屋が 1 室あります。

2015 年度の緩和ケア科入院患者数は延べ 76 名（昨年度より 15 名増）で平均在科日数は 17.46 日（昨年度より 1.12 日増）でした。院内転科としては、外科が全体の 35.3%、次いで消化器内科 20.6%、婦人科 8.8%、泌尿器科・脳神経外科・乳腺外科 5.9% でした。その他循環器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、耳鼻咽喉科、糖尿病内科など様々な科からの転科を受け入れました。

■ 看護

看護方式は固定チームナーシングで呼吸器ケアを中心としたチームと緩和ケアを中心としたチームの 2 チーム制をとっています。

呼吸器ケアを中心としたチームは排痰援助法、栄養管理、誤嚥リスク、嚥下リハビリについて医師、看護師、栄養士、理学療法士など多職種でのカンファレンスを毎週火曜日に行っています。スマートベストを使用した排痰援助や体位変換用クッションを用いた体位ドレナージ・ポジショニングを行い、誤嚥性肺炎予防ケアに努めています。

緩和ケアを中心としたチームは疼痛コントロール、患者・家族ケア、情報の共有など医師、看護師（緩和ケア認定看護師を含む）臨床心理士で毎日カンファレンスを行い、症状緩和に努めています。

毎週水曜日に地域医療連携室相談員と退院・転院調整カンファレンスを行い、患者・家族の思いや調整状況を確認しています。在宅への退院時には患者・

家族、在宅医師、訪問看護師、ケアマネージャー、福祉用具、主治医、看護師、相談員で退院前カンファレンスを開き意見交換をし、在宅での療養を支えています。



■ 教育

看護の質を向上させるために主任、各チームリーダー、新人サポート委員を中心に勉強会を行っています。

講師は看護師だけでなく医師、臨床工学士、事務など他職種の方にも協力をいただき、各職種の専門的知識・技術の習得に努めています。

日本赤十字広島看護大学の実習を受け入れて、学生指導にも力を入れています。実習指導には看護師 1 名が指導者担当として付き、教員とともに学生の実習目標が達成できるように努めています。

■ 院内における研究・発表

平成 27 年度院内看護研究発表会

「緩和ケア病床におけるミニカンファレンスの検討～看護師経験 5 年目未満の看護師が積極的に看護を展開するための意識調査～」

研究者：○名越麻美 岡田恵美子

東 3 階病棟

■ スタッフ

科 長 野 田 明 美
主 任 山 口 瑞 穂
主 任 宮 本 英 美
他 看護師 30 名 看護助手 3 名

■ 病棟の概要

東 3 階病棟は、病床数 44 床の心臓血管外科・循環器内科の混合病棟です。

心臓血管外科では主に心臓弁膜症・心臓血管バイパス・胸部大動脈瘤などの開心術後やステントグラフト内挿術後など、循環器内科では心筋梗塞・狭心症によるカテーテル治療や心不全・不整脈などの患者さんが入院されます。

■ 看護

固定チームナーシング(2チーム)を行っています。

多職種合同カンファレンスでは、担当看護師をはじめ積極的な意見交換を行っています。カンファレンスで共通認識を持ち、多職種共同で作成した指導パンフレットや心筋梗塞・心不全手帳の記入を行い、入院中および退院支援に向けて患者・家族に関わっています。

また、2015年7月より心不全の地域連携サポートチーム体制の構築、患者の生活の質の向上を目的とした、広島県心臓いきいき推進事業に参画しました。事業内容は主に、院内の多職種で開催する心臓病教室を1回/月(患者・家族への教育・指導)、地域の多職種を巻き込んだ心臓いきいきキャラバン研修会を2回/年始めました。また、外来・入院患者を対象に外来心臓リハビリテーションを行い、問診・モニタリング・指導等を行っています。始動したばかりで試行錯誤ではありますが継続的な看護を目指し活動しています。



こんな感じでやっています！



■ 教育

新人教育は、プリセプターが中心となりスタッフとの情報交換および日々を振り返り、個々にあった指導内容を随時検討しながら行っています。

急変対応委員が主体となり、2年生を対象に患者急変のシミュレーションを行い、振り返りも行いました。

また、他職種に協力してもらい勉強会を開催しました。

研修会への参加は、各自積極的に学びを深めています。

山陽看護専門学校の実習を受け入れ、指導者をはじめ力を入れています。

■ 院内における研究・発表

- 第 21 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
心不全入院患者に対する包括的心臓リハビリテーションの取り組み ～全心不全入院患者を対象にした多職種合同カンファレンスを導入して～
- ポスター展：ペースメーカーを入れた後の花子さんの日常生活注意点！



東 4 階病棟

■ スタッフ

看護科長 川 村 洋 子
主 任 畝 小百合
主 任 秦 真規子
他 26名

■ 病棟の概要

当病棟は小児科・眼科・耳鼻咽喉科の混合病棟、病床数は43床です。個室10室(うち重症個室1室)、2人部屋6室、4人部屋5室です。

入院患者の多くは廿日市市、広島市佐伯区、大竹市の方です。広島県西部地区における小児の入院の受け入れ可能施設は当院のみのため、小児の入院は多方面より受け入れています。2015年度より、各診療科の小児患者を積極的に受け入れており、小児看護に力を入れております。

■ 看 護

2015年度より、小児看護の充実をはかるため、整形外科・外科・形成外科等 他科診療科の小児入院患者を積極的に受け入れております。

整形外科入院では、手術を受けた患児さんが退院後にも自分で患部を守るセルフケアができるように、退院時指導の内容を見直し、学童期向けのパンフレットを作成しました。来年には、整形外科手術を受ける小児へのプレパレーションに取り組む予定です。

小児科入院では、アトピー性皮膚炎・重度肥満など学童期への教育入院を受け入れ、看護の充実をはかりました。アトピー性皮膚炎では、効果的な教育入院になるように指導用パンフレットを作成し、患児が退院後も自分で皮膚ケアができるような看護に取り組みました。また、退院後は再診時に外来でセルフケアの達成度を確認し継続看護にも力を入れました。重度肥満の患児へは、リハビリテーション科の協力をいただき、患児にあった運動プログラムの検討と学童期に取り組めるセルフチェック表の作成などに取り組みました。

看護ケアの充実をはかるため、Care チームを結成し看護カンファレンスの開催、ベテランと若手看護師との共働を推進し、各世代の看護スキルアップに取り組みました。

■ 教 育

看護の質を向上、スタッフのキャリアアップを目指して、病棟内で月1回以上の勉強会を行っています。

多くの診療科患者の受け入れをしており、勉強会のテーマも幅広いものを設定しています。

講師には、病棟看護師、医師、薬剤師、管理栄養士など多くの職種の方に協力をいただいています。



2015年度 勉強会 内容

- ・大腸ポリープと内視鏡切除術
- ・経管栄養～やるべき事 やってはいけない事～
- ・麻薬製剤について
- ・輸液療法
- ・疾患の理解と看護（憩室炎・尿路感染症・蜂窩織炎・流行性耳下腺炎・頸椎骨折）
- ・AED

■ 院内における研究・発表

平成27年度院内研究発表会

「セラピューティック・ケアの心理的効果について
～がん患者の心理的苦痛への関わり～」

発表者 橋本 弓子

「緩和ケアを必要とする頭頸部がん患者への看護における看護師の困難感～3年目以内の看護師に焦点を当てて～」

発表者 木戸 真悠子

東 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 吾 郷 志津枝

主 任 坂 本 真由子・岩 崎 文 江

他 看護師 37 名・看護助手 2 名・介護士 2 名

■ 病棟の概要

定床 51 床で、一般病室 7 部屋と混合病室 3 部屋、一般個室 9 床、重症個室 2 床の病棟です。脳神経外科・口腔外科の患者さんが多く入院される混合病棟です。脳卒中（脳出血・脳梗塞・脳塞栓・くも膜下出血）の患者さんは、地域連携パスを使用して、地域の回復期リハビリテーション病院への転院をスムーズに行っています。

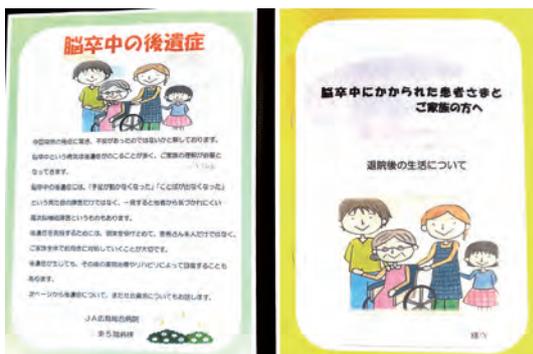
■ 看護

看護師の勤務形態は、2 交代制、チームナースング方式で、受け持ち看護師制をとっています。

今年は、4 つのチームを編成しテーマごとに活動しました。

1. 【患者指導】退院時指導チーム

前年度完成させたパンフレット（脳卒中にかかられた患者様とご家族の方へ・脳卒中の後遺症）



を使用して指導に力を入れました。

2. 【業務改善】申し送り改善チーム

紙ベースのワークシートの廃止にむけて、必要な内容を電子カルテ内に記載できるよう情報企画課の協力を受け電子カルテ内にワークシートを取り込んでもらいました。紙がいなくなりコスト的には善かったと思います。今後は、ワークシートの内

容を評価して使用しやすいものにしていきたいと思えます。

3. 【スタッフ教育】急変シミュレーションチーム

講義・シミュレーター人形を使用し、シナリオを作成してのシミュレーション研修を行いました。

患者急変の時も役割分担して対応できる場面が増えました。今後も定期的実施していく予定です。

4. 【自己啓発】勉強会企画・看護研究チーム

ME、リハ、栄養士、研修医を講師に勉強会を企画、運営し東 5 病棟の看護に必要な知識を身につけました。看護研究は、看護協会廿日市支部の研究サポートを受けながら「脳卒中患者への退院時指導に向けて～インタビューを通して患者の思いを知る～」をテーマにあげ原稿を仕上げました。1 月の廿日市支部の看護研究発表会で発表を行いました。来年は、全国の看護学会で発表しようと考えています。

■ 教育

- ・ラダーⅠに 5 名、ラダーⅡに 1 名の看護師が認定されました。ラダー認定もスタッフに定着し、来年度の受審のため計画的に研修に参加しています。
- ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師になるため、1 名の男性看護師が 6 ヶ月間名古屋で研修を受けました。本人の努力とスタッフのみんなの協力で研修を無事終了しました。来年度資格試験を受け、晴れて認定看護師の仲間入りをする予定です。

■ 院内における研究・発表

- ・脳卒中患者への退院時指導に向けて～インタビューを通して患者の思いを知る～

◎坂井 利名・山本 磨央

東 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 藤 本 七津美

主 任 廣 瀬 敏 子

主 任 古 井 良 子

他 看護師 23名 (昨年より1名減)

看護助手 2名

■ 病棟の概要

東 6 階病棟は、病床数 49 床の泌尿器科・乳腺外科・皮膚科の受け入れをおこなっている混合病棟です。2015 年度に実践した周術期看護は、604 件になり、昨年より 40 件増加しています。入院も多く、総入院患者数 1303 名、総退院患者 1387 名となっています。その内訳は、泌尿器科 369 件、皮膚科 84 件、乳腺外科 150 件でした。特に乳腺外科の手術件数増加のため、2014 年度と比較し、今年度の乳腺外科手術件数が 40 件増加しています。

また手術、入院数、在宅復帰率を 2014 年度と比較し、【表 1】に示します。今後も維持・増加を目指し、病棟を運営します。

【表 1】2015 年度病棟概要

	2014 年度	2015 年度
年間入院患者数	1246 名	1303 名
退院患者数	1324 名	1387 名
年間手術件数	565 件	604 件
在院日数	12.8 日	12.5 日
在宅復帰率	89.8%	94.8%
平均夜勤回数	7.8 回	7.8 回
平均看護必要度	21.5%	25.0%

■ 看護

2015 年度は以下の病棟目標を立案しました。

1. 各専門チームが期待される役割を果たす。

病棟内で 6 つの専門チームを構成し、【表 2】の研修会に参加しました。研修会参加後は、伝達講習を病棟内で行い、知識を共有し、病棟内での看護の質向上ができるように努めました。

2. 安全な環境作りを行い、インシデント件数の減少を目指す。

インシデント総数 111 件で、2014 年度と比較し、

10 件減少しています。この要因は、環境整備に重点的に取り組んだ結果、転倒転落のインシデントが、8 件減少したためと考えています。しかし薬剤関連のインシデントが増加傾向にあり、今後の取り組み課題としていきます。

3. 各自が責任をもち、適切な物品管理ができる

スタッフ全員に SPD カードの担当を決め、管理を行った結果、2014 年度は 24 枚紛失していたカードが、今年度は、4 枚と激減していました。今後もスタッフ全員の取り組みに期待し、継続していきます。

■ 教育

各専門チームが、計画し研修参加をしました。その内容を病棟スタッフへ伝達講習していただきました。

【表 2】2015 年度主な参加研修一覧

分 野	研修名
乳 腺 外 科 看 護	新リンパ浮腫研修
ス キ ン ケ ア	高齢者のスキンケア CNC 褥瘡トータルケアセミナー
環 境 整 備	アロマセラピー学会学術集会 リンパドレナージ講座
泌 尿 器 科 看 護	前立腺癌の再診の診断・治療と看護
認 知 症 看 護	認知症高齢者の理解と看護 認知症、せん妄、うつ症状の現れた 高齢者の看護
感 染 管 理	広島院内感染防止対策講座 感染防止の基礎知識

■ 院内における研究・発表

【院内】

○病棟看護師による入院前オリエンテーション実施の効果

【ポスター展発表】

○乳癌検診にいきましょう

東 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 村 中 ひろみ

主 任 伊 藤 昭 範・小松野 明 美

他看護師 30名、看護補助者 2名

■ 病棟の概要

東7階の主な診療科は、呼吸器外科・心臓血管外科・形成外科・呼吸器内科です。看護師は急性期の患者から終末期の患者まで看護を幅広く行っています。

呼吸器外科の主な疾患：肺がん、気胸、膿胸、
縦隔腫瘍。

心臓血管外科の主な疾患：末梢動脈疾患（PAD）、
腹部大動脈瘤、下肢静脈瘤。

形成外科の主な疾患：足趾壊死、手指壊死。

呼吸器内科の主な疾患：肺炎。

2015年度の手術件数の内訳は図1、図2に示します。

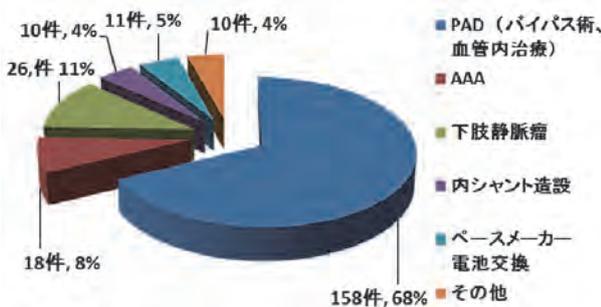


図1 心臓血管外科（総数 233 件）

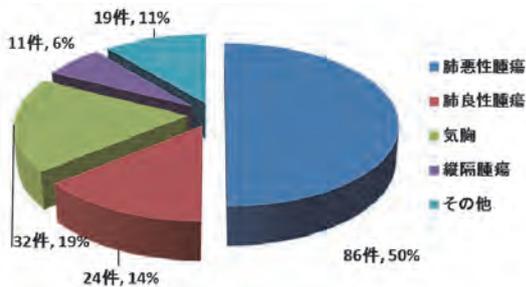


図2 呼吸器外科（総数 172 件）

■ 看護

患者さんとの関わりを深め、きめ細かく・質の高い看護を提供するために看護方式は固定チームナーシングと受け持ち制を併用しています。入院から退院まで安心して過ごして頂くため受け持ち看護師を

中心とした看護の提供に力を入れています。勤務は2交代制で日勤14名-16名、夜勤は3名で勤務をしています。患者さんの年齢層は幅広く、求められる看護の内容は様々ですが、患者さんに対し個別性のある看護に努めます。毎週金曜日に医師・コメディカルとカンファレンスを実施し、患者さんの情報共有を行い、治療の方向性を検討し統一した医療を提供しています。下肢血管チーム（メンバー：心臓血管外科医師、形成外科医師、理学療法士、薬剤師、栄養士、看護師、社会福祉士、看護師）によるフットケア回診を実施しています。下肢潰瘍など下肢にトラブルを抱えている患者さんを回診しPAD患者さんの下肢のケアの充実に努めています。看護師間で月に一度の病棟会を行い、病棟業務の見直しやその他の事案の検討、情報の伝達を行い病棟の活性化を図っています。

■ 教育

専門知識を習得し看護の質を向上させるため、また自己の成長を促し、個々のレベルアップを図るために、病棟内で勉強会を行っています。また、病棟全体のレベルアップを図るため、院外研修に積極的に参加しています。

〈2015年に実施した勉強会〉

- ・フットケア勉強会（5月から2月まで毎月2回ずつ）
下肢の観察の仕方、軟膏塗布の行い方、ニッパーややすりを使用した爪切りの方法・実技等。
- ・緩和ケア認定看護師を講師に迎えて疼痛コントロール勉強会。

■ 院内における研究・発表

肺手術後の面会が患者に与える影響を知るためのアンケートを行ってみて

○長上 優子 服部 美里

東 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 新 田 克 己

主 任 平 野 有 紀

他看護師 29 名、透析看護師 4 名、看護助手 2 名

■ 病棟の概要

[診療科] 腎臓内科 糖尿病代謝内科

透析室

[病床数] 34 床（個室 11 室、4 人部屋 6 室）

透析室 15 床

[看護体制] 固定チームナーシング、今年度から

PSN（パートナーシップ・ナーシングシステム）を導入

[稼働率] 85%

■ 看護

昨年 2 チームの固定チームナーシングを導入し、今年度は更に PSN を導入しました。日勤スタッフの人数に応じ、年代を考慮しながらペアを組んでいます。

PSN は受け持ち患者の情報をお互いが共有し、対等な立場でお互いの能力を活かしながら補完・協力し合い、看護業務を実施します。また、各チームでカンファレンスを実施し、看護計画の修正やケアプランの検討を実施しています。

その他、昨年度に引き続き、毎週月曜日は糖尿病患者のカンファレンス、毎週木曜日は腎臓病患者のカンファレンスをコメディカルを含めて実施しています。



PSN の様子

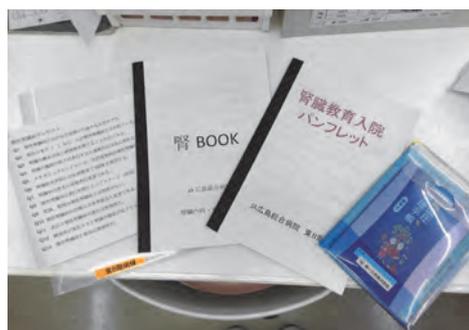


チームカンファレンスの様子

■ 教育

今年は医師、他部門のコメディカルに協力してもらい、腎臓リハビリテーションをたちあげました。腎臓病の教育入院の内容を見直し、パンフレットも医師と各コメディカルの協力を得て再編集しました。スタッフ全員が腎臓病の教育入院の指導ができるよう、研修会を企画し実施しています。

新人看護師教育はプリセプターを中心に年間計画を立案し、毎月の目標と指導計画を考えています。また、病棟勉強会係が毎月新人対象の研修会や病棟全体の勉強会を計画し、スタッフの育成に力を入れています。



腎臓教育入院に使用するパンフレット類

■ 院内における研究・発表

平成 27 年度院内看護研究発表会

「透析自己管理ノートの運用を検討

～患者アンケートから見てきたもの～」

研究者：○平木 一枝、池部輝美、濱田苑香
院外活動

あいプラザまつりへの参加

手術室

■ スタッフ

科長 村田 美智子
 主任 生田 佑子・益田 尚恵
 他 看護師 35名 看護助手 15名

■ 概要

当院手術室は13診療科の手術を行っており、2014年度の年間手術件数は5,736件（うち麻酔科管理4,047件、緊急手術786件）でした。地域救命救急センターを有する急性期病院として役割遂行に努めています。

また、2014年度から取り組んでいる手術室業務改善の成果である①午前中稼働率アップ②定時内終了手術増加に伴い、定期手術が増加傾向にあります。それを踏まえ2015年度は、術間の準備時間短縮のために手術材料が一括して準備できる「キット」を導入し、手術室の効率的運用と看護師の負担軽減を図りました。



■ 看護

看護師2名で待機体制をとり、365日24時間緊急手術に対応できる勤務体制をとっています。部署目標の軸に“安全・安心な手術室看護の提供”を掲げ、

1. 予定手術に対しては手術担当看護師による術前訪問を行い、患者様・家族の緊張不安軽減に努めています。また、手術中の皮膚トラブル・体位による弊害に細かく留意した看護の実践にも努めています。
2. 手術管理システムの修正・整理や、スタッフによる器械管理・器材物品管理などの役割分担や、医療機器の管理・看護行為を臨床工学士と連携・協働して実施することで、より安全・安心な手術環境が提供できるように努めています。
3. マニュアル作成による看護の統一、他職種との

カンファレンスや勉強会で看護実践力の向上に努めています。



*手術材料キットの内容

■ 教育

新人看護師教育は、1年目・2年目ともプリセプターを中心とした教育計画をラダーで提示し、プログラムに沿ってチーム制指導を実施しています。また2015年度は、手術室認定看護師第1号が誕生し看護実践力向上への示唆も入り、幅広い知識・技術の習得とスタッフ育成に力を入れています。看護実習は2校受け入れており看護学生への指導・育成にも力を注いでいます。

■ 院内における研究・発表

平成27年度院内看護研究発表会
 A病院手術室新人看護師への指導方法
 ～チーム制指導における新人看護師の思い～
 研究者：○ 宍戸多恵子 田中猛



*ポスター展出展

居宅介護支援事務所

■スタッフ

管理者 古本直子

緩和ケア認定看護師、介護支援専門員

矢野秀美

主任介護支援専門員、看護師

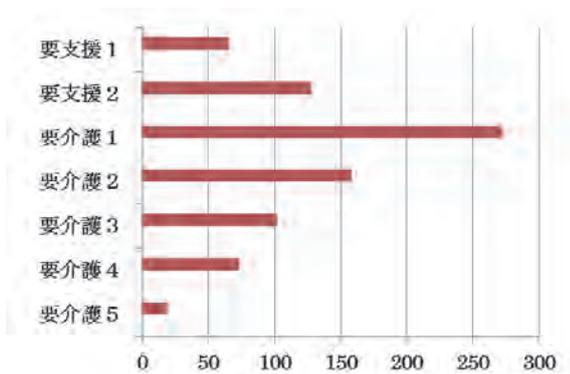
他 介護支援専門員（看護師）1名

■事業の目的

居宅介護支援（ケアマネジメント）は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、ケアマネジャーが、利用者の心身の状況や置かれている環境に応じた介護サービスを利用するためのケアプランを作成し、そのプランに基づいて適切なサービスが提供されるよう、事業所や関係機関との連絡・調整を行います。

居宅介護支援は、特定のサービスや事業所に偏ることがないよう、公正中立に行うこととされています。

■年間介護度別利用者数（実績）



1ヶ月約70件のケアプラン作成、モニタリング、再アセスメントを行っています。

*主な支援内容数（実績）

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	854件	71.1件
計画書配布	153件	12.7件
サービス担当者会議	207件	12件
モニタリング	755件	62.9件
代行申請	61件	5件
住宅改修の調整	33件	2.75件
他機関との連携	857件	71.4件
医師との連携	83件	6.9件
包括との連絡	59件	4.9件

■教育

広島県介護支援専門員協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、広島県、廿日市市、院内研修会等に参加し、自己研鑽に努めています。

日本赤十字広島看護大学の学生が、地域包括ケアシステムの実際を知り、保健・医療・福祉の社会資源の理解を深めるため、1日実習も受け入れてい



ケアマネジャー3名

訪問看護ステーション

■ スタッフ

管理者 古本直子
 (緩和ケア認定看護師、主任介護支援専門員)
 主任 奥元直美
 他 看護師 2名

■ 事業の概要

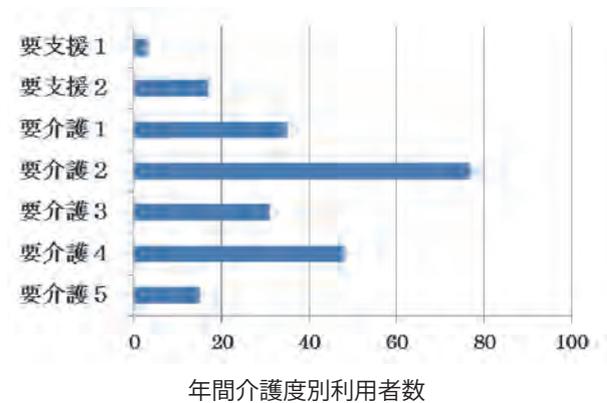
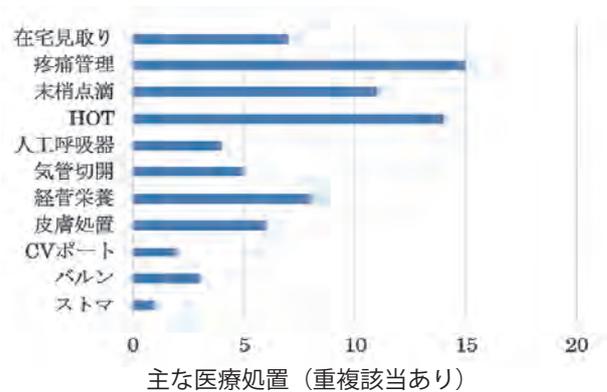
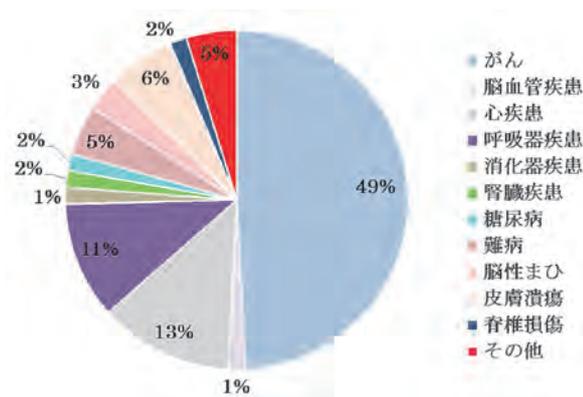
訪問看護ステーションから、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、看護師等が生活の場へ訪問し、看護ケアを提供し、自立への援助を促し、療養生活を支援するサービスです。

■ 訪問看護ステーションのサービス

訪問看護ステーションから専門の看護師がご自宅を訪問し、病状や療養生活を看護の専門科の目で見守り、適切な判断に基づいたケアとアドバイスで、24時間365日対応し、在宅での療養生活を送れるように支援します。

また、医師や関係機関と連絡をとり、さまざまな在宅ケアサービスの使い方を提案します。

■ 活動報告



■ 学会発表

- ・第17回日本在宅医学会もりおか大会
住み慣れた在宅で過ごすために～膵がん・胆道がん教室参加者の事例より～ 発表：古本直子
- ・第23回日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会
退院支援に関わる認識の変化～訪問看護への同行体験アンケートを通して～ 発表：奥元直美
- ・第23回日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会
地域住民の在宅緩和ケアに対する意識の変化～在宅緩和ケアに関わる講演・シンポジウム後の評価～ 発表：古本直子

薬剤部

■スタッフ

部長 橋本佳浩
 科長補佐 磯貝明彦
 科長補佐 中島恵子
 主任 松本里恵
 主任 山崎貴司
 主任 正嶋和美
 主任 大原由希子
 主任 角井碧

薬剤師 計36名（役職者含む）事務6名

[人員配置]

西4階、西5階、西6階、西7階、西8階、東3階、東4階、東5階、東6階、東7階、東8階、HCU、ICUに病棟薬剤師

がん化学療法専任 3名 ICT専任 1名
 NST専任 2名 緩和ケア専任 1名
 DI専従 1名

[取得資格（認定、所属学会、世話人等）]

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師1名
 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師3名
 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師1名
 日本病院薬剤師会
 感染制御認定薬剤師2名
 認定指導薬剤師2名
 生涯研修履修認定薬剤師20名
 日本薬剤師研修センター
 認定実務実習指導薬剤師3名
 研修認定薬剤師9名
 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師1名
 糖尿病療養指導士6名
 日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士2名
 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
 公認スポーツファーマシスト2名
 日本救急医学会 ICLSインストラクター2名
 危険物取扱者1名
 NR・サプリメントアドバイザー1名
 日本糖尿病学会1名・日本臨床薬理学会1名
 日本TDM学会2名・日本化学療法学会1名
 日本医療薬学会5名・日本腎臓病薬物療法学会3名

日本緩和医療学会1名・日本緩和医療薬学会3名
 日本臨床腫瘍学会1名・日本臨床腫瘍薬学会3名
 日本環境感染学会1名・日本臨床救急医学会1名
 日本静脈経腸栄養学会2名・日本褥瘡学会1名
 日本ジェネリック医薬品学会1名
 全国厚生連病院薬剤師長会議理事1名
 廿日市市薬剤師会理事・副会長1名
 広島県病院薬剤師会理事1名
 広島県病院薬剤師会委員会
 (DI委員1名、薬剤業務・プレアボイド委員1名)

■業務内容

調剤業務: 外来 494枚/日 (院外処方箋発行率0%)
 入院 275枚/日
 注射調剤 264件/日、院内製剤 48品目
 TDM (VCM・TEIC・ABK) 15症例/月
 抗がん剤無菌調製: 外来17件/日 入院6件/日
 抗がん剤レジメン構築・管理
 薬剤管理指導算定件数 856件/月、持参薬鑑別
 172件/月
 薬品管理 (採用薬: 内服薬 736、注射薬 517、外用薬 315、用時購入 75)
 医薬品情報 (DI)、ICT、NST、医療安全管理、後発医薬品選定、糖尿病教室、膵がん教室、心臓病教室
 治験11件/年、実務実習9名/年
 がん指導管理料3算定 (薬剤部) 238件/年

■その他活動内容

プレアボイド、各委員会、薬事委員会事務局、治験委員会事務局、がん化学療法運営委員会事務局

■管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシステム、高圧蒸気滅菌器、乾熱滅菌器、RO純水製造装置、クリーンベンチ、安全キャビネット

■部内の研修会

2回/月 薬剤部定期勉強会・症例検討会
 全病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務加算を算定、病棟での薬物療法すべてに関わり、薬剤の安全管理と適正使用に貢献しています。

臨床研究検査科

■ スタッフ

主任部長 石田 和史 (兼務)

部長 碓井 裕史 (兼務)

精度管理部長 藤井 隆

科長 水野 誠士

科長補佐 三舛 正志

主任 笹谷 真奈美

主任 横山 富子

主任 小松 浩基

主任 長尾 専

臨床検査技師 (役職者含む) 38 名

助手 2 名

◆ 取得資格

認定管理検査技師 (1)

認定輸血検査技師 (2)

認定一般検査技師 (1)

認定血液検査技師 (1)

認定心電検査技師 (1)

細胞検査士 (1)

超音波検査士 (5) (循環器 2、消化器 2、体表臓器 1)

血管診療技師 (3)

消化器内視鏡技師 (1)

二級甲類臨床病理技術士 (14)

(血液学 6、循環器 4、脳神経 1、呼吸生理 1

病理学 2)

DMAT 隊員 (1)

一般毒物劇物取扱者 (2)

医療情報技師 (2)

医療廃棄物管理責任者 (1)

特化物四アルキル鉛等作業主任者 (1)

健康食品管理士 (4)

危険物取扱者 (1)

() 内は取得人数

◆ 所属学会

日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会

日本臨床細胞学会 日本超音波医学会

日本検査血液学会 日本輸血・細胞治療学会

日本消化器内視鏡学会 日本臨床検査自動化学会

日本超音波検査学会 日本感染症学会

日本臨床微生物学会 日本化学療法学会

日本環境感染学会 日本結核病学会

日本心エコー図学会 日本不整脈心電学会

日本睡眠学会 日本乳腺甲状腺超音波医学会

■ 施設基準

日本臨床衛生検査技師会 認証精度保証施設

標準化事業 基準基幹施設

■ 部門研修会 (12 回)

・腎機能検査 (生化学)

・レンサ球菌感染症について

・生理検査部門サーベイ 心電図・心エコー解説

・多発性骨髄腫

・凝固検査の基本とデータの見方

・術中モニタリング (生理)

・輸血ミニテクニカルセミナー

・一緒にやってみよう R-CPC

・肺活量検査

・ルーチン中に経験した異常? データ

・貧血について

・心房細動と心房粗動

■ トピックス

臨床検査技師法改正に伴う厚生労働省指定講習会が全国で始まりました。当科技師 36 名が受講を修了しました。この講習会を修了したものは鼻腔、口腔、咽頭からの拭い液の採取、皮膚表在性病変部からの検体採取や直腸からの便採取などが法律上可能となります。

■ 2015 年度 外部精度管理成績

・日臨技臨床検査精度管理調査結果報告

99.6 点 (233 / 234)

・日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告

99.8 点 (639 / 640)

・広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告

99.5 点 (562 / 565)

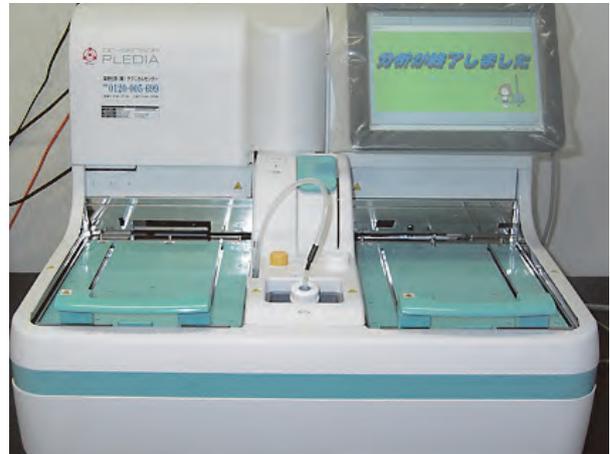
■今年度更新検査機器

連結 GA09 (A & T)・HLC-723 G11 (東ソー)



血糖及びヘモグロビン A1c の測定

OCSENSOR PLEDIA (栄研)



便潜血全自動測定器

US-3500 (栄研)



尿定性検査全自動測定装置

MostGraph01 (CHEST)



呼吸抵抗検査測定 (広域周波オシレーション法)

US-2200 (栄研)



尿定性検査 (半自動) 時間外対応用

中央放射線科

■スタッフ

主任部長 西原 礼介 (兼務)

科長 小濱 千幸

科長補佐 山口 裕之

科長補佐 海老谷 京子

主任 本山 貴志

主任 高畑 明

主任 砂田 研二

診療放射線技師 25名 (科長、主任含む)

▶取得資格

検診マンモグラフィ撮影認定技師	7名
JABTS 乳腺超音波検査認定試験 A判定	1名
放射線治療専門放射線技師	2名
放射線治療品質管理士	2名
第1種放射線取扱主任者	4名
エックス線作業主任者	2名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	2名
第一種作業環境測定士	1名
日本核医学技師認定機構認定 核医学専門技師	1名
日本救急撮影技師認定機構認定 救急撮影認定技師	1名
日本X線CT専門技師認定機構 X線CT認定技師	3名
日本医療情報学会認定 医療情報技師	3名
日本放射線技師会認定 MRI検査技能検定3級	4名
日本放射線技師会認定 放射線管理士	4名
日本放射線技師会認定 放射線機器管理士	5名
日本放射線技師会認定一般撮影技能検定3級	1名
日本放射線技師会認定 医用画像情報管理士	3名
日本放射線技師会認定 臨床実習指導教員	1名
肺がんCT検診認定技師	1名
Ai認定診療放射線技師	1名

所属学会

日本診療放射線技師会	12名
日本放射線技術学会	21名

日本乳癌検診学会	2名
日本消化器集団検診学会	1名
日本医用画像管理学会	1名
日本核医学技術学会	1名
日本核医学会中四国部会	1名
日本磁気共鳴医学会	1名
オートプシーイメージング学会	1名

■業務内容 (トピックス)

2015年9月よりOP室に3台目の外科用X線撮影装置(OEC 9900 Elite: GE Healthcare)が導入されました。本装置の特徴は、12インチの高精細イメージインテンシファイアと高性能1000本系CCDカメラ、高冷却効率・大容量・小焦点回転陽極X線管球、デジタル画像処理技術(DRM)により高精細高画質な透視画像を得ることができ、血管造影撮影やインターベンション等に使用可能となっています。当院の心臓血管外科では、ステントグラフト内挿術(TEVAR、EVAR)、下肢動脈造影、シャント造影などに使用されており、診療放射線技師もチーム医療の一員として携わっています。



臨床工学科

■ スタッフ

主任部長 吉田 研一 (兼務)
 科長 瀬尾 憲由
 主任 荒田 晋二
 臨床工学技士 11名 (科長・主任含む) 助手 1名

【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：3名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：6名
- ・透析技術認定士：3名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名
- ・消化器内視鏡技師：2名

【所属学会】

- ・日本臨床工学技士会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

【部門紹介】

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在11名でさまざまな業務と各専門性に対応するためにチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

■ 業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：70例



『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法各症例数

CHDF：223例、血漿交換：19例、血液吸着：2例、血液透析：48例



- ・補助循環装置 (VA-ECMO、VV-ECMO)、IABP 各症例数

VA-ECMO、VV-ECMO：12例 IABP：27例



『循環器業務』

- ・ CAG、PCI、PMI 各症例数
CAG：306 例 PCI：205 例

『血液浄化療法』

- 慢性透析症例数：5368 例
白血球除去療法（LCAP：GCAP）症例数：47 例



『高気圧酸素療法業務』

- 症例数：465 例
主な疾患：突発性難聴、網脈動脈閉塞症など

『内視鏡業務』

- ESD、ERCP、EMR 各症例数
ESD：131 例 EMR：392 例 ERCP：385 例



『慢性期・在宅医療支援業務』

- 人工呼吸器や NPPV（NIP、ASV）などの在宅医療支援（HST）活動としての在宅訪問：48 回



■ トピックス

今年度は人工心肺装置と ICU の人工呼吸器を更新していただきました。



人工心肺装置（HAS II）1 台



人工呼吸器（Bennett 980）4 台

リハビリテーション科

■ スタッフ

センター長 黒木 一彦 (兼務)
 部長 小林 平 (兼務)
 部長 山田 清貴 (兼務)
 科長 上野 忠活
 科長補佐 金羽木 敏治
 主任 寺迫 正広
 主任 小林 恭子

理学療法士 11名 (役職者含む)

作業療法士 3名

言語聴覚士 4名

・取得資格

呼吸療法認定士 8名

心臓リハビリテーション指導士 2名

住環境福祉コーディネーター2級 3名

社会福祉士 1名

介護支援専門員 2名

がんリハビリテーション研修修了者 7名

認知症ケア専門士 1名

弾性ストッキングコンダクター 1名

■ 部門紹介

当科では入院患者さん中心に院内全科からのリハビリテーション依頼を受けており、入院直後や手術後早期の超急性期から緩和期まで、多種多様な疾患をもたれた患者さんに介入しております。全ての疾患別リハビリテーションに加え、がん患者リハビリテーション料も算定しております。昨年と同様にリハビリテーション処方件数は年々増加しております。(図1)

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、他職種と協同して患者さんに介入しています。

■ 認定施設基準

運動器リハビリテーション料 (1)

呼吸器リハビリテーション料 (1)

脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)

心大血管リハビリテーション料 (1)

がん患者リハビリテーション料

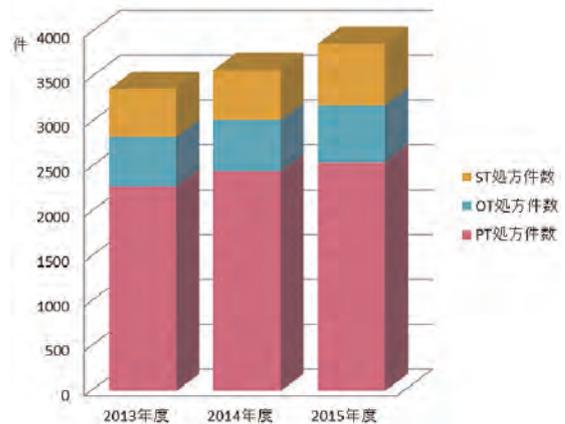


図1 職種別処方件数

■ 所有管理機器

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・CPM・低周波・スパイロメーター、心リハ専用モニター (RH-1000)

■ トピックス

今年度より腎臓内科医師、病棟看護師、薬剤師、管理栄養士とともに腎臓リハビリテーションチームを立ち上げ、そこに理学療法士も介入しております。

現在は保存期慢性腎臓病患者さんを対象に、stage 進行抑制を目指して腎教育入院を行っており、理学療法士はそこで運動療法 (指導) を行っております。可能な範囲で楽しく継続出来る運動を提案し、患者さんの病状が進行せず安定した生活が送れるよう、今後も他職種と連携しながら介入していきたいと思っております。



栄養科

■スタッフ

主任部長 香山茂平(兼務)
科長 河本良美
主任 三浦満美子、要田裕子
管理栄養士 10名(科長、主任含む)
委託(調理部門)(株)日米クック

[人員配置]

外来指導担当 常時3名
病棟担当 各1名
NST専従 1名(八幡謙吾)

[取得資格]

病態栄養認定管理栄養士 5名
日本糖尿病療養指導士 4名
NST専門療法士 4名

[所属学会]

日本病態栄養学会 8名
日本静脈経腸栄養学会 6名
日本糖尿病学会 1名
日本臨床栄養協会 1名

■業務内容

[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2015年度実績〉

・個別指導

外来	2,266件	入院	748件
糖尿病	1,258件	心血管疾患	339件
心血管疾患	407件	糖尿病	161件
その他	601件	その他	248件

・集団指導 127件

糖尿病昼食会 1回/週(毎週 火曜日)

腎臓病調理実習 2回/月(毎月第3、4木曜日)



個人栄養指導件数の推移

[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2015年度実績〉

一般食 13,655食/月 特別食 21,158食/月

■施設基準

入院時食事療養(Ⅰ)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食

集団栄養教育：妊産婦教室、膵臓がん胆道がん教室

参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、PEG、RST

その他：あいプラザまつり(糖尿病グループ)、腎臓病市民公開講座のスタッフとして参加

■トピックス 1

2015年度もふれあいポスター展で優秀賞を受賞しました。これで5年連続の受賞になります。日々「患者さんにわかりやすい」指導を心がけてきた成果ではないかと科員一同喜んでます。これからも、より多くの患者さんや市民のみなさんにわかりやすく栄養についての情報を提供していきたいと思ひます。



■トピックス 2

本年度も「ひろしま給食100万食プロジェクト」に参加し、レモンの香りがする『せとうちさっぱりサラダ』に、手書きのイラストを添えて提供させていただきました。



診療情報管理科

■ スタッフ

科 長 井 本 真 美

他 7名

【資格取得】

診療情報管理士 7名 (科長含む)

院内がん登録実務中級認定者 2名

院内がん登録実務初級認定者 3名

医療情報技師 1名

DPC コース認定 1名

【所属学会】

日本診療情報管理士会

日本診療情報管理学会

■ 活動報告

診療情報管理科では、『情報の管理』と『物の管理』を行っています。

『情報の管理』

- ・ 医師の退院時サマリーを基に国際疾病分類 ICD-10、手術・処置の分類 ICD-9-CM を用い、当科用として他システムに入力しデータを蓄積しています。これらのデータは、医師・看護師・コメディカルからの抽出依頼に対応し情報として提供しています。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院（院内がん登録部門）として、国際疾病分類 ICD-O-3、UICC TNM 分類（第7版）を用いて登録を行い、院内がん登録および地域がん登録としてそれぞれ国および県へ提出しております。
- ・ 作成された「同意書」・「計画書」は、院内端末で参照できるよう当科でスキャンを行っています。スキャンによりタイムスタンプが付与され、電子上を「原本」とすることが可となります。当科では文書の内容を点検した後、文書種別ごとに当日内にスキャンし、端末で閲覧できるよう迅速に対応しています。不備のあるものについては都度対応を行っています。また、スキャン後の同意書等は一定期間保管後、病院稟議承認の上、廃棄処分しています。

『物の管理』

- ・ 1991 年から電子カルテ移行期までの入院カルテを

保管しており、貸し出し依頼に対応できるよう管理しています。

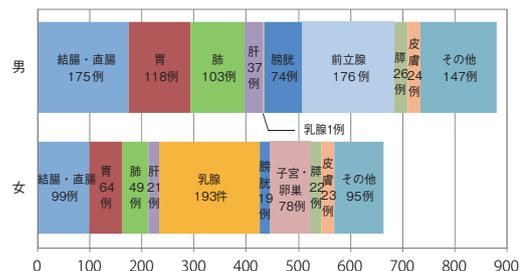
- ・ 「診療記録の量の充実」を図るため、電子カルテ内の量的点検を行っています。量的点検結果はコメントやグラフで可視化し、今後のカルテ記載に役立てていただけるよう働きかけています。
- ・ 患者の全体像が把握でき、患者・医療従事者・医療機関の共有情報である「退院時サマリー」をチーム医療の展開に活かせるよう、院内では退院日より2週間以内に記載することを目標としています。また、院内で「医師退院時サマリー2週間以内記載率および1ヶ月記載率」の提示をしています。さらに、各医師に週1回退院時サマリー未記入、一時記録のお知らせを配布しています。
- ・ その他、手術報告書記載、委譲者オーダ等承認の依頼も医師宛にお知らせしております。

2015年度 病名トップ15 (入院患者)

順位	病 名	入院件数
1	肺炎 (嚥下性・細菌性・ウイルス性等)、気管支炎	662
2	分娩 (正期・早期産、C/S 含む)	567
3	小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍・上皮内癌含む)	541
4	脊椎疾患 (脊椎管狭窄・ヘルニア・すべり症・側弯症等)	465
5	白内障	410
6	結石・胆管炎等	384
7	狭心症・心筋梗塞等	342
8	腎疾患 (腎炎・腎不全等)	308
9	心不全	289
10	肝疾患 (肝炎・肝硬変・肝のう胞等)	245
11	脳梗塞・脳塞栓	229
12	椎体骨折 (頸椎・胸椎・腰椎等)	222
13	扁桃炎・扁桃肥大等	170
14	前立腺肥大・前立腺炎等	167
15	結腸癌・直腸癌	157

2015年 男女別がん症例 (入院外来とも、新規のみ)

(※上皮内癌も含む)



医療安全管理室

■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)
 次長 鈴木 修身 (兼務)
 科長 村中 好美 (専従)
 専従リスクマネージャー (RM)、医療安全責任者
 認定：医療メディエーター

■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部会を中心とし、各組織・部門と連携し安全な医療が提供の推進に取り組んでいます。

■ 活動内容

[院内 RM 管理部会]

*毎週月曜日 16:10～17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、防止方法に関する提言を行います。事案によって部署対応・部門対応、病院対応とすべきかなど検討及び提案を行います。また、担当部署における職員の意識向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

*メンバー紹介

徳毛 宏則 (副院長・医療安全管理室室長)
 鈴木 修身 (整形外科主任部長・医療安全管理室次長)
 新宅 幸司 (事務：総務課長)
 瀬尾 憲由 (臨床工学技師：臨床工学科科長)
 藤岡 朋子 (臨床検査技師)
 海老谷京子 (診療放射線技師：中央放射線科科長補佐)
 寺迫 正広 (理学療法士：リハビリテーション科主任)
 吾郷志津枝 (病棟看護科長、医療安全研修終了)
 角井 碧 (薬剤師：薬剤部主任、医療安全研修終了)
 村中 好美 (医療安全室科長・専従 RM)

[医療事故防止対策委員会]

*毎月第3木曜日 17:00 開始。院内 RM 部会が活動の中核を担い、医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会に関連した事項の対応策の検討、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、院内 ROUND を実施しています。

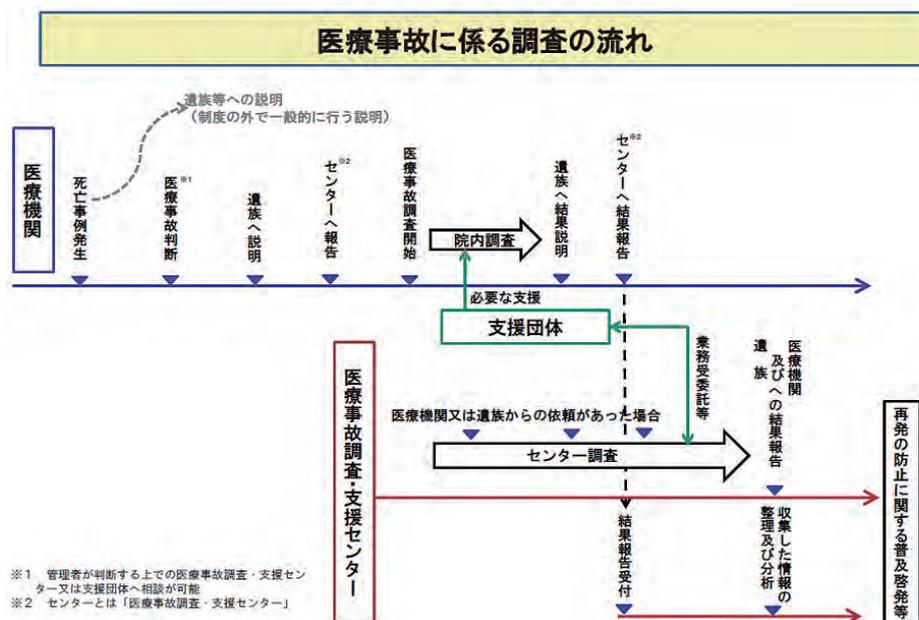
*メンバーは、院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。

■認定施設基準：医療安全対策加算 1

■ 2015 年度トピックス

10月「医療事故調査制度」(改正医療法 第3章「医療の安全の確保」の章に位置づけられた制度)の施行に関する研修会開催

*「医療安全研修会」は例年 100%の出席率を目指して企画・運営を行っています。今年度は 96.6%の出席率でした。今後も、安全な医療の提供の一助となるよう、取り組んでいきます。



感染防止対策室

■ スタッフ

室長 渡 正 伸 (兼務)
科長 今 本 紀 生

■ 取得資格、所属学会

[取得資格]

Infection Control Doctor : ICD
感染管理認定看護師

[所属学会]

日本環境感染学会
日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会やICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。特にICT（院内感染対策チーム）とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

■ ICT コアメンバー紹介

渡 正伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)
近藤 丈博 (呼吸器内科医師)
正畠 和美、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)
池部 晃司 (臨床検査技師)
今本 紀生 (感染管理認定看護師)
栗岡 允 (事務：医事課)

■ 認定施設基準

感染防止対策加算 1
感染防止対策地域連携加算

■ 院内集合研修会

日時	テーマ	講師
2015. 5.18	血液・体液曝露	今 本 紀 生
2015. 6. 3	血液・体液曝露	相 坂 康 之
2015. 9.30	対策の振り返り	今 本 紀 生
2015.12.15	ノロ・インフル対応	今 本 紀 生
2016. 1.18	結核	今 本 紀 生

■ 主な感染症対応

2015. 6	中東呼吸器症候群 (MERS) 対応
2015. 12	ノロウイルス 対応
2016. 1	季節性インフルエンザ 対応

■ 2015 年度の Topics

〈中東呼吸器症候群 (MERS) 対応〉

2015 年の 5 月から中東地域および韓国で感染拡大し、社会的に大きな問題となりました。

当院においても中東や韓国からの帰国者対応として、注意喚起ポスターの掲示や院内対応マニュアルの作成、隔離室の整備に追われました。

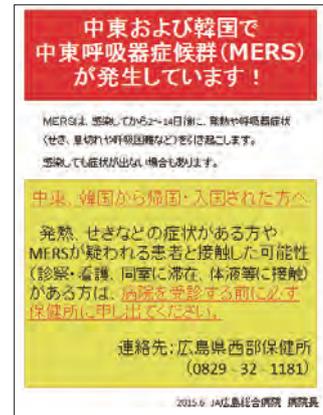
〈手指消毒剤の変更〉

長年、2 種類のアルコール製剤を併用して配置していましたが、消毒効果や管理の視点から見直しを行い、2016 年 1 月から新たな製剤に変更し、種類も 1 種類に限定しました。また、今回の変更を機に、病棟勤務の看護師が手指消毒剤の個人携帯を開始しました。

〈中心静脈カテーテル関連感染サーベイランス〉

本サーベイランスは 2008 年 4 月から ICU で開始されました。以降、ICT で集計した結果を厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業へ報告しています。

開始当初は全国の平均値を上回っていた発生率ですが、現場努力によって年々減少を続け、ついに 2015 年度は年間の発生件数「0」を達成しました。



地域医療連携室

■ スタッフ

室長 佐藤 澄香

他事務職 2名

■ 部門紹介

地域医療連携室は、その名の通り地域との医療連携を目的としています。

紹介率等の地域医療連携にかかる実態調査及び管理をはじめ、近隣の医療機関との連携業務や広報活動、顔の見える連携を目的とした、近隣の医師会との「医師懇話会」を開催しています。

また、近隣医療機関（約 220 件）を訪問し、当院への要望や意見等を直接伺い、その意見等を院内で情報共有し、改善できるよう努めています。

当院は地域医療支援病院の認定を受けており、その役割の一環として、近隣の医師会・自治体・町内会等の代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」や、地域の医療技術向上のため、近隣の医療従事者を対象とした「地域医療従事者研修会」も行っています。

その他にも、地域住民に当院の役割や様々な疾患の予防法や治療法を知っていただくために「市民公開講座」を開催しています。

院内のボランティア活動の窓口として、年 1 回ボランティアの方々と当院職員とで昼食会を催し、意見交換の場としています。

■ 業務内容

【医師会との医師懇話会】

○佐伯地区医師会・大竹市医師会

日時：2015 年 7 月 29 日

場所：安芸グランドホテル

参加者：佐伯地区医師会：39 名

大竹市医師会：8 名

JA 広島総合病院：73 名



【地域医療支援病院諮問委員会】

○第 22 回

日時：2015 年 7 月 1 日

場所：JA 広島総合病院 大会議室

○第 23 回

日時：2016 年 2 月 3 日

場所：JA 広島総合病院 大会議室



【地域医療従事者研修会】

日時	テーマ	講師
4月17日	NSTの全貌をお見せします？	八幡 謙吾
5月21日	褥瘡予防におけるポジショニング	南部 智江
6月18日	食中毒について・感染対策に関するQ&A	佐藤 洋介
8月28日	肺がんの診療について	今本 紀生
9月17日	放射線治療の方法・目的と、最近のトピックス 放射線治療を受ける患者の特徴	渡 正伸
9月26日	在宅緩和ケア研修会のご案内	桐生 浩司 河野佐代子 木村 泰博 小松 弘尚 古本 直子 正島 忠貴
11月19日	症状マネジメント：疼痛	古本 直子
12月17日	家族ケア	岡田恵美子
12月21日	心臓いきいきキャラバン研修会	前田 幸治 久留島秀治 宮本英美他
1月21日	エンゼルケア	高原さおり
2月18日	アドバンス・ケア・プランニングについて	小松 弘尚
3月31日	アロマセラピーで認知症予防！	土屋いづみ



【ボランティア昼食会】

日時：2015 年 10 月 28 日

場所：うつみビル 2 階

参加者：ボランティア 12 名 当院職員：10 名



総合医療相談室

■ スタッフ

センター長 小深田 義 勝 (兼務)
 室 長 佐 藤 澄 香
 主 任 三 谷 法 子
 主 任 桐 山 葉 子
 他 看護師 1 名 社会福祉士 3 名
 計 8 名

■ 所属学会

広島県看護協会
 日本社会福祉士会
 広島県社会福祉士会
 広島県医療ソーシャルワーカー協会
 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
 日本医療メディエーター協会

■ トピックス

広島西医療圏の 11 連携医療機関の実務者 14 名と
 転院支援について情報交換会を 2016 年 3 月 7 日に
 開催しました。



■ 部門紹介

総合医療相談室の業務は患者・家族からの相談窓
 口として、病気に伴うさまざまな医療・福祉相談で
 す。

また、当院が地域がん診療拠点病院の指定を受け
 ており、がん患者の相談窓口として「がん相談支援
 センター」も設置されています。専門の研修を受講
 した職員 2 名を配置しています。

■ 活動実績

退院支援計画書作成件数の増加に向けて取り組み
 ました。

病棟とともに系統的に作成に取り組むため病
 棟での勉強会を開催しました。



退院支援計画書作成件数

2014 年度 578 件

2015 年度 652 件

地域の医療・介護機関と連携し、入院して治療を
 受けた後も自宅へ安心して暮らせるよう退院前カン
 ファレンスを調整して開催しています。

2015 年度 82 件

(主な相談内容)

転院・入所に関する相談

在宅ケアに関する相談

療養に関する相談

医療費等に関する相談

おしゃべりサロン (がん患者サロン)

月 2 回開催

第 2 月曜日 交流会

第 4 月曜日 ミニレクチャーと交流会

開催回数 22 回 延べ参加人数 128 人

総務課

■スタッフ

課長	新宅 幸司
係長	上村 浩司 他総務担当5名
病院安全管理室担当1名	
業務委託	
電話交換室	6名
警備	7名
清掃	27名
駐車場管理	7名
院内保育園	23名

■業務概要

総務課は、院外からの来客の接待や院内の調整等の庶務全般から、事業計画の取りまとめ等の経営に関することや支払い等の会計経理に関することを主な業務としています。

職員への窓口としては、厚生連職員預金の預入や払出、学会、研修等へ出張する際の旅費支給を行っています。また、福利厚生として購入している広島東洋カーブ年間指定席の利用申込受付等も行っています。

経営に関しては、厚生連の基本目標に基づき、病院内で事業計画の取りまとめを行います。また、事業計画に沿って病院運営に必要な費用を月別、項目別にムリ・ムダ・ムラを無くし適正支出となるように管理しています。

会計経理に関しては、各勘定科目別に収支計画に沿い、病院運営に必要な物品等の支払を行っています。

業務委託をしている、電話交換窓口に関すること、院内警備や外来患者用駐車場に関すること、院内保育園に関することなども総務課の業務となります。

その他、病院をもっと身近に感じてもらうための活動の企画として、地域の方や病院職員の協力のもとオープンホスピタルを催したり、FMラジオでの放送等をおこなっています。

病院の円滑な運営のため、潤滑油としての役割を果たせるよう頑張っています。

■トピックス



FM収録風景

FMちゅーピーラジオ「あなたの健康守り隊」

(FM 76.6MHz)

2014年8月～2015年12月(全34回)

毎月第1・第3金曜日に医師、看護師、コ・メディカルが、医療に関する様々なテーマを地域の方へ分かりやすくお伝えしました。

医事課

■ スタッフ

課長 金本 英己
 係長 橋本 智子
 他 24名 (うち、委託 18名)
 各診療科外来担当 39名 (委託)
 各病棟入院担当 15名 (委託)

■ 業務内容

- ・ 外来、入院診療に関する受付、診療費の計算
- ・ 保険者等への医療費請求
- ・ 労働災害、交通事故に関する医療費請求
- ・ 査定・返戻に関する集計
- ・ 感染症発生報告
- ・ 施設基準に係る届出
- ・ カルテ開示
- ・ その他患者数・収入管理、診療報酬に係る対応等

■ 活動報告

医事課は、患者さんが病院に来られた際、最初と最後に訪れる「病院の窓口」として受付や診療費の計算のほか、保険者への医療費請求を行っております。また診療報酬に最も深く関わる部署であり、施設基準に係る届出や2年ごとに行われる診療報酬改定の対応等をしております。

近年、DPC 制度や診療報酬制度の複雑化等により、医事課の役割は変化しており、医療費の請求や種々のデータ集計だけでなく、医事企画として情報の分析や発信、更には問題定義から解決策の提案に至るまで求められるようになってきました。当院医事課においても、診療報酬改定への対応として入院基本料の施設基準である「重症度、医療・看護必要度」の向上に向けた取り組みを行い、その後の検証、更なる改善提案を行うなど、院内への情報発信を行うとともに成果発表として院外での発表も積極的に行っております。

■ 院内セミナー

- 「平成 26 年度診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性

～ DPC データから見た JA 広島総合病院 現状と課題～

一般社団法人 日本血液製剤機構 谷澤正明氏

- 「平成 28 年度診療報酬改定のポイント」
 ティーエスアルフレッサ株式会社 宮本浩二氏

■ 院外発表

- 第 100 回 広島診療情報勉強会

「HM ネットについて」

金本 英己

- 第 33 回広島医療情報システム研究会

「当院における病院情報システムの更新苦労話」

金本 英己

- 第 5 回 広島県厚生連 医療経営事務職研究会

「当院における DPC 入院期間の現状分析と取り組み」

栗岡 允

■ システム

【電子カルテ】

- ・ HOPE / EGMAIN-GX (富士通)

【医事会計システム】

- ・ HOPE / X-W (富士通)

【DPC 様式 1 作成ソフト】

- ・ MEDI-DPC コードファインダー
 (ニッセイ情報テクノロジー)

【DPC ベンチマークシステム】

- ・ 病院ダッシュボード
 (グローバルヘルスコンサルティング)
- ・ EVE (メディカルデータビジョン)



医事課内の様子

緩和ケアチーム

■ チーム概要

緩和ケアチームは院内入院患者へ対応しています。

患者・家族のQOLを向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族へのケアや、病院内外の医療従事者への教育・支援を行います。がん診療連携拠点病院では全がん患者に対して苦痛のスクリーニングを行う事が要件とされ、当院でも「生活のしやすさに関する質問票」を作成し運用開始しました。

■ メンバー紹介

小松 弘尚 チームリーダー（消化器内科医師）

桐生 浩司（放射線治療科医師）

河野 秀和（呼吸器内科）

増田 慶一（精神科・心療内科医師）

鶴谷 理恵（病棟看護科長）

高原さおり 岡田恵美子 古本 直子
（緩和ケア認定看護師）

野村 昌代（がん化学療法看護認定看護師）

河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）

磯貝 明彦（緩和薬物療法認定薬剤師）

小林 恭子（理学療法士）

上田華奈子（木）佐藤亜弥（月～水）（臨床心理士）

要田 裕子（管理栄養士）

益村 勇子（看護師・がん相談員）

正島 忠貴 林 理恵（社会福祉士・がん相談員）

以上の職種で構成しています。

■ 活動内容

毎日～隔日で緩和ケア認定看護師と臨床心理士が入院患者の元に訪れ困っておられることに対応します。

週一回緩和担当医師と薬剤師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士、社会福祉士とで依頼されている患者さんの元に回診に伺います。毎週木曜日カンファレンス（参加はオープン）を行い、その結果を主治医、病棟、患者・家族へ返していきます。

【生活のしやすさに関する質問票】

2014年度の利用件数は92件／年と少なく、4月に外来がん看護チーム会を立ち上げ、そこで質問票の運用の見直しや、症状別の勉強会を行い、結果、2015年度の利用件数が4128件／年と増加しました。ただし、利用は外来が主で、病棟は利用件数

が100件程と少ない結果でした。来年度は病棟で利用件数を増加に繋がる取り組みが必要と考えています。毎年開催してきた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」については、2017年6月までに主治医の9割以上が終了していることが要件となり、来年度は未終了の医師への働きかけを行い、また、多くの参加者に対応出来る研修会の開催が課題となりました。

■ 各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき過不足ないように主治医と連携し調節します。症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

【がん患者リハビリテーション】

がんを抱える患者に対して手術前後のケア、日常生活動作の維持、気分転換等を目的として関わります。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を行います。

【がんサロン】

がんサロンを隔週月曜日に開催します。

【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

■ 院内実績

・総依頼件数：190件

依頼内容：疼痛・疼痛以外身体症状

精神症状・家族ケア・病状説明

・院内外対象緩和ケア研修会開催

・地域がんを診療する医師に対する研修会開催

■ 院外活動

別紙参照



栄養サポートチーム (NST)

■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・リハビリスタッフなど多職種によって構成されるチームで、2005年4月より活動しています。

患者さんの治療が円滑に進むよう、各スタッフが専門的な立場から最善の栄養管理を検討しています。

■ 専従・専任メンバー

- ・ 医師：香山茂平、櫻谷正明 (ICU)
- ・ 看護師：石崎淳子、藤本七津美
- ・ 薬剤師：中島恵子、山崎貴司
- ・ 管理栄養士：八幡謙吾 (専従)、河本良美
- ・ 臨床検査技師：横山富子、池田光泰
- ・ 理学療法士：金羽木敏治
- ・ 言語聴覚士：上田雅美



■ 活動内容

- ・ NST ラウンド・カンファレンス：毎週木曜日 14:30～
- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ 看護科栄養管理推進委員会：毎月第2月曜日
- ・ 院内 NST 研修会

開催日	内容	講師	参加者
5/26	押さえておきたい NST・栄養管理の基礎	八幡	47名
6/16	経管栄養で“やるべきこと”と“やってはいけないこと”	八幡	43名
7/6	栄養管理に関わる薬剤について	山崎	31名
8/18	栄養剤の違いを学ぼう ～経腸栄養剤の特徴と使い方～	八幡	44名
10/6	経管栄養の合併症と対応 ～確認事項と対処法は？～	八幡	25名
11/10	いままさら聞けない胃瘻の管理	石崎	50名
12/9	嚥下評価の実際 ～VEの実演～	高本 上田	58名
1/19	栄養評価 (身体計測、検査) ～症例とともに学ぼう～	横山 池田	21名
2/9	がんと栄養について	香山	36名

- ・ 新人研修：年2回、ラダーII研修：年1回

■ 栄養サポートチーム・加算算定件数

・ 2015年度算定件数：延べ1442件 (患者数289名)



■ 栄養サポートチーム 診療科別介入件数 (患者数)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
呼内	76 (23)	99 (18)	161 (33)	179 (26)
腎内	19 (5)	47 (11)	89 (10)	138 (22)
糖内	7 (2)	4 (2)	13 (2)	34 (7)
消内	150 (70)	179 (54)	203 (61)	279 (95)
循内	77 (9)	76 (12)	151 (25)	188 (25)
心血	12 (4)	68 (9)	45 (8)	41 (4)
呼外	41 (11)	30 (4)	59 (12)	135 (14)
外科	190 (23)	169 (22)	142 (27)	199 (20)
脳外	75 (15)	84 (15)	175 (36)	86 (15)
整形	140 (66)	44 (23)	32 (16)	38 (13)
皮膚	46 (7)	40 (6)	34 (10)	65 (7)
泌尿	41 (11)	35 (11)	23 (9)	28 (6)
放射	6 (1)	2 (1)	7 (1)	0 (0)
耳鼻	5 (3)	27 (7)	71 (7)	70 (8)
小児	8 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
歯科	8 (1)	20 (2)	10 (1)	1 (0)
救急	45 (10)	133 (19)	45 (13)	41 (25)
産婦	1 (1)	6 (2)	6 (2)	3 (2)
緩和	-	-	2 (1)	3 (1)
合計	947 (263)	1063 (218)	1268 (274)	1528 (290)

※単位：件 (人)

■ 2015年のTopics

- ・ 電子カルテに「チーム記録 (NST)」を作成。
- ・ 経管栄養物品のディスポ化について検討開始。

■ 学会・研究会発表など

- ・ 第23回 NST を本音で語る会 演者：八幡謙吾
「経管栄養に関する下痢対応マニュアルの運用と実際」
- ・ 第13回広島 NST 研究会 演者：八幡謙吾
「ICUにおける NST 活動の成果 ～INS2013～」
八幡 謙吾 ※広島 NST アワード最優秀賞を受賞
- ・ 第8回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会
演者：八幡謙吾
「ICU-NST の変遷と国際栄養調査2013の結果報告」
- ・ 第5回膵がん教室ワークショップ 演者：山崎貴司
「膵がん・胆管がん患者さんの栄養サポート」

心臓リハビリテーションチーム

■ チーム概要

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さんに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に設立しました。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さんにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■ メンバー紹介

医 員 小林 平、久留島秀治、長谷川美紗
 理学療法士 本間 智明*、小島 輝久*、西谷 喜子
 *心臓リハビリテーション指導士
 看護師 野田 明美、石川 恵子、門内 美鈴
 正木 博之、村中ひろみ、伊藤 昭範
 松田 沙織、福本 裕平
 薬剤師 向井 一樹、山崎 貴司、稲田 淑江
 角井 碧
 栄養士 上村 真由美、渡壁 史那
 その他：臨床検査科、義肢装具士

■ 活動内容

- 開心術後心リハ 83件（2014年度75件）
- 急性心筋梗塞後心リハ 66件（2014年度64件）
- 腹部大血管手術後心リハ 17件（2014年度26件）
- 心肺運動負荷試験 59件（2014年度43件）
- 末梢動脈疾患手術後リハ 88件（2014年度80件）
- 心不全心リハ 138件（2014年度149件）
- 日本心臓リハビリテーション学会発表
7演題（2014年度10演題）
- 心臓リハビリテーション外来
18件（2015年度より開始）
- PAD教育入院 10件（2014年度16件）

—心臓リハビリテーション外来の開始—

2016年1月より心臓リハビリテーション外来（以

下、心リハ外来）の運用を開始しました。急性心筋梗塞や開心術、末梢動脈疾患手術後などの患者さんを対象としています。退院後の不安を少しでもやわらげること、病気を増悪させないための生活習慣の是正と自己管理する力をつけることを目的として、外来での多職種介入を継続しています。心リハ外来は、発症または治療開始後150日間行うことが保険で認められています。週1回の運動療法を行いながら、月1回の頻度で栄養指導、服薬指導を計2回ずつ行います。ご自宅での生活環境に合わせた指導や提案ができるよう工夫しています。また、心リハ外来では心肺運動負荷試験による運動能力評価を行い、体力の変化についても確認しています。



運動療法の様子

—末梢動脈疾患手術後の教育入院—

2012年度より運用を開始した“下肢外来”を2015年度より“PAD教育入院”に変更して継続しています。末梢動脈疾患手術後、自宅での心リハ継続について動脈造影検査の入院（2泊3日）に合わせてチームで再介入して確認しています。院外スタッフの義肢装具士にもご協力して頂いています。



チームメンバー

DMAT

DMAT 活動報告

1995年の阪神・淡路大震災以来、集団・災害医療への関心が年々高まってきています。医療体制が確保されていれば、防ぎ得た災害死が約500人いたとの教訓から、1996年に厚生労働省は「災害時に初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」である災害拠点病院を構想し、当院も1997年に認定を受けています。災害拠点病院は24時間災害に対応でき、被災地内の傷病者の受け入れ・搬出が可能である、十分な資機材を備えた医療救護班（DMAT：disaster medical assistance team）を派遣できるなどの要件を満たさなければなりません。DMATの活動の目的は災害や大事故の際に多数の患者を限りある医療資源で診療し、防ぎ得た死をなくすよう活動することです。その任務は災害現場のトリアージや災害拠点病院での治療、患者の広域搬送を主な業務とします。チームの活動の際の食料、水、寝床などは自給することが求められるため、2泊3日の活動が限度といわれています。DMATは、被災地の都道府県や厚生労働省、文部科学省からの出動要請があった場合に出動することになっています。また、東京23区で震度5強以上、その他の地域で震度6弱以上の強い地震があった場合や、津波警報や東海地震注意情報が発令された場合、大規模航空機墜落事故が発生した場合は要請がなくても出動準備をして待機することが求められています。

2006年以降、集中的な缶詰研修で資格を得た下記のメンバーが活動しています。

黒木 一彦：脳神経外科 主任部長
 杉山 陽一：消化管外科 主任部長代理
 寺田 英子：看護副部長
 竹野 香織：看護科主任 集中治療室勤務
 阿部 伸也：看護科主任 地域救命救急センター勤務
 生田 佑子：看護科主任 手術室勤務
 後藤 友美：看護師 手術室勤務
 小松 照尚：看護師 地域救命救急センター勤務
 三舛 正志：臨床研究検査科 科長補佐
 高畑 明：放射線科主任

これまでの活動内容

- ・2011年3月11日 東日本大震災が発生。仙台市

内の災害拠点病院で病院支援活動を行いました。

- ・2014年8月20日 平成26年8月豪雨で発生した土砂災害で広島緑井・八木地区に出動し、消防と協力して閉じ込められた傷病者に対して応急処置を行い、病院へ搬送される防災ヘリへの搬入を行いました。
- ・2015年11月 鳥取県東部と西部の断層型地震が連動し、広範囲で震度6弱以上の地震があったとの想定で、実働訓練が行われました。当院からもDMAT隊員（医師1名、看護師4名、業務調整員1名の計6名）が出動し、広域医療搬送拠点（SCU）でのトリアージや搬送のための安定化処置、本部業務などを行いました。対応した模擬傷病者は14名であり、どの施設よりも群を抜いて多くの傷病者に対して診療・処置を行いました（写真1、写真2）。
- ・2016年3月17日 山陽自動車道八本松トンネルで発生した玉突き事故では、直ちに院内に災害対策本部を立ち上げDMAT1隊を派遣しました。



写真1：本部へ到着報告（ピンクのユニフォームが当院）



写真2：搬送拠点での診療（ピンクのユニフォームが当院）

このほかにも、災害に関する研修会や技能維持訓練への参加、看護学校や他施設での講義などにも出向いています。これからも院内外の訓練に参加し、一人でも多くの命を救えるよう研鑽を続けていきます。

RST

■ チーム概要

RSTとは呼吸療法サポートチームの略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームの事です。

人工呼吸療法と言えば、気管挿管して行うものが一般的でしたが、マスクを用いて行うNPPV（非侵襲的陽圧換気）が普及し、一般病棟でも広く使用されています。また、酸素療法もベンチュリーマスクやHFNC（ハイフローセラピー）などの高流量タイプも行われるようになり、呼吸療法のデバイスも広がっている現状です。

呼吸不全患者には呼吸リハビリテーションや口腔内の衛生管理、嚥下機能評価、栄養評価など様々な職種が関わっているので、チームとして呼吸療法を安全に施行できる環境や質の向上に努めています。

■ メンバー紹介

医師	櫻谷 正明、平田 旭
臨床工学技士	荒田 晋二、田中 恵子
看護師	丸澤 葉志子
理学療法士	小山 明子
歯科衛生士	石井 真弓
管理薬剤師	吉 廣 尚 大
管理栄養士	八 幡 謙 吾

■ 活動内容

2011年1月より、週1回（毎週木曜日）一般病棟の人工呼吸管理をされている患者さんを対象にRSTによる病棟ラウンドを開始しました。患者さんのベッドサイドで人工呼吸器のチェック項目や周辺環境のチェック、呼吸療法における方向性の確認等を行っています。患者さんのそばで最も長い時間働く看護師は、見慣れない機器やアラームに対して困ることがあり、その際に臨床工学技士に相談するのですが、医師の指示がないと設定変更はできず、各職種もフラストレーションを抱えていました。RSTとして主治医に情報を伝え、設定の見直しや指示の確認をスムーズに行えるように心がけています。また、管理栄養師や薬剤師もラウンドに参加するようになり、NSTやICTとの情報共有や鎮静・鎮痛管理などの薬剤調整について病棟薬剤師と情報共有もできるようになりました。

看護師を中心に呼吸療法に関する様々な勉強会を開催していますが、看護師の呼吸療法の質も上がっていると感じるようになりました。また、病棟ラウンドでは実際の現場で悩んでいる声を聞くことも多くあり、機器に関するだけでなく、口腔ケアや気管内吸引の方法、挿管チューブの固定方法、リハビリテーションなどのケアについてディスカッションできるようになってきていると思います。

呼吸療法は、急性期から慢性期まで様々なステージがあり、それをたくさんの職種が関わっています。ラウンドをして感じることは、病棟ごとに得意なこと不得意なことがあり、RSTとして病棟の不得意なこと、不安なことをサポートしていくことで、病院全体の呼吸療法の質を向上できるように、今後も地道に頑張っていきたいと思います。



写真1：病棟ラウンド風景



写真2：病棟ラウンド風景



写真3：勉強会開催風景

災害対策ワーキングチーム

東日本大震災の教訓を生かすべく立ち上げた災害対策ワーキングチームも、早いもので5年が経ちました。

以前は「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていましたが、今では忘れる前にやってきます。

私たちは、地域住民の方々と共に減災・防災に関する活動を中心に、災害発生時に最も重要な「自助力」の向上を目指しています。

毎年、オープンホスピタルでは「ふれあいポスター展」に出展し、チームの紹介や減災・防災に関する啓発活動、AED体験コーナーを開いています。AED体験コーナーでは、初めはおそろおそろの小さな子供さんや「いざという時のためにやってみたい」と言われる大人の方まで、実際に人形を使って心臓マッサージをしたり、AEDを操作してもらっています。中には、「毎年これを楽しみに来ている」と言われる方もあります。

その他、災害マップの配布や避難グッズなどを出展し、「備え」の大切さについて共に考えています。



がん化学療法チーム

■チーム概要

がん化学療法チームを立ち上げて9年目になりました。

調剤監査を担当している薬剤師3名は、2014年にがん薬物療法認定の資格を取得。化学療法委員長の外科医師今村先生が2016年度から専従となり、よりがん治療を受けられる患者さんへの指導相談役の黒子として活動の場を拡大承認されました。がん化学療法看護認定看護師も2名となり、質の高いがん医療を目指して邁進中です。

■メンバー紹介

外科診療がん化学療法委員長	今村 祐司
薬剤部科長補佐	中島 恵子
外来がん薬物認定薬剤師	藪田 ゆみ 白井 敦史 埋橋 賢吾
がん化学療法看護認定看護師	野村 昌代 奥村 麻美
外来化学療法治療室スタッフ	岡田 佳奈子 中山 樹子 増田 香

■活動内容

①委員会開催

運用開始時、4つのワーキンググループ部門により基盤を構築してきました。途中には電子カルテの普及等システム上の変更などにより7年を要しましたが、やっと本年度から一つに統合して重要項目を報告確認承認出来る短時間に充実した委員会開催をしています。

②定期カンファレンス開催

月2回月曜日にコアメンバー及び相談を抱えた各診療科医師の参加による事例検討会や治療方針の相談などを開催。

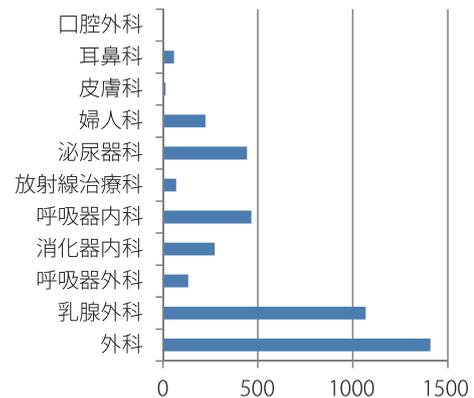
③がん患者指導カウンセリング

薬剤師と認定看護師による患者指導カウンセリングの運用を始め、カウンセリング診療報酬加算によ

る組織的経営への参画もしています。特に薬剤部では、内服抗がん剤の指導管理を100%実施。

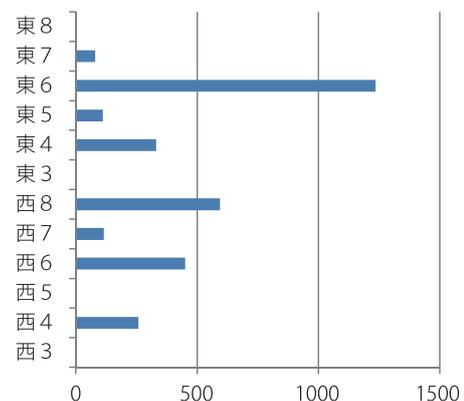
④がん化学療法実績

A：外来化学療法治療件数



外来治療延べ件数は、昨年度3768件から本年度は4159件と年々右肩上がり増加しています。外科・乳腺外科が約6割を占めています。1日平均17件(昨年度15.7件)を10床の治療ベッドで稼働しています。

B：入院患者治療件数



入院患者治療延べ件数も昨年度1692件から1731件と僅かですが増加傾向です。

各種委員会

倫理委員会

委員長 碓井裕史

1. 設立主旨

1) 倫理委員会の責務

当院の職員が行う人間を対象とした医学研究および医療行為について、職員の申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

また、関連する医療機関が当院職員・患者に対して実施する医学研究について、その申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

2) 倫理委員会構成メンバー（2015年度）

委員長：碓井裕史、副委員長：徳毛宏則

委員：病院長代行、副院長、診療部長、事務長、看護部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部副部長、地域医療連携室長、事務次長（書記兼務）

外部委員 3名（有識者、内1名は弁護士）

オブザーバー：病院長

2. 活動内容

1) 新倫理指針への対応

“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”が2015年4月1日から施行されました。この指針についての説明会が、厚生連病院治験ネットワークおよび日本文化厚生農業協同組合連合会の主催により開催されました。委員長および事務局が参加し、当院倫理委員会での審査の参考としました。

2) 倫理委員会の開催

研究申請書が提出された場合、委員会を招集して開催します。2015年度は12回開催しました。委員会の中で、外部委員（弁護士）による“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”に関するミニレクチャーを随時、行いました。

3) 2015年度委員会開催概要

- ・第1回（2015/4/10）
審査件数 6件（承認 6件）
- ・第2回（2015/5/15）
審査件数 8件（承認 8件）

- ・第3回（2015/6/19）
審査件数 3件（承認 3件）
 - ・第4回（2015/7/17）
審査件数 4件（承認 4件）
 - ・第5回（2015/9/11）
審査件数 11件（承認 11件）
 - ・第6回（2015/10/2）
審査件数 4件（承認 4件）
 - ・第7回（2015/10/26）
審査件数 1件（承認 0件）
 - ・第8回（2015/11/20）
審査件数 5件（承認 5件）
 - ・第9回（2015/12/25）
審査件数 5件（承認 4件 保留 1件）
 - ・第10回（2016/1/22）
審査件数 11件（再審査 1件を含む）
（承認 11件）
 - ・第11回（2016/2/19）
審査件数 6件（承認 6件）
 - ・第12回（2016/3/18）
審査件数 1件（承認 1件）
- 4) 2015年度承認された研究の申請部署別内訳
- | | |
|--------------|-----|
| ・医局 | 33件 |
| ・看護科 | 26件 |
| ・薬剤部 | 1件 |
| ・栄養科 | 1件 |
| ・日本赤十字広島看護大学 | 2件 |
| 合計 | 63件 |

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立主旨

1) 治験委員会の責務

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある

治験には特に注意を払っています。

- (2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：小深田義勝

委員：碓井裕史、黒木一彦、橋本佳浩、横山富子、佐藤澄香、嘉屋祥昭、新宅幸司、金本英己、角野正雄（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：藤本吉範、森原義雄

2. 活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2015年度治験審査委員会開催概要

- ・第1回（2015/4/10）
審議事項 10件（継続審査 7件）
報告事項 3件
- ・第2回（2015/5/15）
審議事項 8件（継続審査 7件）
報告事項 1件
- ・第3回（2015/6/19）
審議事項 7件（継続審査 6件）
報告事項 1件
- ・第4回（2015/7/17）
審議事項 8件（継続審査 6件）
報告事項 2件
- ・第5回（2015/9/11）
審議事項 10件（新規案件 1件、継続審査 8件）
報告事項 1件
- ・第6回（2015/10/2）
審議事項 9件（継続審査 7件）
報告事項 1件
- ・第7回（2014/11/20）
審議事項 10件（継続審査 7件）
報告事項 3件

- ・第8回（2015/12/25）
審議事項 1件（継続審査 1件）
- ・第9回（2016/1/22）
審議事項 8件（継続審査 7件）
報告事項 1件
- ・第10回（2016/2/19）
審議事項 9件（新規案件 1件、継続審査 7件）
報告事項 1件
- ・第11回（2016/3/18）
審議事項 9件（新規案件 1件、継続審査 6件）
報告事項 2件

3) 2015年度の実施治験総件数：11件

(1) 前年度からの継続治験（5件）

- ①左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相（LCZ696）（ノバルティス）
- ②DS-5565 第Ⅲ相国際共同試験（PHN）（第一三共）
- ③冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者を対象としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する二重盲検試験（バイエル薬品工業）
- ④小児気管支喘息を対象としたアドエアゾールの第Ⅳ相試験（グラクソ・スミスクライン）
- ⑤潰瘍性大腸炎・クローン病の治療におけるMLN0002（300mg）の第Ⅲ相臨床試験（武田薬品）

(2) 2015年度からの新規治験（3件）

- ①帯状疱疹後神経痛患者を対象とした前期第Ⅱ相試験—プラセボ対照二重盲検比較—（東レ）
- ②下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する国際共同、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照第Ⅲ相試験（バイエル薬品工業）
- ③慢性心不全（HFpEF）Ⅲ相（LCZ696D）（ノバルティス）

(3) 2015年度の終了治験（3件）

- ①TG高値を示す脂質異常症患者を対象としたK-877の52週長期投与試験（第Ⅲ相）（興和株式会社）

- ② DSP1747 の第Ⅱ相臨床試験 (大日本住友製薬)
- ③ 急性虚血性脳卒中又は一過性脳虚血発作患者を対象とした AZD6140 (チカグレロル) の国際共同第Ⅲ相試験 (アストラゼネカ)

臨床検査適正化委員会

委員長 石田 和史

本年度も、臨床検査に関する問題、ならびに適正な運用に関する議案を審議し、より一層診療支援となるよう活動を行いました。

1. 構成メンバー

- 医師 7名
- 看護師 3名
- 臨床検査技師 6名
- 事務部門 2名

2. 活動報告

【第1回】

- ・ H-FABP 検査の中止
- ・ テイコプラニンの有効治療濃度の変更

【第2回】

- ・ 血液型検査 抗 D 試薬の変更
- ・ 間接抗グロブリン試験試薬の変更
- ・ AMY、P-AMY、CHE、BUN、CRE 測定試薬の変更
- ・ 院内検査基準範囲・報告日数一覧表の改訂

【第3回】

- ・ 抗酸菌培養検査用 2%小川培地の変更
- ・ 休日受託不可能な検査項目のオーダについて

【第4回】

- ・ 日本臨床検査標準化協議会推奨共用基準範囲について

【第5回】

- ・ 年末年始休暇中の業務について
- ・ 尿定性検査機器の更新に伴う試験紙の変更
- ・ 血糖・ヘモグロビン A1c 測定機器の変更
- ・ TARC および抗 GAD 抗体測定試薬の変更

【第6回】

- ・ BML からのお知らせ

- ・ リーフレット「検査の見方」改訂について
- ・ 呼吸抵抗検査機器の更新

【第7回】

- ・ BML からのお知らせ
- ・ 便潜血自動分析装置の更新
- ・ ヘリコバクター・ピロリ抗体検査法の変更
- ・ 保存検体の破棄
- ・ 日臨技臨床検査精度管理調査の結果報告
- ・ 日医臨床検査精度管理調査の結果報告

3. 2015 年度臨床検査外部精度管理報告

- ・ 日本臨床衛生検査技師会精度管理調査
評価 233/240 で 99.6 点を獲得
- ・ 日本医師会臨床検査精度管理調査
評価 639/640 で 99.8 点を獲得
- ・ 広島県医師会臨床検査精度管理調査結果報告
評価 562/565 で 99.5 点を獲得

4. トピックス

- ・ 日本臨床検査標準化協議会推奨の共用基準範囲を利用することの理解をもとめ、賛同を得ました。

2016 年度より利用を開始。

- ・ 呼吸抵抗検査
広域周波オシレーション法による測定機器に更新

衛生管理委員会

委員長 藤本 吉範

1. 設立趣旨

労働安全衛生法第 17 条及び第 18 条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月 1 回委員会を開催しています。

2. 衛生管理委員会構成メンバー

委員長：病院長

副委員長：健康管理センター長・産業医

委員：感染防止対策室長、臨床研究検査科部長、小児科部長、薬剤部長、放射線科長、臨床・病理研究検査科長、臨床工学科長、看護部副部長、看護科長、医療安全管理室科長、感染防止対策室科長、健康管理課長、事務次長、総務課長、人事課長、

施設資材課長、放射線科主任、臨床研究検査科主任、健康管理課主任、看護科主任、栄養科主任
オブザーバー：事務長

3. 2015年度の主な取り組み事項

1) 過重労働対策について

2006年度から職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。また、2008年度からは、月に80時間以上の超過勤務が2ヶ月連続した職員、もしくはひと月の超過勤務が100時間を超えた職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。2015年度は医師1名、研修医1名に対し文書を発布・面接指導を行いました。

2) 職員のメンタルヘルス対策について

2015年12月1日に施行された法律により、職員に対し毎年1回ストレスチェックを実施する事が義務づけられました。当院においても2016年8月に実施すべく準備を進めています。

3) 感染症検査及びワクチン接種等の状況

2009年度より職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs抗原・抗体検査を実施しています。2015年度よりHCV抗体の検査も追加しました。B型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。

さらに例年どおり、インフルエンザの流行に備えて、職員・職員家族の内、希望者を対象に10月から11月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は91.3%となっています。

4) 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、Tスポット検査および年2回胸部X線検査を実施しています。

5) 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、また各部署の所属長への声かけを積極的に行っています。その結果、職員健康

診断の受診率は夏期が95.7%、冬期が99.2%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員、臨床検査技師、診療放射線技師、画像診断部医師）に対しVDT（Visual Display Terminals）健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

6) 職場巡視

西5階・東5階・東4階・西3階の4病棟を巡視し、職場環境をチェックしました。問題点や要望等を委員会で報告し、改善できることはないか検討しています。

7) その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に2回実施し、その結果を委員会で報告しています。結果は全て「適切である」となっています。

8) まとめ

2015年度は職員のB型肝炎やインフルエンザ、結核等の感染症対策に取り組んできましたが、職員の感染症検査のデータベース作成や、長期休職者に対する具体的な対応策の作成について、引き続き具体的な検討をしていく必要があると考えています。

診療録管理委員会

委員長 石田和史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

診療録管理委員会の構成

オブザーバー：院長、事務長

委員長：医師

委員：医師5名、薬剤師1名、看護師6名

事務部門2名、診療情報管理士3名

計20名

2. 活動内容

『医師同士による質的監査』について

医療と診療記録の質の向上を図る目的で、医師同士による質的監査(オーディット)を行っています。診療録内容のチェックを実施し、その結果・内容は各医師へ報告・還元しています。当委員会は全医師の診療録の改善に役立ててもらおうよう働きかけています。

2015年度 科別質的監査件数

※ 特定の医師を除く

監査対象科		オーディット担当回数	
呼吸器内科	5	呼吸器内科	5
循環器科	8	循環器科	8
腎臓内科	6	腎臓内科	2
糖尿病代謝内科	3	糖尿病代謝内科	4
消化器内科	11	消化器内科	9
小児科	4	小児科	6
外科	13	外科	11
乳腺外科	2	乳腺外科	4
整形外科	9	整形外科	7
形成外科	1	形成外科	2
脳神経外科	4	脳神経外科	3
呼吸器外科	4	呼吸器外科	3
心臓血管外科	5	心臓血管外科	4
皮膚科	4	皮膚科	2
泌尿器科	5	泌尿器科	3
産婦人科	7	産婦人科	6
眼科	1	眼科	2
耳鼻咽喉科	4	耳鼻咽喉科	5
放射線治療科	2	放射線治療科	3
歯科・口腔外科	4	画像診断部	5
救急・集中治療科	5	麻酔科	6
		歯科・口腔外科	3
		救急・集中治療科	4
総計	107	総計	107

『退院時サマリー 2週間以内記載率ならびに1ヶ月記載率』について

退院時サマリーは、退院後の外来診療等を円滑に遂行し、主治医以外の医師が診療情報を共有できるように、記録として残し活用することを目的としています。また「診療録管理体制加算1」の取得のためにも高い記載率を保っていただけるよう働きかけると共に院内では記載率を公表しています。

診療科別 退院時サマリー 2週間以内記載率

2015年4月～2016年3月退院分

診療科	2週間以内記載率	診療科	2週間以内記載率
呼吸器内科	94.9%	呼吸器外科	100.0%
循環器科	91.3%	心臓血管外科	97.9%
腎臓内科	91.3%	皮膚科	100.0%
糖尿病代謝内科	99.6%	泌尿器科	98.5%
消化器内科	93.3%	産婦人科	96.3%
小児科	98.7%	眼科	100.0%
外科	96.8%	耳鼻咽喉科	100.0%
整形外科	93.7%	放射線治療科	100.0%
形成外科	91.5%	歯科口腔外科	72.6%
乳腺外科	100.0%	緩和ケア科	100.0%
脳神経外科	91.7%	救急・集中治療科	100.0%
平均科別 2週間以内記載率			96.0%

診療科別 退院時サマリー年間記載率

2015年4月～2016年3月退院分

診療科	登録状況			計	科別記載率
	2週間以内	2週間越え	1ヶ月越え		
呼吸器内科	565	30	3	598	100.00%
循環器科	746	70	0	816	100.00%
腎臓内科	303	29	3	333	100.00%
糖尿病代謝内科	166	1	0	167	100.00%
消化器内科	1767	126	3	1896	100.00%
小児科	867	12	1	880	100.00%
外科	1265	41	3	1309	100.00%
整形外科	1439	94	3	1536	100.00%
形成外科	36	4	0	40	100.00%
乳腺外科	232	0	0	232	100.00%
脳神経外科	704	47	14	765	100.00%
呼吸器外科	314	0	0	314	100.00%
心臓血管外科	365	8	0	373	100.00%
皮膚科	218	0	0	218	100.00%
泌尿器科	927	15	0	942	100.00%
産婦人科	1169	45	0	1214	100.00%
眼科	463	0	0	463	100.00%
耳鼻咽喉科	512	0	1	513	100.00%
放射線治療科	51	0	0	51	100.00%
画像診断部	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	78	27	2	107	100.00%
緩和ケア	72	0	0	72	100.00%
救急・集中治療科	1593	0	1	1594	100.00%
総計	13852	549	34	14435	100.00%

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 今村 祐司

1. 設立主旨

本委員会の活動を病院年報に初めて掲載して頂くことを大変嬉しく思います。

当院は2007年3月に、国指定の地域がん診療連携拠点病院に指定されましたが、当委員会はこれにさきがけ、2006年11月第1回目の会議を開き、5つのワーキンググループ（院内がん登録・緩和ケア・化学療法・がん相談・学術研修と広報）を結成し、病院挙げての体制作りを支援する委員会として発足いたしました。昨年2015年3月に、診療体制・診療実績・組織作りに関する新指定要件を満たす地域がん診療連携拠点病院として指定更新されています。

2. 活動内容

1) 年2-4回の委員会の本会議

2) 随時開催する担当者会議

本委員会のこれまでと、今後

この10年間でがん医療に関する地域住民の方々の要望もより明確化しています。高齢化に伴い、がん罹患率も減ずることはなく、当院でがんの診断を受けて治療をうけるがん患者も右肩上がりであり、1500名を超えています。

これまでは指定要件をクリアすべく、チーム医療を基本にした院内の診療体制づくりを活動目標としてきました。発足当初は、がん専門病院であれば必要とされる病院機能をそれぞれ名付けたワーキンググループでしたが、今では立派に成長し、①診療情報管理課専門員によるがん登録部門、②緩和ケア外来・病床を持ち、緩和ケアチームによる診療体制を提供する緩和ケアチーム、③専門性を高めたスタッフで院内の化学療法を支援するがん化学療法チーム、④がん医療専門の相談員・ケースワーカーが地域連携のネットワークを活用して活動するがん相談支援センターなど、十分な体制が整ってまいりました。そして今年度は、地域がん診療連携拠点病院が

果たすべき役割 — 『質の高いがん医療を提供する医療機関として、専門的ながん医療の提供、地域での連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援・情報提供などを行なう』 - をさらに主体的に行なうことをテーマにワーキンググループを一部編成しました。

各々の活動状況は各部門の活動報告に委ねることに致します。本委員会が、専門性高い各ワーキングチームの活動を有機的に展開されるように支援するという役割を果たし、当院が自らの歩みで、広島西医療圏のがん医療を担う病院として成長することを願っています。

体制は以下の通りです。

委員長 今村

副委員長 小松・桐生・佐藤委員

6つのワーキンググループ（担当責任者）

①院内がん登録

今村委員長・渡委員・井本委員

②緩和ケア

小松副委員長・桐生副委員長・鶴谷委員

③がん相談

近藤委員・藤本委員・正島委員・坂尻委員

④化学療法

今村委員長・野村委員・中島委員

直轄する委員会 がん化学療法運営委員会

今村委員・野村委員・中島委員

⑤学術・研修・広報

佐藤副委員長・新宅委員・上村委員

⑥がんパス推進

川淵委員・杉山委員・槌谷委員（西6）・藤本委員（東6）・（総合医療相談室）

地域医療連携推進委員会

委員長 小深田 義勝

1. 設立主旨

当院が、地域の中核病院としての役割を発揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目

的としています。また、委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼され選ばれる病院を目指しています。

2. 所掌事務

- ①地域医療連携に係わる活動実績に関すること（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなど）。
- ②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること。
- ③地域医師会、関係機関との連携に関すること。
- ④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動に関すること。
- ⑤その他、地域医療連携に関すること。

3. 2015年度 地域医療推進連携委員会構成員

オブザーバー：院長、事務長

委員長：病院長代行

委員：医師 12名、薬剤師 1名、保健師 1名、看護師 7名、事務部門 5名、診療情報管理士 1名

4. 活動報告

2015年度は2回委員会を開催し、市民公開講座のテーマの検討や報告、紹介・逆紹介の状況について、未返書状況について、初診患者数・救急患者数について、苦情報告、地域医療従事者研修会について、診療報酬の変更について、挨拶回りについて協議し、更なる地域医療連携の充実に努めました。

薬事委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立主旨

当委員会では、院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用

- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長代行、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課課長及び薬剤部長等で構成されています。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月1回となっています。（但し、8月と12月は委員会を休会しています。）

5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関して、採用を希望する場合は、所属長の承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要な事項を記入し、事務局（薬剤部）に提出していただき、当委員会で審議することとなります。
- 3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。
- 4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品の安全性情報が新規に発布された場合は、全医師に連絡、注意喚起し、必要な対策を講じています。

7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の病院環境や薬剤使用状況を十分に考慮し、DPC病院として数量ベースで80%を目標にジェネリック医薬品の採用を検討、実施しています。

2015年度は9件を採用し収益効果をあげています。

8. 2015 年度実績

2015 年 3 月 31 日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	90
内服薬	736		
注射薬	517		
外用薬	315		
その他	15		
一般採用 計	1583		
用時購入 保険適応	75	RI 医薬品	111
その他 (ワクチン類)	14		
採用品数合計		1762	
ジェネリック医薬品		258	

9. 2015 年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品総新規採用件数	48
医薬品総削除件数	49

広報委員会

委員長 藤 井 隆

1. 設立主旨

院内における各部署の活動を院外に広く知っていただくことを目的として設立されました。各部署についての詳細な広報としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の一つがホームページであり、もう一つが広報誌「せと」です。この二つを作成・管理するのが本委員会です。

2. 活動内容

委員会は年 3 回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、ホームページについても検討を行っています。

1) 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年 3 回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことが出来るような小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のトピックス等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2015 年度は、春夏号で呼吸器内科、形成外科、災害ワーキングチーム、秋号で耳鼻咽喉科、消化器内科、透析室、新年号で歯科口腔外科、脳神経外科、心臓リハビリテーションチームを紹介しました。

2) ホームページ

ホームページについては年に 1 回アクセスの解析を行い、有益なサイトと相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めております。アクセス・ランキング及び閲覧データ比較を後掲します。

また、診療科及びスタッフによって作成された最新の話題やイベント情報などを盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。

さらに 2014 年度から引き続き、医療に関する情報を発信する FM ちゅーピー（後掲）を行ないました。

○ホームページアクセス数 Top5 (2015.4.1 ~ 2016.3.31)

診療部門

1. 歯科口腔外科

多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報

2. 心臓血管外科：近年の大動脈瘤の治療について

3. 麻酔科：気管挿管とビデオ喉頭鏡の導入

4. 緩和ケア科：がん告知について

5. 循環器内科：心筋梗塞と PCI// ステント治療

診療支援部門

1. 中央放射線科：心臓 CT 検査について

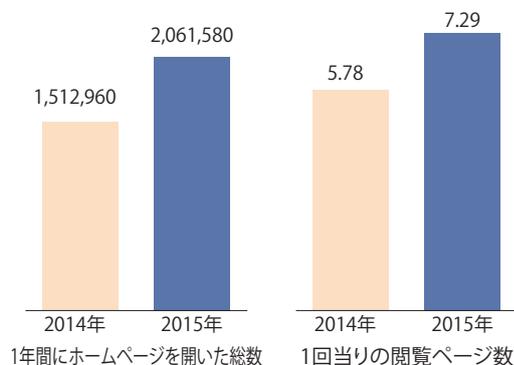
2. 臨床工学科：非侵襲的人工呼吸器専用機の増設

3. 看護部：腹膜透析におけるトラブルの対応について

4. 薬剤部：外来患者さんへの服薬指導について

5. 看護部：今年もたくさんフレッシュアズが加わりました

○ホームページ閲覧データの比較



○FM ちゅーピー「あなたの健康守り隊」発表者

放送月	担当科	発表者
2015/4	循環器内科	前田 幸治
5	認定看護師	河野佐代子・中元美恵
6	栄養科	三浦満美子・要田裕子
7	薬剤科	橋本 佳浩
8	認定看護師	今本 紀生
9	肝臓内科	相坂 康之
10	乳腺外科	川淵 義治
11	放射線科	貝原雄也・田丸隆行
12	画像診断部	西原 礼介

※ 2015年12月で放送終了

- ・輸血副作用報告
- ・アルブミン製剤使用分析
- ・輸血後感染症検査の案内・実施状況について
- ・輸血関連インシデント
- ・ICU 保管血液製剤の運用手順について
- ・輸血同意書改訂

【院内合同研修会】

開催日 2015年10月28日

演題 遡及調査の流れと輸血前後感染症検査

講師 広島県赤十字血液センター

学術情報科

昨年度にひき続き、アルブミン使用状況より集計分析等で適正使用に向け取り組み、輸血管理料・輸血適正使用加算の値を満たすことができました。

来年度は、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを検討し、各診療科へフィードバックしていきます。また、輸血後感染症検査の実施率向上にむけて取り組みます。

輸血療法委員会

委員長 香山 茂平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行ないました。

(6回開催)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。輸血医療のIT化では運用の改善点を提案しています。輸血後感染症検査については、各部門で関与（チーム医療）して患者説明を行い輸血後感染症検査のおすすめ文をお渡しする手順で運用を始め実施率が1割弱でした。（他施設での実施は不明）

【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告

2015年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	3524	152	RBC	3524	4.1%
Ir-WRC-LR2	0	0			
FFP-LR240	1200	28	FFP	1820	1.5%
FFP-LR480	620	0			
Ir-PC-LR10	2370	20	PC	2370	0.8%
Ir-PC-LR20	0	0			

2015年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	91	87	4
心臓血管外科	4	4	0
泌尿器科	316	196	120
産婦人科	51	24	27
合計	462	311	151

2015年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20%アルブミン	933
グロベニンI 2.5g	10
グロベニンI 5g	171
10%日赤ポリグロビンN 5g	8
テタノブリン筋注 250国際単位	24
ハプトグロビン静注	72
抗D人免疫グロブリン筋注	7
乾燥HB グロブリン筋注	1

製 品	本 数
献血ノンスロン	35
フィプロガミンP	45
タコシール 3 × 2.5cm	104
タコシール 9.5 × 4.8cm	73
ボルヒール 1ml	19
ボルヒール 3ml	26
ボルヒール 5ml	22
ペリプラストP 組織接着用 1ml	44
ペリプラストP 組織接着用 3ml	101
ペリプラストP 組織接着用 5ml	45
アブラキサン点滴静注 100mg	326
5%アルブミン 250ml	589

臨床研修医支援委員会

委員長 西原礼介

臨床研修委員会は、臨床研修医が充実した研修が行えるよう、臨床能力の獲得・向上、学術活動や生活面・精神面のサポートをしています。2015年3月、大下彰彦委員長の退職に伴い、後任として4月、画像診断部 西原礼介が委員長に就任しました。

〈昨年度より引き続きの活動〉

- Early Bird Lecture：毎週火曜日午前7時から、製薬会社MRによる薬剤の説明、研修医による症例プレゼンテーション、上級医によるレクチャー
- オープンカンファレンス：毎月第3水曜、2つの診療科からのプレゼンテーション、研修医の症例報告
- イブニングセミナー：外部講師を招聘しての講演
 - 第1回（2015/7/29）
山本内科循環器科 山本 正治先生
 - 第2回（2015/8/17）
東京北医療センター 南郷 栄秀先生
 - 第3回（2015/11/4）
山口大学漢方診療部 飯塚 徳男先生
 - 第4回（2015/11/24）
大津市民病院 小尾口邦彦先生
- ERアップデート参加（2016/2/6-7、千葉）：岡本大輝先生、京田直子先生、難波剛史先生、平井裕也先生
- 基本的臨床能力評価試験の実施（2016/2、写真1）

〈今年度新たに始めたこと〉

- 臨床研修科のフェイスブックを立ち上げ、研修医の活動を広く世界に公開しています。
- メンター制度の導入：研修医1人につき、原則として上級医・指導医1人をメンターとして指名し、研修医へのアドバイスやサポートを行っています。
- 「わかりやすい先進医療セミナー」を開催しました。
 - 第1回（2015/10/20）

肝臓内科主任部長 兵庫秀幸先生

広島大学未来医療センター講師 亀井 直輔先生

第2回（2016/2/1）

心臓血管外科部長 小澤 優道先生

広島大学原医研・未来医療センター診療講師

野間 玄督先生

- 外部施設研修報告会（2016/1/26）：2年次が地域医療で研修した内容を発表しました。

〈表彰〉

- 最上文字先生：アカデミー学術賞研修医部門、厚生連職員表彰（写真2）
- 学会発表「十二指腸に穿破した膵漿液性嚢胞腺腫の1例」
- 研修医が選ぶベスト指導医：救急・集中治療科 筒井徹先生（今年度初企画です）
- 基本的臨床能力評価試験 優秀賞
- 2年次：仙波恵樹先生、1年次：田中芳樹先生

〈西原委員長の活動〉

- プログラム責任者養成講習会（2015/11/20-21、神戸）に参加しました。
- 第11回広島卒後臨床研修ネットワーク指導医養成講習会（2016/2/13-14、広島）にタスクフォースとして参加しました。



(写真1) 基本的臨床能力評価試験



(写真2) 最上先生表彰



(写真3) 2年生の屋上写真

著書・論文

糖尿病代謝内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
患者さんにとって Happy な経口血糖降下薬の使い方とは？	石田和史	広島醫學・広島医学会	69・2・120-127	2016年

消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタ「胃瘻からの栄養剤や薬剤の投与」	八幡謙吾 徳毛宏則	臨床老年看護	22 (1) : 105-114	2015年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタ「胃瘻カテーテルの基礎とケア」	石崎淳子 徳毛宏則	臨床老年看護	22 (2) : 86-93	2015年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタ「胃瘻のスキントラブルとその対処」	松下理恵 徳毛宏則	臨床老年看護	22 (3) : 112-118	2015年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタ「胃瘻での消化管トラブルと胃食道逆流」	植田美奈 徳毛宏則	臨床老年看護	22 (4) : 29-33	2015年
専門医に学ぶ胃瘻ケア 実践的知識スキルマスタ「胃瘻で必要な口腔ケアと嚥下リハビリテーション」	藤本七津美 徳毛宏則	臨床老年看護	22 (5) : 74-81	2015年
胃瘻造設の適応について考える～術後、経口摂取がすすまず栄養管理が困難であった症例の振り返り～	藤本七津美 石崎淳子 香山茂平 徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療	19 : 102-107	2015年
AGEs-RAGE 系と疾患	兵庫秀幸	メディカルビュー社	5 (3) : 150-159	2015年
Liver Nutritional Therapy up to date	兵庫秀幸	メディカルビュー社	38-46	2015年
Liver Nutritional Therapy up to date	兵庫秀幸	メディカルビュー社	47-53	2015年
Liver Nutritional Therapy up to date	兵庫秀幸	メディカルビュー社	95-104	2015年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
腹腔鏡下修復術が有用であったスピーゲルヘルニアの1例	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 大下彰彦 杉山陽一 中光篤志	日本内視鏡外科学会雑誌	20 (5) : 507-511, 2015	2015年9月

乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Pyopneumothorax during bevacizumab-containing chemotherapy in a patient with metastatic breast cancer	Noriko Goda, Yoshiharu Kawabuchi, Masanobu Watari, Takashi Kumada, Tomohiro Kondo, Satoshi Inoue, Takuro Yamaguchi, Yuta Kuroo, Atsushi Nakamitsu	International Cancer Conference Journal	5:40-44	2016年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
低侵襲手術の合併症対策 腰椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡下椎間板摘出術 合併症の現状とその対策	山田清貴	整形外科 Surgical Technique	5(3):293-300	2015年
Vertebroplasty in the Treatment of Osteoporotic Vertebral Compression Fractures with Intravertebral Cleft	Nakamae T	The Open Orthopaedics Journal	9:107-113	2015年
骨粗鬆性椎体骨折に対する PMMA を用いた経皮的椎体形成術 (PVP)	中前稔生	Bone Joint Nerve	5(2):301-309	2015年
外側型頸椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡下椎間孔拡大・ヘルニア摘出術	藤本吉範	三輪書店	2(19):64-70	2015年

著書・論文

心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Multiple valve surgery for a patient with presternal oesophageal reconstruction.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Masamichi Ozawa	European Journal of Cardio-thoracic Surgery	48 (2): e17-19	2015 年
Prosthetic-preserving aortic root repair after aortic valve replacement.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Hiroshi Kodama	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	23: 744-746	2015 年
Ischemic mitral regurgitation: Focusing on the imbalance of two intraventricular forces.	Masaki Hamamoto	Edorium Journal of Cardiothoracic and Vascular Surgery	2: 19-24	2015 年
Partial anomalous pulmonary venous connection with acquired valve disease.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Hiroshi Kodama	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	23: 966-969	2015 年
急性上腸間膜動脈閉塞症に対して大伏在静脈バイパス術で救命できた 1 例	小林 平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司 吉村幸祐	日本血管外科学会誌	24 : 981-985	2015 年
慢性総大腸動脈閉塞性病変に対する内膜摘除術の中期遠隔成績	小林 平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司 吉村幸祐	日本血管外科学会誌	24 : 939-943	2015 年
腹部大動脈瘤人工血管置換術後遠隔期に生じた非吻合部仮性動脈瘤に対して EVAR を施行した 1 例	小澤優道 濱本正樹 小林 平 児玉裕司	日本血管外科学会誌	24 : 927-931	2015 年

産婦人科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
長期間の経過を辿った頸管妊娠の一例	楠本真也 大下孝史 寺岡有子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	現代産婦人科	63・2・351-355	2014 年
塩酸リトドリン投与により無顆粒球症を来した一例	寺岡有子 大下孝史 佐々木美砂 佐野洋子 中前里香子 中西慶喜	現代産婦人科	64・2・263-267	2015 年
術前診断に苦慮した卵管癌の一例	藤本悦子 大下孝史 寺岡有子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜 井町海太 岡本淳子 上國 愛 永田郁子 臺丸 裕	広島県臨床細胞学会誌	36・18-23	2015 年

画像診断部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Modified Dixon 法を用いた骨髄脂肪量評価の試み	坂根寛晃 高須深雪	広島医学	第 68 巻・第八号・415-416	2015 年 8 月 28 日

麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
鎮静薬投与の自動調節 斎藤茂、榎田浩史 編集 鎮静と術中覚醒	中尾正和	真興交易医書出版部	35-42	2015 年
臨床の疑問に答える静脈麻酔 Q & A99、内田 整 編	中尾正和	羊土社	26-27、90-92、93、94-95、96-98、99、100-101、102-103、107	2015 年
麻酔器付属の人工呼吸器何となく使っていませんか？	中尾正和	LISA	22 : 1032-35	2015 年

病理診断科・病理研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
腹腔内洗浄細胞診で腫瘍細胞を認めた腹腔内原発二相型滑膜肉腫の一例	永田郁子 上國 愛 岡本淳子 井町海太 台丸 裕 中西慶喜 大下孝史 藤本英夫	日本臨床細胞学会雑誌	第 55 巻第 1 号	2016 年
大腸鋸歯状病変 特に SSAP の癌化について	台丸 裕	佐伯地区医師会会報	No. 513 33 ページ	2015 年

著書・論文

臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
尿沈渣検査が腎血管性高血圧を伴った腎盂癌の早期診断に寄与した1症例	本田 愛	広島県臨床検査技師会会誌	広島臨床検査 Vol4 P29～33	2015年
侵襲性髄膜炎菌感染症の1例	池田光泰	広島県臨床検査技師会会誌	広島臨床検査 Vol4 P34～37	2015年
MDCT画像診断から診た冠動脈プラークとその抑制～sdLDL-Cを主体に脂質低下療法の残余リスクを考える～	藤井 隆	筑波臨床化学セミナー	筑波臨床化学セミナー会 P11～19	2015年

中央放射線科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
β遮断薬の選択—経口 vs. 静注—	山口裕之	循環器臨床を変える MDCT・文光堂	297-298	2015年

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療 (武内謙輔論文)	査読者	vol9	PEG・在宅医療研究会
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療 (大野一将論文)	査読者	vol9	PEG・在宅医療研究会
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0331)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0339)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0339-R1)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0435)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0685)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0706)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0816)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-15-0881)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-16-0009)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-16-0058)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED
兵庫秀幸	Hepatology Research (HEPRES-16-0142)	査読者		JOHN WILEY & SONS LIMITED

心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	Journal of Clinical Trials in Cardiology	査読者		Symbiosis
濱本正樹	Edorium Journal of Cardiothoracic and Vascular Surgery	査読者		Edorium Journals
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン

麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	Journal of Anesthesia	査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	査読者		麻酔と蘇生編集部

学会発表

呼吸器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
シリコンステントを用いて無瘻化を試みた肺癌術後気管支断端瘻の一例	近藤丈博 渡 正伸	第 55 回日本呼吸器学会	2015 年 4 月 17～19 日	東京都
ARDS を合併した有瘻性膿胸に対し VV-ECMO 管理下に EWS による気管支充填術を行い救命できた一例	近藤丈博 櫻谷正明 吉田研一	第 43 回日本集中治療医学会	2016 年 2 月 11～14 日	神戸市

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院循環器内科入院患者の院内急変に関する検討	荘川知己 原田崇弘 赤澤良太 久留島秀治 前田幸司 辻山修司	第 63 回日本心臓病学会学術集会	2015 年 9 月 20 日	神奈川県

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腎機能障害及び軽度認知障害にて発症した Fabry 病の 1 例	藤野 修 荒川哲次 宮崎真美 中山慎也	第 45 回日本腎臓学会西部学術大会	2015 年 10 月 23～24 日	金沢
視力低下、脳梗塞、高度蛋白尿を契機に再燃を来した顕微鏡的多発血管炎の 1 例	宮崎真美 中山慎也 藤野 修 荒川哲次	第 113 回日本内科学会中国地方会	2015 年 12 月 12 日	広島

糖尿病代謝内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
2 年間でのアキレス腱反射の変化に着目した、糖尿病神経障害への治療的介入効果が期待できる指標の提言	石田和史 堀江正和 浅生貴子 木ノ原周平	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	2015 年 5 月 21～24 日	下関市
イプラグリフロジンの血糖降下作用および InBodyS20 を用いた体組成変化と食事内容との検討	浅生貴子 堀江正和 木ノ原周平 石田和史	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	2015 年 5 月 21～24 日	下関市
血糖日較差の大きい 1 型糖尿病に対する献立内容に着目した 2 種類の bolus insulin 使い分けの提言	木ノ原周平 堀江正和 浅生貴子 石田和史	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	2015 年 5 月 21～24 日	下関市
併用薬の影響を加味した CPT 経年観察による糖尿病神経障害に対するインクレチン関連薬の臨床効果の検証	堀江正和 木ノ原周平 浅生貴子 石田和史	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	2015 年 5 月 21～24 日	下関市
インスリンリポハイパートロフィー予防のための取り組み～皮膚をつままず注射することはリポハイパートロフィーの予防になるか？～	中元美恵 加賀美昌美 石田和史	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	2015 年 5 月 21～24 日	下関市
2 型糖尿病患者の血糖コントロールに関連する心理・社会的要因 (第 5 報)：家族機能による治療遵守不良の予測	高石美樹 佐伯俊成 石田和史 河面智之 山脇成人	第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会	2015 年 5 月 21～24 日	下関市
HbA1c と 1、5-AG の推移でみた糖尿病神経障害に与える高血糖の影響～平均か？食後か？～	石田和史 木ノ原周平 江草玄太郎	第 53 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2015 年 10 月 30～31 日	米子市
iPad アプリを用いた、インスリン治療法の差異が QOL に与える影響の可視化	木ノ原周平 江草玄太郎 石田和史	第 53 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2015 年 10 月 30～31 日	米子市
良好な血糖コントロールの成否は、どれだけ CAVI の推移に影響を与えるか？	江草玄太郎 木ノ原周平 石田和史	第 53 回日本糖尿病学会中国四国地方会	2015 年 10 月 30～31 日	米子市
～実地医家のための教育講座～患者さんにとって Happy な経口血糖降下薬の使い方とは？	石田和史	第 68 回広島医学会総会	2015 年 11 月 8 日	広島市

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
NAFLD に潜む一過性低血糖の危険性について	兵庫秀幸 盛生玲央奈 茶山一彰	第 101 回日本消化器病学会総会	2015 年 4 月 23 日	仙台市
膵癌に合併した Trousseau 症候群の検討	藤本佳史 若井雅貴 徳毛宏則 佐々木秀 中光篤志	第 46 回日本膵臓学会大会	2015 年 6 月 19 日	名古屋市
胃十二指腸ステント留置術の検討～胆管・十二指腸ダブルステント留置の有用性と問題点～	藤本佳史 徳毛宏則	第 114 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2015 年 6 月 28 日	広島市

学会発表

EUS-FNA が診断に有用であった膵臓癌の膵転移の1例	末廣洋介 野中裕広 徳毛宏則	藤本佳史 古土井明	若井雅貴 小松弘尚	第114回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2015年6月28日	広島市
十二指腸に穿破した膵漿液性嚢胞腺腫の1例	最上文子 若井雅貴 小松弘尚	藤本佳史 野中裕広 徳毛宏則	末廣洋介 古土井明	第114回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2015年6月28日	広島市
地域連携における「膵がん・胆道がん教室」の有用性	藤本佳史	徳毛宏則	野村昌代	第13回日本臨床腫瘍学会学術集会	2015年7月16日	札幌市
十二指腸・胆管ダブルステントの検討	藤本佳史	野中裕広	徳毛宏則	第51回日本胆道学会学術集会	2015年9月17日	宇都宮市
静脈血栓症を契機に受診した胆嚢小細胞癌の一例	野中裕広 藤本佳史 相坂康之	末廣洋介 古土井明 小松弘尚	若井雅貴 兵庫秀幸 徳毛宏則	第51回日本胆道学会学術集会	2015年9月17日	宇都宮市
胆膵系内視鏡検査におけるデクスメトミジン塩酸塩の使用経験	富山直美 松下理恵 徳毛宏則	内田千絵 藤本佳史	石崎淳子 野中裕広	第51回日本胆道学会学術集会	2015年9月17日	宇都宮市
Ho-YAGレーザーを用いた内視鏡的胆道碎石術における臨床工学技士の役割	藤田雄樹 石崎淳子	村上直己 藤本佳史	瀬尾憲由 徳毛宏則	第51回日本胆道学会学術集会	2015年9月17日	宇都宮市
胆膵系内視鏡検査におけるデクスメトミジン塩酸塩による鎮静の検討	末廣洋介 藤本佳史 徳毛宏則	野中裕広 古土井明	若井雅貴 小松弘尚	第90回日本消化器内視鏡学会総会	2015年10月10日	東京都

小児科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
JPAC 上コントロール良好であった喘息児の気道過敏性と肺機能、気道可逆性、呼気中一酸化窒素の関係	岡島宏易 辻 徹郎	田邊真奈美	吉野修司	第64回日本アレルギー学会	2015年5月26～28日	東京都
JPAC を用いた 2008 年、2012 年県内喘息調査での LABA 使用状況の検討	岡島宏易	辻 徹郎	他	第52回日本小児アレルギー学会	2015年11月14～15日	奈良市

外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
TAPP 導入初年度での、鼠径ヘルニア手術における術式選択	田崎達也 香山茂平 中村浩之 中光篤志	今村祐司 大下彰彦 黒尾優太	佐々木秀 杉山陽一 馬場健太	第13回日本ヘルニア学会学術集会	2015年5月22～23日	名古屋市
TAPP での腹膜閉鎖困難例に対する手技の工夫	田崎達也 香山茂平 中村浩之 中光篤志	今村祐司 大下彰彦 黒尾優太	佐々木秀 杉山陽一 馬場健太	第13回日本ヘルニア学会学術集会	2015年5月22～23日	名古屋市
腹腔鏡下修復術が有用であったスピーゲルヘルニアの1例	田崎達也 香山茂平 中村浩之 中光篤志	今村祐司 大下彰彦 黒尾優太	佐々木秀 杉山陽一 馬場健太	第13回日本ヘルニア学会学術集会	2015年5月22～23日	名古屋市
十二指腸に穿破し消化管出血をきたした膵漿液性嚢胞腺腫の1例	佐々木秀 香山茂平 中村浩之 亀田靖子	中光篤志 田崎達也 黒尾優太 田妻 昌	今村祐司 杉山陽一 馬場健太	第27回日本肝胆膵外科学会学術集会	2015年6月11～13日	東京都
術前化学療法後に切除した食道類基底細胞癌の1例	杉山陽一 亀田靖子 田崎達也 今村祐司	田妻 昌 黒尾優太 香山茂平 中光篤志	馬場健太 中村浩之 佐々木秀	第68回日本食道学会学術集会	2015年7月2～3日	横浜市
膵頭十二指腸切除後の残膵癌症例の検討	佐々木秀 香山茂平 中村浩之 亀田靖子	中光篤志 田崎達也 黒尾優太 田妻 昌	今村祐司 杉山陽一 馬場健太	第70回日本消化器外科学会総会	2015年7月15日 17日	浜松市
Clinical significance of conversion surgery for unresectable gastric cancer	Yoichi Sugiyama, Shou Tazuma, Kenta Baba, Yuta Kuroo, Hiroyuki Nakamura, Tatsuya Tazaki, Akihiko Oshita, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu			第70回日本消化器外科学会総会	2015年7月15日 17日	浜松市

学会発表

当院における超高齢者胃癌に対する術前評価と治療成績の検討	杉山陽一 亀田靖子 田崎達也 今村祐司	田妻 昌 黒尾優太 香山茂平 中光篤志	馬場健太 中村浩之 佐々木秀	第 77 回日本臨床外科学会総会	2015 年 11 月 26 ~ 27 日	福岡市
肝切除後予防的ドレーン留置基準に関する検討	佐々木秀 香山茂平 中村浩之 亀田靖子	中光篤志 田崎達也 黒尾優太 田妻 昌	今村祐司 杉山陽一 馬場健太	第 28 回日本外科感染症学会総会	2015 年 12 月 2 ~ 3 日	名古屋市
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 TAPP の標準化を目指して一再発ゼロを目指した十分な剥離範囲	田崎達也 杉山陽一	佐々木秀 中光篤志	香山茂平	第 28 回日本内視鏡外科学会総会	2015 年 12 月 10 ~ 12 日	大阪市
困難症例に対する TAPP 一再発を繰り返した膀胱ヘルニアの経験	田崎達也 杉山陽一	佐々木秀 中光篤志	香山茂平	第 28 回日本内視鏡外科学会総会	2015 年 12 月 10 ~ 12 日	大阪市
Trastuzumab + PTX 併用療法により肝転移巣が消失した超高齢者切除不能胃癌の 1 例	新原健介 佐々木秀 杉山陽一 馬場健太	中光篤志 香山茂平 中村浩之 亀田靖子	今村祐司 田崎達也 黒尾優太 田妻 昌	第 88 回胃癌学会総会	2016 年 3 月 17 ~ 19 日	大分市
Postoperative complication and prognosis of gastrectomy for elderly patients with gastric cancer	Yoichi Sugiyama, Sho Tazuma, Kenta Baba, Yasuko Kameda, Yuta Kuroo, Hiroyuki Nakamura, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu			第 88 日本胃癌学会総会	2016 年 3 月 17 ~ 19 日	大分市

実績

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
当院におけるエリブリンの使用経験	川淵義治 黒尾優太 香山茂平 桐生浩司	鈴木江梨 熊田高志 今村祐司	安井大介 田崎達也 中光篤志	第 23 回日本乳癌学会総会	2016 年 7 月 2 ~ 4 日	東京都
脳室腹腔シャントチューブ留置側に発生した乳癌の 1 例	鈴木江梨 黒尾優太 香山茂平 桐生浩司	川淵義治 熊田高志 今村祐司	安井大介 田崎達也 中光篤志	第 23 回日本乳癌学会総会	2015 年 7 月 2 ~ 4 日	東京都
当院における乳癌化学療法に対する pegfilgrastim 使用の検討	板垣友子	川淵義治	安井大介	第 12 回日本乳癌学会中国四国地方会	2015 年 9 月 19 ~ 20 日	徳島市
当院におけるホルモン陽性転移再発乳癌患者に対するフルベストラントの使用経験	川淵義治	板垣友子	安井大介	第 53 回日本癌治療学会学術集会	2015 年 10 月 29 ~ 31 日	京都市
当院における乳癌化学療法に対するジールスタ使用の検討	板垣友子 馬場健太 中光篤志	川淵義治 亀田靖子	田妻 昌 黒尾優太	第 77 回日本臨床外科学会総会	2015 年 11 月 26 ~ 28 日	福岡市

整形外科

演題	発表者・協同研究者名			学会名	開催期間	開催都市
若年性腰椎椎間板ヘルニアに対する経皮的内視鏡下髄核摘出術の治療成績	山田清貴 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 中前稔生	鈴木修身 松浦正己	中部整形外科災害外科学会	2015 年 4 月 10 ~ 11 日	金沢市
椎体内クレフトを有する骨粗鬆性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術 (PVP) と経皮的後弯矯正術 (BKP) の比較	中前稔生 山田清貴 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士	鈴木修身 松浦正己	第 124 回中部整形外科災害外科学会	2015 年 4 月 10 ~ 11 日	金沢市
高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛と骨髄浮腫の関係：横断観察研究	山田清貴 橋本貴士 森迫泰貴	藤本吉範 中前稔生	鈴木修身 松浦正己	第 43 回日本脊椎脊髄病学会	2015 年 4 月 16 ~ 18 日	福岡市
椎体内クレフトを伴う骨粗鬆症性椎体骨折の画像所見と臨床症状の関連性	中前稔生 鈴木修身 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 松浦正己	第 44 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2015 年 4 月 16 ~ 18 日	福岡市
骨粗鬆症性脊椎椎体骨折後遅発性麻痺に対する経皮的椎体形成術の適応と限界	中前稔生 鈴木修身 森迫泰貴	藤本吉範 橋本貴士	山田清貴 松浦正己	第 44 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2015 年 4 月 16 ~ 18 日	福岡市
JOACMEQ は頸髄症患者の 下肢運動機能の病態を反映する	平松 武 亀井直輔 力田高德	田中信弘 宇治郷諭 高澤 篤	中西一義 住吉範彦 越智光夫	第 44 回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2015 年 4 月 16 ~ 18 日	福岡市
Association of Vertebral Bone Marrow Edema with Low Back Pain in Degenerative Lumbar Scoliosis in the Elderly: A Cross-sectional Observational Study	Toshio Nakamae, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Takeshi Hashimoto, Osami Suzuki, Masaki Matsuura, Taiki Morisako, Kjell Olmarker			The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS) 2015	2015 年 6 月 8 ~ 12 日	San Francisco, California

学会発表

Targeted therapy of low back pain associated with de novo degenerative lumbar scoliosis in the elderly: prospective observation cohort study	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Toshio Nakamae, Osami Suzuki, Takeshi Hashimoto, Masaki Matsuura, Taiki Morisako, Kjell Olmarker	ISSLS annual meeting	2015年6月8～12日	サンフランシスコ
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	広島脊椎脊髄セミナー	2015年9月5日	広島市
腰椎変性側弯症に対する脊椎固定術 - 椎体終板障害に着目して	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	第56回広島脊椎脊髄セミナー	2015年9月5日	広島市
硬膜内脱出椎間板ヘルニアの治療経験	土川雄司 藤本吉範 鈴木修身 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 平松武	第229回広島整形外科研究会	2015年9月12日	廿日市市
陳旧性指神経損傷に対する人工神経移植術の短期経過	鈴木修身 藤本吉範 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 平松 武 土川雄司	第26回日本末梢神経学会	2015年9月18～19日	松本市
硬膜内脱出椎間板ヘルニアの治療経験	中前稔生 土川雄司 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 藤本吉範	西部整形外科懇話会	2015年10月15日	廿日市市
PMMAを用いた経皮的椎体形成術の守備範囲	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	第6回骨粗鬆症性椎体骨折研究会	2015年11月13日	東京
骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の治療成績	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	第84回西日本脊椎研究会	2015年11月21日	福岡市
椎体内クレフトを伴う骨粗鬆症性椎体骨折の画像所見と臨床症状の関連性	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	第84回西日本脊椎研究会	2015年11月21日	福岡市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する前方・後方固定術の治療成績	平松 武 藤本吉範 山田清貴 中前稔生 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	第84回西日本脊椎研究会	2015年11月21日	福岡市
足舟状骨無腐性壊死(ケーラー病)による病的骨折に対して血管柄付き骨移植で治療した1例	鈴木修身 藤本吉範 山田清貴 橋本貴士 中前稔生 平松 武 土川雄司	第42回日本マイクロサージャリー学会	2015年11月26～27日	さいたま市

脳神経外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
単一施設での小型破裂動脈瘤の割合から見た、日本と欧米諸国の破裂動脈瘤の大きさの検討	阿美古将 井川房夫 落合淳一郎 下永皓司 黒木一彦	日本脳神経外科学会第74回学術総会	2015年10月14～16日	北海道
中脳から大脳基底核の悪性リンパ腫の一例	落合淳一郎 黒木一彦 阿美古将 山田直人	第23回広島頭蓋底外科研究会	2016年1月8日	広島

呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
術前肺機能外来開設後2年間の実績 一術前肺機能検査による潜在 COPD の診断一	渡 正伸 熊田高志 井上 聡 嶋田恵美 小田さなえ	第55回日本呼吸器学会	2015年4月17～19日	東京都
COPD 合併肺癌の術前管理から日本における潜在 COPD の診断治療まで	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第32回日本呼吸器外科学会	2015年5月14～15日	高松市
胸鎖関節に浸潤する肺癌を疑い精査を行った1症例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第32回日本呼吸器外科学会	2015年5月14～15日	高松市
胸腔ドレナージにより胸腔内出血を来した1例	井上 聡 渡 正伸 熊田高志	第32回日本呼吸器外科学会	2015年5月14～15日	高松市
EWS 気管支充填術後に根治術を施行した術後有癢性膿胸の1例	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第64回日本農村医学会学術総会	2015年10月22～23日	秋田市
術前肺機能検査による COPD 診断の有用性	渡 正伸 熊田高志 井上 聡	第56回日本肺癌学会	2015年11月26～28日	横浜市
赤芽球瘻を合併した胸腺腫の1手術例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第77回日本臨床外科学会総会	2015年11月26～28日	福岡市
当院におけるアスピレーションキットを用いた胸腔ドレナージの検討	井上 聡 渡 正伸 熊田高志	第77回日本臨床外科学会総会	2015年11月26～28日	福岡市
肺アスペルギローマ術後気管支断端瘻に EWS 充填術を併用し菱形筋弁充填術を施行した1例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第24回日本呼吸器内視鏡学会中国四国支部会	2015年12月19日	出雲市

学会発表

心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
内腸骨動脈コイル塞栓術に難渋しプランニング変更して EVAR を施行した 1 例	小澤優道 濱本正樹 小林 平 児玉裕司	第 43 回日本血管外科学会総会	2015 年 6 月 3～5 日	神奈川県
重症虚血肢に対するチーム医療の意義 救肢だけでなく、生命予後改善を目標に	小林 平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	第 43 回日本血管外科学会総会	2015 年 6 月 3～5 日	神奈川県
ここまでできる PAD 治療 Open surgery・EVT どこまでも遠位の血行再建を目指して 足部以遠に確実に吻合するために	小林 平 濱本正樹 小澤優道 児玉裕司	第 43 回日本血管外科学会総会	2015 年 6 月 3～5 日	神奈川県
人工血管シャントを回避するために一転位尺側皮静脈シャントの有用性一	吉村幸祐 小林 平 濱本正樹 小澤優道	第 56 回日本脈管学会総会	2015 年 10 月 29～31 日	東京都
血行再建に難渋した若年者の重症下肢虚血の一例	吉村幸祐 小林 平 濱本正樹 小澤優道	第 77 回日本臨床外科学会総会	2015 年 11 月 26～28 日	福岡県

皮膚科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院で経験したつつが虫病、日本紅斑熱の症例検討	平川佳葉子 原田直江 森脇昌哉 梅田直樹 森川博文	日本皮膚科学会広島地方会	2015 年 9 月 6 日	広島
足底に生じた verrucous carcinoma の 1 例	原田直江 平川佳葉子 森川博文	日本皮膚科学会広島地方会	2015 年 9 月 6 日	広島
蜂刺傷後に横紋筋融解症を生じた兄弟例	平川佳葉子 原田直江 森川博文 辻 徹郎	日本皮膚科学会広島地方会	2016 年 3 月 6 日	広島
筋症状を伴った IgA 血管炎の 1 例	原田直江 平川佳葉子 森川博文	日本皮膚科学会広島地方会	2016 年 3 月 6 日	広島

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
PSA4.0ng/ml 以下の前立腺癌陽性症例の臨床的検討	栗村嘉昌 宮本俊輔 丸山 聡 小深田義勝	日本泌尿器科学会総会	2015 年 4 月 19 日	金沢市
当科での腹腔鏡下前立腺全摘除術の初期治療成績	丸山 聡 栗村嘉昌 宮本俊輔 小深田義勝	広島 EE 研究会	2015 年 10 月 3 日	広島市
卵巣癌手術において左完全重複尿管を断裂し再建した 1 例	宮本俊輔 栗村嘉昌 丸山 聡 小深田義勝	日本農村医学会学術総会	2015 年 10 月 22 日	秋田市
前立腺生検前 MRI の有用性の検証	宮本俊輔 栗村嘉昌 丸山 聡 小深田義勝	西日本泌尿器科学会総会	2015 年 11 月 6 日	福岡市
後腹膜原発の hemangiopericytoma の 1 例	栗村嘉昌 宮本俊輔 丸山 聡 小深田義勝	西日本泌尿器科学会総会	2015 年 11 月 7 日	福岡市

産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
子宮平滑筋肉腫に再発を認めた腎細胞癌の一例	寺岡有子 大下孝史 楠本真也 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第 67 回日本産科婦人科学会学術集会	2015 年 4 月 9～12 日	横浜市
診断に苦慮した卵管癌の一例	大下孝史 寺岡有子 藤本悦子 中西慶喜 岡本淳子 上國 愛 井町海太 永田郁子 臺丸 裕	第 56 回日本臨床細胞学会 (春期大会)	2015 年 6 月 12～14 日	松江市
腹水細胞診が有用であった乳癌、骨盤内転移の一例	上田明子 大下孝史 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜 井町海太 岡本淳子 上國 愛 永田郁子 臺丸 裕	第 30 回日本臨床細胞学会中国・四国連合会	2015 年 8 月 1～2 日	松山市
ポリープ様腫瘤により子宮内反を生じ、緊急手術を必要とした子宮体癌の 1 例	藤本悦子 大下孝史 寺岡有子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜 臺丸 裕	第 57 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2015 年 8 月 7～9 日	盛岡市
ddTC 療法が奏効した anaplastic carcinoma component を含む卵巣粘液性腫瘍の 1 例	大下孝史 寺岡有子 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第 57 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	2015 年 8 月 7～9 日	盛岡市
卵巣癌による Trousseau 症候群の 1 例	仙波恵樹 大下孝史 上田明子 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第 66 回広島産科婦人科学会	2015 年 8 月 30 日	広島市

学会発表

子宮内反症により緊急手術を必要とした子宮体癌の1例	上田明子 大下孝史 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第68回中国四国産科婦人科学会総会	2015年9月5～6日	倉敷市
卵巣癌手術後繰り返す発熱で判明した尿管損傷の1例	藤本悦子 大下孝史 上田明子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第53回日本癌治療学会学術集会	2015年10月29～31日	京都市
ddTC療法が奏効した anaplastic carcinoma component を含む卵巣粘性腫瘍の1例	大下孝史 上田明子 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	第53回日本癌治療学会学術集会	2015年10月29～31日	京都市
腹腔鏡手術中の洗浄細胞診を契機に発覚した子宮体癌の一例	上田明子 大下孝史 藤本悦子 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜 井町海太 岡本淳子 永田郁子 上國 愛 臺丸 裕	第41回日本臨床細胞学会広島県支部総会	2016年3月5日	広島市

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
XY1 (ピビネックス) の使用経験	二井宏紀	第275回広島眼科症例検討会	2016年3月10日	広島市

耳鼻咽喉科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
アレルギー性副鼻腔真菌症の2症例	長 陽子 高原大輔 石井秀将	第54回日本鼻科学会	2015年10月1～3日	広島市

放射線治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における前立腺癌全摘術後 PSA 再発に対する放射線治療	廣川淳一 桐生浩司	第125回日本医学放射線学会中国・四国地方会	2015年12月11～12日	高知県

画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
高エネルギー外傷による凝固能異常を伴う骨盤骨折に対するTAE	坂根寛晃	第29回中国四国IVR	2015年9月18～19日	岡山県
診断に苦慮した後腹膜由来巨大腫瘍の一例	坂根寛晃	第125回日本医学放射線学会中国四国地方会	2015年12月11～12日	高知県

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
歯科と連携した挿管時歯牙損傷予防プロテクタ作成運用の実績と問題点	藤野友里 中尾正和 本多亮子 梅田絢子 片岡宏子 松本千香子	第62回日本麻酔科学会学術集会	2015年5月28～30日	神戸市
自動麻酔記録システム paperChart のビッグデータからひも解いた Spo2 低下症例の解析	村田 愛 中尾正和 本多亮子 梅田絢子 片岡宏子 檜高育宏	第62回日本麻酔科学会学術集会	2015年5月28～30日	神戸市

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
SBTのモードとして、PSとTCはどちらが適切か？	櫻谷正明	日本呼吸療法医学会学術集会	2015年7月17～18日	京都
ARDSに対して有効な薬物療法はあるか	櫻谷正明	日本呼吸療法医学会学術集会	2015年7月17～18日	京都
HFOVは死んでしまったのか？ -HFOVに関する2つのRCTの批判的吟味-	櫻谷正明	日本呼吸療法医学会学術集会	2015年7月17～18日	京都
additional sedative drugs to light sedation with dexmedetomidine is risk for delirium	Masaaki Sakuraya	European Society of Intensive Care Medicine	2015年10月3～7日	ベルリン
劇症型肺炎球菌感染症に続発した Candida dubliniensis による真菌性眼内炎の1例	筒井 徹 櫻谷正明 河村夏生	日本救急医学会総会・学術集会	2015年10月21～23日	東京
デクスメトミジンで浅い鎮静を行っている患者にもちいる鎮静薬はせん妄のリスクになるか？	櫻谷正明	日本集中治療医学会	2016年2月11～14日	神戸

学会発表

ARDS プラクティスガイドライン改訂作業に参加して	櫻谷正明、橋本 悟、南郷栄秀	日本集中治療医学会 中国・四国地方会	2016年2月20日	広島
診断に苦労したツツガ虫病の1例	京田尚子、櫻谷正明	日本集中治療医学会 中国・四国地方会	2016年2月20日	広島

健康管理センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
アミノインデックスによるがんリスクスクリーニングの試み	碓井裕史 久保知子 増本順子 長田恵美子 森川裕子 尾茂田彩 木谷安美 水野誠士	日本農村医学会	2015年10月22日	秋田県

看護科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
DMAT 看護師が認識する災害急性期における DMAT 活動時の看護の独自性	寺田英子	日本災害看護学会第 17 回年次大会	2015年8月8～9日	仙台市
8.20 広島市土砂災害における災害支援ナース活動報告—局地震害時の避難所における初動を振り返って—	寺田英子	日本災害看護学会第 17 回年次大会	2015年8月8～9日	仙台市
第 17 回日本災害看護学会企画Ⅱ 教育活動委員会主催「羽ばたけ、災害看護 CNS—災害看護 CNS の役割と抱負—」	寺田英子	日本災害看護学会第 17 回年次大会	2015年8月8～9日	仙台市

外来

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
胆膵系内視鏡検査におけるデクスメトミジン塩酸塩の使用経験	富山直美 内田千絵 石崎淳子 松下理恵 藤本佳史 野中裕広 徳毛宏則	第 51 回日本胆道学会学術集会	2015年9月18日	宇都宮市
胆膵系内視鏡検査におけるデクスメトミジン塩酸塩の使用時の鎮静と覚醒	内田千絵 富山直美 石崎淳子 本山敏恵 松下理恵 藤本佳史 野中裕広 徳毛宏則	第 75 回日本消化器内視鏡 技師学会	2015年10月10日	東京都

東 8 階

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
透析自己管理ノートのうんようを検討～患者アンケートから見えてきたもの～	平木一枝 池部輝美 濱田苑香	第 60 回日本透析医学会学術集会・総会	2015年6月26～28日	横浜市
腎臓病教育入院におけるパンフレット指導の現状～病棟看護師へのアンケート調査より～	末岡咲絵 堀田華枝 新田克己	第 24 回中国腎不全研究会	2015年11月1日	広島
保存期慢性腎臓病からの腎臓リハビリテーション導入への取り組み	岡崎裕美 高見賢次 八十田景菜 野崎愛香 新田克己 中山慎也 荒川哲次 小島輝久 本間智明 小林 平 三浦満美子 得能千晶	第 6 回腎臓リハビリテーション学会学術集会	2016年3月26～27日	岡山市
腎臓リハビリテーションの導入期における看護師の意識調査	高見賢次 岡崎裕美 新田克己 中山慎也 荒川哲次	第 6 回腎臓リハビリテーション学会学術集会	2016年3月26～27日	岡山市
若年透析患者に腎臓リハビリテーションを導入した心理的効果の検討～透析療法指導看護師としての関わり～	平木一枝 池部輝美 森本郁子 濱尾佳織 岡崎裕美 新田克己 本間智明 小林 平 中山慎也 荒川哲次	第 6 回腎臓リハビリテーション学会学術集会	2016年3月26～27日	岡山市

訪問看護ステーション

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
住み慣れた在宅で過ごすために一勝がん・胆道がん教室参加者の事例より	古本直子 奥元直美 小田真基子 白岩純子 藤本佳史 木村泰博	第 17 回日本在宅医学会 もりおか大会	2015年4月25～26日	盛岡市
退院支援に関わる認識の変化—訪問看護への同行体験アンケートを通して—	奥元直美 古本直子 三谷法子 野田明美 丸澤葉志子 佐藤澄香	第 23 回日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会 in 横浜	2015年8月29～30日	横浜市
地域住民の在宅緩和ケアに対する意識の変化—在宅緩和ケアに関わる講演・シンポジウム後の評価	古本直子 正畠忠貴 高原さおり 佐藤澄香 小松弘尚	第 23 回日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会 in 横浜	2015年8月29～30日	横浜市

学会発表

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Respiratory Support Team に参加する薬剤師の取り組み	吉廣尚大 櫻谷正明 平田 旭 河村夏生 筒井 徹 吉田研一 橋本佳浩	第 18 回臨床救急医学会・ 学術集会	2015 年 6 月 4～5 日	富山市
末梢動脈疾患患者の服薬コンプライアンスの現状と指導の課題	稲田淑江 角井 碧 辻山有希 橋本佳浩 渡壁史那 松田沙織 本間智明 小林 平	第 21 回日本心臓リハビリ テーション学会学術総 会	2015 年 7 月 18～19 日	福岡市
当院の骨粗鬆症治療注射薬の処方動向より薬剤師の課題を探る	中島恵子 角井 碧 瀧口幸子 得能千晶 清上和也 橋本佳浩	第 25 回日本医療薬学会 年会	2015 年 11 月 22 日	横浜市
ScanSnap を活用した DI 質疑応答データベースの構築と今後の課題	山崎貴司 橋本佳浩	第 46 回全国厚生連病院 薬剤科長会議学術総 会	2015 年 11 月 20 日	横浜市
当院における痔がん FOLFIRINOX の現状	白井敦史 藪田ゆみ 埋橋賢吾 中島恵子 橋本佳浩	第 25 回日本医療薬学会 年会	2015 年 11 月 22 日	横浜市
当院 ICU でスポレキサントを使用された 17 例の検討	吉廣尚大 櫻谷正明 平田 旭 河村夏生 筒井 徹 吉田研一 橋本佳浩	第 43 回日本集中治療医 学会学術集会	2016 年 2 月 12～14 日	神戸市
集中治療室の病棟業務における臓器系統別評価法の導入の効果	吉廣尚大 櫻谷正明 平田 旭 河村夏生 筒井 徹 吉田研一 橋本佳浩	第 33 回日本集中治療医 学会中四国地方会	2016 年 2 月 20 日	広島市
アロマトマーゼ阻害薬における関節症状とその要因について	白井敦史 藪田ゆみ 埋橋賢吾 中島恵子 橋本佳浩 川淵義治	日本臨床腫瘍薬学会学術 大会 2016	2016 年 3 月 12 日	鹿児島市
ペグフィルグラスチムの適正使用に向けた当院の取り組みと薬剤師の関わりについて	藪田ゆみ 白井敦史 埋橋賢吾 中島恵子 橋本佳浩 今村祐司	日本臨床腫瘍薬学会学術 大会 2016	2016 年 3 月 12 日	鹿児島市
がん患者指導管理料 3 の算定に向けての取り組みと今後の課題	埋橋賢吾 藪田ゆみ 白井敦史 中島恵子 橋本佳浩	日本臨床腫瘍薬学会学術 大会 2016	2016 年 3 月 12 日	鹿児島市

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
臨床現場即時検査 (POCT) 機器での新生児血糖測定 の検討	岡田未来依 本田 愛 荒瀬美幸 山下美香 三舛正志 水野誠士 藤井 隆	第 64 回日本医学検査学 会	2015 年 5 月 16～17 日	福岡市
広島県における ESBL 産生菌と CRE の検出状況	池田光泰 桑原隆一 鹿山鎮男 菅井基行	第 63 回日本化学療法学 会 西日本支部総 会	2015 年 10 月 15 日	奈良市
ヨード造影剤により冠攣縮とアナフィラキシー ショックをきたした Kounis 症候群の 1 例	藤井 隆 荘川知己 原田崇弘 赤澤良太 久留島秀治 前田幸治 辻山修司	第 64 回日本農村学会	2015 年 10 月 23 日	秋田市
経胸壁左心耳壁収縮速度 (TTR-LAAMV) 測定の意 義～血栓塞栓症と考えられた 2 症例を経験して～	原千花子 藤井 隆 北村紀恵 霜津宏典 河田智恵子 小松浩基 赤澤良太 黒尾優太 水野誠士	第 64 回日本農村学会	2015 年 10 月 23 日	秋田市
アウトブレイク発生時の実地疫学調査について	池部晃司 水野誠士 藤井 隆	第 48 回中国四国医学検 査学会	2015 年 11 月 7～8 日	米子市
当院における Candida 血症の後方視的検討	梶川裕子 池田光泰 外丸香織 池部晃司 山本加代子 笹谷真奈美 三舛正志 水野誠士	第 48 回中国四国医学検 査学会	2015 年 11 月 7～8 日	米子市
尿沈渣でのマルベリー小体検出により Fabry 病と 診断された 1 症例	猪丸祐美子 本田 愛 荒瀬美幸 三舛正志 水野誠士 藤井 隆	第 48 回中国四国医学検 査学会	2015 年 11 月 7～8 日	米子市
自動グリコヘモグロビン分析計 HLC-723 G11 の 基礎的検討	村田竜也 橋本幸恵 丸山恭平 谷口美佳 大西真子 横山富子 水野誠士	第 48 回中国四国医学検 査学会	2015 年 11 月 7～8 日	米子市
便潜血自動分析装置 2 機種 の比較検討	鉛山かおり 長谷川文香 本田 愛 荒瀬美幸 山下美香 三舛正志 水野誠士	第 48 回中国四国医学検 査学会	2015 年 11 月 7～8 日	米子市
自動血液培養装置 Vasera TREK 導入後の血液培養検 査状況	池田光泰 外丸香織 池辺晃司 三舛正志 水野誠士	第 27 回日本臨床微生物 学会総会	2016 年 1 月 30 日	仙台市
POT 型解析結果からみた当院の MRSA の動向	池部晃司 今本紀夫 正島和美	第 31 回日本環境感染学 会総会学術集会	2016 年 2 月 20 日	京都市

学会発表

中央放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Radiation dose for digital mammography of Asian woman	小濱千幸	ECR2016	2016年3月1～6日	ウィーン

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における機器管理業務について	畑ヶ迫真也 山口智和 黒木宏康 瀬尾憲由	第25回日本臨床工学技士学会	2015年5月23～24日	福岡
内視鏡センターにおける臨床工学技士の介入	村上直己 藤田雄樹 瀬尾憲由	第25回日本臨床工学技士学会	2015年5月23～24日	福岡
Post ICU	田中智子 田中恵子 荒田晋二	第25回日本臨床工学技士学会	2015年5月23～24日	福岡
NPPVの機種選定～患者さんにとって何が一番重要か～	田中智子 田中恵子 荒田晋二	第37回日本呼吸療法医学会学術集会	2015年7月17～18日	京都
在宅における呼吸管理～コメディカルの立場から～	田中恵子	愛知県呼吸療法セミナー 応用編	2015年7月31～8月1日	愛知
Ho-YAGレーザーを用いた内視鏡的胆道碎石術における臨床工学技士の役割	藤田雄樹	第51回日本胆道学会	2015年9月17～18日	栃木
バイポーラ回転式止血鉗子の使用現状	藤田雄樹	第75回日本消化器内視鏡技師学会	2015年10月9～10日	東京
本態性血小板血症の患者に体外循環を施行しリザーバーを交換した1症例	瀬尾憲由 荒田晋二 田中恵子 田中智子 藤田雄樹	第41回日本体外循環技術医学会	2015年10月17～18日	神戸
粘膜下層剥離術と臨床工学技士	村上直己 藤田雄樹 瀬尾憲由	第5回中四国臨床工学会	2015年11月21～22日	広島
元気になって帰りたい～急性期における臨床工学技士の関わり～	荒田晋二	第5回中四国臨床工学会	2015年11月21～22日	広島
元気になって帰りたい～転院・在宅移行にむけて臨床工学技士の関わり～	田中恵子	第5回中四国臨床工学会	2015年11月21～22日	広島
元気になって帰りたい～慢性期における臨床工学技士の関わり～	田中智子	第5回中四国臨床工学会	2015年11月21～22日	広島
パネルディスカッション チーム医療～再考～	田中智子	第5回中四国臨床工学会	2015年11月21～22日	広島
ハンズオンセミナー「早期リハビリテーション」	荒田晋二	第43回日本集中治療医学会学術集会	2016年2月11～14日	神戸
当院におけるECMO管理の現状～CEの目線から～	荒田晋二	第3回日本集中治療医学会中国四国地方会	2016年2月20日	広島

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
CLI患者の包括的リハビリテーション ー外科的血管再建術後の運動療法ー	本間智明 小林 平 上野忠活 渡壁史那 河本良美 松田沙織 村中ひろみ 稲田淑江 橋本佳浩	第21回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2015年7月18～19日	福岡市
慢性心不全患者の心臓リハビリテーション ー再入院を予防するためにー	本間智明 久留島秀治 上野忠活 丸澤葉志子 正木博之 上村真由美 河本良美 向井一樹 橋本佳浩 三谷法子	第21回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2015年7月18～19日	福岡市
開心術後におけるNPPV使用下での心臓リハビリテーションをどうするか？	小島輝久 上田雅美 本間智明 上野忠活 上村真由美 向井一樹 荒田晋二 小林 平	第21回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2015年7月18～19日	福岡市

学会発表

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
開心術後における早期回復を目指した栄養摂取量と歩行獲得距離に対する検討	上村真由美 渡壁史那 河本良美 本間智明 折手祐一 小林 平	第 21 回心臓リハビリテーション学会学術集会	2015 年 7 月 18～19 日	福岡市
ICU-NST 活動の変遷と国際栄養調査 (INS) の結果報告	八幡謙吾 上田雅美 山崎貴司 山口瑞穂 山下美香 横山富子 中島恵子 河本良美 藤本七津美 石崎淳子 藤田寿賀 平田 旭 河村夏生 櫻谷正明 香山茂平 吉田研一	第 8 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会	2015 年 12 月 5 日	下関市

感染防止対策室

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
急性期病院における疥癬アウトブレイク事例の報告	今本紀生 渡 正伸 近藤丈博 池部晃司 正島和美 行廣 優	第 64 回日本農村医学会	2015 年 10 月 22～23 日	秋田市
当院における血液・体液曝露の現状と ICT による曝露後管理体制の見直し	今本紀生 池部晃司 正島和美	第 31 回日本環境感染学会	2016 年 2 月 19～20 日	京都市

学会での座長

糖尿病代謝内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第58回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	神経障害 3	2015年5月21日	下関市

消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第51回肝臓学会総会	兵庫秀幸	研究奨励賞	2015年5月22日	熊本市
25th Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2016)	兵庫秀幸	NASH Poster session	2016年2月23日	Tokyo

小児科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本小児アレルギー学会	岡島宏易	喘息肺機能	2015年11月15日	奈良市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第181回広島外科会	杉山陽一	胃	2016年2月27日	広島市

皮膚科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第137回日本皮膚科学会広島地方会	森川博文	セッション2	2015年9月6日	広島市
第138回日本皮膚科学会広島地方会	森川博文	セッション3	2016年3月6日	広島市

麻酔科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第62回日本麻酔科学会学術集会	多田羅恒雄 中尾正和	優秀演題 麻酔科関連2 審査員	2015年5月28～30日	神戸市

救急・集中治療科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本呼吸療法医学会学術集会	櫻谷正明	HFOV フォーラム	2015年7月17～18日	京都

外来

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第75回日本消化器内視鏡技師学会 学会長	石崎淳子		2015年10月10日	東京都
第75回日本消化器内視鏡技師学会	石崎淳子	特別講演 1	2015年10月10日	東京都

薬剤部

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第46回全国厚生連病院薬剤長会議学術総会	橋本佳浩	一般演題 4	2015年11月20日	横浜市

臨床研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第48回中国四国医学検査学会	小松浩基	生理機能検査部門	2015年11月7～8日	米子市
第48回中国四国医学検査学会	藤岡朋子	生理機能検査部門	2015年11月7～8日	米子市
第107回日本循環器学会中国地方会	藤井 隆	その他の疾患 3	2015年11月28日	広島市
第33回広島県医学検査学会	水野誠士	市民公開講座	2016年2月20～21日	尾道市

学会での座長

中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 25 回日本乳癌検診学会	小濱千幸	乳腺	2015 年 10 月 30 日	つくば

臨床工学科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第 37 回日本呼吸法医学会学術集会	田中恵子		2015 年 7 月 17 ~ 18 日	京都市

感染防止対策室

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
急性期病院における疥癬アウトブレイク事例の報告	今本紀生 渡 正伸 近藤丈博 池部晃司 正嶋和美 行廣 優	第 64 回日本農村医学会	2015 年 10 月 22 ~ 23 日	秋田市
当院における血液・体液曝露の現状と ICT による曝露後管理体制の見直し	今本紀生 池部晃司 正嶋和美	第 31 回日本環境感染学会	2016 年 2 月 19 ~ 20 日	京都

研究会講演・発表

呼吸器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島東部呼吸器セミナー	ネーザルハイフローは NPPV を超えるか	近藤丈博	2016年2月19日 三原市	シオノギ製薬

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
急性心不全セミナー	心不全患者の診断と治療の実際	荘川知己	2015年9月29日 佐伯区民文化センター	大塚製薬
Lscrosse NSE Workshop	PCI デモンストレーション	辻山修司	2016年2月24日 広島総合病院心カテ室	グッドマン
急性心不全セミナー	心不全患者の診断と治療の実際	荘川知己	2016年3月29日 佐伯地区医師会館	大塚製薬

糖尿病代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第21回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	体組成分析計～CTを用いることなく肥満を評価できる優れたもの～	石田和史	2015年4月8日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本ペーリンガーインゲルハイム
第21回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	電流知覚閾値検査(CPT)～神経障害を簡便に可視化する優れたもの～	石田和史	2015年4月8日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本ペーリンガーインゲルハイム
糖尿病治療フォーラム	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年4月10日 ローズホテル横浜(神奈川県横浜市)	日本イーライリリー
美作医学会学術講演会	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年4月17日 津山国際ホテル(岡山県津山市)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム
福知山綾部地区 最適な糖尿病治療を考える会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2015年4月25日 サンプラザ万助(京都府福知山市)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム
Diabetes Forum in Hiroshima～糖尿病治療薬の新潮流を考える～	イプラグリフロジンの使用経験	石田和史	2015年5月1日 リガロイヤルホテル広島(広島市中区)	アステラス製薬・MSD
広島西部地区糖尿病連携講演会	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年5月29日 五日市記念病院(広島市佐伯区)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム
屋島地区 糖尿病治療を考える会	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年6月5日 屋島総合病院(香川県高松市)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム
明日の糖尿病治療を考える会 in 倉吉	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年6月12日 ホテルセントパレス倉吉(鳥取県倉吉市)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム
小松市糖尿病学術講演会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2015年6月19日 ホテルサンルート小松(石川県小松市)	小野薬品工業・アストラゼネカ
糖尿病懇話会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2015年6月23日 三次グランドホテル(広島県三原市)	小野薬品工業・アストラゼネカ
Diabetes Clinical Conference	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年7月17日 明治記念館(東京都港区)	日本イーライリリー
最適な糖尿病治療を考える会 in 四万十	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年7月31日 四万十市立市民病院(高知県四万十市)	日本イーライリリー・日本ペーリンガーインゲルハイム

研究会講演・発表

第22回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	インスリン単位数調節のコツをつかみましょう	石田和史	2015年8月12日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・小野薬品工業
埼玉県西部インスリン治療学術講演会	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年8月21日 川越プリンスホテル(埼玉県川越市)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
広島西圏域 MC 協議会 2015年度第1回症例研究会	糖尿病患者さんの救急搬送～必要な情報収集・伝達と的確な処置遂行をめざして～	石田和史	2015年9月8日 廿日市市消防本部(広島県福山市)	広島西圏域 MC 協議会
インスリングラブリンリリー発売記念講演会 in 福山	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年9月11日 福山労働会館みやび(広島県福山市)	日本イーライリリー
糖尿病の理解と看護～重症化予防のために～	糖尿病の病態・生理と治療	石田和史	2015年10月4日 広島県看護協会(広島市中区)	広島県看護協会
Diabetes Care Conference	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年11月6日 八芳園(東京都港区)	日本イーライリリー
秋田赤十字病院 DM 連携の会	糖尿病地域連携パス、真に連携すべきものは何か?～チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2015年11月14日 ホテルメトロポリタン秋田(秋田県秋田市)	キッセイ薬品工業
Osaka Diabetes Seminar	患者さんの気持ちをつかむインスリン治療の実践～患者さんからの学びを活かす糖尿病診療～	石田和史	2015年11月28日 スイスホテル南海大阪(大阪府大阪市)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
第23回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	インスリン抵抗性改善薬が著効した肥満2型糖尿病患者の一例	江草玄太郎	2015年12月9日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ノボノルディスクファーマ
第23回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	血糖コントロール不良のため抗GAD抗体を check し1型糖尿病と診断した一例	木ノ原周平	2015年12月9日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ノボノルディスクファーマ
第23回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	肥満とやせを意識した糖尿病治療薬の使い分け	石田和史	2015年12月9日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ノボノルディスクファーマ
山陽女子短期大学 臨床検査学科 臨床病態学Ⅰ特別講演	進化を続ける糖尿病臨床と臨床検査の関わり	石田和史	2015年12月11日 山陽女子短期大学(広島県廿日市市)	山陽女子短期大学
安佐学術講演会	違いがわかる糖尿病治療薬のお話～患者さんにとって Happy な薬剤選択～	石田和史	2016年1月20日 安佐医師会館(広島市安佐南区)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
第131回メディカルアルモニの会	糖尿病地域連携パス、真に連携すべきものは何か?～チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2016年2月8日 ホテルサンルート徳山(山口県周南市)	日本ベーリンガーインゲルハイム・日本イーライリリー
糖尿病治療 Up To Date in 島根	混合製剤によるインスリン治療の検証と展望	石田和史	2016年3月4日 ホテル一畑(島根県松江市)	ノボノルディスクファーマ
広島総合病院オープンカンファレンス	連続皮下グルコース測定(CGM)を用いた糖尿病診療	三玉康幸	2016年3月16日 広島総合病院(広島県廿日市市)	JA 広島総合病院

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第117回広島消化器病研究会	神経梅毒に合併した膵臓癌の1例(FOLFIRINOXの治療経験)	最上文子 藤本佳史 末廣洋介 若井雅貴 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2015年4月4日 広島市	広島消化器病研究会

研究会講演・発表

第117回広島消化器病研究会	ERCP 関連手技におけるデクスメドトミジンの使用経験	未廣洋介 若井雅貴 古土井明 相坂康之 徳毛宏則	藤本佳史 野中裕広 兵庫秀幸 小松弘尚	2015年4月4日 広島市	広島消化器病研究会
第117回広島消化器病研究会	有茎性大腸T1(SM)癌のリンパ節(LN)転移リスクと予後に関する多施設共同研究	古土井明	他	2015年4月4日 広島市	広島消化器病研究会
広島西部地区病病・病診連携勉強会	消化器疾患の病病・病診連携～胃・腸・胆・膵などを中心に～	藤本佳史		2015年5月9日 広島市	西部地区病病・病診連携勉強会
武田薬品、大塚製薬 Pancreatic Cancer Meeting in Hiroshima	膵癌の診断と治療の現状～アブラキサンの使用経験も含めて～	藤本佳史		2015年5月15日 広島市	大塚薬品工業
第2回広島西部地区食道胃腸疾患研究会	NASH/NAFLDの臨床	兵庫秀幸		2015年5月18日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科、アステラス、ゼリア、佐伯地区医師会
第2回広島西部地区食道胃腸疾患研究会	慢性肝炎の臨床	相坂康之		2015年5月18日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科、アステラス、ゼリア、佐伯地区医師会
第2回広島西部地区食道胃腸疾患研究会	機能性消化管障害（上部消化管）の臨床	小松弘尚		2015年5月18日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科、アステラス、ゼリア、佐伯地区医師会
第13回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	NAFLDの全体像	兵庫秀幸		2015年6月4日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ
第13回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	症例検討コメントター	古土井明		2015年6月4日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ
西地区肝疾患病診連携セミナー	ウイルス性肝炎治療の現況	相坂康之		2015年6月11日 廿日市市	プリストルマイヤーズ
糖尿病カンファレンス 広島	NAFLD 肝障害時の糖尿病治療について	兵庫秀幸		2015年6月11日 広島市	
第13回京滋奈良肝炎研究会	NAFLD/NASHと周辺疾患の関連性	兵庫秀幸		2015年6月26日 京都市	
第5回中国胆膵 EDS セミナー	胆道鏡を用いたレーザー碎石治療	藤本佳史		2015年6月27日 広島市	ポストンサイエンティフィック
佐賀県医師会学術講演会	糖尿病患者に潜む NASH/NAFLD	兵庫秀幸		2015年7月1日 佐賀市	佐賀県医師会
第9回広島 PDN セミナー	PEGの倫理的問題	徳毛宏則		2015年7月11日 広島市	PEG ドクターズネットワーク
第82回志洋会	肝疾患における糖代謝異常抑制の重要性	兵庫秀幸		2015年7月31日 広島市	
第5回 Clinical lipid seminar 広島	NASHと糖代謝～AGEs制御の重要性～	兵庫秀幸		2015年8月27日 広島市	武田薬品
佐賀県内科医会講演会	糖尿病患者に潜む NASH/NAFLD	兵庫秀幸		2015年9月7日 佐賀市	佐賀県内科医会
安佐学術講演会 広島	肝臓から見た糖尿病治療戦略	兵庫秀幸		2015年9月16日 広島市	安佐医師会
広島プライマリーケア・セミナー	動脈硬化の臨床を見直す NAFLD/NASHにおけるIMTチェックの重要性	兵庫秀幸		2015年10月2日 広島市	広島大学総合診療科
広島市内科医会学術講演会	かかりつけ医のための NAFLD/NASH マネジメント	兵庫秀幸		2015年10月16日 広島市	広島市内科医会
広島県肝疾患連携拠点病院研修会（第2回）	非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の取り扱い	兵庫秀幸		2015年10月24日 広島市	広島大学第一内科
第15回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	胆道疾患の最近の話題	藤本佳史		2015年10月28日 廿日市市	Rigid Net、アストラゼネカ、第一三共
第26回佐伯医学会総会	脂肪肝を診たときに医療従事者が考えること	兵庫秀幸 若井雅貴 古土井明 相坂康之 徳毛宏則	未廣洋介 野中裕広 藤本佳史 小松弘尚	2015年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会

研究会講演・発表

第 26 回佐伯医学会総会	静脈血栓症を契機に受診し診断された胆嚢小細胞癌の一例	内田由紀 末廣洋介 藤本佳史 兵庫秀幸 小松弘尚	野中裕広 若井雅貴 古土井明 相坂康之 徳毛宏則	2015 年 11 月 3 日 廿日市市	佐伯地区医師会
脂質異常症カンファレンス in 下関	NAFLD/NASH における糖・脂質代謝制御の重要性	兵庫秀幸		2015 年 11 月 4 日 下関市	
第 14 回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	内視鏡検査における鎮静の検討（デクスメトミジン塩酸塩の使用経験）	末廣洋介 古土井明	藤本佳史	2015 年 11 月 12 日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会 アストラゼネカ
第 1 回広島肝臓疾患フォーラム	NASH ガイドライン 2015	兵庫秀幸		2015 年 11 月 25 日 廿日市市	広島肝臓疾患フォーラム、第一三共
第 1 回広島肝臓疾患フォーラム	高齢発症の自己免疫性肝炎の 1 例	京田尚子		2015 年 11 月 25 日 廿日市市	広島肝臓疾患フォーラム、第一三共
Pancreatic Cancer Symposium — FOLFIRINOX の復活—	FOLFIRINOX と GEM/nab-Pac の使い分け	藤本佳史		2016 年 1 月 29 日 広島市	ヤクルト
C 型肝炎セミナー	C 型肝炎治療の現状	相坂康之		2016 年 2 月 2 日 福山市	福山市医師会、アツヴィ合同会社
第 16 回 Regional Interactive G. I. Doctors' Network	食道胃接合部癌の ESD 治療	古土井明		2016 年 2 月 24 日 廿日市市	Rigid Net、アストラゼネカ、第一三共
大竹市医師会内科医会学術講演会	脂肪肝から見た生活習慣病の管理	兵庫秀幸		2016 年 3 月 3 日 大竹市	大竹市医師会内科会、第一三共
広島県農村医学研究会	医療連携における「膵がん・胆道がん」教室の有用性	末廣洋介 徳毛宏則 高原さおり 八幡謙吾 白井敦史 藪田ゆみ	藤本佳史 野村昌代 河本良美 正島忠貴 埋橋賢吾 小林恭子	2016 年 3 月 12 日 広島市	広島県厚生連
広島西部地区病病・病診連携勉強会	C 型肝炎治療の現状～透析・CKD 患者を中心に～	相坂康之		2016 年 3 月 12 日 広島市	西部地区病病・病診連携勉強会プリストルマイヤーズ

小児科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
山陽小児科疾患研究会	小児の遷延性咳嗽、慢性咳嗽	岡島宏易	2015 年 6 月 13 日 広島	山陽小児科疾患研究会
広島小児救急研究会	食物アレルギーによるアナフィラキシーショックについて	岡島宏易	2015 年 6 月 23 日 広島	広島小児救急研究会
広島小児アレルギー研究会	小児アレルギー疾患に対する広島県での取り組み	岡島宏易	2015 年 7 月 30 日 広島	広島小児アレルギー研究会
西日本小児アレルギー研究会	JPAC 上コントロール良好であった喘息児の気道過敏性と肺機能、気道可逆性、呼気中一酸化窒素の関係	岡島宏易	2015 年 8 月 8 日 福岡	西日本小児アレルギー研究会
呉小児科医会	小児の遷延性咳嗽、慢性咳嗽	岡島宏易	2015 年 11 月 30 日 呉	呉小児科医会

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社	
佐伯地区医師会講演会	当科における膵がん治療	佐々木秀	2015 年 4 月 21 日 廿日市市		
西部地区 病病・病診連携勉強会	鼠径ヘルニアに対する最新の治療法—腹腔鏡手術—	田崎達也	2015 年 5 月 9 日 広島県広島市	武田薬品	
第 13 回岩国広島西地区消化器疾患懇話会	虫垂炎治療 Interval appendectomy の 1 例	馬場健太 亀田靖子 田崎達也 今村祐司	杉山陽一 黒尾優太 香山茂平 中光篤志	田妻昌 中村浩之 佐々木秀	
第 56 回原子爆弾後障害研究会	放射線被曝と甲状腺癌発生に関する新しい治験に基づいた被曝者甲状腺癌の手術法について：広島原爆被曝 70 周年を迎えて	武市宣雄 大成亮次	野宗義博 田崎達也	土肥雪彦 星 正治	2015 年 6 月 7 日 広島県広島市

研究会講演・発表

第12回中国四国ヘルニア手術研究会	鼠径ヘルニア治療におけるケースバイケース	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 今村祐司	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 中光篤志	香山茂平 黒尾優太 田妻 昌	2015年7月11日 香川県高松市	
第1回中国四国腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会	剥離のポイント解説	田崎達也			2015年7月25日 岡山県岡山市	
第8回広島腹腔鏡勉強会	腹腔鏡胃癌手術におけるリンパ節郭清について	杉山陽一			2015年7月25日 広島県広島市	covidien
第20回中国四国内視鏡外科研究会	当科での腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP）の定型化～再発ゼロを目指して	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 今村祐司	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 中光篤志	香山茂平 黒尾優太 田妻 昌	2015年9月11日 岡山県岡山市	
広島化学療法セミナー	パネルディスカッション	杉山陽一			2015年9月18日 広島県広島市	イーライリリー
第2回 GMENS	当院での腹腔鏡胃癌手術手技について	杉山陽一			2015年10月31日 広島県広島市	covidien
第26回佐伯医学会総会	稀な腹壁ヘルニア（スピーゲルヘルニア）に対する腹腔鏡下修復術の1例	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 今村祐司	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 中光篤志	香山茂平 黒尾優太 田妻 昌	2015年11月3日 広島県廿日市市	
第68回広島医学会総会	腹腔鏡所見から得られた成人女性鼠径部ヘルニアの特徴	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 今村祐司	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 中光篤志	香山茂平 黒尾優太 田妻 昌	2015年11月8日 広島県広島市	
広島西地区消化器疾患セミナー	術前 Imatinib 投与を行った巨大胃GISTの1例	新原健介	杉山陽一		2015年11月12日 大竹	
第1回石見ヘルニアセミナー	TAPP手術について	田崎達也			2015年12月4日 島根県益田市	メディカルリーダーズ
第1回石見ヘルニアセミナー	再発鼠径ヘルニアに対するTAPP	田崎達也			2015年12月4日 島根県益田市	メディカルリーダーズ
第44回広島内視鏡下外科手術研究会	再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 今村祐司	佐々木秀 中村浩之 亀田靖子 中光篤志	香山茂平 黒尾優太 田妻 昌	2016年1月22日 広島県広島市	covidien
第3回広島 Lap ヘルニアセミナー	Lap ヘルニア手術手技普及、定着セミナー	田崎達也			2016年1月30日 広島県広島市	covidien
第3回広島 Lap ヘルニアセミナー	当科での腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術	亀田靖子 香山茂平 黒尾優太 今村祐司	田崎達也 杉山陽一 馬場健太 中光篤志	佐々木秀 中村浩之 田妻 昌	2016年1月30日 広島県広島市	covidien
第9回 GIST 研究会	Imatinib による間質性肺炎発症後に再投与を行った腹腔内 GIST の1例	黒尾優太 今村祐司 田崎達也 亀田靖子	杉山陽一 佐々木秀 中村浩之 田妻 昌	中光篤志 香山茂平 馬場健太 台丸 裕	2016年2月6日 広島県広島市	
HOG-GC 学術講演	胃癌術前化学療法について	杉山陽一			2016年2月25日 広島県広島市	

乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第45回広島乳腺疾患研究会	精密期間における乳がん検診総合判定有用性の検討	川淵義治	2015年4月11日 広島国際会議場	広島乳腺疾患研究会・アストラゼネカ
大竹市医師会4月月例講演会	乳癌術後薬物療法～最近の話題～	川淵義治	2015年4月17日 エスポワールおおたけ	大竹市医師会・アストラゼネカ
広島市佐伯区医師会勉強会	乳癌 検診から治療方針決定まで～最近の話題～	川淵義治	2015年6月5日 佐伯区地域福祉センター	広島市佐伯区医師会
第28回乳癌診断フォーラム広島	症例検討①	板垣友子	2015年6月20日 広島大学広仁会館	乳癌診断フォーラム広島・日本化薬株式会社
乳癌学術講演会 in 広島	当院におけるペグフィログラスティムの使用経験	板垣友子	2015年10月20日 ホテルグランヴィア広島	協和発酵キリン
第27回佐伯医学会総会	妊孕性温存を希望され試みた若年性乳がんの2例	川淵義治	2015年11月3日 廿日市市商工保健会館	佐伯地区医師会

研究会講演・発表

第 68 回広島医学会総会	精密検査機関受診患者に基づいた乳がん検診総合判定シミュレーションの検討	川淵義治	2015 年 11 月 8 日 広島医師会館	広島県医師会
第 181 回広島外科会	経過中手術を施行した stage IV 乳癌の検討	川淵義治	2016 年 2 月 27 日 広島医師会館	広島県医師会

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
骨粗鬆症治療を考える会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術療法	山田清貴	2015 年 7 月 2 日 廿日市市	
骨粗鬆症リエゾンサーブिसを考える会 2015	骨粗鬆症性椎体骨折の病診連携と治療成績	山田清貴	2015 年 12 月 2 日 倉敷市	
中四国 MiSt 研究会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的後弯矯正術の Pitfall と治療成績	山田清貴	2016 年 3 月 12 日 岡山市	

脳神経外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
院内カンファレンス	眼窩内海綿状血管腫の 1 手術例	黒木一彦	2015 年 4 月 15 日 JA 広島総合病院	
広大フォーラム	当院での前交通動脈瘤に対する治療経験	黒木一彦	2015 年 4 月 21 日 広島大学	
Hiroshima brain surgeon conference	当院での最近 5 年間の脳塞栓の現状	黒木一彦	2015 年 10 月 31 日	

呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯区医師会講演会	臨床における本気の禁煙指導	渡 正伸	2015 年 10 月 13 日 広島市	佐伯区役所文化ホール
2015 秋季 広島西部呼吸器カンファレンス	COPD の病診連携—地域医療施設へのアンケートを含めて—	渡 正伸	2015 年 10 月 29 日 廿日市市	JA 広島総合病院

心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島エリア弁膜症フォーラム	Prosthetic ring endocarditis with shrunken mitral annulus late after undersized mitral annuloplasty	濱本正樹	2015 年 7 月 18 日 広島市	
第 6 回 Cardiovascular Echo in Hiroshima	血栓弁を呈した僧帽弁位生体弁の 1 例	濱本正樹	2015 年 9 月 26 日 広島市	MSD 株式会社
第 30 回循環器診療の病診連携の勉強会	血行再建に難渋した若年者の重症下肢虚血の一例	吉村幸祐	2015 年 11 月 13 日 廿日市市	アステラス製薬株式会社
第 15 回広島心臓血管外科フォーラム	弁切除した大伏在静脈で冠動脈バイパスを行う利点	小林 平	2015 年 11 月 13 日 広島市	アステラス製薬株式会社
広島動脈硬化を考える会	明るく楽しくみんなで血管チーム医療	小林 平	2016 年 1 月 27 日 広島市	興和創薬株式会社
第 32 回 Hiroshima Young Vascular Surgeon Conference	血行再建に難渋した若年者の亜急性期動脈閉塞の症例	吉村幸祐	2016 年 2 月 25 日 広島市	大塚製薬株式会社

産婦人科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
婦人科癌研究会 in Hiroshima	卵巣癌治療を臨床試験から考える	大下孝史	2015 年 9 月 25 日 シェラトンホテル広島	中外製薬株式会社

研究会講演・発表

眼科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部眼科治療フォーラム2016	当院における緑内障治療	二井宏紀	2016年3月17日 広島市	広島西部眼科医会

耳鼻咽喉科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第62回広島頭頸部腫瘍研究会	再発上咽頭癌にTS-1を使用した1例	高本宗男	2015年7月1日 広島市	広島頭頸部腫瘍研究会・大鵬薬品工業株式会社・メルクセローノ株式会社

放射線治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第14回広島放射線治療研究会	前立腺癌全摘術後PSA再発に対する放射線治療成績	廣川淳一	2015年11月7日 ホテルチューリッヒ東方2001(広島)	広島放射線治療研究会・バリアンメディカルシステムズ
広島総合病院オープンカンファレンス	当院における前立腺全摘除術後・PSA再発に対する放射線治療成績	廣川淳一	2016年2月17日 広島総合病院大会議室	広島総合病院
第16回RIGID-Net	放射線治療の概念～概論・食道癌～	桐生浩司	2016年2月24日 廿日市市商工会館	Regional Interactive GI Doctor's Network・佐伯地区医師会

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第194回広島放射線診断カンファレンス	肺分画症の1例	廣延綾子	2015年6月4日 広島大学	
第206回広島放射線診断カンファレンス	巨大腹部腫瘍の1例	坂根寛晃	2015年10月1日 広島大学	
第214回広島放射線診断カンファレンス	Tb or not Tb? That is the question.	坂根寛晃	2015年12月17日 広島大学	
CTテクノロジー第50回勉強会	さぁみんなで考えよう!～血管編～	西原礼介	2016年1月29日 広島コミュニケーションオフィス	エーザイ株式会社

麻酔科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
麻酔科学サマーセミナー	臍胸、ARDSでVV-ECMO導入となった患者の麻酔経験	藤野友里 本多亮子 松本千香子 櫻谷正明 平田旭 中尾正和	2015年6月26～28日 沖縄 万国津梁館 サミットホール	麻酔科学サマーセミナー、後援日本麻酔・集中治療テクノロジー学会、日本心臓血管麻酔学会、日本静脈麻酔学会
広島麻酔医学会	ロクロニウム投与時のTOF刺激でのtwitch回復過程と薬物動態シミュレーション濃度の再現性の検討	安田珠里 中尾正和 大月幸子 河本佐誉子 本多亮子 藤野友里	2016年1月23日 広島	広島麻酔医学会

救急・集中治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
山陰周術期研究会	チーム医療とABCDEF bundle	櫻谷正明	2015年6月27日 米子市	MSD株式会社
呼吸療法セミナー	ネーザルハイフローとNPPVをどう使い分けるか考えてみる	櫻谷正明	2015年9月27日 鳥取市	鳥取県臨床工学技士会
広島人工呼吸療法セミナー	急性期に使える?呼吸のフィジカルアセスメント	櫻谷正明	2016年1月24日 広島市	広島県臨床工学技士会

研究会講演・発表

健康管理センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
農村医学に関する調査研究報告会	アミノインデックスによるがんリスクスクリーニング	碓井裕史	2015年12月1日 JA 全厚連（東京）	一般財団法人 日本農村医学研究会

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
中区オンコロジーフォーラム	当院における G-CSF 製剤の使用状況と薬剤師の関わり	藪田ゆみ	2015年4月24日 広島市	広島中区オンコロジーフォーラム
広島県西部地区 薬剤師研修会	広島西脳卒中対策地域連携協議会における薬剤師の役割	石津克紘	2015年7月23日 廿日市市	広島県病院薬剤師会 / 廿日市市薬剤師会
第11回プレストケアセミナー	術後補助療法を受ける若年乳癌サバイバーへの支援	藪田ゆみ	2015年7月25日 広島市	広島プレストケアセミナー
広島西部泌尿器科フォーラム	前立腺癌治療における薬剤師の役割	藪田ゆみ	2015年7月31日 広島市	広島西部泌尿器科フォーラム
第75回薬剤業務・専門薬剤師研修会	敗血症性ショックの症例～昇圧剤をみて薬剤師が考えること～	吉廣尚大	2015年8月22日 広島市	広島県病院薬剤師会
広島県病院薬剤師会東支部学術講演会	地域連携における当院の糖尿病センターの役割と薬剤師の位置づけ	大田博子	2015年9月10日 福山市	広島県病院薬剤師会
第5回膵がん教室ワークショップ2015	膵がん・胆管がん患者さんの栄養サポート～当院での新たな取り組み～	山崎貴司	2015年11月7日 津市	三重パープルリボン
第5回膵がん教室ワークショップ2015	膵がん教室参加患者のサプリメント使用状況	埋橋賢吾	2015年11月7日 津市	三重パープルリボン
広島県病院薬剤師会学術講演会オンコロジー研究会	外来経口抗がん剤治療における薬剤師の関わり	白井敦史	2015年11月13日 広島市	広島県病院薬剤師会
広島県西部地区 薬剤師研修会	疑義照会！あなたならどうする!? (高血圧治療薬編)	山崎貴司	2016年2月25日 廿日市市	広島県病院薬剤師会 / 廿日市市薬剤師会
広島県西部地区 薬剤師研修会	高血圧治療における薬薬連携の現状と今後の課題	向井一樹	2016年2月25日 廿日市市	広島県病院薬剤師会 / 廿日市市薬剤師会

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第21回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	体成分分析計～CTを用いることなく肥満を評価できる優れたもの～	尾川 恵	2015年4月8日 廿日市市	広島県医師会
第21回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	～神経障害を簡便に可視化する優れたもの～	尾川 恵	2015年4月8日 廿日市市	広島県医師会
備北脂肪酸フォーラム	LDL-C 低下療法の残余リスクを考える！～ EPA/AA vs. sdLDL-C やレムナント：その測定方法を含めて～	藤井 隆	2015年5月19日 三次市	持田製薬
第30回広島乳腺超音波診断カンファレンス	腫瘍性病変の所見の取り方	三木知佐	2015年5月26日 広島市	
感染制御部門研修会	広島県における ESBL 産生菌の動向	池田光泰	2015年5月30日 広島市	広島県臨床検査技師会
筑波臨床化学セミナー2015	MDCT 画像診断科から診た冠動脈プラークとその抑制～ sdLDL-C を主体に脂質低下療法の残余リスクを考える～	藤井 隆	2015年7月4日 筑波市	特定非営利活動法人筑波臨床化学セミナー会
第27年度 良質な医師を育てる研修	冠動脈 CT	藤井 隆	2015年9月3日 岡山市	独立行政法人機構 国立病院機構
シーメンス ケンタウルスコンテスト2015	ADVIA Centaur XP によるケルミ TP 抗体（梅毒）の基礎的検討	谷口実佳	2015年9月5日	シーメンスヘルスケア
岩国内科医師会主催	LDL-C 低下療法の残余リスクを含めた脂質異常症に対する考え方～冠動脈プラーク vs. sdLDL-C と EPA/AA 測定の意義～	藤井 隆	2015年9月11日 岩国市	岩国内科医師会
広島県臨床検査技師会血液・化学合同研修会	R-CPC 研修会 症例解説	丸山恭平	2015年9月26日 広島市	広島県臨床検査技師会

研究会講演・発表

第 32 回広島乳腺超音波診断カンファレンス	後方エコーからの推定組織型	三木知佐	2015 年 9 月 29 日 広島市	
2015 年広島西部呼吸器カンファレンス	当院の呼吸機能検査について	嶋田恵美	2015 年 10 月 29 日 廿日市市	
広島県臨床検査技師会 生物化学部門研修会	生物化学分析部門研修会～多領域にも聞いてほしい異常？な生化学データ～	丸山恭平	2015 年 12 月 5 日 広島市	広島県臨床検査技師会
広島県臨床検査技師会 第 3 回一般検査部門研修会	スライドカンファレンス解説～上皮編～	荒瀬美幸	2015 年 12 月 19 日 広島市	広島県臨床検査技師会
第 35 回広島県臨床検査精度管理向上研修会	第 43 回広島県臨床検査精度管理調査－決算項目集計報告－	三舛正志	2016 年 3 月 21 日 広島市	広島県臨床検査技師会

中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
国際大学実習前講義	MRI（基礎）	本山貴志	2015 年 4 月 14 日 広島国際大学	広島国際大学
広島国際大学実習前講義	CT（臨床）	貝原雄也	2015 年 4 月 28 日 広島国際大学	広島国際大学
広島 GEMRI ユーザーズ ミーティング	当院における手関節の MRI	田田勝裕	2015 年 5 月 30 日 広島市東区民文化センター	GE Healthcare
診療放射線技師のための フレッシュャーズセミナー	当直で役に立つ救急 CT を学ぼう	山口裕之	2015 年 8 月 30 日 広島大学病院	(公社) 広島県診療放射線技師会
広島 MR 撮像技術研修会	Dixon 法 (IDEAL) の使用経験	田田勝裕	2015 年 9 月 25 日 本永病院	イーザイ株式会社
第 27 回ひろしま核医学技術検討会	放射性医薬品の届け日変更における 当院の対応	高畑 明	2016 年 3 月 5 日 グランドインテリジェントホテル	日本メジフィジックス株式会社

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 22 回 NST を本音で語る会	経管栄養に関する下痢対応マニュアルの運用と実際	八幡謙吾	2015 年 5 月 30 日 鯉城会館	共催：NST を本音で語る会、アボットジャパン株式会社、株式会社クリニコ、テルモ株式会社、株式会社明治 後援：日本静脈経腸栄養学会
第 3 回広島西部地区心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会	チームに関わる栄養士は何するの？～覗いてみよう栄養指導と栄養管理～	上村真由美	2015 年 6 月 5 日 広島総合病院	大塚製薬株式会社
膵がん胆道がん教室 2 周年記念講演会	膵がん胆道がん患者さんの栄養サポート～新たな取り組み～	八幡謙吾	2015 年 8 月 21 日 広島総合病院	日本イーライリリー株式会社
第 13 回広島 NST 研究会	ICU における NST 活動の成果～INS2013 に参加して～	八幡謙吾 上田雅美 山崎貴司 山口瑞穂 山下美香 横山富子 中島恵子 河本良美 藤本七津美 石崎淳子 藤田寿賀 平田 旭 河村夏生 櫻谷正明 香山茂平 吉田研一	2015 年 11 月 7 日 広島国際会議場	広島 NST 研究会、大塚製薬工場株式会社
第 23 回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	コメディカルレクチャー「肥満とやせへの食事指導」	三浦満美子	2015 年 12 月 9 日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会/ポノルディスクファーマ株式会社

感染防止対策室

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 18 回広島感染防止及び滅菌業務研究会	西部地区における地域連携と感染管理活動	今本紀生	2015 年 4 月 26 日 広島 YMCA	広島感染防止及び滅菌業務研究会

研究会座長

糖尿病代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
GLP-1 受容体作動薬の効果を最大限に発揮する使い方を考える	石田和史	食習慣からみたリキスマアの可能性	愛媛大学大学院 古川慎哉先生	2015年5月26日 ホテルグランヴィア 広島 (広島市南区)	サノフィ
糖尿病治療 up to date 2015～血糖コントロールと合併症対策～	石田和史	病理背景を考えた糖尿病治療戦略～ランゲルハンス島への旅路より～	弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座特任教授 八木橋操六先生	2015年9月17日 ホテルグランヴィア 広島 (広島市南区)	小野薬品工業・アストラゼネカ
グラルギンリリー発売記念講演会 in 広島	石田和史	2025年に向けた医療制度改革とバイオシミラーに期待されるアウトカム	アイ・エム・エス・インフォメーション・ソリューションズ(株)ユート・ブレン事業部 川越満先生	2015年11月17日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
グラルギンリリー発売記念講演会 in 広島	石田和史	バイオシミラーインスリンの担うべき役割	周南市立新南陽市民病院 松谷朗先生	2015年11月17日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
最適な糖尿病治療を考える会 in 広島	石田和史	病態からみた糖尿病薬物療法とSGLT2阻害薬のポジショニング	みながわ内科クリニック 皆川冬樹先生	2015年11月20日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
血糖変動をみつめる会	石田和史	糖尿病性神経障害の進展阻止にむけた新たな展開～質の良い血糖管理の重要性～	愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科准教授 神谷英紀先生	2016年1月29日 ホテルグランヴィア 広島 (広島市南区)	キッセイ薬品工業
糖尿病治療を考える会～SGLT2阻害剤の適正使用を考える～	石田和史	SGLT2阻害剤開始、その前に	片岡内科クリニック 片岡伸久朗先生	2016年2月23日 リーガロイヤルホテル広島 (広島市中区)	アステラス製薬・MSD
ライゾデグ®配合注発売記念講演会	石田和史	発売4ヶ月時点におけるライゾデグの有用性～新たな1回注射・2回注射療法の時代～	医療法人社団ユスタヴィア理事長クリニックみらい国立 宮川高一先生	2016年3月8日 ホテルグランヴィア 広島 (広島市南区)	ノボノルディスクファーマ

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
心不全チーム医療勉強会	辻山修司	心不全治療における水利尿薬の可能性～当院における使用経験～	中濱 一	2015年5月22日 広島総合病院大会議室	大塚製薬
VTEを語る会	辻山修司	外科医の立場から	大峰高広	2015年10月15日 三井ガーデンホテル	第一三共
VTEを語る会	辻山修司	産婦人科医の立場から	小出千絵	2015年10月15日 三井ガーデンホテル	第一三共
佐伯地区医師会講演会	辻山修司	かかりつけ医のための不眠診療セミナー～誰も教えてくれなかった対応と処方のごつ～	岡田武規	2016年2月23日 佐伯区医師会館	エーザイ

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
インクレチン学術講演会	兵庫秀幸	NASH・NAFLDにおける耐糖能異常の特徴 糖尿病を有するNASHの治療としてのリラグルチドの可能性	小野正文 江口有一郎	2015年4月10日 広島市	ノボノルディスクファーマ
第2回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	小松弘尚	NASH/NAFLDの臨床 慢性肝炎の臨床	兵庫秀幸 相坂康之	2015年5月18日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科、アステラス、ゼリア、佐伯地区医師会
第2回広島西部地域食道胃腸疾患研究会	古土井明	機能的消化管障害(上部消化管)の臨床	小松弘尚	2015年5月18日 廿日市市	JA 広島総合病院消化器内科、アステラス、ゼリア、佐伯地区医師会

研究会座長

第13回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	藤本佳史	NAFLDの全体像	兵庫秀幸	2015年6月4日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	新規酸分泌抑制薬への期待	伊藤公訓	2015年6月23日 廿日市市	佐伯地区医師会、武田薬品、大塚製薬
第14回Regional Interactive G.I.Doctors'Network	相坂康之	C方肝炎治療の現状と今後の展望	今村道雄	2015年6月24日 廿日市市	Rigid Net、アストラゼネカ、第一三共
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	医療安全講習会 感染対策講習会	服部哲茂 大毛宏喜	2015年10月13日 廿日市市	佐伯地区医師会
第26回佐伯医学会総会	徳毛宏則	21世紀の健康はどうなるか？～予防医学からの視座～	石川善樹	2015年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会
第68回広島医学会総会	徳毛宏則	患者さんにとってHappyな経口血糖降下薬の使い分け	石田和史	2015年11月8日 広島市	広島県医師会
第1回広島肝臓疾患フォーラム	徳毛宏則	高齢発症の自己免疫性肝炎の1例	京田尚子	2015年11月25日 廿日市市	広島肝臓疾患フォーラム、第一三共
第1回広島肝臓疾患フォーラム	相坂康之	NASHガイドライン2015	兵庫秀幸	2015年11月25日 廿日市市	広島肝臓疾患フォーラム、第一三共
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	広がる画像強調内視鏡診断の世界～経鼻内視鏡から拡大内視鏡まで～	大澤博之	2015年12月15日 廿日市市	佐伯地区医師会、フジシステム
佐伯地区医師会学術講演会	小松弘尚	アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について～「もしも…」の時に備えて、話し合いをはじめよう～	本家好文	2016年1月19日 廿日市市	佐伯地区医師会、地対協
肝臓と糖尿病セミナー in 広島	兵庫秀幸	糖尿病や生活習慣病の診療に潜む非アルコール性脂肪肝炎を見落とさないために	江口有一郎	2016年3月17日 広島市	田辺三菱、第一三共

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第5回重症喘息 meeting in Hiroshima	岡島宏易	小児の重症喘息		2015年11月10日	

外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第1回石見ヘルニアセミナー	田崎達也	TAPPビデオカンファレンス	豊田暢彦 金廣哲也 ほか	2015年12月4日 島根県益田市	covidien
第3回広島Lapヘルニアセミナー	田崎達也	TAPPビデオカンファレンス	清水 亘 亀田靖子 ほか	2016年1月30日 広島県広島市	メディカルリーダーズ

乳腺外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第45回広島乳腺疾患研究会	川淵義治	①女性化乳房症に対する外科治療の経験 ②術後早期に局所再発をきたした家族性乳癌が強く疑われる若年性乳癌の2例 ③当院における乳房一次再建症例の検討 ④当院における根治性と整容性を重視した皮下乳腺全摘術の取り組み	①JA尾道総合病院 大野夏美 ②福山市民病院 突沖貴宏 ③県立広島病院 末岡智志 ④広島市民病院 吉村友里	2015年4月11日 広島国際会議場	広島乳腺疾患研究会・アストラゼネカ
第5回広島乳癌カンファレンス	川淵義治	ASCO2015等昨今の国際学会での話題及び国内の動向	藤澤知己	2015年6月20日 シェラトンホテル広島	広島乳癌カンファレンス・ノバルティスファーマ

研究会座長

第11回広島プレステケアセミナー	川淵義治	シンポジウム：術後補助療法を受ける若年乳がんサバイバーへの支援	①松山赤十字病院 川口英俊 ②がん研有明病院 花出正美 ③JA広島総合病院 藪田ゆみ ④安佐市民病院 藤山史恵	2015年7月25日 広島大学広仁会館	広島プレステケアセミナー・武田薬品工業
------------------	------	---------------------------------	--	------------------------	---------------------

脳神経外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第3回広島西部地区連携シームレスケア勉強会	黒木一彦	脳梗塞の治療と再発予防 抗血栓療法の継続性	橋本洋一郎	2015年7月31日 五日市記念病院	

心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島動脈硬化治療を考える会	小林 平	各病院での技師の役割 一画像診断で工夫	放射線技師	2015年7月14日 広島市 オリエンタルホテル	興和創薬株式会社
第107回日本循環器学会中国地方会	濱本正樹	一般演題（弁膜症1）	循環器内科医師 心臓血管外科医師	2015年11月28日 広島市 アステールプラザ	日本循環器学会
第107回日本循環器学会中国地方会	小林 平	コメディカル奨励賞	コメディカル	2015年11月28日 広島市 アステールプラザ	日本循環器学会
第56回広島循環器病研究会	濱本正樹	我が国における心臓移植と補助人工心臓の現状と将来展望	東京大学 心臓外科教授 小野稔	2015年12月5日 広島市 エソール広島	広島循環器病研究会、トーアエイヨー株式会社
第24回広島心血管手術手技研究会	濱本正樹	MICS CABG（低侵襲冠動脈バイパス術）における術野展開の工夫	大和成和病院 心臓血管外科 菊池慶太	2016年2月6日 広島市 三井ガーデンホテル広島	CSLベ어링株式会社、セント・ジュード・メディカル株式会社

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	女性下部尿路機能障害へのアプローチ	井上勝己	2015年6月4日 広島サンプラザ	日本新薬株式会社
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	深部子宮内膜症への腹腔鏡下手術と術後薬物療法	太田啓明	2015年10月15日 広島サンプラザ	バイエル薬品株式会社
西部地区産婦人科医会	中西慶喜	子宮頸がんに対する妊孕性温存手術としての腹式広汎子宮頸部摘出術～外科的および産科的予後と頸がん合併妊婦への応用	小林裕明	2016年1月21日 広島サンプラザ	日本化薬株式会社

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県西部地区 薬剤師研修会	橋本佳浩	特別講演		2015年7月23日 廿日市市	
広島県西部地区 薬剤師研修会	大田博子	一般演題		2015年7月23日 廿日市市	
広島県西部地区 薬剤師研修会	橋本佳浩	特別講演		2016年2月25日 廿日市市	
広島県西部地区 薬剤師研修会	大田博子	一般演題		2016年2月25日 廿日市市	

臨床研究検査科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シーメンス中国・四国ハマトロジーセミナー	三舛正志	血液検査部門		2015年4月18日 広島市	シーメンスヘルスケア

研究会座長

せとうちCT/MR勉強会	藤井 隆	Dual Energy CTの心臓への応用	町田治彦	2015年10月31日 広島市	富士薬品製薬
全国「検査と健康展」市民公開講座	水野誠士	健康診断の臨床検査値の見方	佐守友博	2015年11月28日 広島市	日本臨床衛生検査技師会 広島県臨床検査技師会
シーメンス血液ガスセミナー in 広島	水野誠士	血液ガス分析を取り巻く最近の動向	横山 稔	2016年2月6日 広島市	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)
シーメンス血液ガスセミナー in 広島	水野誠士	血液ガス分析における乳酸測定の有用性	白柳 譲	2016年2月6日 広島市	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)
シーメンス血液ガスセミナー in 広島	水野誠士	日当直における血液ガス集中管理システムの運用と効果	藤中敦士	2016年2月6日 広島市	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス(株)
共用基準範囲の利用状況から今後の課題	水野誠士	共用基準範囲の利用についてのアンケート調査報告	米田登志男	2016年3月21日 広島市	広島県医師会 広島県臨床検査技師会
共用基準範囲の利用状況から今後の課題	水野誠士	登録衛生検査所の取り組み状況	奥原俊彦	2016年3月21日 広島市	広島県医師会 広島県臨床検査技師会
第35回広島県臨床検査精度管理向上研修会	水野誠士	第43回精度管理調査結果の評価・解説 生化学・免疫	森本隆行	2016年3月21日 広島市	広島県医師会 広島県臨床検査技師会
第35回広島県臨床検査精度管理向上研修会	水野誠士	第43回精度管理調査結果の評価・解説 血液	三舛正志	2016年3月21日 広島市	広島県医師会 広島県臨床検査技師会
第35回広島県臨床検査精度管理向上研修会	水野誠士	第43回精度管理調査結果の評価・解説 輸血	藤井明美	2016年3月21日 広島市	広島県医師会 広島県臨床検査技師会

実績

中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島 GEMRI ユーザーズミーティング	本山貴志	臨床講座「四肢MR」	血田勝裕 神岡尚吾 横竹祐則	2015年5月30日 広島市東区民文化センター	GE Healthcare
広島県診療放射線技師会平成27年度第1回研修会	山口裕之	診療放射線技師会へ加入するメリットとは	今田直幸	2015年6月21日 広島大学病院	(公社) 広島県診療放射線技師会
第26回ひろしま核医学技術検討会	高畑 明	小児核医学における放射性医薬品の使用ガイドライン	木田哲生	2015年9月6日 RCC文化センター	日本メジフィジックス株式会社
第33回せとうち心臓CT・MR勉強会	山口裕之	320列ADCTによるCoronary CTA撮影技術～不整脈と高度石灰化への対応～	佐野始也	2015年10月31日 広島国際大学広島キャンパス	富士製薬工業株式会社
広島県診療放射線技師会市民公開講座	山口裕之	緊急被ばく医療における広島大学病院・診療放射線技師の役割	隅田博臣	2016年1月16日 エソール広島	(公社) 広島県診療放射線技師会
安芸RI倶楽部勉強会	高畑 明	診療放射線技師からみた高精度放射線治療の現状		2016年1月30日 グランドインテリジェントホテル	富士RIファーマ株式会社
第13回 Multi Modality Forum	山口裕之	CTで診る骨盤腔～下腹部の痛み～	塩谷正貴	2016年2月6日 エソール広島	富士製薬工業株式会社
第17回CTテクノロジーセミナー	田丸隆行	頭頸部CTの実践	山本浩之	2016年3月26日 エソール広島	エーザイ株式会社

臨床工学科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第5回中四国臨床工学会	荒田晋二	日本臨床工学技士連盟		2015年11月21～22日 広島	
第5回中四国臨床工学会	荒田晋二	パネルディスカッション チーム医療～再考～		2015年11月21～22日 広島	

栄養科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
膵がん胆道がん教室2周年記念講演会	河本良美	抗癌剤治療中の食事対策	石長孝二郎 (広島女学院大学教授)	2015年8月21日 広島総合病院	日本イーライリリー株式会社

研究会座長

感染防止対策室

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島感染制御セミナー	今本紀生	CRE を含む耐性菌の感染制御の実務	米田佳子	2015年9月12日 広島 YMCA	シスメックス株式会社

緩和ケアチーム

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県緩和ケア認定看護師会	高原さおり	「ストレス・マネジメントについて」	早川昌子	2015年9月5日 広島県病院	広島県緩和ケア認定看護師会主催・大鵬製薬共催
廿日市市五師士会	小松弘尚	「ACP について」	有田健一	2016年3月5日 あいプラザ	廿日市市五師士会

地域活動

糖尿病代謝内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第6回広島いちがたの会	石田和史	1型糖尿病患者 & 家族、糖尿 病医療従事者	2015年6月27日 広島市文化交流会館（広 島市中区）	日本イーライリリー・広島 VOX	135人
興生メディカルフェスティバル 里仁祭 2015 市民公開講座講演「糖尿病を治療する本当の意味は何なのか？～糖尿病を正しく理解し、治療のポイントを学びましょう～」	石田和史	三原市地域住 民	2015年9月6日 興生総合病院（広島県 三原市）	興生総合病院	約200 人
あいプラザまつり「あなたの筋肉量を測定しませんか？～今から楽しむ運動習慣～」	糖尿病診 療に関わ るスタッ フ全員	一般市民	2015年11月8日 あいプラザ（広島県廿 日市市）	廿日市市	120人

消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第5回西日本医学英語勉強会「Do you know NASH？」	徳毛宏則	一般市民	2015年4月26日 広島市	西日本医学英語研究会	50人

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
「学校における食物アレルギー対策」講演	岡島宏易	医師	2015年7月28日 広島医師会館	ファイザー	85人
エピペン講習会	岡島宏易	学校職員	2015年8月5日 大野西小学校	大野西小学校	35人
エピペン講習会	岡島宏易	学校職員	2015年8月25日 大野東小学校	大野東小学校	35人
食物アレルギー対応研修	岡島宏易	学校職員	2015年8月26日 廿日市小学校	廿日市小学校	40人
エピペン講習会	岡島宏易	学校職員	2015年9月17日 阿品台中学校	阿品台中学校	40人
アレルギー週間の集い 2016in 広島	岡島宏易	一般	2016年2月28日 リーガロイヤルホテル	日本アレルギー協会中国支 部	120人

乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座	川淵義治	一般市民	2015年6月21日 はつかいち分化ホール さくらびあ	JA 広島総合病院	
広島乳がんアカデミア	川淵義治	一般市民	2015年10月11日 広島国際会議場	広島乳がんアカデミア	830人

脳神経外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
市民公開講座 「災害拠点病院の役割 DMAT（災害派遣医療チーム）の活動を中心に」	黒木一彦	一般市民	2016年1月31日 はつかいち分化ホール さくらびあ	JA 広島総合病院	

呼吸器外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
地域医療従事者研修会 「肺がんの診療」	渡 正伸	一般市民	2015年8月28日 廿日市市	JA 広島総合病院	

地域活動

健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
転倒骨折予防	増本順子	年金受給者	2015年5月14日 JA広島市深川支店	JA広島市経済事業部 ふれあい課	20人
ひざ・こし痛み予防で健康生活	森川裕子	年金受給者	2015年5月15日 西区民文化センター	JA広島市総務課	31人
がん検診を受けましょう	碓井裕史	地域住民	2015年6月21日 はつかいち文化ホール	JA広島総合病院、廿日市市	223人
転倒予防	増本順子	JA組合員	2015年7月8日 JA広島市緑井購買センター	JA広島市経済事業部 ふれあい課	26人
健康寿命の延ばし方	碓井裕史	タイムズ関係者	2015年7月24日 ANAクラウンプラザ広島	タイムズ24	60人
住み慣れた待ちで生き生き暮らす～歯と口の健康～	尾茂田彩	JA組合員	2015年8月24日 JA広島市砂谷支店	JA広島市経済事業部 ふれあい課	25人
健康寿命の延ばし方	碓井裕史	JA組合員	2015年8月29日 JA呉郷原支店	JA呉郷原支店	30人
住み慣れた待ちで生き生き暮らす～健康寿命と生活習慣病予防～	長田恵美子	JA組合員	2015年9月15日 JA広島市可部支店	JA広島市経済事業部 ふれあい課	25人
健康体操	東 千穂 尾茂田彩	JA組合員	2016年2月9日 大野3区集会所	JA佐伯中央ふれあい課	24人
認知症	林直子	JA組合員	2016年3月23日 JA広島市五日市中央支店	JA広島市経済事業部 ふれあい課	147人

看護科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
災害支援ナース登録者研修	寺田英子	静岡県看護協会会員	2015年8月28日 静岡市	静岡県看護協会	414人
「ちょっとひと息 医療とふくしの相談室」のミニ講座	寺田英子	一般市民	2015年10月22日 佐方公民館	地域包括支援センター	22人
災害支援ナースフォローアップ研修	寺田英子	香川県看護協会会員	2015年10月24日 高松市	香川県看護協会	128人
看護管理者のための災害への備えと発災時の対応ー災害拠点病院としての看護管理者の役割ー	寺田英子	全国の看護部長・副看護部長職	2016年1月23日 神戸市	日本看護協会	39人
市民公開講座	寺田英子	一般市民	2016年1月31日 さくらびあ	JA広島総合病院	約400人

東3階

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第21回日本心臓リハビリテーション学会	正木博之 石川恵子 門内美鈴	一般市民・医療従事者	7月18日19日 福岡国際会議場	特定非営利活動法人日本心臓リハビリテーション学会	

訪問看護ステーション

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島西医療圏訪問看護推進協議会（研修会）「高齢者の脱水について」	奥元直美 古本直子	広島西医療圏訪問看護師、介護支援専門員、訪問介護員	2015年5月30日 JA広島総合病院 大会議室	広島西医療圏訪問看護推進協議会	34人
広島西医療圏訪問看護推進協議会（研修会）「嚥下の評価と方法」「在宅での栄養管理」	奥元直美 古本直子	広島西医療圏訪問看護師、介護支援専門員、訪問介護員	2015年11月14日 あいプラザ2F	広島西医療圏訪問看護推進協議会	36人
広島西医療圏訪問看護推進協議会（研修会）「在宅診療におけるラジカットの適性使用について」「嚥下食・栄養補助食品について」	奥元直美 古本直子	広島西医療圏訪問看護師、介護支援専門員、訪問介護員	2016年2月13日 あいプラザ3F	広島西医療圏訪問看護推進協議会	42人

地域活動

薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
FCCS 大阪 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2015年4月18～19日 大阪西医療センター	JSEPTIC	
FCCS 出雲 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2015年4月27～28日 島根医科大学病院	JSEPTIC	
FCCS 広島 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2015年7月25～26日 広島大学病院	JSEPTIC	
平成27年度CKD予防教室	大田博子	一般市民	2015年9月11日 廿日市市	廿日市市福祉保健部健康推進課	
ICLS コース インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2015年9月12日 JA 広島総合病院	ICLS	
JA レディース講座 住み慣れた町でいきいき暮らすために	橋本佳浩	一般市民	2015年9月18日 広島市	JA 広島総合病院	
FCCS 九州 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2015年10月31～11月1日 九州大学病院	JSEPTIC	
FCCS 倉敷 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2015年12月5～6日 倉敷中央病院	JSEPTIC	
FCCS 大阪 インストラクション	吉廣尚大	メディカルスタッフ	2016年3月5～6日 三重大学病院	JSEPTIC	

中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
レントゲン週間	山口裕之	市民	2015年11月29日 シャレオ中央広場	(公社) 広島県診療放射線技師会	400人
レントゲン週間	本山貴志	市民	2015年11月29日 シャレオ中央広場	(公社) 広島県診療放射線技師会	400人

リハビリテーション科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
腰痛体操についての講演	井場和敏 小山明子	JA 広島市レディースクラブ	2015年4月17日 JA 広島市本店	JA 広島市レディースクラブ	120人
JA 広島市レディース講座	上田雅美	JA 広島市女性部	2015年8月28日 JA 広島市温品支店	JA 広島市	30人

栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
地域医療従事者研修会『NSTの活動について』	八幡謙吾	地域医療従事者	2015年4月17日 大会議室	地域医療連携室	25人
五日市記念病院 施設内研修	八幡謙吾	メディカルスタッフ	2015年4月22日 五日市記念病院	五日市記念病院	50人
がんサロン 講師「お酒にまつわるあれこれ話」	要田裕子	がん患者・医療従事者	2015年6月22日 地域連携室	地域医療連携室 がん相談支援センター	3人
JA 広島市 レディース講座「健康でアクティブな生活を送るための食事とは？」	八幡謙吾	JA 広島市レディースクラブ会員	2015年8月4日 JA 深川支店	JA 広島市レディースクラブ	31人
JA 広島市 レディース講座「健康でアクティブな生活を送るための食事とは？」	八幡謙吾	JA 広島市レディースクラブ会員	2015年9月2日 JA 祇園支店	JA 広島市レディースクラブ	15人
JA 広島市 レディース講座「健康でアクティブな生活を送るための食事とは？」	八幡謙吾	JA 広島市レディースクラブ会員	2015年10月2日 JA 口田支店	JA 広島市レディースクラブ	26人
ちょっと一息医療とふくしの相談室	河本良美 松下有紀	廿日市市住民	2015年12月2日 廿日市一丁目集会所	廿日市市五師士会	2人
第1回心臓いきいきキャラバン研修会	上村真由美	地域医療従事者	2015年12月21日 大会議室	JA 広島総合病院	62人

地域活動

医療安全管理室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
大野浦病院 施設内医療安全研修（講師）	村中好美	病院職員	2015年8月6日 大野浦病院	大野浦病院	80人
山陽看護専門学校「医療安全」（授業）	村中好美	看護学生	2015年10月20日～11月20日（4日間） 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人

感染防止対策室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
長崎病院 施設内研修会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年6月16日 長崎病院	長崎病院	40人
地域医療従事者研修会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年6月18日 広島総合病院	広島総合病院	40人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年9月17日 佐伯区民文化センター	佐伯区医師会	60人
山陽看護専門学校「看護管理」（授業）	今本紀生	看護学生	2015年9月24日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
アマンリハビリテーション病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年10月8日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	80人
阿品土谷病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年10月19日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	60人
阿品土谷病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年11月16日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	60人
高齢者福祉施設職員等結核予防講習会（講演）	今本紀生	高齢者福祉施設職員	2015年11月19日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	25人
大野浦病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年11月25日 大野浦病院	大野浦病院	80人
JA 佐伯中央訪問介護事業所 施設内研修（講演）	今本紀生	介護ヘルパー	2015年12月17日 JA 佐伯中央	JA 佐伯中央	15人
広島グリーンヒル病院 施設内研修（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2015年12月22日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	65人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	メディカルスタッフ	2016年1月21日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	80人
吉田保育園 保護者勉強会（講演）	今本紀生	幼児保護者	2016年2月4日 吉田保育園	吉田保育園保護者会	60人

総合医療相談室

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ちよっとひと息医療と福祉の相談室	正島	地域住民	2015年5月28日 佐方市民センター	はつかいち五師士会	15人
ちよっとひと息医療と福祉の相談室	益村	地域住民	2015年7月23日 阿品市民センター	はつかいち五師士会	22人
ちよっとひと息医療と福祉の相談室	佐藤岡村	地域住民	2015年9月24日 国実集会所	はつかいち五師士会	16人
ちよっとひと息医療と福祉の相談室	三谷	地域住民	2016年3月24日 串戸市民センター	はつかいち五師士会	16人

緩和ケアチーム

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
「緩和ケア概論」	小松弘尚	医療従事者	2015年7月9日 18:00～19:00 廿日市交流プラザ	ヤンセンファーマー	20人

地域活動

「緩和ケアを知って自分らしく生きる」	高原さおり	JA広島市レディースクラブ会員	2015年8月18日 JA広島市安支店2階	JA広島総務部	52人
「在宅緩和ケア研修会」緩和ケアについて・在宅緩和ケアコーディネーターの役割・がん診療連携拠点病院から在宅緩和ケアコーディネーターへ伝えたいこと	小松弘尚 正島忠貴 古本尚子	地域医療従事者	2015年9月26日 うつみビル2階	JA広島総合病院医療福祉センター	
「緩和ケアについて」	小松弘尚	一般市民	2015年9月17日 田辺三菱会議室	田辺三菱	15人
「家族ケアと看取り」	高原さおり	広島グリーンヒル病院 看護部	2015年10月27日 広島グリーンヒル病院 五日市後楽園2階会議場	広島グリーンヒル病院 看護部	80人

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

糖尿病代謝内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	広島エリアにおける2型糖尿病診療	座談会（メディカルレビュー社）	協和発酵キリン	2015年6月16日実施
石田和史	患者さんの気持ちをつかむ糖尿病治療の実践～患者さんからの学びを臨床に活かす～	Lilly Diabetes Web Conference（インターネット配信）	日本イーライリリー	2015年7月1日
石田和史	糖尿病地域連携パス、真に連携すべきものは何か？～チーム力を結集して糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	K-ネットカンファレンス～糖尿病地域医療連携を探索する～（インターネット配信）	キッセイ薬品工業	2015年7月14日
石田和史	患者さんに寄り添う、よりテーラーメイドなインスリン治療の実践～多彩になったインスリン製剤を多様な糖尿病患者さんに活かす～	インスリン Web ストリーミング講演会（インターネット配信）	日本イーライリリー	2015年10月19日

消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
兵庫秀幸	座談会 糖尿病の薬物治療～心腎及び肝疾患を見据えて～	広島2型糖尿病座談会		2015年6月9日
相坂康之	C型肝炎とはどんな病気 新しいC型肝炎治療について	あなたの健康守り隊	FMちゅーピー	2015年8月28日
兵庫秀幸	脂肪肝とNASH	健康ラジオ	廿日市市	2015年9月26日
兵庫秀幸	脂肪肝・NASHについて	医療情報コーナー	FMはつかいち	2016年3月30日

乳腺外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
川淵義治	がんサバイバーシップって何のこと？	あなたの健康守り隊	FMちゅーピー	2015年10月2日
川淵義治	がんサバイバーシップの取り組みとは？	あなたの健康守り隊	FMちゅーピー	2015年10月16日

耳鼻咽喉科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
高本宗男	鼻出血（びしゅっけつ）について	佐伯地区医師会 presents はつかいち医療情報	FMはつかいち	2016年2月1日 8日 9:30・13:15・18:15

画像診断部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
西原礼介	造影剤：ア・ラ・カルト	あなたの健康守り隊	FMちゅーピー	2015年12月4日
西原礼介	からだにやさしいIVR治療ってなに？	あなたの健康守り隊	FMちゅーピー	2015年12月18日

健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
尾茂田彩	日焼け予防	こいづみ	JA広島市	2015年4月号
増本順子	食中毒を防ごう	こいづみ	JA広島市	2015年5月号
長田恵美子	じめじめ むわむわ 水虫にご用心	こいづみ	JA広島市	2015年6月号
森川裕子	こころが疲れていませんか？自分のストレスに気づくポイント	こいづみ	JA広島市	2015年7月号
尾茂田彩	夏ばてに注意！暑い夏を乗り越えよう	こいづみ	JA広島市	2015年8月号
長田恵美子	お酒と上手につきあいましょう	こいづみ	JA広島市	2015年9月号

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

森川裕子	がん検診、受けていますか？	こいづみ	JA 広島市	2015年10月号
尾茂田彩	どろどろ血液を防ごう	こいづみ	JA 広島市	2015年11月号
林 直子	ノロウイルスに気をつけよう！	こいづみ	JA 広島市	2015年12月号
長田恵美子	低温やけどに気をつけて	こいづみ	JA 広島市	2016年1月号
森川裕子	寒い時期こそ高血圧に注意しよう	こいづみ	JA 広島市	2016年2月号
尾茂田彩	花粉症	こいづみ	JA 広島市	2016年3月号
尾茂田彩	日焼け予防	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年4月号
増本順子	食中毒を防ごう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年5月号
長田恵美子	じめじめ むわむわ 水虫にご用心	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年6月号
森川裕子	ところが疲れていませんか？自分のストレスに気づくポイント	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年7月号
尾茂田彩	夏ばてに注意！暑い夏を乗り越えよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年8月号
長田恵美子	お酒と上手につきあいましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年9月号
森川裕子	がん検診、受けていますか？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年10月号
尾茂田彩	どろどろ血液を防ごう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年11月号
林 直子	ノロウイルスに気をつけよう！	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2015年12月号
長田恵美子	低温やけどに気をつけて	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年1月号
森川裕子	寒い時期こそ高血圧に注意しよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年2月号
尾茂田彩	花粉症	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2016年3月号

中央放射線科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
田丸隆行	MRI ってどんな検査？	あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	Nov-15
小濱千幸	素敵人	リビング	広島リビング新聞社	Vol. 17
貝原雄也	放射線検査と被曝について	あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	Nov-15

臨床工学科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
田中恵子	患者さんやご家族が安心できるサポートを目指して～当院における在宅人工呼吸器の実際～	一般社団法人 広島県臨床工学技士会 会誌		
田中恵子	在宅人工呼吸療法インフォメーション Home Mechanical Ventilation Vol. 3 トータルケア～急性期から慢性期、在宅まで～		フクダリフテック(株)	

栄養科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
三浦満美子	あなたの食事、多い？少ない？	あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	2015年6月5日
要田裕子	塩分、減らしたほうが良いの？	あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	2015年6月19日
河本良美	基本から最新情報まで100文字解決！糖尿病の食事療法ウソ？ホント！	糖尿病ケア	メディカ出版	2015年(12巻12号 1141-1143、1157-1159)

感染防止対策室

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
今本紀生	家庭における感染対策の必要性	FM ちゅーピーラジオ あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	2015年8月7日
今本紀生	院内感染の防止に向けて	FM ちゅーピーラジオ あなたの健康守り隊	FM ちゅーピー	2015年8月21日

合同カンファレンス

糖尿病代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第21回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(111名)	2015年4月8日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・日本ペーリンガーインゲルハイム
第22回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(105名)	2015年8月12日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・小野薬品工業
第5回実践DMチーム医療勉強会 in 広島	大久保雅通	広島県糖尿病診療に関わるコメディカル(48名)	2015年9月5日 広島県情報プラザ(広島市中区)	実践DMチーム医療勉強会 in 広島・日本糖尿病協会広島県支部・日本イーライリリー
第23回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(100名)	2015年12月9日 廿日市市商工保健会館 (広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ノボノルディスクファーマ

外科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
消化器トレーニングラボ(上部消化器編)	宮本勝也	広島大学第一外科	2015年11月8日 川崎市	エチコン
広島LG会	田邊和照	広島県内胃外科医	2016年2月19日 広島市	エチコン

乳腺外科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島乳腺超音波診断カンファレンス	岡田守人	医師・医療従事者	隔月第4火曜日 県立広島病院	ひろしま乳腺超音波勉強会

放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
(医師を対象にした)緩和ケア講習会	桐生浩司 小松弘尚	医師	2015年5月24～31日 広島総合病院	広島総合病院
(医療従事者を対象にした)放射線治療講習会	桐生浩司	医療従事者	2015年9月17日 広島総合病院	広島総合病院

健康管理センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
廿日市市健診判定委員会	碓井裕史	佐伯地区医師会医師 当院健康管理課	2015年8月28日、9月29日、10月26日、12月7日 JA広島総合病院	

リハビリテーション科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第3回広島西部地区「心疾患を有する患者のリハビリテーションを考える会」	上野忠活	近隣病院の医療従事者	2015年6月5日 JA広島総合病院	大塚製薬株式会社

合同カンファレンス

感染防止対策室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (7 施設)	2015 年 8 月 5 日 広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (7 施設)	2015 年 10 月 7 日 広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (7 施設)	2015 年 12 月 2 日 広島総合病院	
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (7 施設)	2016 年 1 月 27 日 広島総合病院	

総合医療相談室

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
大腿骨頸部骨折地域連携計画書に係る合同委員会	鈴木修身	連携医療機関	2015 年 6 月 18 日 大野浦病院	
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	黒木一彦	連携医療機関	2015 年 6 月 24 日 JA 広島総合病院	
大腿骨頸部骨折地域連携計画書に係る合同委員会	鈴木修身	連携医療機関	2015 年 10 月 22 日 アマンノリハビリテーション病院	
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	黒木一彦	連携医療機関	2015 年 11 月 6 日 JA 広島総合病院	
大腿骨頸部骨折地域連携計画書に係る合同委員会	鈴木修身	連携医療機関	2016 年 2 月 18 日 廿日市記念病院	
脳卒中地域連携計画書に係る合同委員会	黒木一彦	連携医療機関	2016 年 3 月 2 日 JA 広島総合病院	
連携医療機関との情報交換会	小深田義勝	11 医療機関	2016 年 3 月 7 日 JA 広島総合病院	

緩和ケアチーム

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
緩和ケアカンファレンス	小松弘尚	緩和チーム	毎週木曜日 西8カンファレンスルーム	なし

華道部

■ 活動内容

池坊

活動日：毎月第3水曜日

(1月、8月 休み)

場所：中棟3階従業員休憩室

時間：17：30～

プリザーブドフラワー

活動日：月2回

場所：中棟3階従業員休憩室

薬局

時間：17：30～



華道部は生花とプリザーブドフラワーに分かれて活動しています。プリザーブドフラワーは2グループに分かれ、薬局と中棟3階休憩室で月1回ずつ行われています。メンバーは、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務、MSと多職種で構成されています。

講師は廿日市にある今井花店の今井直子先生です。毎月季節に応じた見た目のプリザーブドフラワーを用意していただきます。初心者でも先生がわかりやすく説明してくれるので飛び入りでの参加も可能です。



同じ材料を使っているはずなのに、できあがった作品はどれも個性的です。他の人が作った作品を見ると自分の作品が劣って見えますが、家に持って帰ると不思議なものでとても愛着がわいてきます。プリザーブドフラワーは買うと高価であるのと枯れないため、プレゼントとして贈っても大変喜ばれます。家に飾るもよし、贈るもよしです。

お花を扱っていると日頃のストレスからも解放され穏やかな気持ちになれます。興味ある方は気軽な気持ちで参加してください。周りの華道部部員まで。



野球部

■クラブ概要

- ・部員数：30名（男性24名 女性6名）
- ・メンバー（職種）：
 医師2名、看護師6名、薬剤師3名
 管理栄養士1名、臨床検査技師7名
 臨床工学技士1名、社会福祉士1名
 事務7名、研修医1名

■活動内容

- ・練習場所：阿品台球場、宮園球場、昭北グラウンド等
- ・日時：不定期（試合の日程が決まり次第練習）



■2015年度実施行事等

- 5月：新入部員歓迎会
 - 7月：軟式用ヘルメット・キャッチャー道具購入
 - 10月：医師会ソフトボール大会（入船山公園）
 - 11月：近隣病院とのソフトボール交流戦
 （大野浦病院、広島西医療センター）
 - 2月：新年会
- ※他に不定期で練習や対外試合あり



（2015年11月 大野浦晴海臨海公園にて）

■クラブアピール

野球やソフトボール、飲み会を通じて、部員同士、近隣病院と交流を深めています。2014年にユニフォームも新調し、新メンバーも増加傾向であり、定期練習や練習試合の充実を検討中です。もちろん打ち上げは盛大にやります。

未経験者でも大歓迎で応援だけでもかまいません。是非のぞきにきて、そして参加してみてください。同時に練習試合の相手も募集中ですので、試合してみたい方もぜひ声をおかけください！



興味をもたれた方は、

お近くの野球部員もしくは

栄養科 八幡（PHS：5521）

薬剤部 埋橋（PHS：3064）

人事課 乃美（PHS：3814）

までご連絡ください!!



テニス部

■ クラブ概要

- 部員数： 30名
- メンバー： 医師・薬剤師・看護師・社会福祉士
看護師・事務職など

■ 2015年度活動内容

- 練習場所： 佐伯運動公園（佐伯区五日市町）
- 日時： 隔週水曜日 or 木曜日 19:00～21:00
- 時期： 3月～11月
- 試合
 - ・第31回広島医療メイト杯

（広島県職域対抗テニス大会）

広島県全域から、施設勤務の職員・医師・家族などでチームを組み試合を行います。今年当院からは1チームエントリーしました。

2015年8月30日（日）

びんご運動公園テニスコート（尾道市）

【結果】 Cブロック 2位

Cブロック	尾道総合	本永	安佐市民日	健康センター	広島総合	勝敗	順位
①	尾道総合	6-1 1-6 4-6	5-6 1-6 0-6	6-4 6-1 4-6	2-6 3-6 6-3	1-3 ※2	4
②	本永	1-6 6-1 6-4	3-6 6-3 6-2	6-4 6-0 6-5	6-4 4-6 6-3	4-0	1
③	安佐市民日	6-5 6-1 6-0	6-3 3-6 2-6	★ 2-6 6-3	3-6 1-6 6-2	2-2 ※1	3
④	健康センター	4-6 1-6 6-4	4-6 0-6 5-6	6-2 1-6 3-6	★ 6-1 2-6 6-3	1-3 ※2	5
⑤	広島総合	6-2 6-3 3-6	4-6 6-4 3-6	6-3 6-1 2-6	1-6 6-2 3-6	★ 2-2 ※1	2

※1、※2の順位は直接対戦の結果による

○交流会

年1～2回、楽しく飲み会をしています。テニスができなくても、興味があれば参加してください。

■ クラブアピール

初心者から中級者、子供からアラフィー、犬も時々参加して、楽しく練習や試合をしています。

真冬でも休みの日でも、やる気のある人が揃えばいつでも活動します。声をかけてください。

初心者大歓迎です！



ゴルフ部（伯友会）

■活動報告

2015年度のゴルフ部活動報告をします。

第166回 伯友会コンペ	
(2015年6月14日 チェリーゴルフクラブ 19名参加)	
優勝	丸山 聡 (泌尿器科)
準優勝	高田治彦 (OB、林病院)
3位	小深田義勝 (泌尿器科)
4位	正島忠貴 (地域連携室)
5位	中光篤志 (外科)

丸山先生、2回目の優勝です。丸山 Dr、高田 Dr と、同級生コンビの1位、2位でした。

第167回 伯友会コンペ	
(2015年9月27日 広島西カントリー 29名参加)	
優勝	関口善孝 (OB、名誉院長)
準優勝	藤本英夫 (OB、JR 広島病院)
3位	光山豊文 (OB、光山内科クリニック)
4位	小深田義勝 (泌尿器科)
5位	兼見良典 (OB、明海耳鼻科)

大ベテラン、関口先生の優勝でした。第39回地御前オープンに続いての優勝でした。本人もうれしくて、ミーティングでは狂喜乱舞の状況でした。3位は往年の光山プロでした。おめでとうございます。

第40回 地御前オープン	
(2015年11月15日 白龍湖カントリー 20名参加)	
優勝	丸山 聡 (泌尿器科)
準優勝	兼見良典 (OB、明海耳鼻科)
3位	片山浩一 (中外製薬)
4位	高田治彦 (OB、林病院)
5位	川上恭二 (OB、アマノ病院)

6月に続いて、丸山先生の優勝でした。さすが、丸山プロです。

第168回伯友会コンペ	
(2016年3月27日 和木ゴルフクラブ 26名参加)	
優勝	上村浩司 (事務)
準優勝	藤本英夫 (OB JR 広島病院)
3位	川上恭司 (OB、アマノ病院)
4位	中光篤志 (外科)
5位	井場和敏 (リハビリ)

第164回優勝の金本君以来、久しぶりの事務部門、上村君の優勝でした。忙しいとは思いますが、これからもがんばってください。5位には、新進気鋭、実力者のリハビリの井場君がはいりました。今後の活躍を期待しています。

以上が、2015年度の院内コンペの成績でした。

また、院内以外にも医師会行事のゴルフ大会に希望者が参加しています。

下記に示しますが、参加することに意義があるとのこと、成績に関しては？です。医局の先生も奮って参加してください。

▼医師会行事参加（ゴルフ部門）

グリーン会ゴルフコンペ

(2015年9月27日 鷹巣ゴルフクラブ)

- 小深田義勝 (泌尿器科)
- 中光 篤志 (外科)
- 渡 正伸 (呼吸器外科)
- 丸山 聡 (泌尿器科)

三師会ゴルフコンペ

(2015年11月29日 芸南カントリー)

- 小深田義勝 (泌尿器科)
- 中光 篤志 (外科)
- 渡 正伸 (呼吸器外科)
- 丸山 聡 (泌尿器科)
- 宮本 俊輔 (泌尿器科)

最後に、2016年度も定期的な行事が進んでいます。参加者が増えることを切望しています。

特に、他職種の女性ゴルファー参加を期待しています。

よろしくお願ひします。

大自然の中で、思い切りボールをたたきまくり、日頃の憂さを晴らしながら、みんなで楽しくゴルフを楽しみましょう。ヨロシク。

文責 病院長代行 小深田義勝

サッカー部



(試合後のさわやかな風景)

■ クラブ概要

- 通称：広総ラツィオ
- 創設：19??年
- 部員数：約15名
- メンバー（職種）：
医師、研修医、看護師、臨床検査技師、
管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、事務
など

■ 活動内容・報告

- 練習
毎月第2、第4木曜日 20:00～21:30
場所：廿日市グリーンフィールド



(練習風景)

練習は職員だけでは人数が足りないことがあるので廿日市F. Cさん主催の練習に参加させていただく形で行っていますので、地域の方々と一緒に楽しんでいます。

■ エンジョイエイトリーグ

廿日市サッカー協会が主体となっていて行われている社会人リーグに年間を通して参加しています。

2015年の成績はあまり良くなかったですが、楽しくサッカーをさせていただいています。2016年は上位を目指して頑張ります。みなさん応援よろしくをお願いします。

■ クラブアピール

サッカーがやりたい方、運動がしたい方いつでも大歓迎ですので一緒に楽しみましょう。



フットサル部

■クラブ概要

- ・創 立：2014年8月
- 代 表：栄養科 八幡 謙吾
- 副代表：臨床工学科 藤田 雄樹
- 会 計：臨床研究検査科 丸山 恭平
- ・部員数：60名（男：女=2：1）
- ※参加したことある方全てが部員です
- ※部費は徴収していません
- ・メンバー：
- 医師、研修医、看護師、薬剤師、管理栄養士
- 臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師
- 事務など当院職員、委託職員、元職員
- 元委託職員、又はその家族



■活動内容

- ・定期練習：毎月2回 19：30～21：30
- 活動場所：ミズノフットサルプラザ広島（観音）
- 参加費：1000～2000円
- （参加人数次第。女子は絶対1000円！）
- ・サンフレ医会フットサル大会参加（年1回）
- ・その他、不定期で近隣病院や医療機器メーカーさんのチームと交流戦も行っています。



■クラブアピール

当院フットサル部は、職員の心身における健康増進、多職種間交流を目的とし、2014年8月より活動を開始しました。

フットサルはサッカーと違って接触プレーが少ないため、女性も一緒にプレーしやすいのが特徴です。月2回の練習は男女混合で楽しく行っています。

その他にも、新年会や忘年会、夏には毎年BBQも開催し、日頃の業務から離れたところで、フットサル以外での交流も大切にしています。

今後は練習試合やフットサル大会への参加なども増やしていきたいと考えています。



★フットサル部に惹かれた方は、藤田（5273）、丸山、八幡（5521）など写真に写っている人まで気軽にどうぞ！



バスケットボール部

■クラブ概要

- ・チーム名：Comattus（チーム登録は男子のみ）
- ・部員（職種）
医師、臨床研修医、看護師、放射線技師
臨床工学技士、社会福祉士、事務
- ・部員数：15名程度

■活動内容

- ・練習場所：阿品台中学校
- ・日時：毎週木曜日
- ・時間：19時30分～21時30分



■クラブアピール

JA 広島総合病院のバスケットボール部は、2012年に部として発足した、比較的新しい部活動です。部活動はほぼ毎週行っており、試合形式でのミニゲームなどはもちろん、ちょっとした罰ゲーム付きのシュート練習など、みんな仲良く和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しくバスケットをしています。また、バスケットをした後に食事をしたり、年に数回飲み会を開いたりして、部員同士の交流も深めています。

バスケットは経験者でないと難しそう…。たくさん走るからきつそう…。というイメージを持たれている方は多くいらっしゃるのではないかと思います。しかし、部員の中には、経験者はもちろん、初心者の方もいます。なので、最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを分散しよ

う、ダイエットをしたい、なんて軽い気持ちでの参加も大歓迎です。きっといつの間にか、バスケットをするのも見るのも楽しくなっていると思います。カープ、サンフレッチェの次は、広島のバスケットボールチーム「広島ドラゴンフライズ」の応援もいかがですか？まずは、見学からでもよいので、ぜひ、足を運んでみてください。

また、男子は職員家族のバスケット経験者と共に市のリーグにチーム登録をしており、年に2回大会にも出場しています。ユニフォームもありますよ♪

現在も経験・未経験、男女問わず部員を募集しています。特に、女子は部員数が少ないので、全力で募集中です！興味のある方はぜひ、遊びに来てみてください。

バスケット以外にも、楽しいことが大好きな私たちは、年に1回程度、レクリエーションを企画しています。2015年度は夏に宮島でBBQをしました。私たちと一緒に、楽しいバスケットライフを始めませんか？

■年間行事

- 4月：歓迎会
- 7月 or 8月：レクリエーション
(2015年は宮島でBBQ)
- 8月：3on3大会
- 12月：忘年会
- 1月：男子公式試合
- 3月：送別会



■ Annual Report 2015 2015年(平成27年)度 年報 ■

資 料

診療科別外来患者数

平成 27 年度 月別外来患者数 (4~7月)

科 別	4月(診療日数 21日)				5月(診療日数 18日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,011	731	5,742	273.4	4,383	746	5,129	284.9
(呼吸器内科)	623	117	740	35.2	531	88	619	34.4
(循環器内科)	989	167	1,156	55.0	891	181	1,072	59.6
(腎臓内科)	672	51	723	34.4	642	48	690	38.3
(糖尿病内科)	1,230	93	1,323	63.0	1,074	94	1,168	64.9
(消化器内科)	1,377	269	1,646	78.4	1,167	317	1,484	82.4
(神経内科)	80	5	85	4.0	38	2	40	2.2
(緩和ケア科)	29	0	29	1.4	21	0	21	1.2
(総合診療科)	11	29	40	1.9	19	16	35	1.9
精神科・心療内科	55	16	71	3.4	34	6	40	2.2
小 児 科	913	146	1,059	50.4	805	109	914	50.8
外 科	1,204	88	1,292	61.5	1,080	66	1,146	63.7
乳 腺 外 科	427	49	476	22.7	421	44	465	25.8
整 形 外 科	1,459	264	1,723	82.0	1,343	219	1,562	86.8
形 成 外 科	97	18	115	5.5	127	17	144	8.0
脳 神 経 外 科	1,008	172	1,180	56.2	826	171	997	55.4
呼 吸 器 外 科	193	35	228	10.9	154	22	176	9.8
心 臓 ・ 血 管 外 科	345	58	403	19.2	385	46	431	23.9
皮 膚 科	1,629	218	1,847	88.0	1,429	218	1,647	91.5
泌 尿 器 科	1,792	108	1,900	90.5	1,599	114	1,713	95.2
産 婦 人 科	1,108	141	1,249	59.5	1,042	117	1,159	64.4
眼 科	878	116	994	47.3	769	99	868	48.2
耳 鼻 咽 喉 科	658	244	902	43.0	560	215	775	43.1
放 射 線 治 療 科	763	23	786	37.4	588	25	613	34.1
麻 酔 科	43	308	351	16.7	50	248	298	16.6
救 急 科	69	157	226	10.8	59	249	308	17.1
画 像 診 断 部	20	128	148	7.0	22	83	105	5.8
歯 科 口 腔 外 科	497	137	634	30.2	490	129	619	34.4
計	18,169	3,157	21,326	1,015.5	16,166	2,943	19,109	1,061.6
栗 谷 診 療 所	60	2	62	3.0	54	0	54	3.0
合 計	18,229	3,159	21,388	1,018.5	16,220	2,943	19,163	1,064.6

科 別	6月(診療日数 22日)				7月(診療日数 22日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,404	762	6,166	280.3	5,183	765	5,948	270.4
(呼吸器内科)	601	101	702	31.9	631	105	736	33.5
(循環器内科)	1,034	173	1,207	54.9	1,035	180	1,215	55.2
(腎臓内科)	727	49	776	35.3	725	41	766	34.8
(糖尿病内科)	1,330	94	1,424	64.7	1,216	101	1,317	59.9
(消化器内科)	1,592	311	1,903	86.5	1,487	308	1,795	81.6
(神経内科)	68	0	68	3.1	53	0	53	2.4
(緩和ケア科)	24	0	24	1.1	15	0	15	0.7
(総合診療科)	28	34	62	2.8	21	30	51	2.3
精神科・心療内科	46	19	65	3.0	52	10	62	2.8
小 児 科	884	125	1,009	45.9	953	141	1,094	49.7
外 科	1,359	82	1,441	65.5	1,243	99	1,342	61.0
乳 腺 外 科	550	61	611	27.8	565	50	615	28.0
整 形 外 科	1,647	294	1,941	88.2	1,673	247	1,920	87.3
形 成 外 科	129	24	153	7.0	106	23	129	5.9
脳 神 経 外 科	1,099	204	1,303	59.2	1,022	158	1,180	53.6
呼 吸 器 外 科	229	29	258	11.7	231	37	268	12.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	435	51	486	22.1	429	50	479	21.8
皮 膚 科	1,717	305	2,022	91.9	1,749	265	2,014	91.5
泌 尿 器 科	1,998	141	2,139	97.2	1,870	123	1,993	90.6
産 婦 人 科	1,140	158	1,298	59.0	1,188	207	1,395	63.4
眼 科	922	106	1,028	46.7	889	109	998	45.4
耳 鼻 咽 喉 科	620	280	900	40.9	673	264	937	42.6
放 射 線 治 療 科	811	29	840	38.2	763	16	779	35.4
麻 酔 科	55	329	384	17.5	76	336	412	18.7
救 急 科	56	165	221	10.0	60	229	289	13.1
画 像 診 断 部	30	116	146	6.6	26	98	124	5.6
歯 科 口 腔 外 科	627	174	801	36.4	653	166	819	37.2
計	19,758	3,454	23,212	1,055.1	19,404	3,393	22,797	1,036.2
栗 谷 診 療 所	57	7	64	2.9	53	1	54	2.5
合 計	19,815	3,461	23,276	1,058.0	19,457	3,394	22,851	1,038.7

平成27年度 月別外来患者数(8~11月)

科 別	8月(診療日数21日)				9月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,791	686	5,477	260.8	5,104	702	5,806	305.6
(呼吸器内科)	532	95	627	29.9	604	86	690	36.3
(循環器内科)	938	147	1,085	51.7	1,043	172	1,215	63.9
(腎臓内科)	627	44	671	32.0	704	40	744	39.2
(糖尿病内科)	1,197	80	1,277	60.8	1,169	95	1,264	66.5
(消化器内科)	1,380	292	1,672	79.6	1,503	289	1,792	94.3
(神経内科)	71	0	71	3.4	51	2	53	2.8
(緩和ケア科)	17	0	17	0.8	14	0	14	0.7
(総合診療科)	29	28	57	2.7	16	18	34	1.8
精神科・心療内科	32	15	47	2.2	53	8	61	3.2
小児科	939	115	1,054	50.2	872	128	1,000	52.6
外科	1,080	85	1,165	55.5	1,299	103	1,402	73.8
乳腺外科	485	45	530	25.2	488	61	549	28.9
整形外科	1,433	252	1,685	80.2	1,424	218	1,642	86.4
形成外科	95	20	115	5.5	151	24	175	9.2
脳神経外科	967	127	1,094	52.1	834	146	980	51.6
呼吸器外科	211	46	257	12.2	193	35	228	12.0
心臓・血管外科	352	60	412	19.6	413	48	461	24.3
皮膚科	1,680	269	1,949	92.8	1,514	214	1,728	90.9
泌尿器科	1,628	110	1,738	82.8	2,004	101	2,105	110.8
産婦人科	1,014	117	1,131	53.9	1,036	202	1,238	65.2
眼科	838	84	922	43.9	882	74	956	50.3
耳鼻咽喉科	575	231	806	38.4	603	212	815	42.9
放射線治療科	642	20	662	31.5	697	23	720	37.9
麻酔科	72	302	374	17.8	52	286	338	17.8
救急科	52	229	281	13.4	57	191	248	13.1
画像診断部	17	86	103	4.9	21	80	101	5.3
歯科口腔外科	588	146	734	35.0	623	139	762	40.1
計	17,491	3,045	20,536	977.9	18,320	2,995	21,315	1,121.8
栗谷診療所	52	4	56	2.7	58	0	58	3.1
合計	17,543	3,049	20,592	980.6	18,378	2,995	21,373	1,124.9

科 別	10月(診療日数21日)				11月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,103	748	5,851	278.6	4,796	753	5,549	292.1
(呼吸器内科)	550	103	653	31.1	571	92	663	34.9
(循環器内科)	1,010	153	1,163	55.4	926	181	1,107	58.3
(腎臓内科)	746	54	800	38.1	647	42	689	36.3
(糖尿病内科)	1,192	88	1,280	61.0	1,096	93	1,189	62.6
(消化器内科)	1,517	331	1,848	88.0	1,456	316	1,772	93.3
(神経内科)	56	0	56	2.7	68	0	68	3.6
(緩和ケア科)	10	0	10	0.5	10	0	10	0.5
(総合診療科)	22	19	41	2.0	22	29	51	2.7
精神科・心療内科	46	16	62	3.0	32	10	42	2.2
小児科	949	115	1,064	50.7	857	120	977	51.4
外科	1,318	97	1,415	67.4	1,216	72	1,288	67.8
乳腺外科	615	104	719	34.2	534	88	622	32.7
整形外科	1,478	278	1,756	83.6	1,423	254	1,677	88.3
形成外科	147	24	171	8.1	99	20	119	6.3
脳神経外科	856	223	1,079	51.4	858	167	1,025	53.9
呼吸器外科	227	37	264	12.6	231	45	276	14.5
心臓・血管外科	430	56	486	23.1	402	31	433	22.8
皮膚科	1,609	232	1,841	87.7	1,511	217	1,728	90.9
泌尿器科	1,929	134	2,063	98.2	1,646	101	1,747	91.9
産婦人科	1,271	171	1,442	68.7	1,188	136	1,324	69.7
眼科	851	86	937	44.6	815	50	865	45.5
耳鼻咽喉科	594	249	843	40.1	516	199	715	37.6
放射線治療科	711	14	725	34.5	700	25	725	38.2
麻酔科	66	328	394	18.8	59	327	386	20.3
救急科	65	184	249	11.9	46	182	228	12.0
画像診断部	45	77	122	5.8	43	64	107	5.6
歯科口腔外科	650	147	797	38.0	618	186	804	42.3
計	18,960	3,320	22,280	1,061.0	17,590	3,047	20,637	1,086.2
栗谷診療所	58	0	58	2.8	65	1	66	3.5
合計	19,018	3,320	22,338	1,063.7	17,655	3,048	20,703	1,089.6

平成 27 年度 月別外来患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数 20日)				1月(診療日数 19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,190	723	5,913	295.7	4,585	616	5,201	273.7
(呼吸器内科)	635	93	728	36.4	529	81	610	32.1
(循環器内科)	962	159	1,121	56.1	862	155	1,017	53.5
(腎臓内科)	745	45	790	39.5	657	48	705	37.1
(糖尿病内科)	1,254	80	1,334	66.7	1,136	74	1,210	63.7
(消化器内科)	1,495	316	1,811	90.6	1,328	238	1,566	82.4
(神経内科)	64	4	68	3.4	53	0	53	2.8
(緩和ケア科)	11	0	11	0.6	11	0	11	0.6
(総合診療科)	24	26	50	2.5	9	20	29	1.5
精神科・心療内科	30	12	42	2.1	42	10	52	2.7
小児科	1,002	147	1,149	57.5	721	140	861	45.3
外科	1,221	82	1,303	65.2	1,171	83	1,254	66.0
乳腺外科	590	94	684	34.2	534	44	578	30.4
整形外科	1,470	224	1,694	84.7	1,389	212	1,601	84.3
形成外科	127	26	153	7.7	131	19	150	7.9
脳神経外科	983	183	1,166	58.3	888	139	1,027	54.1
呼吸器外科	266	31	297	14.9	180	30	210	11.1
心臓・血管外科	452	46	498	24.9	367	47	414	21.8
皮膚科	1,598	230	1,828	91.4	1,565	211	1,776	93.5
泌尿器科	1,997	121	2,118	105.9	1,660	108	1,768	93.1
産婦人科	1,165	120	1,285	64.3	1,108	122	1,230	64.7
眼科	824	61	885	44.3	737	67	804	42.3
耳鼻咽喉科	605	218	823	41.2	523	208	731	38.5
放射線治療科	783	17	800	40.0	567	16	583	30.7
麻酔科	54	305	359	18.0	47	311	358	18.8
救急科	63	202	265	13.3	53	219	272	14.3
画像診断部	32	83	115	5.8	28	69	97	5.1
歯科口腔外科	638	148	786	39.3	597	153	750	39.5
計	19,090	3,073	22,163	1,108.2	16,893	2,824	19,717	1,037.7
栗谷診療所	58	0	58	2.9	54	2	56	2.9
合計	19,148	3,073	22,221	1,111.1	16,947	2,826	19,773	1,040.7

科 別	2月(診療日数 20日)				3月(診療日数 22日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,972	711	5,683	284.2	5,420	772	6,192	281.5
(呼吸器内科)	615	105	720	36.0	624	106	730	33.2
(循環器内科)	949	171	1,120	56.0	1,083	183	1,266	57.5
(腎臓内科)	752	45	797	39.9	742	39	781	35.5
(糖尿病内科)	1,079	91	1,170	58.5	1,336	87	1,423	64.7
(消化器内科)	1,465	262	1,727	86.4	1,559	321	1,880	85.5
(神経内科)	73	14	87	4.4	46	9	55	2.5
(緩和ケア科)	13	0	13	0.7	5	0	5	0.2
(総合診療科)	26	23	49	2.5	25	27	52	2.4
精神科・心療内科	33	7	40	2.0	42	12	54	2.5
小児科	902	128	1,030	51.5	1,074	136	1,210	55.0
外科	1,142	85	1,227	61.4	1,480	106	1,586	72.1
乳腺外科	548	58	606	30.3	567	54	621	28.2
整形外科	1,581	255	1,836	91.8	1,663	237	1,900	86.4
形成外科	119	22	141	7.1	147	24	171	7.8
脳神経外科	977	146	1,123	56.2	1,147	182	1,329	60.4
呼吸器外科	223	30	253	12.7	185	40	225	10.2
心臓・血管外科	410	62	472	23.6	500	44	544	24.7
皮膚科	1,615	227	1,842	92.1	1,732	255	1,987	90.3
泌尿器科	1,677	123	1,800	90.0	2,048	128	2,176	98.9
産婦人科	1,054	135	1,189	59.5	1,151	112	1,263	57.4
眼科	824	67	891	44.6	864	80	944	42.9
耳鼻咽喉科	597	221	818	40.9	641	251	892	40.5
放射線治療科	682	24	706	35.3	884	24	908	41.3
麻酔科	41	321	362	18.1	73	358	431	19.6
救急科	52	178	230	11.5	59	162	221	10.0
画像診断部	26	86	112	5.6	35	83	118	5.4
歯科口腔外科	654	140	794	39.7	708	168	876	39.8
計	18,129	3,026	21,155	1,057.8	20,420	3,228	23,648	1,074.9
栗谷診療所	58	1	59	3.0	55	4	59	2.7
合計	18,187	3,027	21,214	1,060.7	20,475	3,232	23,707	1,077.6

診療科別入院患者数

平成 27 年度 月別入院患者数 (4~7月)

科 別	4月(診療日数 30日)				5月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	269	306	4,583	152.8	243	296	4,588	148.0
(呼吸器内科)	39	49	985	32.8	34	55	793	25.6
(循環器内科)	66	73	851	28.4	47	62	905	29.2
(腎臓内科)	29	30	937	31.2	19	26	835	26.9
(糖尿病内科)	5	8	129	4.3	8	11	111	3.6
(消化器内科)	126	139	1,590	53.0	132	138	1,867	60.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	4	7	91	3.0	3	4	77	2.5
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	74	80	355	11.8	64	65	399	12.9
外 科	98	97	1,644	54.8	82	91	1,648	53.2
乳 腺 外 科	18	18	146	4.9	14	14	127	4.1
整 形 外 科	102	118	1,316	43.9	102	115	1,375	44.4
形 成 外 科	2	0	30	1.0	4	4	47	1.5
脳 神 経 外 科	52	68	1,437	47.9	54	62	1,201	38.7
呼 吸 器 外 科	21	24	439	14.6	18	25	565	18.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	25	31	748	24.9	20	26	661	21.3
皮 膚 科	7	10	214	7.1	18	15	279	9.0
泌 尿 器 科	70	75	792	26.4	59	69	883	28.5
産 婦 人 科	102	97	724	24.1	93	99	775	25.0
眼 科	41	38	104	3.5	40	45	113	3.6
耳 鼻 咽 喉 科	46	54	376	12.5	35	35	308	9.9
放 射 線 治 療 科	4	5	174	5.8	4	6	147	4.7
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 断 科	119	44	190	6.3	155	53	363	11.7
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	6	113	3.8	5	8	74	2.4
合 計	1,058	1,071	13,385	446.2	1,010	1,028	13,553	437.2

科 別	6月(診療日数 30日)				7月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	272	311	4,086	136.2	258	300	3,879	125.1
(呼吸器内科)	33	44	712	23.7	33	39	706	22.8
(循環器内科)	48	51	716	23.9	54	58	691	22.3
(腎臓内科)	26	34	623	20.8	20	26	567	18.3
(糖尿病内科)	8	9	143	4.8	4	4	68	2.2
(消化器内科)	152	166	1,808	60.3	143	167	1,740	56.1
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	5	7	84	2.8	4	6	107	3.5
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	68	68	385	12.8	72	65	352	11.4
外 科	100	120	1,597	53.2	97	108	1,644	53.0
乳 腺 外 科	16	20	148	4.9	21	19	124	4.0
整 形 外 科	121	126	1,357	45.2	124	134	1,641	52.9
形 成 外 科	3	4	49	1.6	2	2	20	0.6
脳 神 経 外 科	49	64	1,170	39.0	51	56	1,089	35.1
呼 吸 器 外 科	21	25	457	15.2	24	24	509	16.4
心 臓 ・ 血 管 外 科	26	25	717	23.9	20	25	769	24.8
皮 膚 科	18	20	211	7.0	12	18	192	6.2
泌 尿 器 科	81	83	816	27.2	90	92	941	30.4
産 婦 人 科	115	104	995	33.2	97	97	1,086	35.0
眼 科	50	48	120	4.0	47	43	118	3.8
耳 鼻 咽 喉 科	52	44	528	17.6	49	48	652	21.0
放 射 線 治 療 科	7	4	157	5.2	2	4	187	6.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 断 科	138	49	300	10.0	133	66	361	11.6
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	14	6	202	6.7	5	10	162	5.2
合 計	1,151	1,121	13,295	443.2	1,104	1,111	13,726	442.8

平成 27 年度 月別入院患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数 31日)				9月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	246	287	4,082	131.7	257	291	3,909	130.3
(呼吸器内科)	22	39	619	20.0	30	37	703	23.4
(循環器内科)	57	59	947	30.5	53	65	691	23.0
(腎臓内科)	21	26	740	23.9	16	21	540	18.0
(糖尿病内科)	9	15	146	4.7	9	9	153	5.1
(消化器内科)	134	142	1,529	49.3	147	154	1,636	54.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	3	6	101	3.3	2	5	186	6.2
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	81	88	479	15.5	62	69	292	9.7
外 科	92	110	1,582	51.0	85	103	1,578	52.6
乳 腺 外 科	13	14	121	3.9	16	19	119	4.0
整 形 外 科	117	137	1,470	47.4	98	116	1,299	43.3
形 成 外 科	4	3	18	0.6	3	5	17	0.6
脳 神 経 外 科	49	57	1,269	40.9	52	62	1,444	48.1
呼 吸 器 外 科	26	26	445	14.4	22	28	508	16.9
心 臓 ・ 血 管 外 科	28	27	765	24.7	37	36	887	29.6
皮 膚 科	22	21	214	6.9	21	20	306	10.2
泌 尿 器 科	59	61	786	25.4	75	82	787	26.2
産 婦 人 科	103	111	942	30.4	96	94	812	27.1
眼 科	38	40	109	3.5	40	40	130	4.3
耳 鼻 咽 喉 科	46	57	465	15.0	29	29	314	10.5
放 射 線 治 療 科	4	5	132	4.3	6	5	159	5.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	153	55	335	10.8	139	44	391	13.0
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	12	11	171	5.5	4	9	119	4.0
合 計	1,093	1,110	13,385	431.8	1,042	1,052	13,071	435.7

科 別	10月(診療日数 31日)				11月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	283	328	3,808	122.8	281	309	4,113	137.1
(呼吸器内科)	44	53	672	21.7	43	49	782	26.1
(循環器内科)	56	63	627	20.2	55	55	640	21.3
(腎臓内科)	20	22	468	15.1	26	20	714	23.8
(糖尿病内科)	9	13	152	4.9	14	12	269	9.0
(消化器内科)	152	169	1,778	57.4	142	163	1,594	53.1
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	8	111	3.6	1	10	114	3.8
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	75	66	372	12.0	90	87	516	17.2
外 科	106	113	1,643	53.0	101	106	1,475	49.2
乳 腺 外 科	16	17	102	3.3	23	22	126	4.2
整 形 外 科	118	116	1,402	45.2	135	134	1,511	50.4
形 成 外 科	4	3	23	0.7	6	6	31	1.0
脳 神 経 外 科	69	86	1,516	48.9	47	48	1,318	43.9
呼 吸 器 外 科	21	25	509	16.4	27	33	515	17.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	23	29	829	26.7	30	33	773	25.8
皮 膚 科	16	23	286	9.2	13	14	340	11.3
泌 尿 器 科	74	84	700	22.6	80	74	718	23.9
産 婦 人 科	105	108	1,014	32.7	122	109	1,059	35.3
眼 科	36	39	81	2.6	33	29	81	2.7
耳 鼻 咽 喉 科	33	36	335	10.8	36	34	361	12.0
放 射 線 治 療 科	2	9	112	3.6	3	1	9	0.3
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	118	46	311	10.0	126	42	357	11.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	13	8	124	4.0	11	14	88	2.9
合 計	1,112	1,136	13,167	424.7	1,164	1,095	13,391	446.4

平成 27 年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	253	331	4,077	131.5	290	291	4,428	142.8
(呼吸器内科)	40	55	688	22.2	33	44	663	21.4
(循環器内科)	47	56	765	24.7	69	68	948	30.6
(腎臓内科)	26	32	822	26.5	23	27	754	24.3
(糖尿病内科)	11	19	255	8.2	13	11	251	8.1
(消化器内科)	127	165	1,450	46.8	150	135	1,704	55.0
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	4	97	3.1	2	6	108	3.5
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	68	77	352	11.4	79	73	403	13.0
外 科	91	116	1,717	55.4	96	82	1,565	50.5
乳 腺 外 科	19	20	174	5.6	26	24	150	4.8
整 形 外 科	109	140	1,437	46.4	129	108	1,431	46.2
形 成 外 科	4	5	21	0.7	2	1	14	0.5
脳 神 経 外 科	56	75	1,359	43.8	54	45	1,293	41.7
呼 吸 器 外 科	24	32	515	16.6	20	17	387	12.5
心 臓 ・ 血 管 外 科	27	35	852	27.5	20	28	774	25.0
皮 膚 科	23	23	223	7.2	18	15	265	8.5
泌 尿 器 科	69	95	753	24.3	76	66	732	23.6
産 婦 人 科	95	116	1,010	32.6	95	90	811	26.2
眼 科	34	39	108	3.5	33	32	74	2.4
耳 鼻 咽 喉 科	40	46	544	17.5	37	41	482	15.5
放 射 線 治 療 科	4	3	117	3.8	2	0	99	3.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	119	38	286	9.2	132	35	400	12.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	10	12	73	2.4	7	4	97	3.1
合 計	1,045	1,203	13,618	439.3	1,116	952	13,405	432.4

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	263	340	4,468	154.1	289	320	4,219	136.1
(呼吸器内科)	48	55	826	28.5	44	56	770	24.8
(循環器内科)	51	71	874	30.1	79	74	978	31.5
(腎臓内科)	17	25	597	20.6	22	25	509	16.4
(糖尿病内科)	19	27	350	12.1	17	22	266	8.6
(消化器内科)	127	155	1,724	59.4	126	141	1,613	52.0
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	7	97	3.3	1	2	83	2.7
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	64	67	328	11.3	71	73	417	13.5
外 科	93	110	1,427	49.2	112	117	1,478	47.7
乳 腺 外 科	19	21	118	4.1	20	20	98	3.2
整 形 外 科	122	137	1,398	48.2	131	140	1,554	50.1
形 成 外 科	3	4	7	0.2	6	3	56	1.8
脳 神 経 外 科	48	69	1,201	41.4	48	56	1,126	36.3
呼 吸 器 外 科	25	20	515	17.8	23	28	506	16.3
心 臓 ・ 血 管 外 科	30	28	679	23.4	33	37	885	28.5
皮 膚 科	13	18	277	9.6	14	16	258	8.3
泌 尿 器 科	66	69	708	24.4	71	81	641	20.7
産 婦 人 科	90	93	749	25.8	92	89	790	25.5
眼 科	35	33	81	2.8	42	36	114	3.7
耳 鼻 咽 喉 科	49	44	481	16.6	40	41	497	16.0
放 射 線 治 療 科	4	3	192	6.6	2	4	183	5.9
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	123	35	443	15.3	131	50	511	16.5
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	8	125	4.3	11	11	229	7.4
合 計	1,055	1,099	13,197	455.1	1,136	1,122	13,562	437.5

患者数の推移

年度別外来患者数

年 度	平成 24 年度 (診療日数 244 日)				平成 25 年度 (診療日数 243 日)				平成 26 年度 (診療日数 245 日)				平成 27 年度 (診療日数 244 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	59,736	7,752	67,488	276.6	61,915	7,617	69,532	286.1	59,301	8,058	67,359	274.9	59,942	8,715	68,657	281.4
精神科・心療内科	915	233	1,148	4.7	455	194	649	2.7	492	174	666	2.7	497	141	638	2.6
小 児 科	9,575	1,669	11,244	46.1	9,734	1,510	11,244	46.3	9,662	1,477	11,139	45.5	10,871	1,550	12,421	50.9
外科・乳腺外科	18,616	1,778	20,394	83.6	17,685	1,824	19,509	80.3	18,830	1,634	20,464	83.5	21,137	1,800	22,937	94.0
整 形 外 科	13,018	2,297	15,315	62.8	14,461	2,543	17,004	70.0	16,765	2,814	19,579	79.9	17,983	2,954	20,937	85.8
形 成 外 科	779	250	1,029	4.2	1,346	292	1,638	6.7	1,228	240	1,468	6.0	1,475	261	1,736	7.1
脳 神 経 外 科	15,369	2,061	17,430	71.4	17,531	2,113	19,644	80.8	14,291	2,110	16,401	66.9	11,465	2,018	13,483	55.3
呼 吸 器 外 科	2,589	326	2,915	11.9	2,514	378	2,892	11.9	2,230	479	2,709	11.1	2,523	417	2,940	12.0
心臓・血管外科	5,100	450	5,550	22.7	4,468	464	4,932	20.3	4,293	518	4,811	19.6	4,920	599	5,519	22.6
皮 膚 科	17,399	2,899	20,298	83.2	18,261	3,267	21,528	88.6	18,534	2,961	21,495	87.7	19,348	2,861	22,209	91.0
泌 尿 器 科	19,781	1,684	21,465	88.0	21,192	1,451	22,643	93.2	21,051	1,461	22,512	91.9	21,848	1,412	23,260	95.3
産 婦 人 科	11,833	1,562	13,395	54.9	12,667	1,584	14,251	58.6	13,615	1,692	15,307	62.5	13,465	1,738	15,203	62.3
眼 科	9,503	1,145	10,648	43.6	9,991	1,120	11,111	45.7	10,032	1,112	11,144	45.5	10,093	999	11,092	45.5
耳 鼻 咽 喉 科	9,169	2,700	11,869	48.6	8,675	2,632	11,307	46.5	7,883	2,648	10,531	43.0	7,165	2,792	9,957	40.8
放射線治療科	9,367	267	9,634	39.5	8,968	281	9,249	38.1	8,265	347	8,612	35.2	8,591	256	8,847	36.3
麻 酔 科	1,823	3,991	5,814	23.8	2,309	4,459	6,768	27.9	1,092	3,600	4,692	19.2	688	3,759	4,447	18.2
救 急 科					130	124	254	1.0	673	1,983	2,656	10.8	691	2,347	3,038	12.5
画 像 診 断 部	4,874	2,284	7,158	29.3	741	877	1,618	6.7	104	1,327	1,431	5.8	345	1,053	1,398	5.7
歯科口腔外科	4,535	1,681	6,216	25.5	5,353	1,785	7,138	29.4	6,233	1,791	8,024	32.8	7,343	1,833	9,176	37.6
計	213,981	35,029	249,010	1,020.4	218,396	34,515	252,911	1,040.8	214,574	36,426	251,000	1,024.5	220,390	37,505	257,895	1,056.9
栗谷診療所	866	23	889	3.6	714	17	731	3.0	677	24	701	2.9	682	22	704	2.9
合 計	214,847	35,052	249,899	1,024	219,110	34,532	253,642	1,043.8	215,251	36,450	251,701	1,027.4	221,072	37,527	258,599	1,059.8

年度別入院患者数

年 度	平成 24 年度 (診療日数 365 日)				平成 25 年度 (診療日数 365 日)				平成 26 年度 (診療日数 365 日)				平成 27 年度 (診療日数 366 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	3,258	3,577	52,978	144.7	3,104	3,639	55,182	151.2	3,202	3,739	53,053	145.0	3,204	3,710	50,240	137.3
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	867	872	5,688	15.5	852	855	5,680	15.6	803	804	4,665	12.8	868	878	4,650	12.7
外科・乳腺外科	1,313	1,400	20,638	56.4	1,292	1,380	18,467	50.6	1,341	1,474	20,444	56.0	1,374	1,501	20,551	56.1
整 形 外 科	1,159	1,230	16,895	46.2	1,196	1,276	15,424	42.3	1,339	1,459	17,814	48.8	1,408	1,521	17,191	47.0
形 成 外 科	45	47	245	0.7	45	44	312	0.9	9	10	39	0.1	43	40	333	0.9
脳 神 経 外 科	563	644	13,643	37.3	581	672	14,314	39.2	568	686	15,863	43.5	629	748	15,423	42.1
呼 吸 器 外 科	270	289	4,923	13.5	246	270	4,331	11.9	235	250	4,534	12.4	272	307	5,870	16.0
心臓・血管外科	336	362	8,430	23.0	260	294	8,986	24.6	338	382	10,513	28.8	319	360	9,339	25.5
皮 膚 科	162	173	2,236	6.1	188	194	2,461	6.7	180	186	3,172	8.7	195	213	3,065	8.4
泌 尿 器 科	872	917	7,912	21.6	882	918	8,433	23.1	853	917	8,958	24.5	870	931	9,257	25.3
産 婦 人 科	1,032	1,056	7,662	20.9	1,160	1,148	9,783	26.8	1,206	1,220	10,281	28.2	1,205	1,207	10,767	29.4
眼 科	480	481	1,256	3.4	441	439	1,198	3.3	472	472	1,232	3.4	469	462	1,233	3.4
耳 鼻 咽 喉 科	499	515	6,226	17.0	473	492	5,846	16.0	461	478	4,887	13.4	492	509	5,343	14.6
放射線治療科	70	72	1,926	5.3	54	54	1,553	4.3	50	55	2,155	5.9	44	49	1,668	4.6
麻 酔 科	1,293	557	4,472	12.2	1,381	613	5,389	14.8	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科					235	76	799	2.2	1,709	631	4,899	13.4	1,586	557	4,248	11.6
画 像 診 断 部	1	1	8	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	105	103	1,377	3.8	100	99	1,261	3.5	136	138	1,576	4.3	108	107	1,577	4.3
合 計	12,325	12,296	156,515	428.8	12,490	12,463	159,419	436.8	12,902	12,901	164,085	449.5	13,086	13,100	160,755	439.2

平均在院日数

平成 27 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科		17.6	18.8	15.6	15.7	17.0	15.6	13.7	15.4	15.4	16.7	16.4	14.6
小 児 科		5.5	6.8	6.7	5.8	6.2	5.0	5.8	6.0	5.2	5.5	5.1	6.0
外 科		18.6	19.3	15.7	17.4	17.5	18.8	17.3	15.8	18.7	19.4	15.6	14.1
整 形 外 科		12.4	13.2	11.3	12.9	11.9	12.3	12.2	12.2	11.8	12.5	11.0	11.9
形 成 外 科		30.0	11.8	14.0	10.0	5.1	3.3	6.6	5.2	4.7	9.3	2.0	12.4
脳 神 経 外 科		23.9	20.3	19.4	19.3	23.4	25.7	19.8	27.9	19.5	25.1	20.3	21.8
産 婦 人 科		8.2	10.0	11.2	14.1	10.1	9.8	11.0	11.7	11.7	10.6	10.2	10.2
皮 膚 科		25.0	16.9	11.1	13.2	10.0	14.0	15.1	25.8	9.7	16.1	17.9	17.2
泌 尿 器 科		12.6	17.0	12.5	12.6	17.1	14.2	13.7	13.1	12.8	13.9	13.7	12.8
眼 科		8.3	8.5	7.4	7.1	8.9	8.2	13.0	16.7	7.6	16.0	12.4	16.3
耳 鼻 咽 喉 科		7.5	8.8	11.2	13.4	8.8	9.8	8.8	9.1	11.2	10.8	9.6	11.5
歯 科 口 腔 外 科		16.1	11.4	19.2	22.0	15.0	18.3	11.8	7.0	6.7	14.6	15.6	21.8
救 急 科、麻 醉 科		2.4	3.4	3.1	3.8	3.3	4.4	3.8	4.5	3.6	4.8	5.3	5.5
放 射 線 治 療 科		39.7	29.4	28.5	62.3	29.3	28.9	20.4	4.5	33.4	99.0	55.0	72.4
画 像 診 断 部		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼 吸 器 外 科		19.8	25.9	18.8	20.3	18.1	19.1	20.8	17.2	18.4	20.6	21.0	18.6
心 臓 血 管 外 科		27.0	35.2	29.7	38.8	29.8	25.6	33.3	25.5	30.8	34.5	25.8	26.8
精 神 科・心 療 内 科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		14.0	14.8	13.1	13.9	13.5	14.0	13.2	13.4	13.5	14.3	13.5	13.2

平成 27 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	8.1	9.0	10.2	12.2	9.3	10.0	10.1	11.0	10.4	10.1	9.6	8.9
	5 F	12.6	13.1	11.5	14.1	11.8	12.1	12.6	13.3	12.3	13.0	11.1	12.5
	6 F	20.9	21.0	16.5	18.0	17.6	19.0	18.8	16.5	21.1	19.4	16.5	15.0
	7 F	15.3	17.8	14.7	15.2	13.9	14.2	13.5	12.4	12.6	15.1	16.4	14.5
	8 F	23.3	16.9	17.2	23.4	17.4	24.9	16.1	16.9	16.7	18.5	18.5	17.9
	3 F	18.4	11.8	16.5	13.1	13.6	15.5	11.9	13.5	11.0	17.9	13.4	14.6
	救 命	1.6	2.0	1.6	1.8	2.4	1.6	1.8	2.2	2.2	2.6	2.7	2.4
東 病 棟	3 F	14.9	21.0	17.4	16.1	18.8	15.8	16.6	14.9	19.4	17.0	14.8	15.2
	4 F	6.8	8.2	8.8	9.1	7.3	7.0	7.0	6.5	7.5	7.2	7.7	8.7
	5 F	28.0	18.6	20.6	18.5	12.6	27.5	20.1	24.8	18.7	27.5	23.0	24.3
	6 F	12.7	16.4	11.4	11.7	12.6	12.7	12.5	12.8	11.1	11.6	12.6	11.2
	7 F	17.6	27.2	18.4	19.1	17.8	18.3	19.6	16.5	16.5	19.9	18.2	19.0
8 F	28.5	27.6	18.6	16.4	20.6	18.8	16.1	26.4	25.4	27.7	19.4	16.6	
計		14.0	14.8	13.1	13.9	13.5	14.0	13.2	13.4	13.5	14.3	13.5	13.2

資
料

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 27 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	79.8%
5月	76.7%
6月	76.1%
7月	74.1%
8月	74.3%
9月	77.6%
10月	74.8%
11月	76.2%
12月	77.0%
1月	78.4%
2月	78.7%
3月	80.3%
合 計	77.0%

平成 27 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	71.2%
5月	70.3%
6月	64.3%
7月	67.9%
8月	72.0%
9月	69.2%
10月	67.5%
11月	63.0%
12月	70.9%
1月	64.7%
2月	67.7%
3月	76.1%
合 計	68.7%

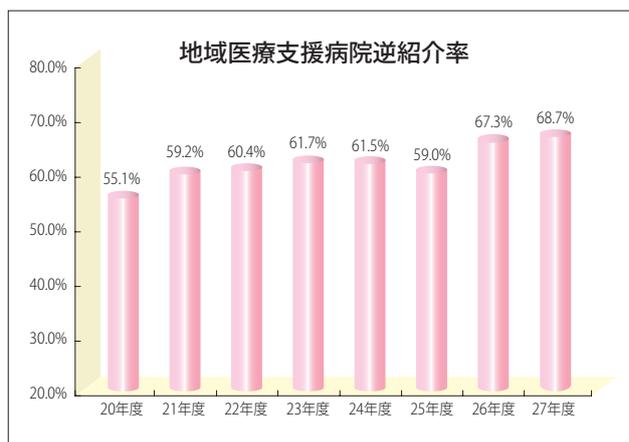
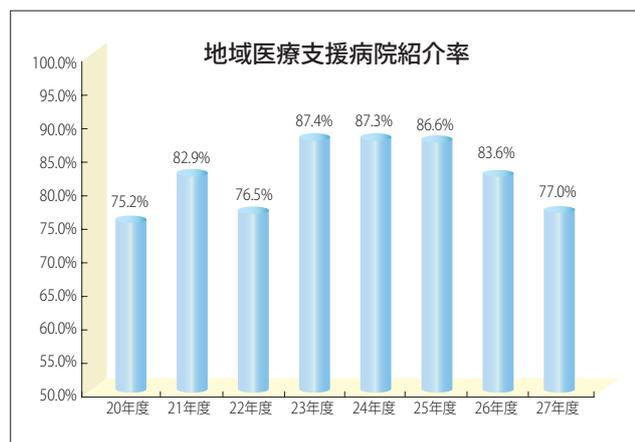
平成 27 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	69.0%
小 児 科	57.8%
外 科	95.6%
整 形 外 科	105.5%
脳 神 経 外 科	91.3%
産 婦 人 科	68.0%
皮 膚 科	73.1%
泌 尿 器 科	71.0%
眼 科	82.5%
耳 鼻 咽 喉 科	80.6%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	44.0%
救 急 科 ・ 麻 醉 科	1551.6%
放 射 線 治 療 科	91.9%
画 像 診 断 部	99.2%
心 臓 ・ 血 管 外 科	93.6%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	66.9%
形 成 外 科	92.1%
合 計	77.0%

平成 27 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	105.3%
小 児 科	14.6%
外 科	117.1%
整 形 外 科	78.0%
脳 神 経 外 科	152.9%
産 婦 人 科	23.4%
皮 膚 科	15.9%
泌 尿 器 科	31.2%
眼 科	73.5%
耳 鼻 咽 喉 科	17.2%
歯 科 ・ 口 腔 外 科	57.7%
救 急 科 ・ 麻 醉 科	1187.1%
放 射 線 治 療 科	89.2%
画 像 診 断 部	125.9%
心 臓 ・ 血 管 外 科	185.2%
精 神 科 ・ 心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	61.6%
形 成 外 科	13.2%
合 計	68.7%

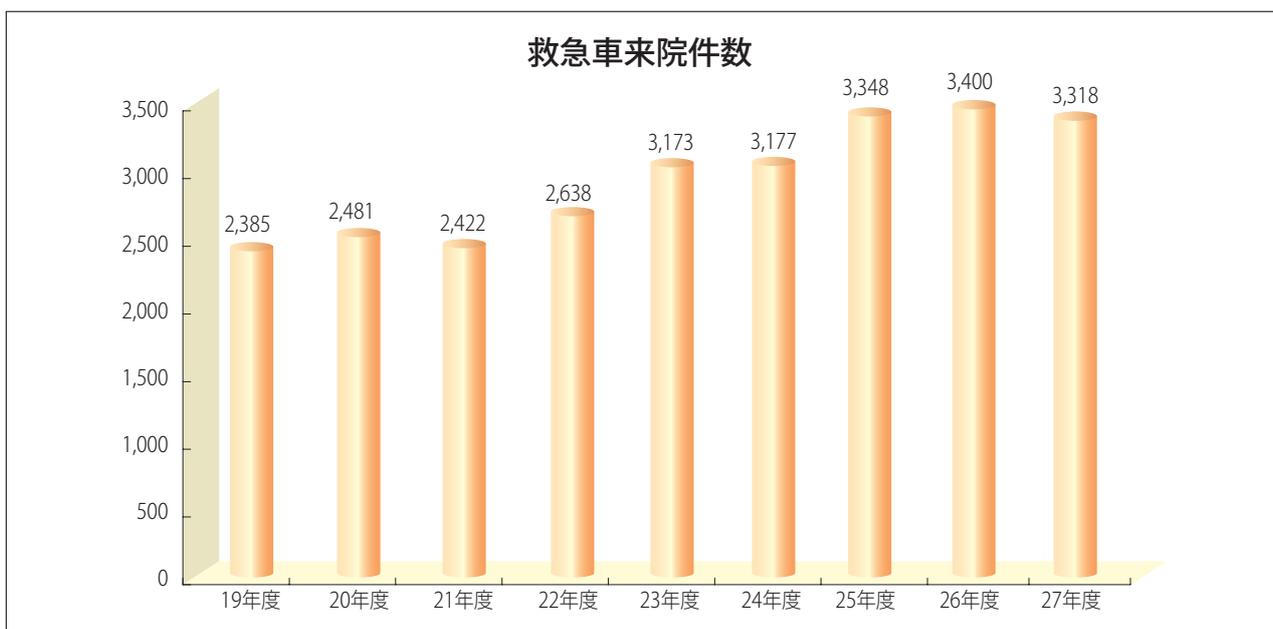
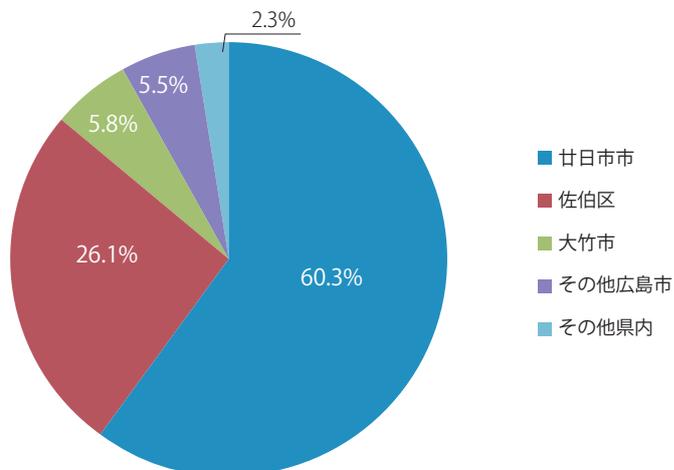
資 料



救急車来院件数

平成 27 年度
救急車来院件数（管轄別）

平成 27 年度	
廿日市市	2,000
佐伯区	865
大竹市	194
その他広島市	182
その他県内	77
合計	3,318



資料

医療行為統計表

平成 27 年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	86	66	79	88	83	81	94	76	86	79	80	95	993
整形 外科	106	117	131	149	110	113	132	129	131	129	126	154	1,527
形成 外科	9	9	5	5	8	8	11	7	9	11	7	11	100
脳 神 経 外 科	11	18	24	16	20	15	24	19	18	25	20	23	233
産 婦 人 科	48	46	43	51	53	46	50	54	42	46	43	39	561
眼 科	53	44	60	59	56	55	51	50	42	41	43	52	606
耳 鼻 咽 喉 科	24	13	18	20	25	14	17	21	24	22	24	29	251
皮 膚 科	24	22	30	23	29	25	27	26	22	24	26	21	299
泌 尿 器 科	35	26	36	38	29	28	33	33	32	26	28	27	371
歯 科 口 腔 外 科	7	5	10	6	10	3	10	4	4	4	7	6	76
救急科・麻酔科	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	35	27	31	29	37	39	29	31	35	24	36	42	395
呼吸器外科	17	12	14	12	9	18	19	13	18	11	15	13	171
乳 腺 外 科	13	9	12	15	11	12	11	14	10	14	15	15	151
計	468	414	493	511	480	457	510	477	473	456	470	528	5,737
手術（外来件数）（再掲）	47	35	38	53	50	44	53	49	36	45	39	47	536
（ 口 腔 外 科 ）	(31)	(36)	(38)	(39)	(37)	(37)	(39)	(51)	(49)	56	(52)	(69)	(534)
アンギオ室手術	7	4	9	5	12	9	2	(1)	(3)	(3)	(4)	(3)	62
内視鏡下手術（VPP）	111	67	106	109	81	90	117	91	103	84	105	104	1,168
全身麻酔件数	310	259	332	334	302	299	326	315	315	310	326	366	3,794

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	3,500	3,379	3,939	3,943	3,624	3,579	3,789	3,671	3,907	3,841	3,717	3,695	44,584
パ ン ト モ	122	111	151	136	114	116	116	117	116	129	123	139	1,490
骨 密 度 測 定	47	59	65	69	41	72	65	73	68	62	62	67	750
造 影 透 視 撮 影	101	93	111	114	277	83	104	108	88	79	116	93	1,367
上 部 消 化 管	129	178	218	209	167	175	192	180	153	147	175	99	2,022
注 腸	2	2	2	4	4	5	8	2	1	5	4	3	42
血 管 連 続 撮 影	26	38	30	26	27	40	37	20	32	16	29	33	354
心臓血管連続撮影	50	40	49	48	42	43	45	53	54	57	48	61	590
C T 各 科	1,583	1,536	1,742	1,664	1,548	1,600	1,724	1,659	1,669	1,560	1,629	1,752	19,666
C T 画 診	50	45	68	51	29	42	40	32	43	30	43	43	516
M R I	594	534	668	673	631	575	645	618	657	615	621	661	7,492
R I	183	151	195	189	91	169	176	191	181	161	169	163	2,019
リニアック（件数）	553	418	547	562	441	485	482	484	589	360	443	658	6,022
リニアック（門数）	1,789	1,447	2,088	2,021	1,664	1,954	1,910	1,836	2,311	1,288	1,554	2,236	22,098

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	1,678	1,650	1,719	1,703	1,638	1,649	1,662	1,675	1,646	1,639	1,649	1,825	20,133
ト レ ッ ド ミ ル	1	3	3	7	1	3	3	0	1	2	0	1	25
ホ ル タ ー 型	30	32	33	35	24	26	29	26	37	34	32	24	362
心 臓 エ コ ー	484	474	534	529	478	484	490	536	522	472	489	556	6,048
脳 波	55	28	35	54	61	51	40	26	35	33	33	65	516
肺 機 能 検 査	347	284	356	388	356	298	378	327	303	327	320	379	4,063
神経伝達速度、電流知覚閾値測定	207	168	210	162	158	157	207	177	199	165	168	200	2,178
重 心 動 揺 検 査	14	7	22	8	11	10	8	13	10	6	8	6	123
サーモグラフィー検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈波図・心電図・ボリグラフ検査	295	213	237	252	235	229	225	215	209	231	270	309	2,920
体 液 量 測 定	214	157	171	161	201	142	118	109	112	145	164	171	1,865
病 理 組 織 検 査	1,079	1,066	1,368	1,251	1,082	1,200	1,360	1,132	1,182	1,128	1,157	1,263	14,268
解 剖 件 数	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外 来													
処 方 箋 枚 数	10,320	9,670	10,905	10,894	10,174	10,830	10,907	9,789	10,837	9,954	10,222	11,519	126,021
剤 数（件数）	30,754	28,318	31,442	31,713	29,334	30,510	31,827	28,355	31,251	29,378	30,316	33,601	366,799
延 べ 剤 数	908,066	812,582	948,829	924,195	853,272	930,360	948,551	823,231	957,643	837,296	893,412	1,002,584	10,840,021
入 院													
処 方 箋 枚 数	8,264	8,534	8,283	8,310	10,284	10,358	9,542	9,774	10,328	9,764	9,427	10,632	113,500
剤 数（件数）	14,155	13,705	13,782	14,108	15,392	15,688	14,863	14,800	15,578	15,417	14,480	16,412	178,380
延 べ 剤 数	81,339	67,140	68,471	71,622	65,680	74,775	69,792	64,773	75,921	68,999	66,699	73,471	848,682
服薬指導件数	942	779	878	863	858	501	899	823	785	753	803	857	9,741
栗合診療所													
処 方 箋 枚 数	55	36	60	42	62	53	49	45	76	39	65	62	644
剤 数（件数）	289	208	330	232	285	266	251	216	401	181	340	295	3,294
延 べ 剤 数	7,547	5,494	9,081	6,034	7,403	6,978	6,835	5,065	9,902	4,466	8,528	7,799	85,132

資 料

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	55	46	51	38	41	39	49	45	53	64	52	43	576
分娩	41	53	48	43	43	33	51	68	53	51	46	49	579
その他分娩	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	2	1	7
腎尿管結石破砕	10	4	8	12	10	12	10	8	19	7	12	10	122
化学療法件数(外来)	351	295	357	330	319	322	338	315	360	376	382	409	4,154
化学療法件数(入院)	145	147	188	193	140	109	132	131	141	174	127	133	1,760
(超音波内訳)													
内科	238	236	264	227	217	222	246	243	248	214	241	274	2,870
小児科	13	16	6	8	9	6	9	15	7	15	14	20	138
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	239	215	277	256	237	289	403	320	339	243	302	342	3,462
整形外科	13	8	16	23	15	17	23	23	18	24	24	22	226
脳神経外科	9	9	13	15	19	11	18	20	24	12	12	20	182
産婦人科	325	298	380	407	327	403	455	434	395	369	318	355	4,466
眼科	4	1	4	2	3	5	4	4	4	1	3	2	37
耳鼻咽喉科	39	29	49	43	67	60	62	58	59	50	77	78	671
皮膚科	2	3	3	3	6	1	7	1	2	6	5	3	42
泌尿器科	212	183	231	209	198	211	228	166	215	173	199	235	2,460
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	94	123	113	138	143	140	120	115	122	130	115	120	1,473
放射線治療科	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	4
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	32	43	35	26	40	29	53	27	30	31	32	37	415
呼吸器外科	1	4	4	0	0	3	2	3	1	2	3	5	28
健康管理課	135	168	262	272	277	244	273	245	237	239	244	100	2,696
超音波診断計	1,356	1,336	1,657	1,630	1,558	1,642	1,903	1,674	1,701	1,510	1,589	1,614	19,170

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	242	184	257	250	212	229	255	249	241	226	258	280	2,883
胃ファイバー検査 ドック	111	142	195	201	169	164	191	191	184	163	180	82	1,973
気管支ファイバー検査	10	2	12	10	10	9	10	10	7	9	9	13	111
大腸ファイバー検査	126	103	150	148	140	133	131	147	137	108	97	139	1,559
上部止血(消化管止血術)	11	16	13	9	16	13	34	11	18	19	25	13	198
EVL(食道静脈瘤血紮術)	1	0	0	3	0	1	2	1	0	1	3	3	15
PEG(胃瘻造設術)	3	4	9	3	5	5	5	2	5	5	8	3	57
上部EMR(粘膜切除)、ESD	5	7	9	7	11	8	9	12	7	9	7	9	100
下部ポリペク(ポリプ切除)	23	33	50	39	35	36	38	34	41	28	31	29	417
下部EMR(粘膜切除)	35	29	42	50	36	38	35	40	37	36	45	30	453
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	4	3	6	0	4	3	11	6	8	5	2	3	55
EST(乳頭切開術)	27	34	31	28	29	30	23	35	29	26	25	29	346

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	696	647	814	941	700	689	851	765	784	706	872	828	9,293
脳血管疾患リハビリテーション	1,595	1,225	1,455	1,441	1,512	1,654	1,606	1,444	1,621	1,470	1,378	1,506	17,907
呼吸器リハビリテーション	349	251	270	326	314	292	263	252	218	226	327	338	3,426
疾患対象外	239	205	230	256	241	274	300	357	321	291	418	419	3,551
心大血管疾患リハビリテーション	561	484	504	618	646	573	523	407	523	598	547	683	6,667
A D L 加算													0
早期リハ加算	1,994	1,704	2,224	2,243	2,027	2,056	2,209	1,969	2,189	1,966	2,098	2,317	24,996
リハビリテーション総合実施計画書	33	47	59	49	36	36	41	36	49	35	30	40	491
退院時リハ指導	39	46	31	37	24	34	34	35	34	33	35	33	415

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	4,017	3,754	4,575	5,378	4,137	4,166	4,968	4,628	5,399	4,059	3,719	3,989	52,789
全粥	8,302	8,594	7,613	7,741	8,444	8,751	7,648	7,868	7,422	7,888	8,315	8,872	97,458
五分	175	163	99	59	41	49	59	88	87	130	140	93	1,183
三分	117	98	66	79	77	45	66	77	93	149	53	98	1,018
重湯	299	170	79	137	88	50	132	183	268	281	123	130	1,940
特別食	22,261	22,796	22,167	22,473	21,651	21,073	21,124	21,829	22,156	21,819	22,079	21,941	263,369
計	35,171	35,575	34,599	35,867	34,438	34,134	33,997	34,673	35,425	34,326	34,429	35,123	417,757

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	190	161	175	197	192	177	184	176	200	198	206	210	2,266
入院栄養指導	45	53	69	56	55	70	65	66	72	53	83	61	748
集団栄養指導	11	8	18	9	4	14	14	14	12	13	14	10	141

医師科別人員／職員数の推移

平成 27 年度 医師科別人員

部署名		平成 27 年 4 月	備考
内科	呼吸器内科	4	
	腎臓内科	4	
	糖尿病代謝内科	4	
	消化器内科	9	
	循環器内科	6	
合計		27	
小児科	6		
外科	13		
整形外科	7		
脳神経外科	4		
心臓血管外科	4		
産婦人科	6		
眼科	2		
耳鼻科	3		
皮膚科	4		
泌尿器科	4		
歯科	3		
放射線治療科	2		
画像診断部	3		
麻酔科	8		
救急・集中治療科	5		
精神科	0		
形成外科	1		
呼吸器外科	3		
健康管理科	1		
臨床研究検査科	1		
病理研究検査科	1		
臨床専門研修医	0		
臨床研修医 2 年次	10		
臨床研修医 1 年次	10		
合計		128	

職員数の推移

区 分	H26 年 4 月	H27 年 4 月
医師	101	104
歯科医師	4	4
臨床研修医	21	20
専修医	—	—
医師部門計	126	128
助産師	29	30
保健師	123	139
看護師	431	417
准看護師	7	7
看護部門計	590	593
薬剤師	35	35
放射線技師	26	26
臨床検査技師	44	43
臨床工学技士	12	10
理学療法士	11	11
マッサージ師	—	—
作業療法士	3	3
管理栄養士	11	11
歯科衛生士	2	4
歯科技工士	—	—
視能訓練士	3	3
言語聴覚士	2	4
臨床心理士	—	—
社会福祉士	4	4
介護福祉士	—	—
医療技術部門計	153	154
事務	86	88
事務部門計	86	88
ボイラ技師	2	2
電気技師	1	1
運転手	—	—
調理師	—	—
保清員	1	1
保育士	—	—
看護助手	38	37
介護員	—	—
技術助手	5	4
労務部門計	47	45
出 向	—	—
合計	1002	1008

学会施設認定

資
料

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連病院
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技術専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院

認定種別
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
優良二日ドック施設
日本脈管学会認定研修指定施設

編集後記

2015年度のJA広島総合病院“Annual Report”が完成いたしました。

2015年度も色々な出来事がありました。2008年以降隔年で受賞者が出ていたノーベル賞は医学生理学賞の大村智北里大特別栄誉教授と物理学賞の梶田隆章東京大教授のお二人が受賞され、久しぶりの2年連続受賞となり日本人の研究レベルの高さを改めて示しました。一方で旭化成建材によるくい打ちデータ不正が発覚し、マンションが傾く問題が発生しました。JR山手線では電柱が倒れる（事前に問題があることが分かっていたみたいですが）事故が発生、また軽井沢スキーバス事故や山陽自動車道八本松トンネル事故等の悲惨な事故も発生し、長距離運転（バス・トラック）の安全管理等交通の安全が問題となりました。これらの事故や不正はオリンピックエンブレム問題を含めて日本におけるモラル低下の現れなのかもしれません。交通関係では広島空港におけるアジアナ航空事故はあわや大惨事になるところでしたし、誘導装置に損傷によりしばらく欠航など影響が残りました。また病欠を届けていながら旅行に行った国会議員の問題などあきれ果てることも多くありました。社会に目を転じてみると11月に始まった渋谷区のパートナーシップ証明書発行開始は“性的マイノリティー”が社会の中で存在感を増している現れなのでしょうか。その他18歳選挙権、マイナンバー制度導入といった新しい制度が始まるなど新しい時代の幕開けを感じました。その一方で液晶で一世を風靡したシャープの鴻海精密工業傘下入りは日本の老舗メーカーの消滅という衝撃的出来事でした。その他の新しいこととしては昨年度の北陸新幹線に続いて北海道新幹線が開業しましたが、その影で最後のブルートレインとなった「北斗星」が営業終了となり57年にわたるブルートレインの歴史に幕が引かれました。今後はJR各社が開発している超豪華寝台列車の時代が到来する様です。

医療分野に目を転じてみると、化血研の製造工程不正の問題で色々な薬剤の供給に不安を生じる事態になりました。化血研に対するよの目は厳しく、一度信用を失った組織の再生は難しいということを感じました。我々も心して日々の診療に当たらなければと考えます。とりとめの無い話を綴って参りましたが、本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2017年3月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	高畑 明	坂尻 明美	藤田 寿賀
小松 浩基	上田 雅美	荒田 晋二	砂田 朋子
眞田 沙季	内田 由紀		

JA広島総合病院 年報 2015年度

平成 29 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープリントメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital